何々間運輸數量計算表

第二號樣式　　何哩何分

	數量	一日一哩平均	備考
旅客延人哩			
貨物延噸哩			

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

何々間營業收入計算表

第三號樣式　　何哩何分

	金額	一日一哩平均	備考
運輸收入	圓	圓	
旅客運賃			
貨物運賃			
雜收入			
雜收入			
合計			

運輸收入中雜收ノ金額ハ第十五號表ノ運輸收入中旅客運賃及貨物運賃以外ノ總テノ運輸收入ヲ記載スヘシ

備考欄ニハ算出ノ基礎(第二號表ノ延人哩及延噸哩ヲ以テ本表ノ旅客運賃及貨物運賃ヲ除シタル平均賃率等)其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

何々間營業費計算表

第四號樣式　　何哩何分

	金額	一日一哩平均	備考
保存費	圓	圓	
動力費			
運輸費			
何々			
總係費			
諸稅			
合計			

備考欄ニハ算出ノ基礎其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

何々間益金計算表

第五號樣式

	金額	備考
營業收入	圓	
營業費		
利益ノ二十分一		
差引益金		

營業收入ノ入ノ欄ニハ第三號表ノ運輸收入額ヲ記載スヘシ

何々間建設費豫算決算差引對照表

第六號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日　　何哩何鎖

科目	豫算額	決算額 前期未決算額	決算額 當期決算額	決算額 計	豫算決算差引 過不足額	備考
測量及監督費	圓	圓	圓	圓	圓	
俸給、旅費、手當、聯關間擔區分各費						
用地費						
土地用途變更費						
線路用地費						
停車場用地費						
發電所用地費						
切取、築堤、工作費						
何々費						
總係費						
聯關間擔區分各費						
計						
興業費聯關擔業營分各建設費						
合計						

數區間ニ區分シテ整理スルトキハ區間毎ニ本表ヲ調製シ更ニ一項ノ金額ニ付總括表ヲ調製添付スヘシ

當期決算額ニ付テハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載シ且認可ヲ經又ハ屆出ヲ爲シタル事項ニ付テハ各其ノ年月日ヲ記載スヘシ

各事業關聯興業費分割表

第七號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業專屬興業費當期決算額	分割率(百分比例)	關聯興業費分擔額	當期決算額合計
鐵道業	圓		圓	圓
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々				
合計				

各事業專屬興業費當期決算額中ニハ興業營業關聯費及建設營業關聯費ヲ含マス

各事業關聯興業費明細表

第八號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
測量及監督費	圓	
俸給、旅費、手當、聯關間擔區分各費		
總係費		
報酬、給料、俸給、聯關間擔區分各費		
何々費		
合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第九號様式

各事業興業營業關聯費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業專屬興業費當期決算額	各事業專屬營業費當期決算額	各事業專屬興業營業關聯費當期決算額	合計	分割率（百分比例）	興業營業關聯費分擔額
	圓	圓	圓	圓		圓
鐵道業						
軌道業						
水道業						
電氣業						
倉庫業						
何々						
合計						

各事業專屬興業費當期決算額ハ第七號表中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ
各事業專屬營業費當期決算額ハ第二十號表中當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ
各事業專屬興業營業關聯費當期決算額ハ第十二號表ノ合計金額ヨリ興業營業關聯費分擔額ヲ控除シタル金額ヲ記載スヘシ各事業專屬興業費、營業費及興業營業關聯費ノ當期決算額ハ前三項ニ該當セサルモノト雖總テ之ヲ各相當欄ニ計上スヘシ

第十號様式

各事業興業營業關聯明細表

（本表ハ第八號様式ニ準シ調製スヘシ）

第十一號様式

建設營業關聯費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

	專屬費當期決算額	分割率（百分比率）	關聯費分擔額
	圓		圓
建設費			
營業費			
合計			

第十二號様式

建設營業關聯費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
測量及監督費		
俸給		
、、		
總係費		
報酬		
俸給		
、、		
何々		
、、		
計		
興業營業關聯費分擔額		
合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十三號様式

各區間關聯建設費分割表

自　年　月　日至　年　月　日

區間	建設費當期決算額	分割率（百分比例）	測量及監督費	何々	總係費	各事業關聯興業費分擔額	建設營業關聯費分擔額	合計
	圓		圓	圓	圓	圓	圓	圓
何々間								
何々間								
何々間								
合計								

第十四號様式

各區間關聯建設費明細表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
測量及監督費		
俸給		
、、		
何々		
、、		
總係費		
報酬		
俸給		
、、		
各事業關聯興業費分擔額		
建設營業關聯費分擔額		
合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第十五號様式

營業收入決算表

自　年　月　日至　年　月　日

科目	決算額	備考
	圓	
運輸收入		
客車收入		
旅客運賃		
手荷物運賃		
小荷物運賃		
郵便物運賃		
、、		
貨車收入		
貨物運賃		
發著手數料		
、、		
雜收入		
車輛使用料		
廣告揭示料		
入場料		
、、		
雜收入		
預金利子		
株金延滯利子		
株券書替手數料		
雜入		
計		
關聯營業收入分擔額		
合計		

前年度ニ比シ著シキ增減アルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

各事業關聯營業收入分割表

第十六號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

事業種類	各事業專屬營業收入當期決算額	分割率（百分比例）	關聯營業收入分擔額	備考
	圓		圓	
鐵道業				
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々				
合計				

各事業關聯營業收入明細表

第十七號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
雜收入		
預金利子		
株金延滯利子		
株券書替手數料		
、、、		
何々		
、、、		
合計		

雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

營業收入區間分割表

第十八號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

區間	哩數	客車收入 延人哩	客車收入 分割率（百分比例）	客車收入 分當額	貨車收入 延噸哩	貨車收入 分割率（百分比例）	貨車收入 分當額	運輸雜收 客貨車收入	運輸雜收 分割率（百分比例）	運輸雜收 分當額	合計
				圓			圓	圓		圓	圓
何々間											
何々間											
合計											

補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合又ハ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスル場合ノ營業收入分割表ハ本表ニ準シ之ヲ調製スヘシ

營業費決算表

第十九號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

科目	決算額	備考
	圓	
保存費		
監督費		
俸給費		
旅費		
工事費		
、、費		
動力費		
監督費		
、、費		
發電所費		
、、費		
何々		
計		
各事業關聯營業費分擔額		
建設事業關聯營業費分擔額		
合計		

前年度ニ比シ著シク增減アルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記載スヘシ
雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ
營業收入ヲ以テ新設改良工事費、借入金利子及社債差損金等ヲ支出シタルトキハ之ヲ營業費ニ計上セス欄外ニ記載スヘシ

營業費區間分割表

第十九號樣式ノ二　　自　年　月　日至　年　月　日

區間	營業哩	營業收入	分割率（百分比例）	分擔額
		圓		圓
何々間				
何々間				
合計				

營業收入ハ第十八號表中合計欄ノ金額ヲ記載スヘシ
第十八號樣式ノ記事ハ本表ニ之ヲ準用ス

各事業關聯營業費分割表

第二十號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

事業種別	各事業專屬營業費當期決算額	分割率（百分比例）	關聯營業費分擔額	當期決算額合計
	圓		圓	圓
鐵道業				
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々				
合計				

各事業費ヲ含マス

各事業關聯營業費明細表

第二十一號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日

科目	金額	備考
	圓	
總本係費		
社費		
報酬費		
俸給費		
手當		
、、		
何々		
、、		
合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ記載スヘシ

何々間運輸數量及列車走行哩表

第二十二號樣式　　自　年　月　日至　年　月　日　　何哩何分

	延人哩	延噸哩	列車走行哩	備考
何月				
何月				
、、				
、、				
合計				

定期乘車券ニ對スル延人哩ハ當該區間ヲ一日一往復乘車スルモノトシテ計算スヘシ
數區共用ノ乘車券ニ對スル延人哩ハ各區間ヲ平均ニ乘車スルモノトシテ計算スヘシ
列車單位著シク不同ナルモノニアリテハ其ノ列車走行哩ヲ區分シテ記載スヘシ
補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區間又ハ補助ヲ受クル期間及補助ヲ受ケサル期間アル場合ハ各別ニ本表ヲ調製スヘシ補助ヲ受クル區間中補助日數ヲ異ニスルモノアル場合亦同シ

●臺灣私設軌道規程

明治四十五年一月二十六日
臺灣總督府令第九號
改正 大正六年第二〇號、八年第一四號、一一年第四二號、第一六五號

臺灣私設軌道規程左ノ通相定ム

臺灣私設軌道規程

第一條 本令ニ於テ軌道ト稱スルハ軌條ヲ敷設シ一般交通運輸ノ用ニ供スル設備ヲ謂フ

瓦斯力、蒸汽力及電氣力ヲ用ウル軌道ハ私設鐵道ノ規定ニ依ル

第一條ノ二 私設軌道ノ起業者ハ臺灣總督府管內ニ事務所ヲ設クヘシ

第二條 假許可及許可ノ申請書ニハ軌道ノ起點、終點、哩數、資本ノ總額、出資ノ方法竝營業年限ヲ記載シ起業者之ニ署名シ組合ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本、會社ヲ設立セムトスル者ニ在リテハ假定款謄本、會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本、公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書謄本ヲ添附シ事務所所在地ノ知事又ハ廳長ニ之ヲ提出スヘシ

假許可ノ申請書ニハ軌道平面圖(臨時臺灣土地調查局調製二萬分ノ一堡圖)許可ノ申請書ニハ左ノ書類竝圖面ヲ添附スヘシ

一 工事ノ方法
二 工事豫算書(總額、內譯及各項每ノ金額記載ノコト)
三 營業上ノ收支概算書(收入支出ノ總額、內譯及資本ニ關スル純益ノ割合)
四 軌道平面圖(縮尺一吋六鎖)
五 軌道縱斷面圖(縮尺縱一吋三十呎橫一吋三鎖)
六 專用橋梁ヲ架設スルトキハ其ノ設計圖(一吋四十呎詳細圖ハ一吋四呎)
七 線路一覽圖(臨時臺灣土地調查局調製二萬分ノ一堡圖)

第三條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 單線又ハ複線ノ區別
二 軌間及軌道ノ間隔
三 曲線ノ最少半徑及線路ノ最急勾配
四 軌條ノ重量
五 車輪及車臺ノ構造、寸法、重量、最大積載量及制動機ノ裝置
六 專用橋梁ヲ架設スルトキハ其ノ設計ノ說明
七 在來ノ橋梁ヲ使用スルトキハ其ノ材質、構造、寸法及竣工年月日

第三條ノ二 知事又ハ廳長ニ於テ第二條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ調查ノ上左ノ事項ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之カ假許可又ハ許可ヲ爲スヘシ
一 敷設ノ目的
一 起點、終點及哩數
一 競走線又ハ平行線ノ有無及其ノ影響
一 資本總額及其ノ出資ノ方法
一 營業年限
一 起業者又ハ營業者

第四條 假許可及許可ニハ期限ヲ附ス假許可ニ附シタル期限內ニ許可ノ申請ヲ爲ササルトキ又ハ許可ニ附シタル期限內ニ敷設工事ヲ完了セサルトキハ假許可又ハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

起業者ノ責ニ歸スヘカラサル正當ノ事由ニ因リ期限內ニ許可ノ申請ヲ爲スコト能ハサルトキ若ハ敷設工事ヲ完了スルコト能ハサルトキハ其ノ期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ期限經過前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 軌道敷設工事ノ施行ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一 軌道敷設ノ爲道路面ヲ切盛スル箇所ハ道路ノ全幅ニ亙リ勾配ヲ同一ニスルコト
二 軌道ハ兩側人家連檐ノ場所ハ道路ノ中央ニ敷設シ其ノ他ノ場所ハ人家少キ道路ノ一方ニ偏シ道端ヨリ一尺ヲ隔ツルコト
三 道路ノ幅十五尺ニ滿タサル箇所アルトキハ之ヲ十五尺以上ニ、複線及待避線ヲ設クル箇所ニシテ十八尺ニ滿タサルトキハ之ヲ十八尺以上ニ擴張スルコト
四 橋梁ノ幅十二尺ニ滿タサルトキハ之ヲ十二尺以上ニ擴張スルコト
五 道路ノ一方ヨリ中央部若ハ他ノ一方ニ軌道ヲ移ス箇所ハ道路方向線ト軌道中心線トノ交叉角ヲ四十五度ヨリ大ナラシメ且ツ軌道ノ外側ヲ高メサルコト
六 前號ノ箇所ハ道路ニ沿ヒ長十二尺以上路幅全體ニ亙リ踏切工ヲ設クルコト
七 軌道ト道路ト交叉スル箇所ハ軌道ニ沿ヒ路幅全體ニ亙リ踏切工ヲ設クルコト
八 踏切工ハ木石又ハ「コンクリート」ヲ用キテ堅固ニ造ルコト
九 軌道內ニハ雨水排除ノ方法ヲ設クルコト
十 軌道面ハ道路面ト高低ナカラシムヘキコト
十一 半哩每ニ距離ヲ示ス哩程標ヲ設クルコト
十二 急阪路其ノ他危險ノ箇所ニハ下車又ハ徐行スヘキ警標ヲ設クルコト

前項各號ニ依ルコト能サルトキハ其ノ事由ヲ附シ申請スヘシ

第五條ノ二 公共ノ道路、橋梁、河川、埤圳又ハ溝渠ニ關スル施設ハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 軌道若ハ工事ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ理由書竝圖面ヲ添ヘ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條ノ二 軌道敷設ニ著手シタルトキハ一週間內ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第七條 工事施行中ハ二箇月每ニ工程報告書ヲ知事又ハ廳長ニ差出スヘシ

第八條 工事竣工シタルトキハ成功圖ヲ添ヘ知事又ハ廳長ニ屆出ヘシ

一部ノ運輸營業ヲ開始セムトスルトキハ其ノ區間ノ竣工屆ヲ提出スヘシ

第九條 營業者ハ運輸營業開始前左ノ事項ニ付知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ
一 發著所(各所間ノ哩程竝累計ヲ示スヘシ)
二 臺車ノ數、腰掛數及日覆數
三 臺車發著ノ時刻
四 旅客及貨物賃金
五 臺車ノ乘客定員竝貨物積載制限

第十條 前條第一號、第三號乃至第五號ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 複線ニ於ケル臺車ノ運行ハ左方ノ軌道ヲ進行スヘシ

第十二條 臺車一時間ノ最大速度ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
一 市街地內ハ五哩
二 其ノ他ハ八哩

第十三條 急阪路其ノ他危險ノ箇所ハ徐行スヘシ

二車以上續行スルトキハ適當ナル間隔ヲ保ツヘシ

第十四條 交通頻繁ナル箇所又ハ展望惡シキ線路ヲ運行スルトキハ警鐘又ハ警笛ヲ以テ注意ヲ喚起スヘシ

第十五條 夜間臺車ノ運行ニハ燈火ヲ揭示スヘシ

第十六條 軌道及其ノ左右二尺通ノ道路ノ修繕竝掃除ハ營業者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十七條 軌道ヲ敷設シタル道路竝橋梁ノ改築又ハ修繕ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ幾分ハ營業者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第十八條 營業者カ他ノ軌道ニ連絡シテ其ノ軌道ノ一部或ハ其ノ他ノ設備ヲ共同ニ使用シ運輸營業ヲ爲サムトスルトキハ契約書ノ謄本ヲ添附シテ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 正當ノ理由アルニ非サレハ營業者ハ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ス

知事又ハ廳長ハ必要アリト認ムルトキハ營業上ノ設備又ハ賃金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 所轄知事又ハ廳長ハ緊急ノ必要アリト認メタル場合ニ於テハ軌道其ノ他工作物ノ改築、撤去若ハ一時臺車運行ノ休止ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 左ノ場合ニ於テ假許可又ハ許可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス
一 起業者全部ノ死亡
二 會社、組合又ハ團體ノ不成立若ハ解散
三 運輸營業ノ廢止
四 營業期間ノ滿了

第二十一條ノ二 軌道及之ニ附屬スル物件ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ個人ノ專用ニ供スル軌道ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 負債ヲ要スル事由及其ノ金額
二 元利償還ノ方法及期限
三 利率
四 擔保物件ノ類種但シ目錄ノ添附ヲ要ス
五 契約書案
六 債權者氏名、住所
七 既ニ設定シアル擔保物件ノ登記謄本

第二十一條ノ三 軌道ニ關スル財產ヲ相續シ起業ヲ承繼セムトスル者ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條ノ四 運輸營業ヲ廢止セムトスルトキハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

運輸營業ヲ廢止シタル軌道又ハ個人若ハ會社ノ專用ニ供スル軌道ヲ撤去セムトスルトキハ期間ヲ定メ豫メ其ノ旨屆出ツヘシ

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ知事又ハ廳長ハ假許可又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ但シ之カ爲損害ヲ生スルコトアルモ其ノ責ニ任セス
一 公益上ノ必要ヲ生シタルトキ
二 營業者カ業務ヲ爲スニ適セスト認メタルトキ

第二十二條ノ二 前二條ノ規定ニ依リ失效又ハ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ都度臺灣總督ニ報告スヘシ

第二十三條 許可カ其ノ效力ヲ失ヒ又ハ取消サレタルトキハ知事又ハ廳長ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第二十四條 假許可又ハ許可カ效力ヲ失ヒ若ハ取消サレタルトキハ一箇月內ニ假許可書又ハ許可書ヲ返納スヘシ但シ假許可書又ハ許可書ニシテ第二十六條第一項ノ規定ニ依リ臺灣總督ノ發シタルモノナルトキハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ヲ經由スヘシ

第二十五條 一般交通運輸ノ用ニ供セサル軌道ニ關シテハ本令ヲ準用ス但シ公共ノ道路ニ關係ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 軌道敷設ノ區域カ二以上ノ州又ハ廳ニ亙ル場合ハ敷設ノ假許可、許可、許可事項ノ變更又ハ取消及廢止ニ關スル知事又ハ廳長ノ職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ臺灣總督ニ提出スル書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ許可又ハ假許可ヲ爲シタル軌道ハ本令ニ準據シタルモノト看做ス

●一般交通運輸ノ用ニ供セサル軌道ニ付取扱方

大正十一年六月六日
臺灣總督府訓令第百十五號

州 廳

明治四十五年府令第九號臺灣私設軌道規程第二十五條一般交通運輸ノ用ニ供セサル軌道ニ付テハ同規程第三條ノ二ニ依ル臺灣總督ノ認可ヲ要セス地方長官限リ專決施行スヘシ

●臺灣私設軌道事故屆出規則

明治四十五年二月十五日
臺灣總督府令第十二號
改正 大正一一年第五一號

臺灣私設軌道事故屆出規則左ノ通相定ム

臺灣私設軌道事故屆出規則

第一條 軌道ノ事故ハ知事又ハ廳長ニ屆出ヘシ

第二條 左ノ場合ニハ即時電報其ノ他速達ノ方法ニ依リ報告シ更ニ別記第一號樣式ニ依リ屆出ヘシ
一 旅客其ノ他ノ者ノ死亡又ハ重傷ヲ生シタル事故
二 二十四時間以上ノ運轉休止
三 其ノ他重大ナル事故

第三條 前條以外ノ事故ハ別記第二號樣式ニ依リ一箇月分ヲ取纏メ翌月十五日限屆出ヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號樣式

事故屆

事故ノ種類	(衝突顚覆等ノ類)
發生ノ日時	(年月日時分)
發生ノ場所	(起點又ハ何發著所ヨリ何哩ノ處)
死傷者	(員數、乘客、公衆、苦力、內地本島人男女別ノ類)
原因	(線路不良、臺車破損、苦力不注意等ノ類)
顚末	(現場ノ狀況、損害ノ程度及應急處理ノ方法等成ルヘク詳細ノ記述ヲ要ス)

右報告候也

年 月 日

營業者(會社ニ在リテハ代表者) 氏 名㊞

臺灣總督府鐵道部長宛

第二號樣式

何年何月分事故屆

發生年月日	場所	事故ノ種類	原因	記事

右報告候也

年　月　日
臺灣總督府鐵道部長宛
營業者（會社ニ在リテハ代表者）　氏　名㊞

第三款　船舶

●外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件

大正六年五月五日
勅令第四十八號

朕外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關シテハ內地ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關シ有スル職權ト同一ノ職權ヲ有ス

附　則

本令ハ大正六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣船籍規則

明治三十一年五月二十一日
律令第四號
改正　明治三三年第一九號、三四年第一五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣船籍規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣船籍規則

第一條　臺灣ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶又ハ臺灣ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在テハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在テハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在テハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶又ハ臺灣ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ハ日本船舶トシテ臺灣ニ船籍港ヲ定メ所轄地方官廳ノ船籍ニ編入スヘキモノトス

臺灣ニ住所ヲ有セサル日本臣民又ハ內地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル前項法人ノ所有ニ屬スル船舶ト雖內地ニ於テ船籍ヲ定メスシテ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシテ內地若ハ外國ニ航行スルモノハ前項ニ依ル

前二項ノ船舶ニシテ船籍ニ編入セントスルトキハ地方官廳ニ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第二條　船籍ニ編入シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ日本形船及支那形船ハ其船籍港ヲ管轄スル地方官廳ヲ經由シテ船舶國籍證書ノ交付ヲ臺灣總督府ニ申請スヘシ但左記ノ船舶ハ船舶國籍證書ノ交付ヲ受クヘキ噸數及石數ニ達スト雖船舶國籍證書ヲ受クルニ及ハス

一　港灣河川ヲ限リ運航スル船舶及倉庫船
二　端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

十五噸未滿ノ西洋形船百五十石未滿ノ日本形船支那形船及前項但書ニ揭クル船舶ニ在テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

第三條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其船籍港ニ到著スルマテ內國ニ在テハ本船所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在テハ本船所在地若ハ其近傍駐在帝國領事館ニ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ申請シ船舶國籍證書若ハ船鑑札ニ代用スルコトヲ得

假船舶國籍證書及假船鑑札ノ效力ハ地方官廳ヨリ交付シタルモノハ六箇月領事館ヨリ交付シタルモノハ一箇年ヲ以テ限トス但引續キ再度以上假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ其效力ヲ初度ノ日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條　船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ受ケサル船舶ハ日本國旗ヲ揭揚スルコトヲ得ス

第五條　船舶法第一條ニヨリ日本船舶タルモノ及此規則ニ依リ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ有スル船舶ニアラサレハ臺灣不開港場ニ寄港シ又ハ臺灣各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法令若ハ條約ニ別段ノ定アルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ臺灣總督ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第六條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該官廳ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第七條　船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ喪失シ毀損シ又ハ用フヘカラサルモノトナリタルトキハ當該官廳ニ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ書換若ハ再渡ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ受ケントスルトキハ第三條ニ依リ其申請ヲ爲スコトヲ得

第八條　船籍港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且當該官廳ニ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第九條　船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シ又ハ船舶カ破壞、沈沒、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキハ當該官廳ニ船籍ノ削除ヲ請ヒ且船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ返納スヘシ

第十條　日本國旗ヲ揭クルコトヲ得サル船舶ニシテ之ヲ揭ケタルトキハ第四條ヲ除ク外其船長ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス不正ノ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ用ヒタル船舶ハ沒收ス

日本船舶ニシテ外國ノ國旗ヲ揭ケテ外國ノ國籍ヲ冒シタルトキハ前項同一ノ罰ニ處ス但戰時ニ於テ敵ヲ避クル場合ハ此限ニアラス

第十一條　第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス

第十二條　第四條ノ規定ニ違反シタルトキハ其船長ヲ第六條乃至第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第一項ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若ハ清算人ニ之ヲ適用ス

第十三條　此規則ノ施行ニ關スル細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十四條　官廳ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テモ此規則ヲ適用ス但海軍所屬ノ艦船ハ此限ニアラス

第十五條　從來ノ船舶ハ此規則施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ第一條第二條ニ依リ船籍編入竝船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

第十六條　此規則ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス但明治二十九年九月府令第三十一號臺灣支那形船舶取締規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（明治三十三年律令第十九號附則）

從來交付シタル船籍證書又ハ假船籍證書ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

●臺灣船籍規則施行細則

明治三十一年六月二十三日
臺灣總督府令第三十五號
改正　明治三三年第九六號、第一一五號、三四年第七四號、大正三年第六一號、一〇年第七八號

臺灣船籍規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣船籍規則施行細則

第一條　船舶ヲ製造シ若ハ外國人ニ屬スル船舶ヲ取得シタル者ハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ作リ其船籍ノ編入ヲ地方官廳（地方官廳ト稱スル本船船籍港ヲ管轄スル廳ヲ云フ以下之ニ倣フ）ニ申請スヘシ

第二條　地方官廳ニ於テハ豫メ船籍臺帳ヲ備ヘ置キ船舶積量測度規則ニ從ヒ船舶ノ積量ヲ測度シ別ニ定ムル書式ノ測度表ヲ調製シ前條ノ件名書ト照合シ（若シ相異ノ廉アルトキハ之ヲ訂正シ）其ノ各事項ヲ船籍臺帳ニ登錄シ且件名書ニ編入濟ノ證明ヲ與ヘ之ヲ申請人ニ返付スヘシ

第三條　（削除）

第四條　船籍ニ編入シタル船舶ノ所有者ハ申請書ニ第一號若ハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ船舶國籍證書ニアリテハ地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ船鑑札ニアリテハ直ニ地方官廳ニ其交付ヲ申請スヘシ但地方官廳ヨリ申請書ヲ臺灣總督府ニ進達スルトキハ該書ニ測度表ヲ添付スルヲ要ス

第五條　臺灣總督府ニ於テハ地方官廳ヨリ送付シタル件名書竝測度表ヲ調査シ船舶ノ種類ニ從ヒ第三號第四號若ハ第五號書式ノ船舶國籍書ヲ作リ之ヲ地方官廳ニ送付シ地方官廳ハ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

地方官廳ニ於テ船鑑札交付ノ申請ニ接シタルトキハ第六號書式ノ船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第六條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ外國人ニ屬スル船舶ヲ取得シ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ申請セントスル者ハ其申請書ニ第一號若ハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ地方官廳又ハ帝國領事館ニ申請スヘシ

第七條　前條ノ申請書ヲ受領シタル地方官廳ニ於テハ第二條ノ手續ニ依リ測度表ヲ調製シ第七號第八號若ハ第九號書式ノ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スルト同時ニ該證書若ハ該鑑札ノ謄本件名書又測度表ヲ本船船籍港所轄ノ地方官廳ニ送付スヘシ

第八條　假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ受領シタル船舶ハ該證書若ハ該鑑札ノ有效期限內ニ第一條第四條ノ規定ニ從ヒ船籍ノ編入竝船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ交付ヲ臺灣總督府若ハ地方官廳ニ申請スヘシ

第九條　地方官廳ニ於テ前條ノ申請ニ接シタルトキハ他ノ官廳ヨリ送付シタル假船舶國籍證書若クハ假船鑑札ノ謄本件名書及測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ更ニ測度ヲ要セス船舶國籍證書ノ交付ニ係ルトキハ其申請書及件名書ニ測度表ヲ添ヘ臺灣總督府ニ進達シ臺灣總督府ハ第五條第一項ニ依リ船鑑札ノ交付ニ係ルトキハ地方官廳ニ於テ第五條第二項ニ依リ船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十條　船舶ヲ取得シ若ハ船籍港ヲ移轉シ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ交付若ハ書換ヲ申請セントスル者ハ第一條第四條ノ規定ニ從ヒ船籍ノ編入ヲ地方官廳ヘ申請スルト同時ニ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ交付若ハ書換ヲ臺灣總督府又ハ地方官廳ニ申請スヘシ但本文ノ場合ニ於テハ測度ヲ受クルノ手續ヲ爲スヲ要セス其申請書ニ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ謄本ヲ添附スヘシ且船籍港ヲ移轉シタル場合ニ於テハ原船籍地地方官廳ヘ屆濟ノ上本文ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付若ハ書換ヲ申請セントスル者ハ前項申請書ニ其旨ヲ附記シ直ニ地方官廳ニ申請スヘシ

第十一條　地方官廳又ハ臺灣總督府ニ於テ前條第一項ノ申請ニ接シタルトキハ第五條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

地方官廳ニ於テ前條第二項ノ申請ニ接シタルトキハ第七條ノ規定ヲ準用シ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　船籍港外ニ於テ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ受有セル船舶ヲ取得シ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ第一號若ハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ地方官廳又ハ帝國領事館ニ申請スヘシ

第十三條　前條ノ申請ニ接シタル地方官廳ニ於テハ第二十二條ノ規定ヲ準用シ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十四條　船舶所有者船籍港ニ居住セサルトキハ本船ニ關スル公務ヲ處辨セシムル爲其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ地方官廳ニ屆出ツヘシ

第十五條　船舶國籍證書竝船鑑札ハ本假ニ拘ラス税關ヘ預ケ置ク場合ヲ除ク外常ニ船內ニ保持シテ船長之ヲ監守シ税關官吏警察官吏其他正當職權アル官吏ニ於テ檢閱ヲ要スルトキハ何時ニテモ其檢閱ニ供スヘシ

第十六條　船舶國籍證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ改記スヘシ

第一項　船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ方三寸五分以上ノ國字竝羅馬字ヲ以テ記スヘシ

第二項　中央ノ船梁ニ船舶國籍證書ノ番號及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番號噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ

第三項　船首材及船尾材ノ外部兩側面ヘ水脚ヲ示ス爲一尺每ニ方五寸ノ羅馬數字又ハ亞剌比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ

第十七條　船舶國籍證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名船梁ニ船舶國籍證書ノ番號及石數ヲ記シ五十石以上ノ支那形船ハ中央桅檣ノ頂上ヨリ下六尺間ノ周圍ニ赤色塗鉛ヲ施シ且船尾ニ船名ヲ記シタル板ヲ固釘シ船梁ニ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ番號竝噸數若ハ石數ヲ記スヘシ

第十八條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方官廳ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ書換ヲ臺灣總督府又ハ地方官廳ニ申請スヘシ但積量ノ變更ニ係ルトキハ更ニ其測度ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ喪失シ毀損シ又ハ用フヘカラサルモノトナリタルトキハ其事由ヲ具シタル申請書ヲ地方官廳ニ差出シ其書換若ハ再渡ヲ臺灣總督府又ハ地方官廳ニ申請スヘシ

第二十條　前二條ノ場合ニ於テ臺灣總督府又ハ地方官廳ハ第五條ノ規定ニ依リ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ喪失シ毀損シ若ハ用フヘカラサルモノトナリタル場合ニ於テ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ申請セントスルトキ船籍港外ニ在テハ該申請書ニ第一號若ハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ直ニ本船所在地ノ地方官廳又ハ帝國領事館ニ其交付ヲ申請スヘシ

第二十二條　地方官廳ニ於テハ積量ノ變更ニ係ル場合ヲ除ク外測度ヲ要セス第七號第八號若ハ第九號書式ノ假船舶國籍證書若ハ假船鑑札ヲ作リ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第二十三條　船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ書換再渡等ニ依リ新證書新鑑札ヲ受領シタルトキハ舊證書舊鑑札ハ本假ニ拘ラス其之ヲ發出シタル當該官廳ニ送付スヘシ

第二十四條　船舶國籍證書若ハ船鑑札ノ交付ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

一　船舶國籍證書　一通　金二圓
　但再渡若ハ書換ノ場合ニ於テハ本文ノ半額トス
一　同假證書　一通　金一圓
　右ニ同シ
一　船鑑札　一箇　金一圓
　但再渡若ハ書換ノ場合竝五十石未滿ノ日本形及支那形船ハ本文ノ半額トス
一　同假鑑札　一箇　金五十錢
　右ニ同シ

第二十五條　船籍規則第九條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ地方官廳ニ船籍ノ削除ヲ請ヒ

且船舶國籍證書若ハ船鑑札ヲ臺灣總督府又ハ地方官廳ニ返納スヘシ假證書若ハ假鑑札ナルトキハ其發出ノ當該官廳ニ返付スヘシ

第二十六條　所有權移轉若ハ船籍港移轉ノ爲船籍ヲ削除シタル地方官廳ハ其旨移轉先船籍港所轄ノ地方官廳ヘ通報スヘシ

第二十七條　此細則第一條第四條ニ違反シ船舶ヲ運航ノ用ニ供シ又ハ第八條ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ第十條但書第十四條乃至第十七條第二十三條第二十五條第二項ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十八條　從來ノ船舶ハ此細則第一條第四條ノ規定ニ從ヒ船籍編入竝船籍證書若ハ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

附　則（大正三年府令第六十一號附則）

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

西洋形船ノ船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ大正三年律令第十號附則第二項ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ従前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際現ニ受有スル日本形船竝支那形船ノ船舶國籍證書、假船舶國籍證書及船鑑札、假船鑑札ハ仍其ノ效力ヲ有ス

大正三年律令第十號附則第二項ノ規定ニ依ル改測ニ依リ船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲船舶國籍證書又ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第二十四條ノ規定ニ依ル手數料ヲ徴收セス

前項ノ申請ト同時ニ船名、船籍港、所有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

別記

（第一號書式甲）（臺灣噸數十五噸以上ノ西洋形船舶ニ用ウルモノ）

船舶件名書

汽（帆）船　何丸

一 船籍港	何州廳何郡市何街庄區又ハ何港
二 甲板ノ層數	何層
三 船質	鋼、鐵、木又ハ木鐵等
四 帆船ノ帆装	三檣バーク、二檣トップルス クーナー、二檣スクーナー、一檣スループ等
五 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長	何呎何々
六 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅	何呎何々
七 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深	何呎何々
八 總噸數	何噸何々
上甲板下ノ噸數	何噸何々
上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數	何噸何々
船首樓ノ噸數	何噸何々
船橋樓ノ噸數	何噸何々
船尾樓ノ噸數	何噸何々
甲板室ノ噸數	何噸何々
艙口ノ超過噸數	何噸何々
機關室ノ噸數	何噸何々
其ノ他ノ場所ノ噸數	何噸何々
九 控除噸數	何噸何々
船員常用室ノ噸數	何噸何々
荷足水艙ノ噸數	何噸何々
機關室ノ噸數	何噸何々
帆船ノ帆庫ノ噸數	何噸何々
其ノ他ノ場所ノ噸數	何噸何々
十 登簿噸數	何噸何々
十一 汽機ノ種類及數	單式「二聯成」「三聯成」「四聯成」「タービン」、發動機何箇
十二 推進器ノ種類及數	外車又ハ螺旋推進器何箇
十三 造船地	何州廳何郡市何街庄區又ハ何府縣何郡市何町村等
十四 造船者	何某又ハ何會社
十五 進水ノ年月	大正又ハ西暦何年何月
十六 原名及前名	原名何々、前名何々
十七 所有者ノ住所氏名又ハ名稱及共有ナルトキハ各共有者ノ持分	何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十八 船舶管理人ノ住所氏名	何州廳何郡市何街庄區何番地何某
十九 船價	何圓（賣買ニ係ルトキハ其ノ代價贈與ニ係ルトキハ其ノ見積代價）
二十 本船ヲ取得シタル場所	何地
二十一 本船前所有者ノ住所氏名	

備　考

一 帆船（總噸數百噸以上ノ縱帆ヲ有スル帆船ヲ除ク）及總噸數百噸未滿ノ汽船ニ在リテハ第八項中「上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數」ノ内譯噸數及第九項中ノ「荷足水艙ノ噸數」「帆船ノ帆庫ノ噸數」ヲ記載スルコトヲ要セス

二 船名、住所氏名及名稱ニハ振假名ヲ附シ外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

三 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名ヲ謂フ

四 件名中事項ナキモノハ斜線ヲ畫シ造船地、造船者、進水ノ年月及原名不明ナルトキハ不詳ト記載スヘシ

（第一號書式乙）（臺灣噸數十五噸未滿ノ西洋形船舶ニ用ウルモノ）

船舶件名書

汽（帆）船　何丸

一 船籍港	何州廳何郡市何街庄區又ハ何港
二 船質	鋼、鐵、木又ハ木鐵等
三 帆船ノ帆装	二檣スクーナー、一檣スループ等
四 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長（量噸甲板ヲ有セサル船ハ船舷上端ノ高ニ於ケル船首ノ前面ヨリ船尾ノ後面ニ至ル長ヲ記載スヘシ）	何呎何々
五 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅（肋骨ヲ有セサル船ハ船體最廣部ニ於ケル外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅ヲ記載スヘシ）	何呎何々
六 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深（甲板梁ヲ有セサル船ハ長ノ中央ニ於ケル龍骨ノ上面ヨリ船舷上端ニ至ル深ヲ記載スヘシ）	何呎何々
七 總噸數	何噸何々
八 登簿噸數	何噸何々
九 汽機ノ種類及數	單式「二聯成」「タービン」、發動機等何箇
十 推進器ノ種類及數	外車又ハ螺旋推進器何箇
十一 造船地	何州廳何郡市何街庄區又ハ何府縣何郡市何町村等
十二 進水ノ年月	大正又ハ西暦何年何月
十三 原名及前名	原名何々、前名何々
十四 所有者ノ住所氏名又ハ名稱及共有ナルトキハ各共有者ノ持分	何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十五 船舶管理人ノ住所氏名	何州廳何郡市何街庄區何番地何某
十六 船價	何圓（賣買ニ係ルトキハ其ノ代價贈與ニ係ルトキハ其ノ見積代價）
十七 本船ヲ取得シタル場所	何地
十八 本船前所有者ノ住所氏名	

備　考

第一號書式甲ノ備考二、三、四ニ同シ

（第二號書式）（日本形船及支那形船ニ用ウルモノ）

船舶件名書

日本形（支那形）船　何丸（又ハ何々）

一 船籍港	何州廳何郡市何街庄區又ハ何港
二 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長	何尺何寸何分
三 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅	何尺何寸何分
四 腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深（支那形船ニ在リテハ中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル深ニ改記スヘシ）	何尺何寸何分
五 積石數	何石
六 造船地	何州廳何郡市何街庄區
七 進水ノ年月	大正何年何月
八 原名及前名	原名何々、前名何々
九 所有者ノ住所氏名又ハ名簿及共有ナルトキハ各共有者ノ持分	何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十 船舶管理人ノ住所氏名	何州廳何郡市何街庄區何番地何某
十一 船價	何圓（賣買ニ係ルトキハ其ノ代價贈與ニ係ルトキハ其ノ見積代價）
十二 本船ヲ取得シタル場所	何地
十三 本船前所有者ノ住所氏名	

備　考

一 第四項ノ深ハ船梁ヲ有セサル支那形船ニ在リテハ船舷上端ヨリ船底ニ至ル深ヲ記載スヘシ

二 其ノ他ハ第一號書式甲ノ備考二、三、四ニ同シ

（第三號書式）（總噸數百噸以上ノ汽船及機關ヲ有スル帆船ニ用ウルモノ）　竪一尺五分横八寸五分

（菊花ノ紋章）

船舶國籍證書

番號	信號符字	種類	船籍港	造船地	造船者	進水ノ年月	甲板ノ層數	船名	船質	帆船ノ帆装	汽機ノ種類及數	推進器ノ種類及數

量積

總噸數……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
船首樓……
船橋樓……
船尾樓……
甲板室……
艙口ノ超過……
機關室……
其他ノ場所……

控除噸數……
船員常用室……
荷足水艙……
機關室……
帆船ノ帆庫……
其他ノ場所……

登簿噸數……

尺度

量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長……
船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅……
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深……

所有者

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

日本帝國
臺灣總督府　印

（第四號書式）（總噸數百噸未滿ノ汽船及第三號書式ノ帆船以外ノ帆船ニ用ウルモノ）　竪九寸横七寸

船舶

番號	信號符字	種類	船籍港

進水ノ年月	甲板ノ層數	船質	帆船ノ帆装

量積

總噸數……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
控除噸數……
船員常用室……
機關室……

國籍證書
（菊花ノ紋章）

船名	造船地

尺度	
量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長……	
船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅……	
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深……	
汽罐ノ種類及數	
推進器ノ種類及數	
其他ノ場所……	
登簿噸數……	
所有者	

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
臺灣總督府　印

（第五號書式）（日本形船及支那形船ニ用ウルモノ）　竪七寸五分横五寸五分

船舶國籍證書
（菊花ノ紋章）

番號	種類	船籍港	造船地	進水ノ年月	船名

尺度及積量	
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長……	
船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅……	
腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深……	
積石數……	
所有者	

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
臺灣總督府　印

備考
支那形船國籍證書ハ尺度及積量ノ欄「腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深」ヲ「中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル深」ニ改記スヘシ

（第六號書式）　竪五寸横三寸五分

第　號

何【堡、里、街、庄】何番地　何ノ誰

船鑑札

船ノ長　何呎（尺）何々
船ノ幅　何呎（尺）何々
船ノ深　何呎（尺）何々

烙印	州廳名

船籍港　何港
船名　何々
船舶種類　汽船（帆船）（日本形船）（支那形船）
（船名ヲ附セサルモノハ漁船艀船倉庫船傳馬船等其所用名ヲ記スヘシ）

年　月　日

【廳】名

備考
汽船竝帆船ナレハ船舶種類ノ次ヘ總噸數何噸何々其次ヘ登簿噸數何噸何々、日本形船竝支那形船ナレハ五十石以上積石數何石ト列記スヘシ

（第七號書式）（西洋形船ニ用ウルモノ）　竪八寸横六寸

假船舶國籍證書

種類	船籍港	造船地	進水ノ年月	船名	甲板ノ層數

船質	帆船ノ帆裝	汽機ノ種類及數	推進器ノ種類及數

尺度	
量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長……	
船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅……	
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深……	

積量	
總噸數……	
控除噸數……	
登簿噸數……	
所有者	

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ

年　月　日

日本帝國
官廳名　印

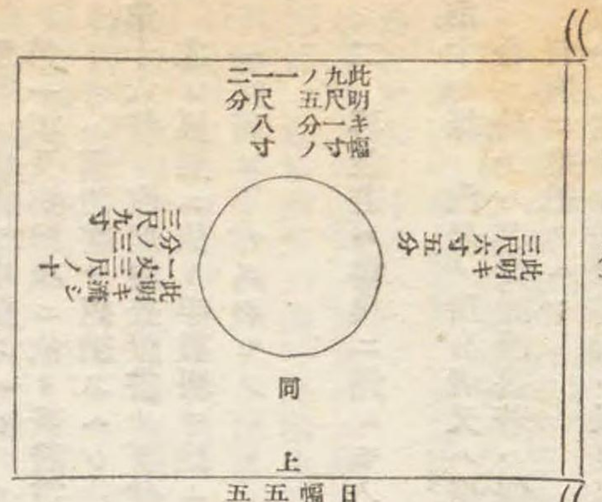
●船舶用國旗

明治三十一年十二月十八日
臺灣總督府令第百十二號

明治三十一年律令第四號臺灣船籍規則ニ依リ【船籍證書】若ハ船鑑札ヲ受ケタル船舶ニ掲揚スル帝國國旗ハ左記ノ雛形ニ傚ヒ調製スヘシ但五十噸未滿ノ西洋形船竝五百石未滿ノ日本形船及支那形船ハ小旗ノミヲ用ヰルコトヲ得

本令ニ違フ者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

大旗ノ圖　祝日用ユヘキ分



中旗寸法　平常用ユヘキ分
流一丈
竪七尺
日ノ丸差渡四尺二寸
同先ノ明キ三尺
同乳ノ方明キ二尺八寸

小旗寸法　風雨ノ際用ユヘキ分
流六尺
竪四尺二寸
日ノ丸差渡二尺五寸二分
同先ノ明キ一尺八寸
同乳ノ方明キ一尺六寸八分

●船舶普通信號

明治三十六年十二月十五日
臺灣總督府令第七十八號

臺灣ニ船籍ヲ有スル船舶ノ普通信號ハ明治三十四年十月遞信省告示第三百八十九號及明治三十六年十一月遞信省告示第五百四十三號改正增補萬國船舶信號書ニ依ルヘシ

●臺灣汽船檢查規則

明治三十二年六月十日
律令第十號
改正　明治三四年第五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船檢查規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船檢查規則

第一條　臺灣ニ船籍ヲ有スル汽船ハ此規則ニ依リ檢查ヲ受クヘシ

第二條　汽船檢查ノ場所ハ臺灣總督之ヲ定ム

前項指定以外ノ場所ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ臺灣總督ノ特許ヲ受クヘシ

第三條　檢查官吏汽船ヲ檢查シ航行ニ適當ナリト認ムルトキハ本船ノ航路定限旅客定員汽壓制限航行期間ヲ定メ臺灣總督ヨリ其所有者若ハ船長ニ汽船檢查證書ヲ交付スヘシ

第四條　汽船檢查ヲ受ケ檢查證書ヲ受クル以前ニ汽船ヲ航行ノ用ニ供セントスルトキ其所有者又ハ船長ヨリ假證書ノ下付ヲ檢查官吏ニ申請スルコトヲ得

第五條　檢查證書ノ效力ハ一箇年以內トス假證書ノ效力ハ本證書ヲ受有スヘキ期間ヲ斟酌シ二箇月ノ範圍內ニ於テ檢查官吏之ヲ定ム

第六條　船體汽機汽罐其他船舶ノ要部ヲ修理シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其所有者又ハ船長ヨリ事由ヲ具シ檢查ヲ申請スヘシ

第七條　檢查證書有效期間內ト雖其所有者又ハ船長ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ何時ニテモ其申請ヲ爲スコトヲ得

第八條　檢查官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ何時ニテモ汽船ヲ臨檢スルコトヲ得

第九條　第六條第七條第八條ノ場合ニ於テ檢查官吏船體汽機汽罐等ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ修理ヲ命シ又ハ航行ヲ停止スルコトヲ得

第十條　檢查證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ汽船ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ檢查證書若ハ假證書ニ記載シタル汽船ノ航路定限航行期間及氣壓制限ヲ超テ航行シタルトキ又ハ航行停止ノ命ニ違反シテ航行シ若ハ第六條ノ檢查ヲ受ケスシテ航行シタルトキハ船長ヲ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

旅客定員ヲ超テ航行シタルトキ又ハ第八條ノ臨檢ヲ拒ミタルトキハ船長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條ノ二　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【數罪俱發】ノ例ヲ用ヰス

前條ノ罰則ハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス

第十一條　此規則ニ定ムルモノノ外必要ノ規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第十二條　此規則ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　內地ニ船籍ヲ有スル汽船ニシテ臺灣沿岸若ハ河港內ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點ト爲シ外國ニ航行スルモノハ此規則ニ依リ檢查ヲ受クヘシ但帝國船舶檢查法ニ依リ檢查證書ヲ受有シ其航行期間內ニ在ルモノハ此限ニアラス

前項ノ規定ハ日本臣民ニ於テ借入レ臺灣各港ノ間又ハ臺灣ト外國トノ間ニ使用スル外國汽船及臺灣ノ沿岸若ハ河港內ノミヲ航行スル外國汽船ニモ適用ス

第十四條　從來航行ノ用ニ供スル汽船ハ此規則施行ノ日ヨリ五十日以內ニ檢查ヲ受クヘシ

●臺灣汽船檢查規則施行細則

明治三十二年六月七日
臺灣總督府令第四十四號
改正　明治三九年第二六號、第三三號、大正一〇年第七九號

臺灣汽船檢查規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣汽船檢查規則施行細則

第一條　汽船ノ檢查ヲ受ケントスルトキハ其所有者若ハ船長ヨリ第一號書式ノ申請書ヲ臺灣總督府ニ差出スヘシ

第二條　汽船ノ檢查ヲ執行スヘキ場所ハ臺北、士林、基隆、淡水、馬公、安平及高雄トス

第三條　前條所定以外ノ場所ニ於テ汽船ノ檢查ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シタル願書ヲ作リ第一號書式ノ申請書ニ之ヲ添付シ所有者若ハ船長ヨリ臺灣總督府ニ差出スヘシ

前項ニ依リ檢查ヲ受クル者ハ其申請者ヨリ檢查官吏ニ支給スヘキ成規ノ旅費日當ヲ臺灣總督府ニ納ムヘシ

第四條　航路定限ハ船體、汽機、汽罐ノ堅脆、大小及航路ノ難易等ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第五條　旅客定員ハ航路ノ遠近、客室ノ等級及積量ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第六條　汽壓制限ハ汽機、汽罐ノ製造方法竝材料ノ良否ニ依リ各部ノ強弱ヲ算定シ且船體ノ堅牢ナルト否トヲ參酌シテ之ヲ定ム

第七條　檢查官吏汽船ヲ檢查シ航行ニ適當スルモノト認ムルトキハ臺灣總督府ハ第二號書式ノ汽船檢查證書ヲ申請者ニ下付ス

第八條　臺灣汽船檢查規則第四條ニ依リ假證書下付ノ申請アリタルトキハ檢查官吏ハ其船舶ノ航行ニ適當スルモノト認ムル場合ニ於テハ第三號書式ノ假證書ヲ申請者ニ下付ス

第九條　汽船檢查證書若ハ假證書ハ船內最見易キ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

第十條　旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第十一條　船內各室每ニ等級及定員ヲ記シタル標札ヲ揭クヘシ但十二歲未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歲以下ハ員外トス

第十二條　檢查申請者ハ船體、汽機、汽罐及屬具ノ檢查ニ必要ナル準備ヲナスヘシ

第十三條　檢查官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ檢查申請者ハ船舶國籍證書、船鑑札、汽船檢查證書、檢查手帖等檢查ニ必要ナル書類ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第十四條 檢査官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ其所有者若ハ船長其指揮ニ從フヘシ

第十五條 汽船檢査證書若ハ假證書ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ汽船所有者若ハ船長ヨリ其事由ヲ具シ臺灣總督府ニ其再渡若ハ書換ヲ申請スヘシ

汽船檢査證書又ハ假證書記載事項中船長名ノ變更ニ係ルモノハ前項ノ手續ニ依ラスシテ汽船檢査證書若ハ假證書ノ裏書ヲ本船所在地ノ地方官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ受ケタル地方官廳ハ新船長ノ海技免狀ヲ審査シ正當ト認メタルトキハ直ニ汽船檢査證書又ハ假證書記載ノ船長氏名ヲ朱線ニテ塗抹シ其ノ裏面ニ新船長ノ氏名海技免狀ノ種類番號及變更ノ年月日ヲ記入シ州廳印押捺ノ上之ヲ申請者ニ返付シ其ノ旨直ニ臺灣總督府ニ報告スヘシ

汽船檢査證書若ハ假證書ヲ受有スル汽船ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ新舊所有者ノ連署ヲ以テ又ハ新所有者ヨリ船舶國籍證書、船鑑札若ハ登記ノ謄本其他所有權ノ移轉ヲ證明スヘキ證據書類ヲ添ヘ臺灣總督府ニ該證書ノ書換ヲ申請スヘシ

第一項及第四項ニ依リ新證書ヲ受有シタルトキハ舊證書ヲ返納スヘシ

第十六條 汽船檢査證書ノ下付ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

一 新ニ下付スルモノ 一通 金二圓

二 再渡若ハ書換ニ係ルモノ 一通 金一圓

第十七條 汽船ノ所有者又ハ船長ハ左記ノ場合ニ於テハ其檢査證書若ハ假證書ヲ臺灣總督府ニ返納スヘシ

一 汽船檢査證書若ハ假證書ノ有效期間滿了ノトキ

二 汽船航行ノ用ニ耐ヘサルトキ

三 臺灣船籍ヲ除籍シタルトキ

四 內地ニ船籍ヲ有スル汽船ニシテ臺灣沿岸ヲ航行シ若ハ臺灣ヲ起點ト爲シ外國ニ航行セシモノ其航路ヲ廢止シタルトキ

第十八條 第九條乃至第十五條及第十七條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一號書式

汽船何丸第何回(定期)(臨時)檢査申請書

一 所有者ノ住所及氏名
一 船籍港
一 船質(鋼鐵木若ハ木鐵)
一 總噸數
一 登簿噸數
一 前回ノ航路定限
一 前回ノ汽壓制限
一 前回ノ航行期間
一 前回檢査ノ場所
一 前回汽罐水壓試驗ノ年月
一 船長ノ氏名

右汽船何々航路ニ使用仕度目下何港ニ碇泊中ニ有之檢査準備整居候ニ付來何月何日御臨檢相成度此段申請候也

年 月 日

所有者(船長) 氏 名印

宿 所

臺灣總督宛

備考 臺灣汽船檢査規則第六條ニ依リ檢査ヲ申請スルトキハ其事由書ヲ添付スルヲ要ス

第二號書式(竪九寸 横一尺三寸)

第 號

割印

汽船檢査證書

船名	船籍港
船ノ種類	總噸數 登簿噸數
航路定限	所有者
航行期間	汽機種類
	汽罐種類
	汽壓制限
旅客定員 上等室 中等室 下等室	端艇
	船長

右檢査ヲ遂ケ臺灣汽船檢査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス

【明治】年 月 日

臺灣總督府

第三號書式(竪九寸 横一尺三寸)

假汽船檢査證書

船名	船籍港
船ノ種類	總噸數 登簿噸數
航路定限	所有者
端艇	汽機種類
旅客定員 上等室	汽罐種類
中等室	汽壓制限
下等室	船長

右檢査ヲ遂ケ臺灣汽船檢査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス但此證書ハ【明治】年 月 日限リ無效トス

【明治】年 月 日 檢査官吏氏名印(檢査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス)

●造船獎勵金下付停止ニ關スル法律臺灣ニ施行ノ件

大正六年七月二十五日
勅令第七十一號

朕大正六年法律第二十九號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正六年法律第二十九號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

關東州ニ於ケル大正六年法律第二十九號第二條第一項ノ船舶ノ讓渡又ハ其ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ關シテハ同法ニ依ル

朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ於ケル大正六年法律第二十九號ニ依ル納付金ニ關スル事項ハ遞信大臣ノ主管トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●造船獎勵金下付停止ニ關スル件

大正六年七月二十五日
法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル造船獎勵金下付停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 造船獎勵法ニ依ル造船獎勵金ノ下付ハ當分ノ內之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ日本船舶ヲ所有シ得サル者ノ注文ニ依リ製造スル船舶ヲ除クノ外本法施行ノ日迄ニ認許證書ノ交付ヲ受ケ大正七年九月三十日迄ニ竣工シタル船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ニ對シテハ第一項ノ停止ノ解除アリタル後ト雖造船獎勵金ヲ下付セス

第二條 前條第二項ノ規定ニ依リ造船獎勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ受クヘキ船舶ハ前條第一項ノ停止ノ解除アリタル後ニ非サレハ之ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡スコトヲ得ス但シ造船獎勵金ニ相當スル金額ヲ納付シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ造船業者ヨリ前項ノ船舶ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ付之ヲ準用ス

第三條 造船獎勵金ニ相當スル金額ヲ納付セスシテ第一條第一項ノ停止ノ解除前前條第一項ノ船舶又ハ其ノ引渡ヲ受クル權利ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ造船獎勵金ニ相當スル金額ヲ納付セシム

第四條 前條ノ納付金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國税ニ次クモノトス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣航洋船舶健全證書發給規則

大正十年六月二十九日
臺灣總督府令第百十七號

臺灣航洋船舶健全證書發給規則左ノ通相定ム

臺灣航洋船舶健全證書發給規則

第一條 航洋船舶健全證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ知事、廳長又ハ港務所長、臨時海港檢疫所長ニ申請スヘシ

申請書ハ別記第一號樣式ニ依ルヘシ

第二條 港務所又ハ臨時海港檢疫所ノ設ケアル港灣ニ於テハ前條ノ申請書ハ港務所長又ハ臨時海港檢疫所長ニ差出スヘシ

第三條 港務所長又ハ臨時海港檢疫所長健全證書ヲ發給セムトスルトキハ港灣所在地ノ所轄郡守ニ合議スヘシ

第四條 健全證書ノ交付ヲ受クルトキハ手數料金十圓ヲ納付スヘシ

第五條 健全證書ハ別記第二號樣式ニ依ルヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年府令第四十五號健全證書交付手續ハ之ヲ廢止ス

別記第一號樣式

健全證書交付申請書

一 船籍 船種 船名
二 總噸數 登簿噸數
三 出港年月日時
四 行先地
五 船客 (何)人
　一等船客男 人女 人
　二等船客男 人女 人
　三等船客男 人女 人
　其他ノ船客男 人女 人
六 船員 人內 事務員以上 人 水火夫以下 人
七 積荷種類
八 一箇月以內船內傳染病ノ有無

右之通ニ付船內御檢査ノ上健全證書交付相成度此段申請候也

年 月 日 右船長 氏 名印

知事(廳長、港務所長、臨時海港檢疫所長)宛

別記第二號樣式

健全證書

現時何港ニハ傳染病(ペスト、コレラ、赤痢、腸チフス(「パラチフス」ヲ含ム)痘瘡、發疹チフス猩紅熱ヂフテリア流行性腦脊髓膜炎)ノ流行ナク且ツ本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲此ノ證書ヲ船長(氏名)ニ付與ス

年 月 日 知事(廳長、港務所長、臨時海港檢疫所長)印

(裏面)英譯文

●船舶積量測度法

大正三年三月三十一日
法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶積量測度法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶積量測度法

第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フート」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス

第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

但シ左ニ揭クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

二 機關室、操舵室、賄室及出入口室

三 採光通風ニ要スル場所及便所

四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

前項ニ揭クル機關室ノ噸數船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

第四條 總噸數ヨリ左ニ揭クル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス

一 船員常用室及海圖室

二 荷足水艙

三 機關室

四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主喞筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

五 水夫長倉庫

六 帆船ノ帆庫

七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ揭クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第五條 前二條ニ揭クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七

二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ同漕船ニ在リテハ船梁上下ノ船艙ノ石數、其ノ他ノモノニ在リテハ舷端以下ノ船艙ノ石數ヲ積石數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則

第十條 本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條 舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

第十四條 舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト看做ス

第十五條 本法公布前造船獎勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船獎勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル

第十六條 本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限內舊法ニ依ル

第十七條 本法施行ノ際現ニ遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ獎勵金下付許可期間內舊法ニ依ル

第十八條　第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス

第十九條　所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記ノ船舶カ第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

●船舶積量測度ニ關スル件

大正十二年一月一日
臺灣總督府令第五號

船舶積量測度ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　船舶ノ積量測度方法ハ本令ニ規定スルモノノ外大正三年遞信省令第十六號船舶積量測度規程ニ依ル

第二條　支那形同漕船ノ石數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

防禦甲板下ノ石數ヲ算定スルニハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　船首及船尾船員乘用室ナル境界間ノ防禦甲板下ノ長ヲ測リ左表ニ依リ之ヲ等分スヘシ

防禦甲板下ノ長	等分數
五十尺以下	四
五十尺ヲ超エ百二十尺以下	六
百二十尺ヲ超ユルモノ	八

二　防禦甲板下ノ長ヲ等分シタル後其ノ各分長點及前後兩端ニ於テ該甲板下面ヨリ船底內板ノ上面ニ至ル深ヲ測リ而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四箇、十六尺ヲ超ユルトキハ六箇ニ各深ヲ等分スヘシ

三　各深ヲ等分シタル後其ノ各分深點及上下兩端ニ於テ艙內ノ幅ヲ測定スヘシ

四　各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

五　各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積（船首船尾除ク）ハ二倍シ其ノ和ニ船首船尾ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

防禦甲板上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ該艙內ノ高ヲ測リ其ノ高ノ中央ニ於テ該艙（船首船尾除ク）內側ノ長ヲ測リ之ヲ五十尺迄ハ四箇、五十尺ヲ超ユルトキハ六箇ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其ノ各分長點及前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅（前後兩端除ク）ハ二倍シ其ノ和ニ前後兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

第三條　船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル長三間未滿ノ日本形船及支那形船ハ積石數ヲ測定スルニ及ハス單ニ該長ヲ測リ其ノ長ノ中央ニ於テ幅及深ヲ測ルモノトス

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年府令第五十九號臺灣船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

●船舶積量測度規程

大正三年七年十七日
遞信省令第十六號

船舶積量測度規程左ノ通定ム

本令ハ船舶積量測度法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正三年十月一日ヨリ施行）

船舶積量總則

第一章

第一條　長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但シ

三　量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

第五條　分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

量噸甲板ノ長	等分數
五十呎以下	四
五十呎ヲ超エ百二十呎以下	六
百二十呎ヲ超エ百八十呎以下	八
百八十呎ヲ超エ二百二十五呎以下	十
二百二十五呎ヲ超ユルモノ	十二

第四條　分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板カ凹面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト緣板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分數
二重底內底板カ凹面ナルトキ	其ノ他ノ場合
十六呎以下	五
十六呎ヲ超ユルモノ	四
七	六

分長點及分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ

面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ヲ算定スルニハ單位ニ止メ單位下ハ四捨五入スヘシ

第二條　量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ修艫梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離

第三條　分長點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

副分深點ト稱スルハ二重底內底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條　分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側內張板ノ內面ヨリ內面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側內張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側內張板ノ內面ト看做ス

第七條　遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ揭クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第八條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭クル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除ク外檢查官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル

第九條　形狀正整ナル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ內面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十條　第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢查官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條　特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ遞信大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章　量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數

第十二條　分長點ニ於ケル橫截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

二　分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十三條　船首尾艙ヲ除キ二重底內底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分每ニ量噸甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ヲ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ但シ各區分每ニ測リタル量噸甲板ノ長カ三十呎以下ナルトキハ之ヲ二箇以上ニ等分スヘシ

第十四條　船首尾艙ヲ除キ二重底內底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分每ニ量噸甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ヲ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ

第十五條　鋤鏈溝ヲ有スル浚渫船ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ鋤鏈溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分每ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ

第十六條　舷端以下ノ噸數ヲ算定スルニハ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章　量噸甲板上ノ噸數及舷端以上ノ噸數

第十七條　量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ量噸甲板ノ長ノ等分數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ內面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十八條　上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　量噸甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル內面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

二　量噸甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條　船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルハ登簿噸數ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ噸數ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ噸數ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ噸數ノ一部トハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區畫シタル場所ノ噸數ヲ謂フ

第四章　總噸數ノ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條　船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅三呎以上高四呎以上（繰材ヲ附スルトキハ其ノ高二呎以下）ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　遮浪甲板上上甲板トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　遮浪甲板ニ長四呎以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ該口直下ノ兩舷側ニ適當ノ排水口ヲ設ケ且甲板間ニ於テ適當ノ間隔ニ徑三吋半以上ノ排水孔ヲ備フルコト

二　前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長トハ量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

三　第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニ在ル橫通隔壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト

四　第一號ノ甲板口ノ緣材ノ高ハ甲板上平均十二吋ヲ超ヘサルコト又該口ノ周圍ニハ之ヲ水密ニ閉鎖シ得サル樣欄ヲ設クルコト

第二十二條　賄室ト廚室及麵麭燒室ヲ謂フ

第二十三條　艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總噸數ニ算入セス

艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五ヲ超ユルトキハ其ノ超過噸數ニ限リ之ヲ總噸數ニ算入ス

第二十四條　飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」、探海燈及燈塔ニ供

用セラルル場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第二十五條　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　船員常用室トハ船長ノ專用スル諸室、海員ノ專用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、廚室、麵麭燒室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條　海圖室トハ海圖、信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラルル場所ヲ謂フ

第二十八條　荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條　荷足水艙ノ噸數ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ三十呎ヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深十六呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ十六呎ヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條　機關室ノ噸數トハ第三十一條及第三十二條ニ掲クル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十一條　機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所、上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ噸數ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十二條　螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラルル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十三條　機關室內ニ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ平均ノ長、幅、深ヲ乘シテ得タル容積ヲ機關室ノ容積ヨリ除去スヘシ

第三十四條　船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ噸數カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條　水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

第三十六條　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ噸數ハ總噸數ニ應シ左表ニ掲クル控除噸數ヲ超ユルトキハ之ヲ該噸數ニ止ム但シ七十五噸ヲ超ユルコトヲ得ス

總噸數	控除噸數
百五十噸未滿	三噸
百五十噸以上五百噸未滿	總噸數ノ百分ノ二
五百噸以上千噸未滿	十噸
千噸以上	總噸數ノ百分ノ一

第三十七條　無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」及「コッファーダム」ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ登簿噸數ノ算定ニ付キ總噸數ヨリ之ヲ控除スヘシ

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第六號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第六章　積石數

第三十八條　回漕船ノ船梁上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船艙ノ上端ヲ境界トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ト船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ト船艙ノ內面ヨリ內面ニ至ル平均ノ幅トヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ內面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

第三十九條　回漕船以外ノ船舶ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首ノ內面ヨリ船尾ノ內面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ船艙上端ヲ境界トシ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ヲ平均シ此ノ平均ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

●船舶積量測度心得ニ關スル件

大正十二年一月一日
臺灣總督府訓令第二號

臺灣總督府　州　廳

船舶積量測度心得ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　船舶ノ積量測度ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外大正三年遞信省訓令第一號船舶積量測度心得ニ依ルヘシ但シ同心得中本省トアルハ臺灣總督府、管海官廳トアルハ地方官廳トス

第二條　支那形回漕船ノ防禦甲板下ノ石數ヲ算定スルニ用ウル船首及船尾船員乘用室境界間ノ防禦甲板下長ハ該甲板上ニ於テ中心線ヲ測ルヘシ又各分長點及前後兩端ニ於ケル深ハ防禦甲板ニ嵩所アルトキハ防禦甲板下面ノ延長線以下ヲ測ルヘシ

支那形回漕船ノ防禦甲板上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル平均ノ高ハ各分長點及前後兩端ニ於ケル艙內ノ高ヲ平均シタルモノヲ謂フ

附　則

大正三年訓令第百六十二號臺灣船舶積量測度心得ハ之ヲ廢止ス

●船舶積量測度心得

大正三年七月十七日
遞信省訓令第一號
改正　大正五年第一號

道廳　府縣　管海官廳

船舶積量測度心得左ノ通定メ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度心得

第一章　總則

第一條　船舶ノ積量ハ登記登錄ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ

第二條　測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條　製造中ノ檢査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

第四條　管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ

卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ拂拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

第五條　下層甲板カ貨物艙又ハ橫置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第六條　低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

第七條　船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ量噸甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船首內張板及船尾內張板ト稱スルハ量噸甲板ノ直下ニ於ケル內張板ヲ謂フ

二　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ量噸甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ナシ

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

三　船尾ニ戶建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ戶建ノ內面迄測ルヘシ

四　船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第八條　船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條　鐵鋼船ノ船底內張板及艙內船側內張板ノ厚カ三吋ヲ超ユルトキハ之ヲ三吋ト看做シ測ルヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設クル內張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底內張板下ノ橫木ノ高ハ之ヲ內張板ノ厚ニ算入ス

第十條　木船ノ內張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル橫木ノ高ハ內張板ノ厚ニ算入セス

木船ノ梁受板、艙內縱通材及彎曲部縱通材ハ內張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十一條　船舶積量測度規程第六條第二項ニ掲クル船側內張板ノ平均ノ厚ハ內張板又ハ「バッテン」ノ間隔カ一呎以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、一呎ヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ三呎ヲ超ユルトキハ內張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條　內張板ヲ備ヘサル船舶ノ深ハ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ內面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距四呎ヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ內面迄測ルヘシ

第十三條　艙內ニ內張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ內張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十四條　分深點カ「ボッス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボッス」ヲ構成スル肋骨ノ內面ヨリ內面迄測ルヘシ

第十五條　肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條　二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ內龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第十七條　二重底內底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル內底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ緣板ヨリ緣板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ

二重底內底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ヲ內底板ニ固著スル肘板ノ內緣ヲ前二項ノ緣板ノ位置ト看做ス

第十八條　船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線內底板ト緣板トノ高ノ差カ六吋未滿ナルトキ又ハ內底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケスシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ナシ

第十九條　上甲板上蔽圍シタル場所及登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ナシ

第二十條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽機トハ蒸汽喞筒及喞筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二十一條　船舶積量測度法第二十條及第二十一條ニ掲クル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總噸數ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ登簿噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控除シタル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ移民船檢査及臨時旅客檢査ノ場合ト雖改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二章　量噸甲板下ノ噸數及艙端以下ノ噸數

第二十二條　船舶積量測度規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規程ニ依ルヘシ

一　全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ一呎以下、機關室ノ下部以外ノ二重底ニ六吋以下ノ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

二　車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

三　二重底ニ備フル船舶ニシテ汽罐室ノ下部ノミニ二重底內底板ヲ張ラサルカ又ハ普通肋板ヲ有スルトキハ區分測度ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看做シ測度スヘシ

四　普通肋板ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高底アルモ區分測度ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル普通肋板ヲ有スルモノト看做シ測度スヘシ

五　二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一ノ區畫トシテ取扱フヘシ

第二十三條　漁船ノ生洲及浚渫船ノ泥艙ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入ス

前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測度ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章　量噸甲板上ノ噸數及艙端以上ノ噸數

第二十四條　船舶積量測度規程第十七條ニ掲クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第二十五條　上甲板上及艙端以上ノ蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ內面ヨリ內面迄測ルヘシ

第二十六條　船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端內面ヨリ船尾ノ內面迄測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ

船舶積量測度規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

前二項ノ方法ニ依ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ檢査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第二十七條　船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ

容積ニ加ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ揭クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及捩止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル竪溝形材ニ挿板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十一條ニ揭クル適當ノ排水口トハ高約二十吋幅約十五吋ノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

船舶積量測度規程第二十條ニ揭クル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第三十一條 廚室トハ「ガレー」「スカレリー」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條 上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ揭クル艙口ノ噸數トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅三呎以下ナルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ前項ノ艙口ノ噸數ニ算入セス

圍壁艙口ノ噸數ハ暴露甲板上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ揭クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ噸數ヲ算定ス

第三十四條 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ噸數トハ天窓、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ噸數ヲ謂フ

「カウル」「マッシュルーム」「グースネック」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ噸數ハ之ヲ該場所ノ噸數ニ算入ス

第三十五條 大型旅客船ニ在リテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト食堂直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ噸數ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十六條 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ噸數ノミヲ便所ノ噸數トシテ算定スヘシ

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ噸數ノミヲ操舵室ノ噸數トシテ算定スヘシ

第五章 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第三十八條 船員常用室ノ噸數ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條 海員ノ事務室竝水先人、郵便官吏、税關官吏、檢疫官吏、買辨、漁船ニ於テ漁獵ノミニ從事スル者、理髪人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數竝旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入ス

第四十條 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用ヰラルル場合ト雖之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條 船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第四十二條 機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路、機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入ス

第四十三條 船舶積量測度法第四條ニ揭クル主喞筒トハ淦水排出ニ供用セラルル蒸汽喞筒ヲ謂フ

第四十四條 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數トシテ取扱フヘシ

第四十五條 船舶積量測度規程第三十三條ニ揭クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽罐、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、艙内送風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ浚渫船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

第四十六條 石炭庫及燃料油庫ノ噸數ハ機關室ノ噸數ニ算入スヘカラス

第四十七條 船舶積量測度規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ檢査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第六章 積石數

第四十八條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ハ船首ニ在リテハ船首室ノ境界カ内舳ト船底トノ交叉部ヨリ後方ニ在ルトキハ該交叉部ヨリ、船首室ノ境界カ該交叉部ヨリ前方ニ在ルトキハ實際ノ境界ヨリ測リ船尾ニ在リテハ船尾戸建ト航ノ交叉部ヨリ測ルヘシ

第四十九條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ハ加敷ヲ有スル船舶ニ在リテハ加敷ト外板トノ接合部ヨリ、加敷ヲ有セサル船舶ニ在リテハ航ト外板トノ接合部ヨリ測ルヘシ

第五十條 回漕船ノ船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トハ上下及三箇所ノ中間等分點ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ

回漕船以外ノ船舶ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トハ船ノ大小ニ應シ四箇所若ハ五箇所ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ

●臺灣船舶積量改測規則

大正三年九月二十八日
臺灣總督府令第六十號

臺灣船舶積量改測規則左ノ通相定ム

臺灣船舶積量改測規則

第一條 大正三年律令第十號附則第二項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ハ本令ニ依ルヘシ

第二條 船舶ノ積量ノ改測ハ本令施行ノ日ヨリ大正五年三月三十一日ニ至ル期間内ニ於テ之ヲ行フ但シ臺灣外ニ在リテ期間内ニ改測ヲ受クル能ハサル船舶ハ臺灣ニ歸航後一年内ニ之ヲ行フ

第三條 改測ハ定期檢査ト同時ニ地方廳之ヲ行フ但シ臺灣汽船檢査規則ノ適用ヲ受ケサル船舶ノ改測ハ船舶所有者ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

汽船ハ船舶所有者ヨリ特別ノ事由ヲ具シ申請アリタル場合ニ於テ地方廳之ヲ相當ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス改測ヲ行フコトヲ得

第四條 改測ヲ受クヘキ船舶ニシテ臺灣汽船檢査規則ノ適用ヲ受ケサルモノノ所有者ハ本令施行ノ日ヨリ大正四年九月三十日ニ至ル期間内ニ船籍港ヲ管轄スル地方廳ニ改測ノ申請ヲ爲スヘシ

第五條 船舶所有者ニ於テ前條ノ申請ヲ爲ササル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル地方廳ハ職權ヲ以テ適宜ノ時期ニ其ノ改測ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ改測ヲ行フ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

附 則

本令ハ大正三年律令第十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正三年十月一日ヨリ施行)

●公稱馬力算定方法

明治三十三年十一月六日
臺灣總督府令第百四號

汽船公稱馬力算定方法左ノ通相定ム

公稱馬力算定方法

第一 冷汽器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ汽筩吸鎁ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ十ニテ除シタルモノトス但汽筩二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一箇毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第二 冷汽器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ汽筩吸鎁ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三十ニテ除シタルモノトス但汽筩二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一箇毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第三 冷汽器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筩吸鎁ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ十ニテ除シタルモノトス但汽筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第四 冷汽器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筩吸鎁ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三十ニテ除シタルモノトス但汽筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

●英國政府及米國政府ニ於ケル日本船舶登錄免狀等ニ關スル件

明治三十四年四月十七日
臺灣總督府告示第三十一號

英國政府ニ於テハ内閣訓令ヲ以テ明治十七年(西暦千八百八十四年)七月一日以後日本國官廳ヨリ下付セシ噸數證書若ハ其他噸數ヲ記載スル公書ヲ所有スル日本國船舶ハ英國版圖内ノ諸港若ハ各所ニ於テ更ニ其船積ノ測度ヲ要セサル旨布達アリシ趣又米國政府ニ於テハ同國各港ニ出入スル日本船舶ハ爾今其受有スル登簿船免狀其他ノ公書ニ記載シタル噸數ヲ有スルモノト認ムルヲ以テ該船舶ニ於テ右免狀等ヲ提供スルトキハ米國各港ニ於テ再測度ヲ執行セス但シ除去若ハ省略シタル噸數ニシテ米國ノ法律ニ於テ認許セラレサルモノアルトキハ之ヲ該船舶ノ登簿噸數ニ加算スヘキコトヲ明治三十年三月一日大藏省公達第三十四號ヲ以テ税關收税吏其他ヘ達シタル旨何レモ我政府ニ通知アリタルニ付テハ臺灣ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ明治三十一年六月府令第二十六號臺灣船舶積量測度規則實施後交付シタル船籍證書、假船籍證書又ハ船舶國籍證書、假船舶國籍證書及船鑑札ヲ有スル者ハ前記兩國版圖内諸港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナカルヘシ

●帝國政府ト丁抹國政府トノ船舶積量互認ノ件取極メタルニ付其條規

大正十一年九月二十九日
臺灣總督府令第百五十七號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ臺灣諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

●帝國政府ト丁抹國政府トノ船舶積量互認ノ件

大正十一年九月二十九日
臺灣總督府告示第百四十五號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後臺灣ニ船籍ヲ有スル日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

●帝國政府ト瑞典及諸威兩國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規

明治三十五年四月一日
臺灣總督府令第二十三號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諸威兩國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル瑞典國ノ帆船ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量測度規則ニ依レハ控除ヲ許サルルモノノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル瑞典國ノ汽船ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ依レハ控除ヲ許サルル部分ニシテ該證書ニ其ノ控除ヲ明示シタル場所ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但シ瑞典國汽船ノ船長ヨリ申請アルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其ノ登簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測度證書ニ英吉利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ハラス該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諸威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル諸威國ノ汽船又ハ帆船ハ臺灣諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

●帝國船舶瑞典又ハ諸威ニ於テ取扱方

明治三十五年四月一日
臺灣總督府告示第三十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諸威兩國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十五年四月一日以後臺灣ニ船籍ヲ有スル汽船若ハ帆船ニシテ明治三十一年六月府令第三十六號臺灣船舶積量測度規則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、船籍證書又ハ船鑑札ヲ受有スルモノハ瑞典國又ハ諸威國ニ於テ左ノ取扱ヲ受クヘシ

一 瑞典國

帆船ハ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、船籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル登簿噸數ヲ瑞典國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

汽船ハ瑞典國政府ニ於テ其ノ控除スヘキ機關室

ノ部分測度ヲ行ヒ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ但シ地方官廳ヨリ交付シタル獨逸式ニ依リ測定シタル機關室ノ總積量證書ヲ受有スル汽船ハ部分測度ヲ行フコトナク該證書ニ記載スル噸數ニ依リ其ノ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ

汽船又ハ帆船ノ船長ハ帝國ノ船舶積量測度規則ニ於テ控除ヲ許サル部分ニシテ瑞典國ノ法令ニ於テ控除ヲ許ス部分ニ付再測度ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ部分ノ測度ヲ受クルコトヲ得ヘシ

二　諸威國

汽船又ハ帆船ハ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、船籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル登簿噸數ヲ諸威國船舶登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

●帝國政府ト露西亞國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規

明治四十四年十一月二十六日
臺灣總督府令第九十二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト露西亞國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタル條規ヲ左ノ通相定ム

第一條　露西亞國政府ニ於テ千九百年三月二日發布船舶積量測度規則ニ依リ交付シタル測度證書ヲ受有スル露西亞國ノ船舶ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條　前條ノ船舶ニシテ特ニ巨大ナル機關室ヲ有スル汽船ニ在リテハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ申請スルトキハ臺灣ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其ノ登簿噸數ヲ算定ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國船舶露西亞國ニ於テ取扱方

明治四十四年十一月二十六日
臺灣總督府告示第百八十九號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト露西亞國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタル條規ニ依リ臺灣ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ明治三十一年六月府令第三十六號臺灣船舶積量測度規則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受有スルモノハ自今露西亞國ニ於テ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル登簿噸數ヲ露西亞國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ但シ特ニ巨大ナル機關室ヲ有スル汽船ニ在リテハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ申請スルトキハ露西亞國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其ノ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ

●帝國政府ト和蘭國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規

明治四十五年六月三十日
臺灣總督府令第六十五號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ其ノ條規ヲ左ノ通相定メ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測度規則ニ依リ測度シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶竝千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形廟領印度船舶ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

●帝國船舶和蘭國ニ於テ取扱方

明治四十五年六月三十日
臺灣總督府告示第九十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治四十五年七月一日以後臺灣ニ船籍ヲ有スル船舶ニシテ明治四十一年六月府令第三十六號臺灣船舶積量測度規則ニ於テ控除ヲ許サル部分ニシテ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル登簿噸數ヲ和蘭國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

●臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則

大正十一年二月二十五日
臺灣總督府令第十二號

臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則

第一條　基隆港出入ノ爲又ハ岸壁、浮標、棧橋若ハ船渠ニ於ケル繫離用ノ爲港務所所屬曳船ノ使用ヲ許可ス

第二條　曳船使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ別記ノ申請書ヲ前日迄ニ港務所ニ提出スヘシ

第三條　曳船使用料ハ一隻一回ニ付左記ノ區別ニ依リ港務所ニ納付スヘシ

一　汽船登簿噸數　六千噸以上　三十圓
二　汽船登簿噸數　六千噸未滿　二十圓
三　汽船登簿噸數　三千噸未滿　十五圓
四　西洋形帆船　十五圓以內
五　其ノ他ノ帆船　十圓以內

前項第四號第五號ノ料金ハ距離ノ遠近、風向潮流等ノ關係ニ依リ港務所長之ヲ定ム

曳船ノ使用開始申請時ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ爾後經過一時間迄毎ニ一隻ニ付金二圓ヲ港務所ニ納付スヘシ

第四條　內外國軍艦ニ對シテハ使用料ヲ徵收セス

港務所ノ必要ニ依リ又ハ特別ノ事由アル場合曳船ニ從事シタルトキ亦同シ

第五條　曳船カ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生セシメタル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任セス

曳船使用者ニ於テ曳船ニ損害ヲ生セシメタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

第六條　曳船作業準備後使用ノ取消ヲ願出ツルトキハ燃料其ノ他消耗品ハ實費ヲ徵收ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記書式

曳船使用許可申請書

年　月　日

申請者住所氏名……㊞

港務所長殿

下記船舶ニ對シ曳船使用許可相成度申請候也

No	船名	船種國籍	登簿噸數	使用目的	使用日時	延長時間	使用料金
					月日午時	時間	

……切……取……線……

曳船使用許可書

年　月　日

基隆港務所長

第四款　船員

●臺灣汽船職員規則

明治三十四年九月二十八日
律令第十一號
改正　明治三八年第一二號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船職員規則勅裁ヲ得茲ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船職員規則

第一條　臺灣ニ船籍ヲ有スル汽船職員ハ海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

汽船職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ハ左ノ十種トス

甲種船長
甲種一等運轉士
甲種二等運轉士
乙種船長
乙種一等運轉士
乙種二等運轉士
機關長
一等機關士
二等機關士
三等機關士

第三條　海技免狀ハ船員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且船員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書若クハ外國政府ノ海技免狀ヲ有シ臺灣總督ニ於テ船員試驗規程ニ合格スト認メタル者ニハ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與ス

下記船舶ニ對シ曳船使用ヲ許可ス

No	船名	船種國籍	登簿噸數	使用目的	使用日時	申請者
					月日午時	

基隆港務所長

第四條　〔削除〕

第五條　汽船所有者、汽船管理人若ハ汽船借入人ハ臺灣總督ニ於テ特ニ定ムル場合ヲ除ク外別表ニ從ヒ相當ノ海技免狀ヲ受有スル職員ヲ其ノ汽船ニ乘組マシムヘシ

別表ニ定ムル免狀ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第六條　左ノ事項ニ該當スルトキハ汽船職員トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三　執職ヲ禁止セラレタル者若ハ執職停止中ノ者

第七條　左ニ揭クル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條ニ違背シタル者

二　第六條ニ違背シタル者又ハ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ汽船職員ノ職務ヲ行ヒタル者

三　海技免狀ヲ貸與シ之ヲ行使セシメタル者

四　執職ノ假停止ヲ受ケ汽船職員トシテ其ノ職務ヲ行ヒタル者

汽船管理人、汽船所有者、汽船借入人第五條ニ違背シタル場合ニ於テ刑法【第七十八條乃至第八十條】ノ規定ニ依リ其ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其ノ法定代理人ヲ罰ス

第八條

會社其ノ他ノ法人第五條ニ違背シタルトキハ其ノ代表者又ハ淸算人ヲ罰ス

第九條　此ノ規則ニ定メタルモノノ外必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第十條　船舶法第一條ニ依リ日本船舶タル汽船ニシテ臺灣ノ沿岸若ハ河港ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシ外國ニ航行スルモノハ此ノ規則ニ從ヒ汽船職員ヲ乘組マシムヘシ

前項ノ規定ハ臺灣ノ沿岸若クハ河港ヲ航行スル外國汽船ニモ之ヲ適用ス

第十一條　船舶職員法ニ依リ海技免狀ヲ有スル者ハ此ノ規則ニ於ケル相當ノ汽船職員タルコトヲ得

第十二條　此ノ規則施行ノ際現ニ汽船職員トシテ其ノ職務ニ從事スル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月間ニ限リ海技免狀ヲ受有セスシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第十三條　此ノ規則ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行ス

（別表）

航路限定	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋航路汽船	五百噸未滿	一機關士	船長	一
		一等運轉士	甲種船長	一
		二等運轉士	甲種一等運轉士	一
		三等運轉士	甲種二等運轉士	一
	五百噸以上	一機關士	船長	一
		一等運轉士	甲種船長	一
		二等運轉士	甲種一等運轉士	一
		三等運轉士	甲種二等運轉士	一
近海航路汽船	二百噸未滿	一機關士	乙種一等運轉士	一
		一等運轉士	乙種二等運轉士	一
	千噸未滿	一機關士	乙種一等運轉士	一
		一等運轉士	乙種二等運轉士	一
		二等運轉士	甲種船長	一
	千噸以上	一機關士	甲種一等運轉士	一
		一等運轉士	甲種二等運轉士	一
		二等運轉士	甲種船長	一
沿海航路汽船	百噸未滿	機關士	乙種二等運轉士	一
	二百噸未滿	機關士	乙種一等運轉士	一
	五百噸未滿	一機關士	乙種二等運轉士	一
		一等運轉士	乙種一等運轉士	一

汽船	五百噸以上	船長 一等運轉士 機關長 一等機關士	乙種船長 乙種一等運轉士 一等機關士 二等機關士	一 一 一 一
平水航路汽船	二百噸未滿	船長 機關長	乙種二等運轉士 三等機關士	一 一
	二百噸以上	船長 機關長	乙種一等運轉士 二等機關士	一 一

●臺灣汽船職員規則施行細則

明治三十八年十月二十六日
臺灣總督府令第七十八號
改正 大正九年第一〇九號、一〇年第八一號

臺灣汽船職員規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣汽船職員規則施行細則

第一條 臺灣汽船職員規則ニ規定スル海技免狀ハ高等ノ免狀ヲ以テ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第二條 近海航路汽船ニ於テハ乙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ、乙種一等運轉士免狀ヲ以テ甲種二等運轉士免狀ニ、沿海航路汽船ニシテ總噸數二百噸未滿ノモノニ於テハ乙種二等運轉士免狀ヲ以テ乙種一等運轉士免狀ニ、三等機關士免狀ヲ以テ二等機關士免狀ニ、平水航路汽船ニ於テハ乙種二等運轉士免狀ヲ以テ乙種一等運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

第三條 左ノ場合ニ於テハ臺灣汽船職員規則第五條ニ定ムル汽船職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル汽船ヲ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ
二 臺灣ト外國トノ間ヲ航行スル汽船外國ノ港ニ於テ汽船職員ニ缺員ヲ生シ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ
三 外國ノ湖川港內又ハ各港間ノミヲ航行スル汽船ニシテ當該外國政府ノ法則ニ依リ相當免狀ヲ有スル者ヲ乘組マシメタルトキ又ハ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシメタルトキ
四 航行中汽船職員ニ缺員ヲ生シタルトキ
五 他船ニ引カレテ航行スルトキ
六 汽船ヲ運航ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ汽船所有者又ハ船長ハ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムヘシ

第四條 臺灣汽船職員規則第三條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ別記第一號書式ノ書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第五條 臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督府ニ左ノ書類ヲ差出シテ體格檢査ヲ申請スヘシ

一 別記第二號書式ノ申請書
二 身分書(臺灣汽船職員試驗規程第五條ノ規定ニ依ル)
三 海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書最後任官ノ辭令書ノ寫
四 商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
五 海技免狀ヲ有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歷書

前項ノ履歷書ニ付テハ相當證明書辭令書卒業證書又ハ外國政府ノ海技免狀寫ニ付テハ各原本ヲ檢閱ニ供スヘシ

體格檢査ヲ受ケ合格シタル者ハ別記第一號書式ノ書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第六條 臺灣總督府ニ於テ第四條又ハ前條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ船員名簿ニ登錄シ別記第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス

一 海技免狀ノ種類
二 氏名
三 本籍地及族稱(外國人ナルトキハ國籍)
四 出生ノ年月日
五 合格ノ年月日

第七條 海技免狀ヲ受有スル者第四條又ハ第五條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ懲戒審理開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ口頭審問ニ付セストノ決定又ハ評決言渡ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前項評決ニ依リ執職ヲ停止セラレタルトキハ尙其ノ處分ヲ終ルマテ登錄ヲ停止シ執職ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第八條 第六條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以內ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シ海技免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲サントスル者本島人ナルトキハ本人居住地ノ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長、內地人ナルトキハ本籍地ノ戶籍吏、外國人ナルトキハ本國領事ヨリ其ノ變更セル事實ノ證明ヲ受ケ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以內ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ其ノ再交附ヲ申請スヘシ

第十條 臺灣總督府ニ於テ第八條又ハ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請人ニ交付ス

申請人前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十一條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以內ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ノ抹消ヲ申請スヘシ

一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
二 家資分產又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三 疾病又ハ身體不具ノ爲執職ニ不適當トナリタルトキ
四 執職ヲ禁止セラレタルトキ
五 汽船職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
六 廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

登錄ノ抹消ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十二條 臺灣總督府ハ左ノ場合ニ於テ登錄ノ抹消ヲ爲ス

一 前條ノ申請ヲ受ケタルトキ
二 登錄ノ抹消ヲ申請スヘキ者規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
三 詐僞ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

臺灣總督府ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登錄ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十三條 海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登錄ハ臺灣總督府ニ於テ之ヲ抹消ス

前項ノ場合ニ於テ下等免狀ハ高等免狀ト引換ニ之ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十四條 海技免狀ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ第十一條第一項各號及第十二條第一項第二號第三號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十五條 申請者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一 第四條又ハ第五條第三項ニ依リ登錄ヲ申請スルトキ 二圓
二 第五條第一項ニ依リ體格檢査ヲ申請スルトキ 二十錢
三 第八條第一項又ハ第九條ニ依リ海技免狀ノ書換又ハ再交付ヲ申請スルトキ 一圓

第十六條 第八條第一項、第九條、第十條第二項、第十一條、第十二條第三項及第十三條第二項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ第八條第九條又ハ第十一條ニ該當セル者ハ本令施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本令ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

第十六條ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

(別記)

第一號書式

船員名簿登錄申請書

一 海技免狀ノ種類
二 氏名(假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
三 本籍及族稱(外國人ナルトキハ國籍)
四 出生ノ年月日
五 合格ノ年月日

右船員名簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度臺灣汽船職員規則施行細則第四條(第五條第三項)ニ依リ此段申請候也

年 月 日 申請人 氏 名 印
現住所

臺灣總督府氏名殿

第二號書式

體格檢査申請書

臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ免狀授與申請致度候間體格檢査執行相成度履歷書身分書等相添此段申請候也

年 月 日 申請人 氏 名 印
現住所

臺灣總督府氏名殿

第三號書式

花紋

紋章　割印

第 號

道府縣州廳華士族平民
(外國人ニ在リテハ國籍)
氏 名
出生ノ年月日

【明治】 年 月 日登錄
(免狀種類)免狀
明治三十四年律令第十一號臺灣汽船職員規則ニ依リ之ヲ授與ス
【明治】 年 月 日
臺灣總督府氏名印

備考

一 海技免狀ノ寸法ハ竪九寸橫一尺二寸トス

●臺灣汽船職員試驗規程

明治三十四年九月二十八日
臺灣總督府令第五十八號
改正 明治三四年第一〇〇號、三五年第八四號、三六年第七〇號、大正九年第一〇七號、一〇年第八〇號

臺灣汽船職員試驗規程左ノ通相定ム

臺灣汽船職員試驗規程

第一章 受驗申請

第一條 臺灣汽船職員規則ニ依リ海技免狀ヲ受有セントスル者ハ此規定ニ從ヒ試驗ヲ受クヘシ

第二條 試驗ハ臺灣總督府ニ於テ每年二月十五日、五月十五日、八月十五日及十一月十五日之ヲ執行ス但シ當日休暇日ナルトキハ之ヲ繰下ク

前項ノ定日外ニ臨時試驗ヲ執行スルノ必要アリト認ムルトキハ期日ヲ定メ之ヲ告示ス

第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日七日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ其ノ履歷書、身分書及海技免狀受有者ニ在テハ海技免狀ノ寫ヲ添ヘ受驗申請書ヲ臺灣總督府ニ差出スヘシ

臨時試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日三日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 履歷ハ左ニ揭クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

一 商船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官吏公吏ノ證明書
二 海軍艦船艇其ノ他官廳所屬船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官廳若クハ艦船艇ノ辭令書若クハ證明書
三 學校若クハ工場ニアリタル履歷ニ付テハ當該學校若クハ工場ノ卒業證書若クハ證明書

第五條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本島人ニ在テハ本人居住地ノ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長內地人ニ在テハ本籍地ノ戶籍吏外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受クヘシ

一 原籍地、身分及氏名
二 生年月日
三 臺灣汽船職員規則第六條第一號及第二號ニ揭クル事項ニ該當セサルコト

第六條 受驗申請者ハ體格檢査ニ付テハ二十錢學術試驗ニ付テハ其ノ試驗ノ種類ニ從ヒ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

甲種船長 五圓
甲種一等運轉士 三圓
甲種二等運轉士 二圓
乙種船長 三圓
乙種一等運轉士 二圓
乙種二等運轉士 一圓
機關長 五圓
一等機關士 三圓
二等機關士 二圓
三等機關士 一圓

第七條 體格檢査手數料ハ受驗申請書ト俱ニ納メ學術試驗手數料ハ學術試驗開始ニ先チ納ムヘシ

前項既納手數料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第二章 受驗履歷

第八條 年齡二十年以上ニシテ左ニ揭クル履歷ノ一ヲ有シ臺灣汽船職員規則第六條ノ各項ニ該當セサル者ニアラサレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

甲種船長試驗

一 甲種一等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
二 乙種船長ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

甲種一等運轉士試驗

一 甲種二等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

甲種二等運轉士試驗

一 四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ其ノ內一年以上ハ橫帆裝置ノ帆船又一年以上ハ汽船ニ乘組ミ

タルコト

二　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ其ノ內一年以上ハ橫帆裝置ノ帆船又六月以上ハ汽船ニ乘組ミタルコト

乙種船長試驗

一　乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二　乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

乙種一等運轉士試驗

一　四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

二　乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト

三　乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

四　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

乙種二等運轉士試驗

一　三年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

二　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上二年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

機關長試驗

一　一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト

二　一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

一等機關士試驗

一　四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

二　二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

三　二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト

四　二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

五　臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場若クハ學校ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年六月以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

二等機關士試驗

一　四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

二　三等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ汽船ニ乘組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

三　臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年六月以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

三等機關士試驗

一　三年以上汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

二　臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年以上汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

第九條　甲種一等運轉士若クハ甲種二等運轉士ノ免狀ヲ以テ乙種一等運轉士ノ免狀ニ代用シ其職ヲ執リタル者ハ乙種船長試驗ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ執職期間ハ第八條ノ規定ニ依ルヘシ

甲種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ三等機關士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタル者又ハ一等機關士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタル者ハ其ノ執職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歷ト見做スコトヲ得

第十條　前數條ニ於テ航洋船ト稱スルハ沿海航船以上ノ西洋形船舶航洋汽船ト稱スルハ沿海航船以上ノ汽船ヲ謂フ

第十一條　第八條中乙種船長試驗第一號及第二號ニ揭クル履歷ハ其ノ執職期間ヲ通算スルコトヲ得乙種一等機關士試驗第二號及第三號機關長試驗第一號及第二號一等機關士試驗第二號第三號及第四號ニ揭クル履歷ニ關シテモ亦同シ

第十二條　左ニ揭クルモノハ第八條第九條ニ規定シタル履歷トシテ效力ヲ有セス

一　繫留船ニ乘組ミタルモノ

二　年齡滿十五年前ニ係ルモノ

第三章　試驗

第十三條　試驗ハ體格檢查及學術試驗トス體格檢查ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス但シ體格試驗ニ合格シ學術試驗ニ合格セサル者體格檢查ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ於テ試驗ヲ受ケントスルトキハ試驗官吏ノ見込ニ依リ體格檢查ヲ省略スルコトアルヘシ

學術試驗ハ分チテ筆記試驗及口述試驗トス

但シ乙種二等運轉士試驗及三等機關士試驗ニハ筆記試驗ヲ行ハス

筆記試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

體格檢查ノ程度及學術試驗ノ科目ハ別記ニ依リ之ヲ行フ

第十四條　筆記試驗ニ於テ答ヲ爲スノ期間ハ試驗官吏之ヲ定ム

口述試驗ハ受驗人一人每ニ試問シテ卽時答ヲ爲サシム

第十五條　試驗官吏ニ於テ受驗人ノ履歷若クハ身分ニ詐僞錯誤アルコト又ハ受驗ノ資格ナキコトヲ發見スルトキ若クハ臺灣總督府ノ定メタル受驗人心得ニ違反シタルコトヲ認ムルトキハ何時ニテモ其ノ試驗ヲ停止スルコトヲ得

第十六條　試驗官吏ニ於テ受驗人第十五條ノ處分ヲ受クヘキ所爲アリタルコトヲ試驗結了後ニ發見スルトキハ其ノ試驗ヲ無效トスヘシ

第十七條　受驗人左ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ試驗ハ成立セサルモノトス

一　定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二　試驗ヲ了ラスシテ退場シタルトキ

三　第十四條ノ期間內ニ答ヲ爲ササルトキ

四　第十五條ノ處分ヲ受ケタルトキ

第十八條　受驗人試驗ニ合格シタルトキハ別記書式ノ合格證書ヲ付與ス

第十九條　合格證書ヲ付與シタル後試驗官吏ニ於テ第十五條ノ處分ヲ受クヘキ所爲アリタルコトヲ發見スルトキハ該合格證書ヲ無效トスヘシ

第四章　試驗停止

第二十條　體格檢查ニ合格セサル者ハ受驗ノ日ヨリ三箇月ヲ經過スルニアラサレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二十一條　同種免狀ニ對スル筆記試驗ニ合格セサルコト若クハ筆記試驗成立セサルコト三箇月間ニ於テ二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ日ヨリ三箇月ヲ經過スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二十二條　同種免狀ニ對スル口述試驗ニ合格セサルコト若クハ口述試驗成立セサルコト二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ後三箇月間實地運航ニ從事シタル履歷ヲ有スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ履歷ニ關シテハ第四條第八條及第十二條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第二十三條　此ノ規程ハ明治三十四年十月一

日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　此ノ規程施行ノ際現ニ汽船職員ノ職務ニ從事スル者ニ在テハ第四條ノ規定ニ依ラス單ニ當該船主ノ證明ヲ以テ足レリトス

（別記）

體格檢查ノ程度

體格檢查ニ於テ左ニ揭ケタル者ハ合格スルコトヲ得ス

一　四肢ノ一ヲ失ヒ若クハ其ノ用ヲ爲サヽル者

二　老眼、近視眼若クハ一眼ヲ失ヒタル者

三　聾者、啞者

四　前各項ノ外當該醫官ニ於テ執務ニ不適當ト認ムル者

試驗科目

甲種船長試驗

（甲種一等運轉士試驗及甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　星象高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

二　太陰子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

三　經度及太陽高度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法

四　「ナピール」自差表調製及用法

口述

一　羅針緯差ノ解明

二　原基羅針据付及自差矯正ノ方法

三　船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

四　颶風ノ解明及避難法

五　船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

六　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種一等運轉士試驗

（甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　太陽方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

二　子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

三　「サムナー」法ニ依リ船舶所在ノ位置及太陽ノ方位角ヲ知ル算法

四　潮時ノ算法

口述

一　六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱

二　下檣建設其ノ他圓材ノ取扱

三　錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法

四　船舶荒天運用ノ方法

五　航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置

六　汽船ノ暗車作用

七　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種二等運轉士試驗

筆記

一　航海運用ニ關スル用語ノ解明

二　航海日誌ノ記載

三　分數及比例算法

四　航海日誌ノ算法

五　緯線航行算法

六　「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ依リ經緯度若クハ針路航程ヲ知ル算法

七　太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

八　太陽出沒方位ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

九　時辰儀及太陽高度ニ依リ經度ヲ知ル算法

十　羅針自差ノ算法

十一　海圖ノ應用

口述

一　船具ノ取付及取脫

二　桅檣及帆架ノ揚降

三　帆ノ取扱

四　船舶常時運轉及碇泊ノ方法

五　測程具及測深具ノ解明竝用法

六　貨物積載法

七　海上衝突豫防法

八　萬國信號法

九　羅針自差ノ測定方法

十　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種船長試驗

（乙種一等運轉士試驗及乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

二　太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

三　時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法

口述

一　六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱

二　羅針違差ノ解明

三　汽船ノ暗車作用

四　汽船荒天運用ノ方法

五　錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法

六　航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置

七　船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

八　船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

九　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種一等運轉士試驗

（乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　航海日誌ノ記載

二　加減乘除應用算法

三　航海日誌ノ算法

四　羅針自差ノ算法

五　海圖ノ應用

口述

一　帆ノ取扱

二　海上衝突豫防法

三　萬國信號法

四　羅針ノ自差ノ測定方法

五　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種二等運轉士試驗

口述

一　羅針儀ノ解明及用法

二　測程具測深具ノ解明及用法

三　汽船運轉及碇泊ノ方法

四　船舶衝突豫防ノ方法

五　船舶信號法ノ大要

六　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

機關長試驗

（一等機關士試驗、二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　汽機强力、汽鑵强力、螺旋螺距、煙突溫度、蒸氣膨脹、蒸氣切斷、水壓力、開平式、汽力圖等ニ關スル算法

二　汽機汽鑵局部ノ製圖

口述

一　熱及汽機汽鑵ニ於ケル熱ノ效力及害

二　汽機汽鑵各部ニ要スル諸强力ノ解明

三　汽機汽鑵材料ノ解明

四　汽機各部ノ摩擦力及實馬力ト推進力トノ關係

五　蒸氣及其ノ膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要

六　汽力器及汽力圖ノ解明

七　汽機汽鑵ノ要部及炭量水量等ノ割合

八　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

ニ於テ必要ト認ムル事項

一等機關士試驗

（二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆　記

一　重量、炭費、觸火面、速力、槓杆安全瓣、唧筒、馬力等ニ關スル算法

口　述

一　汽機汽罐各部組成ノ理解
二　各種ノ汽機汽罐構造及利害ノ解明
三　汽機各部ノ働力方向ノ解明
四　各種ノ滑瓣、働瓣機及推進器ノ解明
五　車軸、螺旋軸、滑瓣等ノ裝置及其ノ位置ノ改正
六　馬力ノ解明
七　汽機汽罐ニ屬スル諸器製造ノ理解
八　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

二等機關士試驗

（三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆　記

一　機關室日誌ノ記載
二　分數、比例及面體求積ノ算法

口　述

一　汽機汽罐組成ノ大要
二　汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意
三　汽罐ニ腐蝕燒損其ノ他毀損ヲ來スノ原因及其ノ豫防方法
四　運轉中汽機汽罐ニ要スル注意
五　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

三等機關士試驗

口　述

一　汽機汽罐檢査ノ方法
二　汽機汽罐各部ノ效用
三　汽機汽罐ニ屬スル諸器ノ效用及用法
四　汽機汽罐ノ取扱及運轉方法
五　汽機汽罐ノ損所ヲ修繕スル方法
六　運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
七　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

合格證書書式（竪七寸七分橫一尺八寸）

合格證書

族籍
氏　名
生年月日

右者臺灣汽船船員試驗規程ニ依リ（試驗種類）ヲ受ケ合格ス依テ此ノ證書ヲ付與ス

【明治】　年　月　日

臺灣總督府遞信局長氏名　印

●臺灣汽船職員試驗規程中官吏公吏證明書ノ件

明治三十五年四月十八日
臺灣總督府令第二十九號

明治三十四年九月府令第五十八號臺灣汽船職員試驗規程第四條第一號ニ揭クル官吏公吏ノ證明書ハ當分ノ內當該船主ノ證明ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

●臺灣汽船職員懲戒規則

明治三十五年十月二十四日
律令第八號
改正　明治三九年第六號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船職員懲戒規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船職員懲戒規則

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ懲戒ヲ加フ
一　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒破壞シ又ハ船體若ハ機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ
二　正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
三　海難ニ罹リタル自他ノ船舶船客若ハ船員ヲ正當ノ理由ナクシテ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
四　其ノ他職務懈怠又ハ法令違反ノ所爲ニ因リ懲戒ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ三種トス
一　執職禁止
二　執職停止
三　譴責

第三條　執職停止ハ一月以上三年以下トス

第四條　懲戒ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ懲戒ヲ行ハス
前項時效ノ中斷ニ關シテハ刑事訴訟法中時效ニ關スル規定ヲ準用ス
第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免カルルコトヲ得ス

第五條　懲戒審理ヲ行フ爲臺灣總督府ニ懲戒委員會ヲ置ク
懲戒委員會ニ懲戒委員長懲戒委員理事及書記ヲ置ク
懲戒審理ハ懲戒委員長一人懲戒委員二人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ
懲戒委員長懲戒委員及理事ハ臺灣總督府高等官中ヨリ書記ハ臺灣總督府判任官中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第六條　理事懲戒スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ且必要ニ應シ臨檢ヲ爲スヘシ但シ便宜其ノ地ノ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第七條　理事ハ證憑其ノ他必要書類ヲ添附シ審理開始ヲ懲戒委員會ニ申立ツヘシ

第八條　懲戒委員會ハ理事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審理ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス
但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事ノ意見ヲ聽クヘシ

第九條　懲戒審理ヲ開始スヘシト決定シタルトキハ口頭審問期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ但シ下調ノ必要アリト決定シタルトキハ懲戒委員長ハ被審人ヲ呼出ス以前ニ於テ懲戒委員ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第十條　下調ノ命ヲ受ケタル懲戒委員ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ
受命懲戒委員ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ取調ヘ證人ヲ呼出シ鑑定人若ハ通事ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得但シ便宜其ノ地ノ司法警察官ニ證人ノ取調鑑定人ノ鑑定又ハ臨檢ヲ囑託スルコトヲ得

第十一條　被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命懲戒委員ノ呼出ニ應セサルトキハ受命懲戒委員ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得
引致狀ノ執行ハ刑事訴訟ニ於ケル拘引狀執行ノ手續ヲ準用ス

第十二條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命懲戒委員ハ執職ノ假停止ヲ爲スコトヲ得

第十三條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命懲戒委員ハ其所在ニ就テ之ヲ取調フルコトヲ得

第十四條　受命懲戒委員下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ懲戒委員長ニ差出シ懲戒委員長ハ之ヲ理事ニ送付スヘシ
理事ハ三日以內ニ意見ヲ附シ其書類ヲ懲戒委員長ニ還付スヘシ

第十五條　懲戒委員會ハ下調ヲ充分ナリト思料スルトキハ口頭審問ニ付スヘキヤ否ヲ決定スヘシ
口頭審問ニ付スヘシト決定シタルトキハ其期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ
口頭審問ニ付セスト決定シタルトキハ其ノ旨被審人ニ通知スヘシ

第十六條　口頭審問及評決言渡ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ決定ヲ以テ口頭審問ノ公開ヲ停止スルコトヲ得

第十七條　第十條乃至第十二條ノ規定ハ口頭審問ノ場合ニモ之ヲ準用ス

第十八條　口頭審問中必要アルトキハ決定ヲ以テ被審人若ハ證人ノ取調又ハ臨檢ノ爲受命懲戒委員ヲ命スルコトヲ得
第十條乃至第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　審理ノ公開中秩序ノ維持ハ懲戒委員長ニ屬ス懲戒委員長ハ審理ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退場セシムルコトヲ得

第二十條　被審人及證人ノ取調ハ懲戒委員長之ヲ爲ス懲戒委員及理事ハ懲戒委員長ニ告ケ被審人及證人ヲ取調フルコトヲ得

第二十一條　理事ハ審理ニ立會ヒ其意見ヲ述フルコトヲ得

第二十二條　被審人ハ補佐人ヲ用ユルコトヲ得但シ懲戒委員長ノ認許シタル者ニ限ル

第二十三條　呼出ヲ受ケタル被審人口頭審問期日ニ出頭セサルトキハ闕席評決ヲ爲スヘシ
被審人ノ疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ口頭審問ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ審理ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第二十四條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審理ヲ開始スルコトヲ得ス
被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ終結ニ至ルマテ審理ヲ中止スヘシ

第二十五條　評決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第二十六條　期間ノ計算書類ノ調製送達及懲戒委員長懲戒委員ノ除斥忌避回避竝證人鑑定人及通事ニ付テハ此規則ニ規定スルモノノ外刑事訴訟ニ關スル規定ヲ準用ス但シ書類ノ送達ニ付キ執達吏ノ爲スヘキ職務ハ臺灣總督府使丁ヲシテ之ヲ行ハシム

第二十七條　此ノ規則ニ依リ證人トシテ呼出サレタル者又ハ鑑定若ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　此規則ニ依リ證人トシテ呼出サレタル者僞證ヲ爲シタルトキ又ハ鑑定若ハ通事ノ爲呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ評決言渡ニ至ラサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第二十九條　此規則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣汽船職員懲戒取扱規則

明治三十五年十一月二十五日
臺灣總督府令第八十二號
改正　明治三六年第七一號、大正九年第一〇八號

臺灣汽船職員懲戒取扱規則左ノ通相定ム

臺灣汽船職員懲戒取扱規則

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船長（船長不在ナルトキハ其ノ代理者）ニ於テ臺灣總督又ハ本船所在地若ハ爾後初テ到著シタル地ヲ管轄スル郡役所、支廳又ハ警察官署、內地ニ在リテハ海事局、海務署、同出張所、警察署、同分署、市役所、町村役場、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長役場又ハ之ニ準スヘキ役場、外國ニ在リテハ其ノ地駐劄ノ日本領事館、同分館若クハ貿易事務館ニ其ノ旨届出ツヘシ
一　人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒、破壞シ又ハ船體若クハ機關ヲ毀損シタルトキ
二　船舶ヲ放棄シタルトキ
三　海難ニ罹リタルトキ若ハ海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
四　法令違反ノ所爲アリタルトキ

第二條　前條各號ニ該當スル事實アルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ同條ニ揭クル官廳若ハ公署ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條　海事官、稅關官吏、郡守、支廳長又ハ警察官吏ニ於テ臺灣汽船職員懲戒規則第一條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ當該職員及必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ海難事件ニ在リテハ左ノ各號ノ事項其ノ他ノ事件ニ在リテハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調ヘ調書ヲ作リ直ニ之ヲ臺灣汽船職員懲戒委員會ニ提出スヘシ
一　取調ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、職業及年齡
二　汽船ノ名稱、種類、登簿噸數及公稱馬力竝其ノ所有者ノ住所氏名
三　汽船職員ノ住所氏名竝其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號（內地ノ授與ニ係ルトキハ其ノ旨附記スヘシ）
四　發航地、到達竝事件ヲ惹起シタル場所及年月日時
五　事件ノ顚末
六　發航以後事件ヲ惹起シタル迄ノ天候、航路、速力及船舶職員、舵取、看守ノ當直時間竝其ノ氏名
七　船舶損傷ノ箇所竝其ノ再用ノ適否
八　船客、乘組員ノ員數竝其ノ死傷ノ有無
九　貨物ノ種類、數量竝其ノ損害ノ有無
十　人命船舶及貨物救護ノ方法
十一　航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及航路ニ於ケル自差
十二　使用シタル海圖ノ種類及番號
十三　航海日誌ノ存否
十四　取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト
調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ受ケタル者ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ

第四條　理事前條ノ調書ヲ取調ヘタル後審理ヲ要セスト思料シタルトキハ其理由ヲ記シ一件書類竝證憑ヲ懲戒委員長ニ提出スヘシ

第五條　懲戒委員長ハ臺灣汽船職員懲戒委員會ノ事務ヲ總理ス
懲戒委員長故障アルトキハ懲戒委員中官等最高キ者之ヲ代理シ官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第六條　各事件ノ掛懲戒委員ハ懲戒委員長ノ指定ニ依ル

第七條　懲戒委員長ハ其ノ掛懲戒委員中故障アルトキハ他ノ懲戒委員ヲ指定シ之ニ代ハラシムルコトヲ得

第八條　評決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三說ニ分レタルトキハ被審人ニ不利ナル意見ヲ順次利益ナル意見ニ合算ス
意見陳述ノ順序ハ官等ノ最低キ者ヨリ之ヲ始メ懲戒委員長ヲ終リトス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命事件ニ付テハ受命懲戒委員ヲ始メトス

第九條　懲戒委員長及懲戒委員ハ評決及決定ニ付自己ノ意見ヲ表白スルコトヲ拒ムヲ得ス

第十條　受命懲戒委員ハ搜索及物件差押ヲ爲シ又ハ之ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第十一條　受命懲戒委員臨檢、搜索、物件ノ差押又ハ訊問ヲ爲ストキハ自ラ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ

第十二條　臺灣汽船職員懲戒規則第六條ニ依リ囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ理事ト同一ノ職權ヲ以テ同第十條及此ノ規則第十條ニ依リ囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ受命懲戒

委員ト同一ノ職權ヲ以テ職務ヲ行フモノトス

第十三條　被審人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クモ二十四時間ノ猶豫アルヲ要ス

第十四條　呼出狀ニハ被審事件及被審人、證人、通事、鑑定人又ハ參考人ノ氏名、族籍、住所、職業竝之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ懲戒委員長又ハ受命懲戒委員及書記署名捺印スヘシ

引致狀ニハ被審事件及被審人又ハ證人ノ氏名、年齡、族籍、住所、職業ヲ記載シ懲戒委員長又ハ受命懲戒委員及書記署名捺印スヘシ

第十五條　呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニアラサレハ缺席評決ヲ爲スコトヲ得ス

呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ懲戒委員會ハ猶豫時間ヲ定メ其ノ期間ニ被審人出頭セサルトキハ缺席評決ヲ爲スヘキ告知ヲ府報ニ揭載スヘシ

第十六條　書記ハ審理延ニ列席シテ訊問及陳述ノ大要ヲ錄取スヘシ

第十七條　懲戒委員長ハ被審人ヲ訊問スルニ際シ書記ヲシテ必要ナル調書其ノ他證憑書類ヲ朗讀セシムヘシ

第十八條　出廷シタル被審人陳述スルコトヲ肯セサルトキハ對席トシテ審理ヲ爲スヘシ

被審人審理ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ懲戒委員長ヨリ退場ヲ命セラレタルトキ亦同シ若シ陳述二日ニ渉ルトキハ更ニ被審人ヲ出頭セシムヘシ

第十九條　被審人及補佐人ハ懲戒委員長ノ許可ヲ得審理記錄ノ全部若クハ一部ヲ閱覽シ又ハ謄寫スルコトヲ得

第二十條　懲戒ヲ加フルノ言渡ヲ爲ストキハ審理費用ノ全部又ハ一部ヲ被審人ニ負擔セシムル言渡ヲ爲スヘシ

懲戒ヲ加ヘサルコトヲ言渡シタルトキハ審理費用ヲ國庫ノ負擔トス

審理費用ト稱スルハ證人、鑑定人、及通事ニ給與スヘキ日當旅費滯在費ヲ謂フ

第二十一條　差押物件ハ所有者ノ請求ナシト雖之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

第二十二條　評決ノ原本ニハ年月日及之ニ干與シタル理事ノ氏名ヲ記載シ懲戒委員長、懲戒委員、書記共ニ署名捺印スヘシ

第二十三條　被審人ハ評決書ノ正本謄本若ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ手數料ニ付テハ明治三十一年律令第二號ヲ準用ス

第二十四條　書記ハ評決言渡ヨリ三日以內ニ評決始末書ヲ作リ一切ノ審理手續ヲ記載シ懲戒委員長ト共ニ署名捺印スヘシ

第二十五條　評決ヲ言渡シタルトキハ懲戒委員長ハ直ニ評決ノ謄本ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第二十六條　懲戒委員長ハ證人、鑑定人又ハ通事ニ臺灣汽船職員懲戒規則第二十七條又ハ第二十八條ニ該當スル行爲アリト思料シタルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ之ヲ告發スヘシ

第二十七條　評決及評決始末書ハ之ヲ懲戒委員會ニ保存スヘシ

第二十八條　第一條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　懲戒委員長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

●船舶職員法ヲ外國船舶ニ準用ノ件

大正元年十月十日
勅令第三十一號

脫船舶職員法準用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港內ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海上ニ於テ水雷ヲ發見シタルトキノ船員心得

大正八年十二月二十九日
臺灣總督府告示第百九十號

日本船舶ノ船員ニシテ海上ニ於テ水雷ヲ發見シタルトキハ左記ノ通心得ヘシ

一　水雷ハ成ルヘク之ヲ破壞シ又ハ沈沒セシムヘシ但シ大潮ニ於ケル低潮時ノ水深七尋ニ達セサル水路ニ於テハ碇泊中ノ船舶ニ向ケ浮流シ來ル場合ノ外之ヲ沈沒セシムヘカラス

二　水雷爆發ノ際ハ破片飛來ノ虞アルヲ以テ附近ニ在ル者ニ相當ノ注意ヲ與フヘキハ勿論射擊者ハ頭布ヲ用ヰ又ハ遮閉シタル場所ヨリ之ヲ射擊シ且其ノ水雷ヨリ百二十間以內ニ近接スヘカラス

三　水雷ヲ發見スルモ之ヲ破壞シ又ハ沈沒セシムルニ至ラサル場合ハ遲滯ナク最寄ノ相當官憲ニ其ノ水雷ノ位置及狀況ヲ報告スヘシ

四　水雷ヲ破壞シ又ハ沈沒セシメタル者ニハ水雷一箇ニ付金五十圓以上百圓以內ヲ給與スル但シ水雷ノ破壞又ハ沈沒ノ際受ケタル損害ハ之ヲ賠償セス

五　前記ノ給與金ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ船長及水雷ノ破壞又ハ沈沒ノ實況ヲ目擊シタル者二名ノ證明書ヲ添附シ最初ニ到著シタル港ヲ管轄スル地方廳ニ提出スヘシ

(一)　破壞シ又ハ沈沒セシメタル者ノ住所氏名

(二)　破壞又ハ沈沒當時乘組ミタル船舶ノ名稱及當時ノ職務

(三)　破壞又ハ沈沒當時ニ於ケル前號船舶ノ位置

(四)　破壞又ハ沈沒場所ノ水深

(五)　破壞又ハ沈沒方法

(六)　破壞又ハ沈沒ノ際ニ於ケル水雷ト船舶トノ距離

(七)　水雷ニ關スル記述但シ成ルヘク簡單ナル見取圖ヲ添附スルコト

(八)　破壞又ハ沈沒ノ年月日但シ船舶ノ航海日誌抜萃ヲ添附スルコト

●臺灣總督府土木局船員規程

大正十年三月三十一日
臺灣總督府訓令第四十六號

臺灣總督府

臺灣總督府土木局船員規程左ノ通相定ム

臺灣總督府土木局船員規程

第一章　總則

第一條　本規程ニ於テ船員ト稱スルハ左ノ船舶從業者ヲ謂ヒ高級船員トハ船長以下乙種艇長以上、下級船員トハ水、火夫長以下ヲ謂フ

船　長
機關長
一等運轉士
一等機關士
甲種艇長
乙種艇長
水夫長
火夫長
舵　夫
油　差
水　夫
火　夫
艇　夫

第二條　船員ノ服務心得及本令施行ニ關シ必要ナル手續ハ土木局長之ヲ定ム

第二章　採用

第三條　船長、機關長、一等運轉士、一等機關士、甲種艇長ハ臺灣汽船職員規則ニ牴觸セサル者、乙種艇長ハ二年以上船舶ノ從業員タリシ者又ハ其ノ職ニ在ル者ニシテ相當經歷ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用スヘシ

第四條　船員ノ採用ニ關シテハ前條ノ外土木局現業傭人規程第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第三章　服務

第五條　船長ハ船員ヲ指揮監督シ船ニ關スル一切ノ責ニ任スヘシ

第六條　機關長ハ一等機關士、火夫長、油差、火夫ヲ指揮シ機關ニ關スル一切ノ責ニ任スヘシ

第七條　一等運轉士ハ水夫長、舵夫、水夫ヲ指揮シ運轉ニ關スル職務ヲ行フヘシ

第八條　一等機關士ハ機關長ノ職務ヲ補助スヘシ

第九條　艇長ハ乘組員ヲ指揮監督シ艇ニ關スル一切ノ責ニ任スヘシ

第十條　水夫長、火夫長、舵夫、油差、水夫、火夫、艇夫ハ上長ノ指揮監督ヲ承ケ各其ノ職務ニ從事スヘシ

第十一條　船長、機關長、甲種艇長及乙種艇長ハ各日誌ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

船長日誌

一　天候及風位
二　航海及碇繫所
三　發著時刻
四　作業時間及其ノ功程
五　汚水ノ量
六　曳船ノ數量
七　備品ノ亡失及毀損
八　消耗品受拂
九　其ノ他必要ナル事項

機關長日誌

一　汽罐ノ汽力
二　眞空ノ度
三　每分平均回轉數
四　罐水量及罐水ノ濃淡
五　其ノ他必要ナル事項

甲種艇長日誌

一　天候及風位
二　航海及碇繫所
三　航海回數
四　作業時間及其ノ功程
五　汚水ノ量
六　備品ノ亡失及毀損
七　點火及消火時刻
八　備品ノ亡失及毀損
九　消耗品受拂
十　其ノ他必要ナル事項

第十二條　船員ノ服務ニ關シテハ前各條ノ外土木局現業傭人規程第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第四章　給與

第一節　給料

第十三條　船員ノ給料ハ月給又ハ日給トシ其ノ額ハ別記第一號表ニ依ル

月給ヲ日給ニ換算スルトキハ三十分ノ一ヲ日給額、日給ヲ月給ニ換算スルトキハ三十日分ヲ月給額トシ計算ス

第十四條　船員ノ特別增給、初任給料、昇給等ニ關シテハ土木局現業傭人規程第九條第二項、第十條及第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ昇給停止年限及增給率ハ別記第二號表ニ依ル

第十五條　月給ヲ受クル船員疾病ノ爲缺勤五十日ヲ超ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ缺勤三十日ヲ超ユルトキハ其ノ翌日ヨリ給料ノ半額ヲ給ス

前項ノ病氣及私事ノ故障ヲ通シテ缺勤六十日ヲ超ユルトキ亦同シ但シ私事ノ故障ハ土木局長ノ認可シタル場合ニ限ル

日給ヲ受クル船員ニ付テハ土木局現業傭人規程第十二條及第十三條ノ規程ヲ準用ス

第十六條　給料ノ支給ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外臺灣總督府囑託員雇員傭員給與規則ニ依ル

第二節　手當

第十七條　浚渫工事ニ從事シタル船員ニハ給料ノ外手當ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　日給ノ船員ニシテ前條ノ外非常特別ノ勤務ニ服シ又ハ定時間外就業シタル場合ニ於テハ土木局現業傭人規程第十四條乃至第十六條ノ規定ニ準スル手當ヲ支給スルコトヲ得

第十九條　前二條ノ手當ノ支給ヲ受ケサルモノ徹夜勤務ヲ爲シタルトキハ一夜ニ付高級船員ニハ金五十錢、下級船員ニハ金三十錢ヲ超ヘサル食料ヲ支給スルコトヲ得

第三節　被服

第二十條　船員ノ制服ハ別記第三號表ニ依ル

船員就業中ハ前項ノ制服ヲ著裝スヘシ但シ土砂受船ニ乘組ノ下級船員ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　船員ノ服制中帽章、釦「モヘーア」ハ之ヲ貸與シ其ノ他ハ自辨トス

第四節　宿舍

第二十二條　船員ニハ宿舍ヲ貸與ス但シ本島人及臨時使役ノ船員ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　前條ニ依リ貸與スヘキ宿舍不足セル場合ニ於テハ宿舍料ヲ支給スルコトヲ

得但シ其ノ額ハ宿舍料支給規程ニ依リ高級船員ニ在リテハ囑託員雇員、下級船員ニ在リテハ日給雇員及事務傭員ニ關スル支給額ヲ超過スルコトヲ得ス

第五節　旅費

第二十四條　船員業務上ニ關シ本島内ヲ旅行シタルトキハ土木局職員旅費規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二十五條　前條ニ依リ支給スヘキ旅費ハ高級船員ニ對シテハ囑託員雇員、下級船員ニ對シテハ現業員ノ規定ヲ適用ス

第五章　賞罰

第二十六條　船員ノ賞罰ニ關シテハ土木局現業傭人規程第二十一條乃至第二十六條ノ規定ヲ準用ス但シ高級船員ノ懲戒ニ關シ別ニ規定アル場合ハ各其ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際土木局船員トシテ在職スル者ハ現ニ受クル給料ヲ以テ本令ニ依リ採用シタルモノト見做ス

舊規程ニ依リ採用シタル者ノ在職年數ノ計算ハ本令ニ依ル期間ノ進行トハ繼續スルモノトス

明治四十三年五月土木部訓令第五號及明治四十三年五月土木部訓令第六號其ノ他ノ決議等ニシテ本令ニ牴觸スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第一號表

船員給料額

船員ノ區分		給別	初任給料額	最高給料額
高級船員	船長、機關長	月給	百二十圓以内	二百圓
	一等運轉士、一等機關士、甲種艇長	同	百圓以内	百八十圓
	乙種艇長	同	七十圓以内	百二十圓
下級船員	水夫長、火夫長	日給	三圓以内	四圓
	舵夫、油差	同	二圓以内	三圓五十錢
	水夫、艇夫、火夫	同	一圓八十錢以内	三圓

第二號表

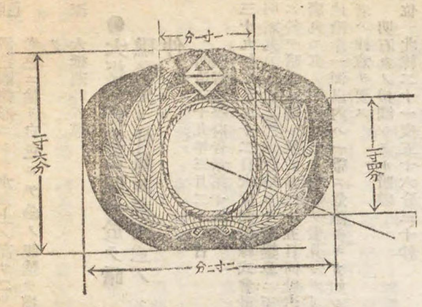
船員昇給停止年限及增給率

船員ノ區分		給別	昇給停止年限 六月以上	昇給停止年限 一年以上	昇給停止年限 一年六月以上	增給率
高級船員	船長、機關長	月給	百二十圓未滿	百二十圓以上	百五十圓以上	五圓乃至十圓
	一等運轉士、一等機關士、甲種艇長	同	百圓未滿	百圓以上	百二十圓以上	三圓乃至十圓
	乙種艇長	同	七十圓未滿	七十圓以上	百圓以上	二圓乃至七圓
下級船員	水夫長、火夫長	日給	三圓未滿	三圓以上	三圓五十錢以上	五錢乃至十八錢
	舵夫、油差	同	二圓五十錢未滿	二圓五十錢以上	三圓以上	三錢乃至十五錢
	水夫、火夫、艇夫、	同	二圓未滿	二圓以上	二圓五十錢以上	三錢乃至十二錢

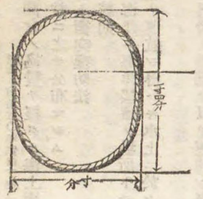
第三號表

船員制服

等級		高級船員 甲板部	高級船員 機關部	下級船員
種別	上衣	紺又ハ黑色、地質隨意、夏期ハ白又ハ茶褐色トス	同上	適宜
	製式	長ジヤケツト立襟胸釦ハ一行五箇、袖釦一箇、釦ニハ徽章ヲ附ス	同上	適宜
袴	地質	紺又ハ黑色、地質隨意、夏期ハ白又ハ茶褐色	同上	適宜
	製式	普通長袴	同上	適宜
帽	製式	紺又ハ黑羅紗地、圓形ニシテモヘア幅一寸一分、黑革ノ眼庇及金屬製釦附	モヘアノ上下ニ紫色ノ細線ヲ附ス他ハ同上	適宜
	帽章	頤紐ヲ附ス、釦ニハ徽章ヲ附ス、夏期ハ白色又ハ茶褐色ノ日覆ヲ用フ		
		黑羅紗地ニ金絲製ノ徽章及金絲製飾繩飾葉ヲ附ス、圖ノ如シ	同上	黑羅紗地ニ金絲製徽章及金絲製ノ飾繩ヲ附ス、圖ノ如シ
備考		表中夏期トアルハ毎年五月一日ヨリ九月三十日迄ノ期間ヲ謂フ		



出張所ノ徽章ヲ附ス



出張所ノ徽章ヲ附ス

第五款　航路標識

●臺灣航路標識規則

明治三十一年五月二十一日
臺灣總督府令第二十六號

臺灣航路標識規則左ノ通相定ム

臺灣航路標識規則

第一條　臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ徵收スルコトヲ許サス

臺灣總督ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●打狗港ニ無燈浮標設置

明治四十四年一月二十七日
臺灣總督府告示第七號

改正　大正三年第一一一號、第一一六號、第一一九號、四年第三三號、五年第九八號、第一〇二號

打狗港ニ於ケル公ノ航路識別ノ爲左記ノ無燈浮標ヲ設置ス

第一浮標

位置　打狗燈臺ハ南四十四度東、警報信號標ハ南七十一度三十分東ニ當ル

形狀著色　鐵造圓筒形ニシテ水面上ノ高サ二尺黑色ニ塗リ白色ニテ[illegible]ノ記號ヲ描ク

水深　大抵潮時五尋

第二浮標

位置　打狗燈臺ハ南五十度東、警報信號標ハ南七十七度三十分東ニ當ル

形狀　鐵造圓筒形ニシテ水面上ノ高サ二尺
著色　赤色ニ塗リ白色ニテ「念」ノ記號ヲ描ク
水深　大抵潮時五尋

●大板埒鷺鑾鼻間ニ於テ暗礁發見ニ付航海者注意ノ件

明治三十九年三月二十二日
臺灣總督府告示第十五號

明治三十九年二月二十二日大阪商船株式會社汽船明石丸ハ(恒春廳)大板埒ヨリ鷺鑾鼻ニ至ル間ニ於テ暗礁ニ觸レ又同月二十五日同社汽船須磨丸モ其ノ附近ニ於テ暗礁ヲ發見シタリ尙同地沿岸一浬以內ハ一帶ニ危險多キカ如シ航海者ハ注意ヲ要ス

明石丸ノ接觸シタル暗礁
概位　北緯二十一度五十六分三十秒　東經百二十度四十七分三十秒
水深　干潮面五呎西方ニ向テ急傾斜ヲ以テ擴延ス北方ハ直ニ水深六七尋ヲ得
方位　鷺鑾鼻燈臺南六十六度東大山母山北二十三度西大尖石北　海岸山(二百六十七尺)ヲ去ル南方約四分ノ三海里

須磨丸ノ發見シタル暗礁
概位　北緯二十一度五十七分三十秒　東經百二十度四十六分十五秒
水深　干潮面十一呎
方位　東岩西微北四分ノ一北大山母山北微西四分ノ三西鷺鑾鼻燈臺南微東墾丁庄砂濱ヲ去ル約一鎖二分ノ一

偏差明治三十八年零度三十分西

第六款　航行及港灣取締

●海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

明治三十三年二月三日
勅令第二十一號

朕海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

●海上衝突豫防法

明治二十五年六月二十三日
法律第五號
改正　明治三〇年第四三號、三九年第四四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヰサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用ヰサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭クヘカラス

第二條　汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

一　前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツツ卽チ船ノ正首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二　右舷ニ綠燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三　左舷ニ紅燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正橫後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四　本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五　汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增揭スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ揭ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ揭クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ揭クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ增揭スヘシ

本條ノ引船ハ引カルル船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ揭クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正橫ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連揭シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ揭クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ揭クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ揭クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ揭クヘカラス

第六條　小形船航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ揭置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正橫後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ若之ヲ揭ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭クルカ又ハ船首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ揭クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

四　櫓櫂ヲ以テ運轉スル船ハ櫓櫂ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅燈ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クル代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スヘシ但シ舷燈ヲ揭クヘカラス

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一　無甲板船卽チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以內ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

二　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

三　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭クヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應シ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(釣繩ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

四　打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲　汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ揭ケ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラサル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ增揭スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタルモノタルヲ要ス

乙　帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ揭ケ且他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ

甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

五　桁網ヲ用ヰテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭ケ及之ヲ表示スヘシ

六　漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ揭ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用ヰ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七　長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且第十一條ニ規定シタル白

燈一箇ヲ增揭スヘシ

長サ百五十尺未滿ナル百五十尺以上ナルトキ間ハス碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

八

漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障碍物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ書間ニアリテハ第十二規定ス晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ（第十五條第四項及末項參照

霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打メセ網桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴スヘシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必シモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ

九

十

網延繩又ハ打メセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃其ノ他ノ信號ヲ揭ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同樣ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ揭ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ檣メ船尾ニ揭

第十六輯　通信　運輸　電氣　瓦斯　第二章　運輸　第六款　航行及港灣取締　一五三

前面ニ見エルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見シテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキニ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其舵路及速力ヲ保ツヘシ但シ他船ニ於テ天氣霧濛又ハ其他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル能ハサル程兩船接近シタル事ヲ認ムル時ハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ橫切ルヘカラス

第二十三條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條　總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正橫後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩舷ノ位置ニ變更アリ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路橫切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ內外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條　汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條　航行中ノ帆船ハ綱或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖モ猥ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條　本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條　本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ錢路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ錢路ヲ通知スヘシ

短聲一發我船針路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發我船針路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發我船全速力ニテ後退ス

警意ノ責

第二十九條　本法ハ點燈信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ヲ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條　本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他內海ノ運航信ニ關スル特別規則ノ實行ヲ妨ケス

雖船信號

第三十一條　危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　船上ノ發焰（タール桶、油樽等ヲ燃燒スルノ類）

三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度々打揚ク

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　船上ノ發焰（タール桶、油樽等ヲ燃燒スルノ類）

三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度々打揚ク

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附　則

第三十二條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條　明治十三年第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五第三十三號布告同規則追加同十八年八第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

◉臺灣船燈信號器及救命具取締規則

明治三十三年二月十六日
臺灣總督府令第十七號

臺灣船燈信號器及救命具取締規則

第一條　此規則ニ於テ船燈ト稱スルハ海上衝突豫防法ニ記載スル各種ノ船燈ヲ謂ヒ信號器ト稱スルハ同法ニ記載スル各種ノ信號器中機械製霧中號角空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈火箭紅光焰管又ハ船用焰管及救命焰ヲ謂ヒ救命具ト稱スルハ船用救命浮環及救命浮帶ヲ謂フ

第二條　船燈信號器及救命具ヲ製造シ又ハ同上外國製品ヲ販賣セントスル者ハ臺灣總督府ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ標本及仕樣書ヲ添ヘ管轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ差出スヘシ

標本ハ船燈及機械製霧中號角ハ各種類毎ニ一箇以上空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈火箭紅光焰管竝焰管ハ六箇以上救命焰救命浮環及救命浮帶ハ各種類毎ニ二箇以上ヲ差出スヘシ

仕樣書ハ使用材料ノ品質尺度構造方法ヲ詳細ニ記載スヘシ

第四條　第二條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ船燈信號器及救命具ノ各種類ニ付手數料金二圓ヲ納ムヘシ

手數料ハ免許ヲ與ヘサルトキト雖之ヲ還付セス

第五條　臺灣總督府ニ於テ第三條ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルトキハ其標本及仕樣書ニ檢印ヲ附シテ之ヲ還付シ第一號若ハ第二號書式ノ免許證書竝試驗成績書ヲ出願人ニ交付シ不合格ト認ムルトキハ其理由ヲ明示シ標本ヲ出願人ニ還付ス

第六條　船燈信號器及救命具標本ノ運搬又ハ試驗ニ要スル一切ノ費用ハ出願人之ヲ負擔スヘシ

第七條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人ハ臺灣總督府ニ於テ檢印ヲ附シタル船燈信號器及救命具ノ標本ヲ原器トナシ其仕樣書及試驗成績書ト共ニ其製造所又ハ販賣所ニ備置クヘシ

前項ノ原器ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ改良品ヲ以テ從來ノ原器ニ代ヘントスルトキハ第三條ニ準シ更ニ其檢定ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ第四條ニ記載スル手數料ノ半額ヲ納ムヘシ

第八條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人ハ其製造品ニ氏名及製造年月日ヲ同上外國製品ノ免許販賣人ハ賣品ニ其氏名ヲ彫刻又ハ貼附スヘシ

第九條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人ハ管轄地方官廳ニ其製造品若ハ販賣品ノ檢定ヲ申請スヘシ

地方官廳ハ第七條ノ原器ニ照シ製造品又ハ販賣品ヲ檢査シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附スヘシ

第十條　臺灣又ハ內地ニ於テ合格シタル船燈信號器及救命具ヲ請賣セントスル者ハ管轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ

第十一條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發ス

二　汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ二聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正橫後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四　船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴スヘシ

五　他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必シモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條　霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正橫ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至マテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ探知スルヲ得若其ノ方位愈ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條　二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一　一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二　左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

一杯ニ開カサル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三　一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ノ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四　一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五　船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ錢路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各々其ノ錢路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ適用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ卽チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我錢路ヲ橫切リテ我船ノ

同上外國製品ノ免許販賣人及同上內外製造品請賣人ハ其製造所又ハ販賣所ニ看板ヲ揭クヘシ

第十二條　外國製ノ船燈信號器及救命具ヲ船舶ト共ニ購入シ若ハ自己ノ船舶ニ備附クルノ目的ヲ以テ外國製ノ船燈信號器及救命具ヲ購入シタルトキハ管轄地方官廳ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

第十三條　法律命令ニ依リ船燈信號器及救命具ヲ船舶ニ備附クヘキトキハ官ノ檢印ヲ附シタルモノヲ使用スヘシ

第十四條　臺灣總督府竝地方官廳ハ船燈信號器及救命具ノ製造所販賣所及碇泊船ニ臨時監査官吏ヲ派出シ船燈信號器及救命具ヲ監査セシメ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ其販賣若ハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ但地方官廳ノ監査ハ一箇年少クモ一回以上タルヲ要ス

第十五條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人及內外製造品請賣人ハ製造人又ハ販賣品ノ種類、大小、品質ヲ區別シ左ノ事項ヲ記載シ一箇年分ヲ翌年二月十五日限管轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ

一　製造高
二　受入高
三　販賣高
四　卸賣及小賣一箇又ハ一組ノ代價
五　前年度繰越高

第十六條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人製造所又ハ販賣所ヲ移轉シタルトキハ二十日以內ニ管轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ

第十七條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許證書ノ書換若ハ再下付ヲ臺灣總督府ニ申請スヘシ

一　氏名ヲ變更シタルトキ
二　家督相續ニ依リ營業ヲ繼續シタルトキ
三　免許證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

免許證書ノ書換又ハ再下付ヲ申請スルトキハ手數料金一圓ヲ納ムヘシ

第十八條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人廢業シタルトキ又ハ其免許ヲ取消サレタルトキハ四十日以內ニ管轄地方官廳ヲ經由シテ免許證書ヲ臺灣總督府ニ返納スヘシ

第十九條　船燈信號器及救命具ノ請賣人其氏名販賣所ヲ變更シ又ハ廢業若ハ死亡シタルトキハ其本人又ハ遺族ヨリ四十日以內ニ管轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ

第二十條　第二條第七條第九條第十二條第十三條及第十四條ニ違背シタル者ハ【二圓以上二十圓以下】ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第八條第十條第十一條第十五條乃至第十九條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條　船燈信號器及救命具ノ免許製造人又ハ同上外國製品ノ免許販賣人ニシテ屢此規則ニ違背スル者ハ其免許ヲ取消サルルコトアルヘシ

附　則

此規則ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

第一號書式　割印

花紋輪廓　（竪九寸橫一尺二寸）

第　號

（船燈、信號器、救命具）製造免許證書

氏名

右（何々）ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルニ依リ明治三十三年府令第十七號船燈、信號器及救命具取締規則第五條ニ依リ此免許證書ヲ授與ス

【明治】年　月　日

臺灣總督府　印

第二號書式　割印

花紋輪廓　（竪九寸橫一尺二寸）

第　號

（外國製船燈、信號器救命具）販賣免許證書

氏名

右（何々）ノ標本ヲ試驗シ合格ト認ムルニ依リ明治三十三年府令第十七號船燈信號器及救命具取締規則第五條ニ依リ此免許證書ヲ授與ス

【明治】年　月　日

臺灣總督府　印

●臺灣船燈信號器竝救命具試驗檢定及監查手續

明治三十三年三月
臺灣總督府訓令第五十五號【民政部】、【縣】廳

臺灣船燈信號器竝救命具試驗檢定及監查手續左ノ通相定ム

臺灣船燈信號器竝救命具試驗檢定及監查手續

第一條　船燈信號器及救命具ノ標本ヲ試驗スルニハ先ツ其仕樣書ト照合シ若相違ノ廉アルトキハ製造若ハ販賣免許申請人ヲシテ其標本ヲ改作セシメ若ハ仕樣書ヲ改正セシムヘシ

第二條　船燈ノ材料ハ玻璃ト銅、眞鍮若ハ鐵ヲ用ヰ玻璃ハ寒氣ニ堪ヘ凍氷ノ爲龜裂セサル品質ヲ用ヰ其接合ノ部分ハ密著シテ毫モ間隙ナク堅牢ニ構造シタルモノヲ合格トナスヘシ但海上衝突豫防法第七條ニ依リ小形船ニ於テ用ウヘキ船燈ハ本條ニ記載スル金屬ヲ使用セサルモ堅牢ナリト認ムルトキハ合格トナスコトヲ得

第三條　船燈ノ空氣孔ハ上下共ニ不釣合ナク油壺ハ燈油ノ漏洩セサル樣堅牢ニ之ヲ製造シ點火口ノ抑ヘ金及注油口ノ栓ハ螺旋形ノ裝置ナルモノヲ合格トナスヘシ

第四條　船燈ノ光達距離ハ海上衝突豫防法ニ規定スル距離ニ到達シ其射光方位ハ同法ニ規定スル方位ニ適合スルモノヲ合格トナスヘシ

船燈ノ光達距離ハ實視試驗ニ依リ若ハ光達距離測定器ヲ以テ之ヲ算定シ其射光方位ハ玻璃球ノ弧ニ對スル全圈ノ中心ヨリ玻璃球ノ弧ノ中央ニ至ル直線ト玻璃球ノ各端ヨリ點火口ノ兩端（若八字形ナルトキハ其後端）ヲ經テ引キタル二直線トノ交切點ヨリ玻璃球ノ各端ヘ引キタル直線間ノ弧度トス

第五條　機械製霧中號角突中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管、焰管竝救命焰ハ其用方及保存ノ適否ヲ調査シ且之ヲ吹鳴若ハ發火セシメ其成績各良好ナリト認ムルトキハ之ヲ合格トナスヘシ

第六條　救命浮環ハ二十四斤以上救命浮帶ハ十一斤二五以上ノ重量ヲ附著シテ之ヲ水中ニ投入シ二十四時間水面ニ浮游シ其構造良好ナリト認ムルトキハ合格トナスヘシ

第七條　船燈、信號器及救命具ヲ試驗シタル主任官吏ハ其成績報告書ヲ作リ臺灣總督ニ差出スヘシ

第八條　地方官廳ニ於テ臺灣船燈信號器及救命具取締規則第九條ノ檢定申請ヲ受ケタルトキハ檢定官吏ニ命シ其製造所若ハ販賣所ニ就キ檢定セシムヘシ

檢定官吏ハ船燈、信號器及救命具ノ製造品若ハ販賣品ヲ其原器仕樣書及試驗成績書ニ照シテ之ヲ查覈シ必要ト認ムルトキハ各種類毎ニ一二箇ヲ實地ニ試驗シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ不合格ノ點ヲ懇篤ニ指示シ改良セシムヘシ

第九條　此手續ニ依リ檢印ヲ附スルトキハ船燈、機械製霧中號角ニハ極印ヲ押捺シ救命焰、空中ニ高響及星光ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管及焰管ニハ紙札ヲ貼附シ救命浮環及救命浮帶ニハ朱肉印又ハ黑肉印ヲ押捺スヘシ

前項ノ極印、紙札及朱肉印又ハ黑肉印ニハ【縣廳】名ヲ記入スヘシ

第十條　地方官廳ニ於テ臺灣船燈信號器及救命具取締規則第十二條ノ檢定申請ヲ受ケタルトキハ第二條乃至第六條ニ準シテ之ヲ查覈シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十一條　監查官吏船燈信號器及救命具ノ製造所及販賣所竝碇泊船舶ニ臨檢シ修繕ヲ要スヘキモノヲ發見シタルトキハ其修繕ヲ命シ汚損若ハ朽腐シテ實用ニ適セサルモノヲ發見シタルトキハ其檢印ヲ取消スヘシ

前項臨檢ノ場合ニ於テ檢印ナキモノヲ使用スル者アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但臺灣船燈信號器及救命具取締規則施行以前ヨリ船舶ニ備附ケ使用スル船燈信號器救命具ニ付テハ第二條乃至第六條ニ準シテ之ヲ查覈シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十二條　監查官吏ハ船長若ハ「運轉士」ニ對シ船燈、信號器、救命具、隔板ノ裝置及其用方ヲ試問シ了知セサルモノアルトキハ懇篤ニ之ヲ教示スヘシ

第十三條　地方官廳ハ別記第一號第二號若ハ第三號書式ニ依リ檢定又ハ監査報告書ヲ作リ前年十二月末日マテノ分ヲ翌年二月十五日限臺灣總督府ニ差出スヘシ

（書式略之）

●船舶通報取扱手續

大正元年九月
臺灣總督府訓令第二十九號【民政部】

船舶通報取扱手續左ノ通相定ム

船舶通報取扱手續

第一條　燈臺ニ於テ電信局所ヨリ船舶通報規則（以下單ニ規則ト稱ス）第四條又ハ第七條ニ關スル事項ノ通知ヲ受ケタルトキハ別記第一號乃至第三號樣式ニ依リ通過報原簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第二條　燈臺ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタル船舶ノ通過ヲ認メタルトキハ別記第四號樣式ニ依リ通過報通知簿ニ必要ナル事項ヲ記載シ明治四十年九月遞信省公達第五百七十五號船舶通報取扱規程第四條ノ分送局ニ通過報ヲ發送スヘシ

第三條　燈臺ニ於テ電信局所ヨリ規則第九條ニ關スル事項ノ通知ヲ受ケタルトキハ別記第五號樣式ニ依リ信號報原簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條　燈臺ニ於テ信號報ヲ發セムトスル船舶ヲ認メタルトキハ其ノ受信者カ信號報原簿ニ記載セラレタル者ナルコトヲ確メタル上信號報ヲ受ケ規則第十五條ニ依リ之ヲ電信局所ニ傳送スヘシ

第五條　燈臺ニ於テ規則第十三條ニ依リ電信局所ヨリ信號報ノ傳送ヲ受ケタルトキハ其ノ發信者カ信號報原簿ニ記載セラレタル者ナルコトヲ確メタル上之ヲ船舶ニ通達スヘシ

第六條　燈臺ニ於テ信號報ヲ送受シタルトキハ別記第六號又ハ第七號樣式ニ依リ信號報送受簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第七條　規則第十六條ニ定ムル期間內ニ信號報ヲ船舶ニ通達スルコト能ハサルトキハ燈臺ハ信號報送受簿ニ其ノ旨ヲ記載シ書面ヲ以テ信號報ノ傳送ヲ受ケタル電信局所ニ通知スヘシ

第八條　船舶通報ヲ發送スルニハ電線託送ノ例ニ依ルヘシ

第九條　燈臺ニ於テ電信局所ヨリ船舶通報取扱ノ繼續ヲ要セサル旨又ハ規則第二十一條第二項ニ依リ船舶通報取扱ノ請求消滅シタル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ朱書ヲ以テ各原簿ノ相當欄ヲ抹消スヘシ

附　則

本令ハ大正元年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略之）

●船舶通報ニ關スル分送局

大正元年九月
臺灣總督府訓令第三十號

船舶通報取扱規程第四條ノ分送局左ノ通相定ム

燈臺名	分送局名 電信局所
鵞鑾鼻	恒春

●鵞鑾鼻燈臺ニ於テ船舶通報事務ヲ取扱フ

大正元年九月二十六日
臺灣總督府告示第二十七號

鵞鑾鼻燈臺ニ於テ本年十月十五日ヨリ船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ夜間通過ノ信號ハ之ヲ取扱ハス

●帝國關東州間通航船舶ニ關スル件

明治三十九年八月三十一日
勅令第二百三十六號

朕帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ハ開港ニ由リ出入スヘシ

前項船舶ノ開港出入ニ關スル手續ハ外國貿易船ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣ト內地、樺太及朝鮮間通航船舶取締規則

大正九年十二月二十一日
臺灣總督府令第八十八號

臺灣ト內地、樺太及朝鮮間通航船舶取締規則左ノ通相定ム

臺灣ト內地、樺太及朝鮮間通航船舶取締規則

第一條　臺灣ト內地、樺太及朝鮮間ヲ通航スル船舶臺灣各港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ稅關ニ入港屆ヲナシ內地、樺太及朝鮮ヨリ其ノ港ニ輸送シタル貨物ノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第二條　前條ノ船舶出港セムトスルトキハ船長ハ出港一時間前ニ稅關ニ出港屆ヲナシ其ノ港ヨリ內地、樺太及朝鮮ニ輸送スヘキ貨物ノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第三條　本令ノ船舶內地、樺太及朝鮮ヨリ臺灣各港ニ、臺灣各港ヨリ內地、樺太及朝鮮ニ輸送スル貨物ノ積卸ヲナササルトキハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第四條　積荷目錄ハ入港船舶ニ在リテハ貨物ノ仕出地、品名、包裝箇數、數量、價額及荷受人氏名、出港船舶ニ在リテハ貨物ノ仕向地、品名、包裝箇數、數量、價額及荷出人氏名ヲ記載スヘシ

第五條　積荷目錄ハ其ノ提出ノ日ヨリ七日內ハ稅關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第六條　本令ノ船舶臺灣各港ニ於ケル貨物ノ運送ニ關シテハ臺灣沿海通航船舶取締規則ヲ準用ス

第七條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第八條　第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　此ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條　此ノ規定ニ於テ稅關ニ關スル規定ハ稅關支署、稅關監視署又ハ其ノ之ナキ地ニ在リテハ郡役所、警察署、警察分署、警察官吏派出所及警察官吏駐在所ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣內地間往復船舶取締規則ハ之ヲ廢止ス

●臺灣沿海通航船舶取締規則

明治三十四年十二月二十九日
臺灣總督府令第百十一號
改正　大正四年第八號

明治三十一年七月府令第五十號臺灣沿海通航船取締規則左ノ通改正ス

臺灣沿海通航船舶取締規則

第一條　沿海通航船臺灣沿岸ヲ往復スルトキハ出入港ノ都度稅關稅關支署稅關監視署其之ナキ所ニ於テハ警察官署ニ出入港屆ヲ爲シ積荷目錄ヲ添附スヘシ

第二條　積荷目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　船名竝船舶國籍證書又ハ船鑑札ノ番號
二　船籍港
三　船積量
四　船長ノ住所氏名
五　船員船客ノ氏名
六　積荷ノ種類數量、價額及其仕向地竝仕出地

七 發港地、寄港地、終港地
八 入出港ノ年月日
第三條乃至第六條 〔削除〕
第七條 出入港屆ヲ爲サザルトキハ船長ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 此ノ規則中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代テ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ亦之ヲ適用ス

●內地ノ船籍ニ屬スル西洋形船屆出ノ件

明治三十一年十月十四日 臺灣總督府令第九十九號
改正 明治三二年第一一四號

內地ノ船籍ニ屬スル西洋形船ニシテ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トナシ外國ニ航行スルモノ屆出ノ件左ノ通相定ム
第一條 內地ノ船籍ニ屬スル西洋形船ニシテ內地臺灣間若ハ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トナシ外國ニ航行スルモノ左記ノ事項ニ該當スルトキハ其都度臺灣ニ於ケル本船到達港若ハ本船根據地ヲ管轄スル地方官廳ヲ經テ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ但臺灣總督ノ命令ニ依リ航行スルモノハ此限ニアラス
一 初テ航海ヲ開始スルトキハ航路及發著定日（發著定日ナキモノハ一箇月間ノ航海度數ヲ見積リ）ヲ記シ之ニ本船受有ノ登簿船免狀ノ寫ヲ添附スルコト
二 航路若ハ發著定日ヲ變更シタルトキハ其事項
三 航路ヲ廢止シタルトキハ其事由
第二條 第一條ノ規定ニ違背シタル者ハ其船長ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●命令航路業務監査規程

明治三十八年三月 臺灣總督府訓令第三十四號 【民政部】

命令航路業務監査規程左ノ通相定ム
命令航路業務監査規程
第一條 臺灣總督ハ【通信局】員ヲシテ命令航路ノ業務ヲ監査セシム
第二條 監査ハ定期及臨時ニ之ヲ行ハシム
定期監査ハ毎年一回若ハ二回監査官吏ヲシテ營業者ノ本店ニ臨ミ一定期間內ニ於ケル業務執行ノ當否ヲ監査セシム
臨時監査ハ監査官吏ヲシテ臨時命ヲ受ケタル事項ニ就キ營業者ノ營業所又ハ汽船ニ臨ミ若ハ汽船ニ乘組ミ之ヲ行ハシム
第三條 監査官吏營業者ノ業務上不當ノ廉アルコトヲ認メタルトキハ其ノ輕易ナルモノハ適宜之カ矯正方ヲ指示シ其ノ重大ナルモノハ手續書ヲ徵シ意見ヲ附シ其ノ顚末ヲ總督ニ具申スヘシ
第四條 監査官吏ハ歸府後十日以內ニ監査ノ顚末ヲ總督ニ報告スヘシ

●本島支那形船福州入港手續

明治三十一年十二月二十二日 臺灣總督府告示第九十九號

帝國船籍ヲ有スル支那形船ノ本島各港ヨリ【清國】福州ニ航行スルモノハ其港口パゴダ（馬尾）ニ於テ同國洋關支局ノ檢査ヲ受ケ檢査濟ノ免狀ヲ得タル後南臺ノ洋關本局ニ上航シ更ニ再檢査ヲ受ケ輸入稅ヲ支拂フヘキモノナル旨其筋ヨリ通報アリタリ

●基隆港內取締規則

明治四十四年九月三十日 臺灣總督府令第七十號
改正 明治四五年第四四號

明治三十六年九月府令第六十二號基隆港內取締規則左ノ通改正ス
基隆港內取締規則
第一條 基隆港內トハ萬人堆鼻ヨリ北東微東二分ノ一東ニ向ヒ中山ノ西北端ニ引キタル一線ト尖山鼻ヨリ南西微南ニ向ヒテ引キタル一線トノ內部ヲ謂フ
第二條 各航洋船舶ハ入港スルニ當リ其ノ國旗及信號符字ヲ揭クヘシ
前項國旗及信號符字ハ別記第一號書式ノ著港屆ヲ基隆港務所ニ差出シタル後ニ非サレハ引下スコトヲ得ス
第三條 基隆港務所長ハ必要アリト認ムルトキハ各船舶ノ碇泊所ヲ指定シ若ハ之ヲ移轉セシムルコトヲ得
前項指定ノ碇泊所ニ碇泊シタル船舶ハ避難其ノ他巳ムヲ得サル場合ヲ除クノ外基隆港務所長ノ許可ヲ得スシテ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス
第四條 入港シタル航洋船舶ハ基隆港務所吏員ノ臨檢ヲ受ケタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸又ハ他船若ハ陸地トノ交通ヲ爲スコトヲ得ス
第五條 港內ニ於テハ如何ナル船舶ト雖公ノ航路ニ投錨スルコトヲ得ス但シ基隆港務所長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
公ノ航路區域ハ別ニ之ヲ告示ス
第六條 各船舶ハ他船ノ運航若ハ投錨ノ自由ヲ妨碍シ又ハ衝突ノ虞アルトキハ追越ヲ爲スヘカラス
第七條 港內ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ海上衝突豫防法ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ
第八條 汽船港內ヲ運航スルトキハ其ノ針路ヲ保ツニ足ルノ速力ニ止メ帆船ニ在リテハ帆ヲ減シ徐行スヘシ但シ汽艇ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 航洋船舶其ノ碇泊所ニ到達シタルトキハ岸壁又ハ浮標ニ繫留スル場合ノ外雙錨ヲ投シテ碇泊スヘシ但シ六時間以內ニ出港セムトスルモノハ基隆港務所長ノ許可ヲ得テ單錨ヲ投シテ碇泊スルコトヲ得
第十條 常用ニ超過スル爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル船舶ハ港口ニ於テ日出ヨリ日沒迄ノ間ハBノ信號旗、日沒ヨリ日出迄ノ間ハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭ケテ基隆港務所長ノ指揮ヲ待ツヘシ
前項ノ爆發物ト稱スルハ「プラスチングゼラチン」彈藥包、爆發管、「ダイナマイト」、煙火、導火管、「ゼリグナイト」、「ナイトログリセリン」、火藥、綿火藥、無煙火藥、雷管類其ノ他容易ニ爆發スヘキ物料ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ生石油（アルマ油、ランクーン油、ロック油ヲ包含ス）石油、「ナフタ」、的列並底油、依的兒、偏蘇爾、石油偏陳、「アセトン」、酒精及硫化炭素等ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ
船舶ニ備附ケタル大砲一門毎ニ火藥五十發分導火管類七十箇小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇及船舶相當量ノ信號用榴彈、火箭、焰管救命焰ヲ除クノ外爆發質ノ物料ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス
容易ニ燃燒スヘキ物料ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ常用外ト看做ス
第十一條 汽艇、荷船、水船、端艇又ハ艀船ハ巳ムヲ得サル場合ヲ除クノ外船舶ノ後部ニ繫留スヘカラス
第十二條 汽船港內ニ於テ曳船ヲ爲サムトスルトキハ基隆港務所ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外左ノ制限ニ從フヘシ
一 端艇若ハ艀船ハ三艘以內荷船水船ハ二艘以內ヲ限リ曳クコトヲ得
二 航洋船及汽艇ハ一艘ヲ限リ曳クコトヲ得
第十三條 各船舶ハ荒天ノ徵アルトキハ之カ豫防ノ設備ヲ爲スヘシ
第十四條 船舶港內ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ル迄船鐘ヲ打鳴シ日出ヨリ日沒迄ハNMノ信號ヲ揭ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ斷ヘス紅燈ヲ上下スヘシ
警察官ノ救護ヲ要スルトキハ日出ヨリ日沒迄ノ間ハGノ信號ヲ揭ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ藍火若ハ閃光ヲ示スヘシ
第十五條 基隆港務所長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港內ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス
第十六條 港內ニ於テ動物ノ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス
前項ノ物件ヲ取捨ツル爲塵船ヲ使用セムトスル船舶ハ船內見易キ所ニFノ信號若ハ籃ヲ揭ケ目標ト爲スヘシ
石炭、荷足其ノ他之ニ類スル物品ヲ積卸スル船舶ハ其ノ水中ニ脫落スルヲ防ク爲必要ノ注意ヲ爲スヘシ
第十七條 航洋船舶出港セムトスルトキハ出帆旗ヲ揭ケ出港四時間前ニ別記第二號書式

ノ出港屆ヲ基隆港務所ニ差出スヘシ但シ定期ニ出港スル航洋船舶ハ其ノ變更アリタル場合ヲ除クノ外豫メ出港ノ日時ヲ屆出テ時時ノ屆出ヲ省略スルコトヲ得
第十八條 〔削除〕
第十九條 港內又ハ其ノ附近ニ於テ通航ヲ妨ケ若ハ危險ノ原因ト爲ルヘキ總テノ難破物其ノ他ノ物件ハ基隆港務所長ノ指定スル期間內ニ其ノ所有者ニ於テ之ヲ取除クヘシ若其ノ期間內ニ取除カサルトキハ基隆港務所ニ於テ之ヲ取除キ所有者ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシム
第二十條 信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱又ハ其ノ他ノ船具ヲ繫クヘカラス
何等ノ船舶ト雖前項ノ浮標、立標又ハ其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕又ハ再設ニ要スル費用ハ之ヲ辨償セシム
第二十一條 出港シタル航洋船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間以內ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル屆書ヲ以テ著港屆ニ代フルコトヲ得
第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サムトスル者ハ設計書及圖面ヲ添ヘ基隆港務所長ノ許可ヲ受クヘシ
一 繫船浮標ヲ設置又ハ變更セムトスルトキ
二 棧橋ヲ架設又ハ變更セムトスルトキ
三 波止場、物揚場、石垣等ヲ築造又ハ變更セムトスルトキ
四 標燈其ノ他ノ目標ヲ建設又ハ變更セムトスルトキ
五 波止杭又ハ繫船杭ヲ建設又ハ變更セムトスルトキ
六 浚渫又ハ土砂ヲ採掘セムトスルトキ
七 沈沒船又ハ其ノ他ノ物品ヲ引揚ケムトスルトキ
八 船舶ノ修繕場又ハ其ノ燻場若ハ游泳場ヲ設ケムトスルトキ
九 地曳網又ハ張網ヲ以テ漁業ヲ爲サムトスルトキ
十 波止場、物揚場又ハ海面若ハ海岸ニ一日以上舟車其ノ他長大ノ物品ヲ置カムトスルトキ
第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ豫メ基隆港務所ニ屆出ヘシ
一 繫船浮標、棧橋、波止場、物揚場、石垣、標燈、目標、波止杭又ハ繫船杭ヲ修理セムトスルトキ
二 船舶ノ進水式ヲ行ハムトスルトキ
三 端艇ノ競爭ヲ行ハムトスルトキ
四 物品ヲ筏ニ組ミ運搬セムトスルトキ
五 施餓鬼祭ヲ行ハムトスルトキ
第二十四條 本令ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十五條 前條ニ依リ船舶ニ科シタル罰金又ハ第十九條及第二十條ノ費用ハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ之ヲ完納スルカ又ハ基隆港務所長ノ適當ト認ムル擔保物ヲ提供スルニ非サレハ其ノ船舶ハ出港ヲ爲スコトヲ得ス
第二十六條 基隆港務所長ハ築港作業上巳ムヲ得スト認ムル場合ニ限リ本令ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

（別記）

第一號書式

著港屆

一 船ノ種類
一 船名
一 船舶所有者名
一 國籍
一 船籍港名
一 總噸數
一 登簿噸數
一 發航地名（原發航地 最後發航地）及發航年月日

右年月日時當港ニ入船候間此段及御屆候也

年 月 日 船長 某

基隆港務所長宛

第二號書式

出港屆

一 船名

右年月日時（何地）ヘ向ケ當港出船可致候間此段及御屆候也

年 月 日 船長 某

基隆港務所長宛

●基隆港內公ノ航路區域

大正八年十二月十二日 臺灣總督府告示第百七十五號

明治四十四年九月告示第百五十四號基隆港內取締規則第五條ノ公ノ航路區域左ノ通改正ス
一 仙洞燈臺（港內防波堤突端）ヨリ北微西ニ引キタル線ト同燈臺ヨリ東方C浮標ニ向ヒ四分ノ三鏈ヲ隔テタル點ヨリ北微西ニ引キタル線トノ中間
二 仙洞燈臺（港內防波堤突端）第七、第八、第九繫船浮標及第四岸壁ノ突角ヲ連結シタル線トC浮標、G浮標第三、第四、第五及第六繫船浮標ヲ連結シタル線トノ中間

●基隆港水先規則

明治四十五年五月二十五日 臺灣總督府令第五十號

基隆港水先規則左ノ通相定ム
基隆港水先規則
第一條 基隆港水先區ハ野柳半島龜頭鼻ヨリ基隆島ノ東北端ニ向ヒ引キタル一線ト基隆島東北端ヨリ中山ノ西北端ニ向ヒ引キタル一線トノ內部水面トス
第二條 基隆港水先區ニ於テ水先業ヲ營マムトスル者ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス
第三條 水先免狀ハ帝國ノ臣民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ臺灣總督ニ於テ適當ト認メタル者ニ之ヲ下付ス
一 二年以上總噸數千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ現ニ甲種船長ノ免狀ヲ有スル者
二 一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ現ニ乙種船長以上ノ免狀ヲ有シ且ツ一年以上基隆港水先區ニ於テ水先ノ實務ヲ練習シタル者
第四條 水先免狀ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ履歷書及前條記載ノ條件ニ該當セル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ基隆港務所ヲ經臺灣總督ニ提出スヘシ
第五條 臺灣總督ハ前條ノ申請ニ依リ其ノ資格ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ別記甲號書式ノ水先免狀ヲ下付ス
第六條 水先人ハ豫メ事務所ノ位置、業務ニ關スル規程及水先案內料ノ額ヲ定メ基隆港務所長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
第七條 船舶ヨリ水先人ノ要求アリタルトキハ水先人ハ遲滯ナク當該船舶ニ乘込ミ水路ノ嚮導、繫留又ハ解纜ノ任ニ當ルヘシ
第八條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀ヲ携帶スヘシ
第九條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乘込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ別記雛形ノ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ
水先人水先船ヲ去リタルトキハ前項ノ水先旗ヲ撤去スヘシ
第十條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知シ船長ノ要求アルトキハ水先免狀ヲ開示スヘシ
第十一條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ繫結セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スルコトヲ得
第十三條 水先免狀ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ水先免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ基隆港務所ヲ經臺灣總督ニ提出シテ書換又ハ再下付ヲ申請スヘシ
第十四條 水先人廢業セムトスルトキハ基隆港務所ヲ經水先免狀ヲ臺灣總督ニ返還シ休業セムトスルトキハ其ノ旨基隆港務所ニ屆出ヘシ
第十五條 水先人ハ左ノ區別ニ從ヒ收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムヘシ
一 免狀ノ下付ヲ受クルトキ 金十圓

二　免狀ノ書換又ハ再下付ヲ受クルトキ　金一圓

第十六條　臺灣總督ハ水先人ニシテ其ノ業務ニ從事スルニ當リ亂酔、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ又ハ重大ナル過失アリト認メタルトキハ其ノ水先免狀ノ行使ヲ禁止シ身體ノ機能ニ故障ヲ生シ業務ヲ營ムコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第十七條　水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ水先人タルノ資格ヲ失フ

一　懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ水先人ハ運滯ナク基隆港務所ヲ經水先免狀ヲ臺灣總督ニ返還スヘシ

第十八條　水先人ニシテ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ水先免狀ノ行使ヲ停止ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ水先人復權シタルトキハ水先免狀ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　水先人ニシテ其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメタル者

二　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者ニシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメタル者

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　水先人ニ非スシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

二　水先免狀ヲ貸與シ之ヲ行使セシメタル者

三　第六條及第十一條ニ違背シタル者

四　正當ノ理由ナクシテ第七條ニ違背シタル者

五　定額ニ超過シタル水先案內料ヲ要求シタル者

六　水先人ニシテ其ノ業務ヲ怠リ因テ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損又ハ沈沒セシメタル者

第二十一條　第八條乃至第十條、第十三條、第十四條、第十七條第二項及第十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十五年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際基隆港ニ於テ三年以上繼續シテ水先業ヲ營ミ臺灣總督ニ於テ相當ノ技能ヲ有スル者ト認メタル者ハ當分ノ內水先業ヲ營ムコトヲ得

前項水先人ニ對シテハ別記乙號書式ノ水先免狀ヲ下付スルノ外總テ本令ノ規定ニ依ル

（別記）

水先免狀書式（竪八寸橫一尺一寸）

甲號

（表面）

第　號

水先免狀

氏　名

年月日生

明治四十五年五月府令第五十號基隆港水先規則第五條ニ依リ之ヲ下付ス

【明治】年月日

臺灣總督

乙號

（裏面）

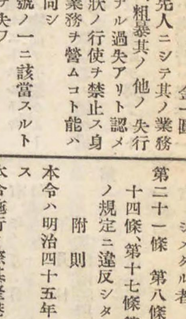
Pilotage Licence.

This is to certify that.....
is licenced as a pilot according to Art. V of the Keelung Pilotage Regulations of the Taiwan Government Ordinance No. 50. issued in the 45th year of Meiji.

Issued.....

Governor-General of Formosa.

水先旗雛形



◉基隆港內艀船營業取締規則

大正元年十月二十三日
臺灣總督府令第三十號

基隆港內艀船營業取締規則左ノ通相定ム

基隆港內艀船營業取締規則

第一條　本令ニ於テ艀船ト稱スルハ臺灣船籍規則第二條ニ依リ地方廳ノ船鑑札ヲ有スル船舶ニシテ乘客又ハ貨物ノ運送ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ト同一ノ用ニ供スル竹筏ハ艀船ト見做ス

第二條　本令ニ於テ艀船營業者ト稱スルハ左記第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ヲ謂ヒ船夫營業者ト稱スルハ第四號又ハ第五號ニ該當スル者ヲ謂フ

一　艀船ヲ賃貸スル者

二　他人ヲ使役シ艀船ヲ操縱スルヲ以テ營業ト爲ス者

三　艀船所有者自ラ其ノ艀船ヲ操縱スルヲ以テ營業ト爲ス者

四　他人ノ艀船ヲ借受ケ之ヲ操縱スルヲ以テ營業ト爲ス者

五　他人ニ雇ハレ其ノ艀船ヲ操縱スルヲ以テ營業ト爲ス者

第三條　艀船營業ヲ爲サントスル者ハ地方廳ヨリ受ケタル船鑑札ヲ添ヘ左ノ事項ヲ具シ基隆港務所ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

一　本籍（本居）住所、姓名、生年月日

二　營業ノ場所及種類

三　船體、長、幅、深及種類

四　乘客ノ定員及貨物ノ積量

第四條　船夫營業ヲ爲サントスル者ハ操縱セムトスル艀船ノ船鑑札ヲ添ヘ前條第一號及第二號ノ事項ヲ具シ艀船貸主若ハ雇主ト連署ノ上基隆港務所ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ艀船又ハ船夫營業者タルコトヲ得ス

一　瘋癲、白痴及痼疾者

二　强竊盜、强姦、橫領、詐欺及恐喝、略取誘拐、賭物ニ關スル罪及密輸出入ニ關スル罪ニ因リ處刑ヲ受ケ又ハ稅關ノ處分ヲ受ケタル者但シ改悛ノ狀アルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　不正ノ方法ヲ以テ海外ニ渡航シ若ハ之ヲ企テ又ハ是等ノ周旋ヲ爲シタル者但シ改悛ノ狀アルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　癩患者及身體虛弱ノ者

五　艀船ノ操縱ニ不熟練ナル者

前項第一號第四號及第五號ハ第二條第一號及第二號ノ營業者ニ適用セス

第六條　艀船ハ常ニ船內ヲ淸潔ニシ且ツ基隆港務所長ニ於テ指定シタル附屬品ヲ備フヘシ

第七條　港務所長ハ必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ貨物船ニ吃水線ヲ畫セシムルコトヲ得

第八條　艀船ハ基隆港務所ノ船體檢查ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス其ノ改造修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九條　艀船ハ基隆港務所長ノ指定シタル場所及期日ニ於テ一年一回以上船體ノ檢查ヲ受クヘシ但シ基隆港務所長ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ船體ヲ檢查スルコトヲ得

第十條　基隆港務所長ハ腐朽若ハ破損ノ爲危險ト認ムル艀船ハ其使用ヲ停止スルコトヲ得

第十一條　艀船ハ檢查ノ上其ノ額ヲ定メ基隆港務所ニ願出テ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十二條　船體檢查證、乘客ノ定員、貨物ノ積量及運賃定額ハ船內見易キ場所ニ之ヲ表示スヘシ

第十三條　船體檢查證及免許鑑札ハ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得ス但シ船體檢查證ニシテ艀船ト共ニ讓渡又ハ貸與スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　船體檢查證又ハ免許鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ鑑札面ニ異動ヲ生シ若ハ文字不明トナリタルトキハ五日內ニ基隆港務所ニ屆出テ再下付又ハ書換ヲ請フヘシ

第十五條　艀船又ハ船夫營業者死亡、失踪、廢業又ハ艀船ヲ亡失若ハ廢船シタルトキハ五日內ニ基隆港務所ニ屆出テ船體檢查證及免許鑑札ヲ返納スヘシ營業許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

營業者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ其ノ雇主又ハ相續人若ハ家族ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船體檢查證又ハ免許鑑札ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ屆出ヘシ

第十六條　艀船ハ檢查證又ハ免許鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ鑑札面ニ異動ヲ生シ若ハ文字不明トナリタルトキハ五日內ニ基隆港務所ニ屆出テ再下付又ハ書換ヲ請フヘシ

第十七條　艀船又ハ船夫營業者死亡、失踪、廢業又ハ艀船ヲ亡失若ハ廢船シタルトキハ五日內ニ基隆港務所ニ屆出テ船體檢查證及免許鑑札ヲ返納スヘシ營業許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

營業者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ其ノ雇主又ハ相續人若ハ家族ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船體檢查證又ハ免許鑑札ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ屆出ヘシ

第十八條　艀船營業組合ヲ設置セムトスルトキハ規約ヲ定メ基隆港務所ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十九條　基隆港務所長ハ暴風出水等ニ際シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ出船ヲ禁止スルコトヲ得

第二十條　基隆港務所長ハ艀船又ハ船夫營業者ニシテ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ行爲アルトキ又ハ本令ニ違背シ其ノ狀情重シト認ムルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　艀船又ハ船夫營業者ニシテ同盟罷業ヲ企テ乘客若ハ貨物ノ運送ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　船鑑札番號

二　石（噸）數

三　船長ノ姓名

四　乘組人員

五　乘客人員（男別）

六　積載貨物ノ種類及數量

七　仕向又ハ仕出地

八　出入港ノ年月日時

前項ノ屆出ハ稅關、稅關支署、稅關監視署又ハ警察官署ヨリ受ケタル出港認許證ニ船體檢查證ヲ添ヘ口頭ニテ屆出ルコトヲ得

第二十三條　艀船營業者ニシテ同盟罷業ヲ企テ乘客若ハ貨物ノ運送ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　艀船ニハ別記第一號雛形ノ標旗ヲ揭ケ夜間ハ白色ノ燈火ヲ船首ニ點スルコト

二　基隆港務所ニ於テ指定シタル定繫場以外ニ繫泊セサルコト

三　就業中ハ鑑札ヲ携帶シ港務官吏、警察官吏又ハ稅關官吏ノ求メアルトキハ之ヲ提示スルコト

四　汽船入港ノ際ハ其ノ繫留前ニ於テハ之ニ接近スルカラス又繫留後其ノ錨索ニ繫船セサルコト

五　汽船入港ノ際ハ其ノ船長若ハ港務官吏又ハ警察官吏ノ承認ヲ得スシテ本船ニ乘移ラサルコト

六　汽船出港ノ際ハ艀ニ昇降場外ヨリ昇降セサルコト

七　定額以外ノ運賃ヲ請求セサルコト

八　定員外ノ人員ヲ乘込マシメ又ハ積量外ノ貨物ヲ搭載セサルコト

九　貨物ヲ搭載シタルトキハ其ノ貨物ニ關係アル者ノ外乘込マシメサルコト

十　客ヲ乘船セシメタルトキハ客ノ手荷物ノ外搭載セサルコト但シ港務官吏又ハ警察官吏ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

十一　傳染病患者及其ノ汚染物又ハ附添人ナキ瘋癲者ハ之ヲ乘船セシメサルコト

十二　艀船內ニ於テ傳染病又ハ其ノ疑似症患者發生シタルトキハ速ニ港務官吏若ハ警察官吏ニ申告スルコト

十三　酒酔者ヲ乘船セシメ又ハ客ノ妨害トナルヘキ動物ヲ搭載セサルコト

十四　客ノ乘組又ハ貨物ノ搭載中ハ故ナク其ノ船ヲ離レサルコト

十五　繫船後船內ニ貨物ヲ積置ク場合ハ看守者ヲ附スルコト

十六　乘客ノ遺留品アルトキハ速ニ港務官吏又ハ警察官吏ニ届出ルコト

十七　正當ノ理由ナクシテ乘客又ハ貨物ノ運送ヲ拒絕シ又ハ他ノ船ニ乘替ヲ要求セサルコト

十八　乘客ヲ其ノ要求ナキ旅宿ニ誘引シ又ハ乘客ノ指定セサル場所ニ著船セサルコト

十九　乘客ノ送迎又ハ貨物ノ積卸ハ著船ノ順序ニ依リ之ヲ爲スコト

二十　他船ト競爭シ又ハ他船ノ通路ヲ妨害セサルコト

二十一　岸壁又ハ沿岸ニ繫船スルトキハ堅繫キト爲スコト

二十二　汽船荷役ノ際ハ本船ニ二艘ヲ限リ橫列ニ竝繫スルコト但シ港務官吏ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

二十三　火藥其ノ他發火貨物品ヲ搭載シタルトキハ制規ノ燈火ヲ除ク外喫烟其ノ他火氣ノ取扱ヲ爲ササルコト

二十四　外國貿易船ニ往復スルトキハ別記第二號雛形ノ標旗ヲ揭ケ夜間ハ綠色ノ燈火ヲ船首ニ點スルコト

二十五　外國貿易船ニ往復中ノ艀船ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外他ノ船舶ト交通シ又ハ稅關ニ於テ指定シタル場所以外ニ航通セサルコト

二十六　外國貿易船ニ往復スル艀船ハ郵便物、船用品、乘客及其ノ携帶品ヲ運搬スル場合ノ外日出前日沒後ハ本船ニ往復若ハ繫留セサルコト稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ許可セサル船舶ニ對スルトキ亦同シ

第十八條　艀船營業組合ヲ設置セムトスルトキハ規約ヲ定メ基隆港務所ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十九條　基隆港務所長ハ暴風出水等ニ際シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ出船ヲ禁止スルコトヲ得

第二十條　基隆港務所長ハ艀船又ハ船夫營業者ニシテ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ行爲アルトキ又ハ本令ニ違背シ其ノ狀情重シト認ムルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　艀船又ハ船夫營業者ニシテ同盟罷業ヲ企テ乘客若ハ貨物ノ運送ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　第三條、第四條、第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十八條ニ違背シタル者

二　第七條、第十條、第十九條、第二十條ノ命令ニ違背シタル者

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前地方廳ノ許可ヲ受ケタル艀船又ハ船夫營業者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

（別記）

第一號標旗雛形

七寸

一尺

白　色

番（墨字）號

質ハ鉞力ヲ用ヰ文字ハ白色部分ニ大字ニテ墨書スヘシ

番號ハ船體檢査證ノ番號ヲ横列ニ記スルモノトス

第二號標旗雛形

（三寸五分）

一尺

赤　色

白　色

質ハ鉞力ヲ用ヰ白色ノ部分ニ大字ニテ墨書スヘシ

番號ハ船體檢査證ノ番號ヲ横列ニ記スルモノトス

●基隆港內艀船營業取締規則施行手續

大正元年十月　臺灣總督府訓令第四十六號

【民政部】基隆港務所

基隆港內艀船營業取締規則施行手續左ノ通相定ム

基隆港內艀船營業取締規則施行手續

第一條　艀船營業免許ノ願出アリタルトキハ規則第二條第一號乃至第三號及左記ノ事項ヲ調査シタル上船體ヲ檢査シ差支ナキモノハ別記第一號樣式ノ臺帳ニ記入シ別記第二號樣式ノ檢査證及第三號樣式ノ鑑札ヲ下付スヘシ

一　願書面ノ各事項ハ事實ト相違ナキヤ否

二　規則第五條各號ノ一ニ該當スル者ニ非サルヤ否

三　嘗テ艀船渡船營業又ハ船夫ノ許可ヲ取消サレタルコトナキヤ否

四　出願者ノ經歷及素行

五　前各號ノ外必要ト認ムル事項

第二條　船夫營業免許ノ願出アリタルトキハ規則第二條第四號、第五號、第四條及第五條ノ事項ヲ調査シ差支ナキモノハ別記第一號樣式ノ臺帳ニ記入シ第四號樣式ノ鑑札ヲ下付スヘシ

第三條　艀船營業者規則第八條ニ依リ船體檢査ノ願出ヲ爲シタルトキハ船體ノ檢査ヲ行ヒ差支ナキモノハ別記第一號樣式ノ臺帳ニ記入シ別記第二號樣式ノ檢査證ヲ下付スヘシ

第四條　規則第九條ノ船體檢査ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船體ノ定期檢査ハ每年二回（六月十二月）之ヲ施行シ其ノ期日及檢査ノ場所ハ二十日前ニ組合又ハ營業者ニ通知スヘシ但シ十二月ノ定期檢査ハ必要アリト認ムル艀船ニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

二　船體檢査ハ鑑札及船體檢査證ヲ臺帳ト對照シ船體ノ構造及附屬品ノ整否等ヲ檢査シ合格ノモノハ臺帳ニ合格年月日ヲ記入シ船體檢査證ノ表面及艀船兩舷側見易キ場所ニ檢印ヲ施スヘシ

三　船體又ハ附屬品ニ修理ヲ要スト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ定メ修理ヲ命シ其ノ間船體檢査證ヲ領置シ其ノ旨臺帳備考欄ニ記入シ其ノ竣工ヲ俟テ下付スヘシ

四　船體又ハ附屬品ニシテ修理シ難キモノハ使用ヲ禁止シ臺帳ニ不合格ノ年月日ヲ記入シ船體檢査證ヲ返納セシムヘシ

第五條　廢業、死亡、失踪又ハ艀船ノ亡失若ハ廢船ノ屆出アリタルトキハ臺帳備考欄ニ其ノ事由ヲ記入シ朱線ヲ施シ鑑札及船體檢査證ヲ返納セシムヘシ營業ノ免許ヲ取消タルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ鑑札又ハ船體檢査證ヲ返納セシムルコト能ハサルトキハ臺帳備考欄ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第六條　鑑札又ハ船體檢査證ノ書換若ハ再下付ノ願出アリタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ書換又ハ再下付シ臺帳備考欄ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第七條　營業ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命シタルトキハ命令書ヲ交付スヘシ其ノ停止ヲ命シタルトキハ臺帳備考欄ニ事由ヲ記入シ其ノ間鑑札ヲ領置スヘシ

第八條　規則第十六條ニ依リ艀船ノ出、入港ヲ屆出タルトキハ別記第七號樣式艀船臨檢簿ニ記入スヘシ

第九條　規則第十二條運賃定額表ハ別記第五號樣式ニ依リ調製セシムヘシ

第十條　艀船定繫場ニハ別記第六號樣式ノ標柱ヲ建設スヘシ

第十一條　規則第十七條ノ標旗及標燈ハ總テ船體檢査證番號ト同一ノ番號ヲ附セシムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略之）

●基隆港出入航洋船舶特別信號

大正七年十一月九日　臺灣總督府告示第百三十九號

基隆港出入航洋船舶特別信號左ノ通相定メ大正七年十二月一日ヨリ施行ス

一　旗竿ノ位置

基隆港務所構內及基隆燈臺構內

二　信號標

萬國船舶信號旗旒及符號（黑球）

三　信號

信號種類	意義
●A	第一岸壁ニ繫留スヘシ
●B	第二岸壁ニ繫留スヘシ
●C	第三岸壁ニ繫留スヘシ
●D	第四岸壁ニ繫留スヘシ
●E	對馬棧橋ニ繫留スヘシ
●F	大正棧橋ニ繫留スヘシ
●G	第一浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●H	第二浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●J	第三浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●K	第三第四浮標ニ繫留スヘシ
●L	第四第五浮標ニ繫留スヘシ
●M	第五第六浮標ニ繫留スヘシ
●N	第七浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●O	第七第八浮標ニ繫留スヘシ
●P	第八第九浮標ニ繫留スヘシ
●R	第九浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●S	B浮標ニ繫留（船尾繫留）スヘシ
●T	航路ヲ避ケ適宜外港ニ碇泊スヘシ
●U	航路ヲ避ケ直ニ止レ
●V	指定ノ錨地又ハ內港ニ進航セヨ
●X	船長又ハ其ノ代理者港務所ニ來レ
●Y	內港ニ於テ臨檢ス進航セヨ若異狀アラハ信號ヲ要ス
●Z	信號取消

備考

一　本信號旗旒ハ基隆燈臺ノ旗竿ニ依リ總テ黑球ノ下ニ揭揚スルヲ常トス但シ豪雨濃霧等ノ場合ニ於テハ基隆港務所ノ旗竿ニ亦之ヲ揭揚ス其ノ兩者ニ相違アルトキハ基隆港務所ノモノヲ正當トス

二　信號ニ際シ二隻以上現在スルトキハ受信船ノ船名旗ヲ旗竿ニ揭ケ表示ス

三　錨地指定ノ信號ニ對シテハ其ノ信號旗旒ト同種ノ旗旒ヲ揭ケ回答旗ニ代ヘ繫船後直チニ之ヲ引下スヘシ

●基隆上家使用規則

大正九年二月十一日　臺灣總督府令第九號

基隆上家使用規則左ノ通相定ム

基隆上家使用規則

第一條　本令ニ於テ上家ト稱スルハ基隆埠頭ニ於ケル上家ニシテ鐵道部長ノ指定シタルモノヲ謂フ

第二條　上家ハ鐵道部長之ヲ管理ス

第三條　上家ハ埠頭ヲ通過シテ船車ニ接續スル貨物ヲ入ルル爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ左ノ貨物ハ此ノ限ニ在ラス

一　危險品

二　他ノ貨物ヲ汚損スル虞アルモノ

三　燃料、木材、石材、鐵材其ノ他粗雜品及濶大物

埠頭ヲ通過シ船車ニ接續セサル貨物ト雖鐵道部長ノ承認ヲ得タルトキ亦前項ニ同シ

第四條　上家內ニ於ケル作業時間ハ日出ヨリ日沒迄トス但シ鐵道部長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　本令ニ定ムルモノノ外上家ノ使用ニ關スル條件其ノ他必要ナル事項ハ鐵道部長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際上家ニ現存スル貨物ハ本令施行ノ日ヨリ七日內ニ之ヲ引取ルヘシ

●基隆及打狗築港岸壁其ノ他港灣營造物使用料

大正八年十二月二十七日　臺灣總督府告示第百八十六號

臺灣總督府土木局所管基隆及打狗築港岸壁其ノ他港灣營造物使用料左ノ通相定メ大正九年一月一日ヨリ實施ス

使用料金表

名稱	單位	料金	期間	摘要
岸壁	噸	一日 甲 五厘 乙 一錢		命令船ハ甲料金普通船ハ乙料金トシ船舶ノ總噸數ヲ以テ計算ス
繫船浮標	船一隻	一日 五圓		
荷揚場	坪	無料	三日以內	
		一日 五厘	四日以上	

備考

一　一噸未滿ハ一噸、一坪未滿ハ一坪、一日未滿ハ一日ニ計算ス

二　浮棧橋ハ繫船浮標ト看做ス

三　內外國軍艦ニハ料金ヲ徵收セス

右使用料金徵收ニ關スル事務ハ基隆ニ於テハ臺灣總督府土木局基隆出張所長、打狗ニ於テハ臺灣總督府土木局打狗出張所長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

大正三年三月告示第十六號ハ大正八年十二月三十一日限之ヲ廢止ス

●打狗港內船舶出入及運航規程

明治四十三年九月三日　臺灣總督府令第六十四號

改正　明治四三年第八七號、四四年第六六號、第七六號、大正三年第八〇號、八年第九一號

打狗港內船舶出入及運航規程左ノ通相定ム

打狗港內船舶出入及運航規程

第一條　本令ニ於テ打狗港ト稱スルハ打狗燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半徑ヲ以テ劃キタル線內ノ水面ヲ謂フ

第二條　打狗港ヲ別テ左ノ二區トス

內港　打狗山ト旗後島間ニアル水道以東ノ水面

外港　內港以外ノ水面

第三條　外港中左ノ區域ヲ以テ公ノ航路トス

打狗燈臺ヲ南六十八度三十分東警報信號標ヲ北八十三度三十分東ニ見タル點ヨリ南七十四度東ニ劃キタル線ト此ノ線ノ北側ニ百間ヲ隔テ平行ニ劃キタル線ノ中間

第四條　船舶ハ臺灣總督府土木局長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ內港ニ進航スルコトヲ得ス但シ小蒸汽船竝艀艇ノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　內港中船舶繫留用營造物ノ位置ハ臺灣總督府土木局長之ヲ公示ス

船舶ハ前項ノ營造物ノ外繫留スルコトヲ得ス

第六條　船舶ハ內港ニ於テ臺灣總督府土木局長ノ指定シタル區域內ニ投錨又ハ運航スルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條　許可ヲ得テ內港ヲ運航スル汽船ハ其ノ針路ヲ保ツニ足ルタケノ速力ニ止メ帆船ハ帆ヲ減シテ徐行スヘシ

第八條　許可ヲ得テ內港ニ進航シタル船舶ニシテ出港セムトスルトキハ豫メ臺灣總督府土木局長ニ其ノ旨屆出ヘシ

第九條　臺灣總督府土木局長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ內港ヲ出入スル船舶ニ對シ出入ノ順序ヲ指定スルコトヲ得

第十條　船舶ハ外港ニ於テ公ノ航路ニ投錨スルコトヲ得ス

第十一條　船舶ハ築港用船舶ノ運航又ハ投錨ノ自由ヲ妨害シ又ハ衝突ノ虞アルトキハ之ヲ追越シ又ハ其ノ前面ヲ橫過スルコトヲ得ス

第十二條　臺灣總督府土木局長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ錨地ノ指定、變更又ハ投錨方法ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　船舶ハ港內ニ於テ臺灣總督府土木局長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ得ス

第十四條　港內又ハ其ノ附近ニ於テ通航又ハ工事ヲ妨害シ若ハ危險ノ原因トナルヘキ難破物其ノ他ノ物件アルトキハ臺灣總督府土木局長ノ指定スル期間內ニ其ノ船長若ハ其ノ所有者ニ於テ之ヲ取除クヘシ

前項ノ義務者不明ナルトキハ臺灣總督府土木局長ハ之ヲ除去スルコトヲ得

第十五條　船舶カ浮標、立標其ノ他ノ官有營造物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其ノ船長又ハ船舶操縱者ニ於テ臺灣總督府土木局長ノ指定スル期間內ニ原形ニ復スヘシ

第十五條ノ二　臺灣總督府土木局長ハ第十四條第一項又ハ前條ノ命令ヲ受ケタル義務者ニ於テ指定ノ期間內ニ終了スヘキ見込ナシト認メタルトキハ自ラ之ヲ履行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ履行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第十六條　本令又ハ本令ニ基キテ臺灣總督府土木局長ノ發シタル命令ニ違反シタル船長又ハ船舶操縱者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　港內ノ警察及衞生ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ築港用船舶ニ之ヲ適用セス

明治四十二年六月府令第四十六號ハ之ヲ廢止ス

●打狗港出入船舶ニ對シ信號標旗掲揚ノ件

明治四十三年十二月二十一日
臺灣總督府告示第百六十三號

改正　明治四四年第一六七號、大正元年第一八號、八年第八二號、府令第一二〇號

臺灣總督府土木局ニ於テ打狗港出入船舶ニ信號ヲ爲ストキハ左記ノ標旗ヲ揭ク

位置　左記圖面◎點ノ地點

旗竿　地盤ハ海面上五十五尺ニシテ旗竿ハ地盤上六十尺ノ高サトス

旗旒　萬國船舶信號旗竝左ノ特別信號旗旒

（左圖略之）

第三章　電氣　瓦斯

●電氣事業取締方

明治三十五年九月十八日
臺灣總督府令第七十一號

臺灣島內ニ於テ施設スル電氣事業ノ取締ニ關シテハ【明治三十五年八月遞信省令第三十六號中第百十四條及第百十八條】ヲ除キ之ヲ準用ス

本令施行前施設シタル電氣事業ニ關シテハ本令ノ規定ニ依リ明治三十五年十二月二十八日マテニ許可又ハ認可ヲ受クヘシ

明治三十五年七月府令第六十二號ハ廢止ス

●官廳電氣事業取締方

明治三十六年九月
臺灣總督府訓令第百八十號

【民政部】、法院、【廳】所屬民政各官廳

官廳ニ於テ施設スル電氣事業ノ取締方ハ明治三十五年十一月遞信省令第五十五號ヲ準用ス

明治三十五年十一月訓令第二百九號ハ廢止ス

●臺灣總督府電氣使用規則

明治四十五年五月二十六日
臺灣總督府令第五十一號

改正　大正四年第三六號、五年第六六號

明治四十年五月府令第三十五號臺灣總督府電氣使用規則左ノ通改正ス

臺灣總督府電氣使用規則

第一章　總則

第一節　通則

第一條　臺灣總督府經營ノ電氣事業ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ管理ス

第二條　電氣供給區域ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ公示ス

第三條　臺灣總督府經營ノ電氣ヲ使用スル者ハ本令ニ示ササル事項ト雖【臺灣總督府作業所長】ノ定ムル所ニ從フヘシ

第二節　申込手續

第四條　電氣使用ニ關スル申込ハ總テ【臺灣總督府作業所】ノ定ムル樣式ニ從ヒ相當事項ヲ記入シタル書面ヲ【臺灣總督府作業所】ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル土地、家屋其ノ他ノ建造物內ニ於テ電氣ヲ使用セムトスル者ハ所有者ノ承諾ヲ證スル爲前項申込書ニ其所有者ノ連署ヲ要ス

電氣使用者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ雙方連署シ【臺灣總督府作業所】ニ申込ムヘシ但シ讓受人ハ讓渡人ノ總テノ權利義務ヲ繼承スルモノトス

第三節　使用條款

第五條　毎月二日、十六日ノ兩日ニ限リ晝間送電ヲ中止ス但シ作業上ノ必要ニ依リ此ノ期日ヲ變更スルコトアルヘシ

第六條　電氣使用者ハ其ノ電氣設備ニ異狀ヲ生シタル場合ハ猶豫ナク之ヲ臺灣總督府作業所ニ申報スヘシ

第七條　電氣使用者ハ電氣ニ關スル設備ヲ濫ニ變更シ修理シ貸渡シ若ハ之ニ新ナル施設ヲ爲シ又ハ【臺灣總督府作業所】ノ貼附シタル封緘ヲ破棄スヘカラス

第八條　前條ノ規定ニ背キ施設シタル部分ハ之ヲ取除キ又ハ改作シ之ニ要シタル工事費其ノ他一切ノ費用ヲ辨償セシム

第九條　第七條ノ規定ニ背キタル所爲ヲ爲シタル爲【臺灣總督府作業所】ノ事業其ノ他ニ損害ヲ及ホシタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十條　電氣使用者ハ【臺灣總督府作業所】ノ貸付ニ係ル電氣ノ器具、機械及材料ノ管守ノ責ニ任シ之ヲ亡失シ毀損シ又ハ盜難ニ罹リタルトキハ相當實額ヲ辨償セシム但シ天災、事變其ノ他ニ起因シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ使用者ニ責任ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　【臺灣總督府作業所長】ハ電氣ニ關スル設備保安ノ爲時時所員ヲシテ之カ檢查ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テ使用者ハ其ノ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　左ニ揭クル場合ニ於テハ送電ヲ中止スルコトアルヘシ

一　天災、事變等不可抗力ノ爲發電所、配電所、變壓所、水路、電線路其ノ他ニ故障ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アルトキ

二　前項ノ設備ニ臨時修繕ヲ要スルトキ

第十三條　左ニ揭クル場合ニ於テハ送電ヲ停止シ又ハ使用ヲ拒絕スルコトアルヘシ

一　電氣ニ關スル納付金ヲ指定ノ期日迄ニ納付セサルトキ

二　第七條ノ規定ニ背キタルトキ

三　第十一條ノ檢查ヲ拒ミタルトキ

四　電氣設備保安ニ關シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ必要ト認メタル指示ニ應セサルトキ

五　電氣設備ニ危害ヲ及ホスモノト認ムヘキ作爲ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ

第十四條　電氣使用者ハ其ノ電氣使用上生シタル一切ノ電氣使用規則違背事項ニ關シテハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十五條　電氣ニ關スル設備ニシテ明治三十五年九月府令第七十一號電氣事業取締方ニ適合スルトキハ電氣使用者ニ於テ使用上損害ヲ受クルコトアルモ【臺灣總督府作業所】ハ其ノ責ニ任セス

第四節　料金ノ納付

第十六條　電氣ニ關スル納付金ハ【臺灣總督府作業所長】又ハ其ノ分掌官ノ指定ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

第十七條　月額ノ料金ハ前月末日限納付スヘシ但シ最終ノ日祭日、休日ニ當リタルトキハ繰上ケトス

前項以外ノ納付金ハ【臺灣總督府作業所長】又ハ其ノ分掌官ノ指定スル期日迄ニ納付スヘシ

月額料金ハ使用者ノ希望ニ依リ二箇月分以上一時ニ前納スルコトヲ得

第十八條　官公署ニシテ前條ノ規定ニ依リ難キモノハ翌月十日限納付スルコトヲ得

第五節　料金ノ算定

第十九條　本令ニ於テ定額ヲ示ササル料金其ノ他ノ費用及賠償額ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ定ム

第二十條　第五十五條ノ拂下代價ハ六箇月以內ノ月賦納ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇月ニ付拂下代價ノ百分ノ一ノ割增ヲ附ス

前項ノ場合ニ於ケル拂下物ノ所有權ハ代金ノ完納ナキ期間ハ移轉セサルモノトス

月賦金完納前電氣ノ使用ヲ廢止シ又ハ貸付設備ニ變更スルコトアルモ既納ニ係ル月賦金ハ之ヲ還付セス

第二十一條　新ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ月ノ月額料金ハ日割計算トス

第二十二條　電氣使用者ニシテ電氣使用ノ休止、廢止、增加、變更又ハ再使用ヲ爲シタル爲既定ノ料金ニ異動ヲ生シタルトキハ特別ノ定アルモノノ外其ノ月ノ料金ハ日割ヲ以テ算定シ翌月以後ノ分ニ於テ差引增減ヲ爲スヘシ但シ翌月以後ニ於テ差引增減ヲ爲スヘキモノナキトキハ增加額ハ追徵シ減少額ハ之ヲ還付セス

第二十三條　第十二條ノ場合ニ於テ送電ヲ中止シタルトキハ日割計算ニ依リ各種ノ使用料及貸付料ハ翌月以後ノ分ニ於テ差引減額ス但シ晝夜使用ノモノハ一晝夜、夜間使用ノモノハ一夜又ハ第四十三條第一號ノ使用時間ニ滿タサルトキ及第五條、第十三條ノ場合ニ於テハ之ヲ減額セス

第二十四條　料金ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル但シ臨時使用ニ屬スルモノハ一月ヲ三十日トシテ算定ス

第二十五條　增加、變更又ハ再使用ノ場合ニ於ケル料金ハ別途計算トシ其ノ月ノ既定料金ニ累加割引ヲ爲ササルモノトス

第二十六條　第七條ノ規定ニ背キ電燈、電扇、電動機ノ數又ハ力ヲ增加シタルトキハ既定料金ノ外更ニ增加分ニ對シ左記各號ノ率ニ依リ計算セル月額使用料ノ六月分以上ヲ納付セシム休止中ノ電氣ヲ使用シタルトキ亦同シ

一　電燈ハ一燭光ニ付第三十一條內燈五燭光ニ對スル晝夜間點燈料ノ五分ノ一

二　電扇ハ十六吋迄ハ第三十七條十六吋電扇月額使用料、十六吋ヲ超過スルモノハ同條六十吋電扇月額使用料

三　電力ハ一馬力ニ付第四十四條五馬力迄ニ對スル一馬力晝夜間使用料

前各號ニ依リ難キモノハ消費電量ヲ標準トシ【臺灣總督府作業所長】隨時之ヲ定ム

第二十七條　電氣使用者ニ於テ其ノ申込時間外ニ電氣ヲ使用シタルトキハ其ノ都度時間外使用ノ分ニ對シ既定使用料ノ外更ニ第三十一條又ハ第四十四條ニ規定シタル晝夜間使用月額料金ノ一箇月分ヲ納付セシム

第二十八條　電燈球、電扇、電動機ヲ他人ニ貸渡シタルトキハ其ノ貸付者ヨリ更ニ月額晝夜間使用料ノ二倍ヲ納付セシム

第二章　種別及料金

第一節　電燈及其ノ料金

第二十九條　點燈ノ方法ヲ區別スルコト左ノ如シ

一　定時燈　夜間（自午後四時至午前八時）又ハ晝夜間點燈スルモノ

二　不定時燈　十燈以上ノ取付ヲ爲シ晝夜ニ拘ラス電量ヲ計リ點燈スルモノ

三　臨時燈　九十日內ニ於テ臨時期間ヲ定メ點燈スルモノ

第三十條　內燈トハ邸宅內又ハ其ノ類似ノ場所ニ使用スルモノヲ謂ヒ外燈トハ道路、公園、共同便所又ハ公有水面ヲ照シ公衆ニ利便ヲ與フヘキ街燈、門燈、軒燈ノ類ヲ謂フ

第三十一條　定時點燈料月額左ノ如シ

種別	內燈一燈ニ付 夜間	內燈一燈ニ付 晝夜間	外燈一燈ニ付
五燭光	五十五錢	七十錢	四十五錢
十燭光	八十五錢	一圓十錢	七十五錢
十六燭光	一圓	一圓三十錢	八十五錢
三十二燭光	一圓二十錢	一圓六十錢	一圓
六十四燭光	二圓	二圓六十錢	一圓七十錢
百燭光	三圓	四圓	二圓五十錢
二百燭光	五圓五十錢	—	四圓五十錢
五百燭光	十三圓	—	十圓
八百燭光	二十圓	—	十五圓
一千燭光	—	—	十八圓
一千二百燭光弧光燈	—	—	十五圓

第三十二條　不定時點燈料ハ取付數一箇ニ付月額金二十錢使用電量一千「ワツト」時ニ付金二十錢トシ其ノ月計額金六圓ニ滿タサルトキハ使用ト否トニ拘ラス六圓ヲ徵收ス

第三十三條　臨時點燈料ハ第三十一條及第三十五條ノ月額料金二倍額ノ日割計算トス

第三十四條　臨時點燈料ヲ除クノ外點燈料ハ一申込料金ノ額ニ依リ割引ヲ爲スコト左ノ如シ

一月ノ點燈料	割引率
三十圓ヲ超過シタル額ニ對シ五十圓迄	百分ノ三
五十圓ヲ超過シタル額ニ對シ百圓迄	百分ノ五
百圓ヲ超過シタル額ニ對シ	百分ノ七

第三十五條　電燈ノ貸付料及休止料月額左ノ如シ

種別	一燈ニ付 貸付料	一燈ニ付 休止料
五燭光以上百燭光以下	十錢	十錢
二百燭光	五十錢	五十錢
五百燭光	一圓	一圓
八百燭光	一圓七十錢	一圓七十錢
一千燭光	二圓	二圓
一千二百燭光弧光燈	二圓	二圓

電燈ノ使用ヲ休止シタルトキハ貸付料ヲ徵收セス

第二節　電扇及其ノ料金

第三十六條　電扇ノ使用方法ヲ分チテ定時、不定時、臨時使用ノ三種トス

電扇ノ取付口ハ一基ニ付一箇所トシ更ニ增設スルトキハ附加使用トス

第三十七條　定時電扇料月額左ノ如シ

種別	一基ノ料金
十二吋	二圓二十錢
十六吋	三圓五十錢
六十吋	七圓

第三十八條　不定時電扇料ハ第三十二條不定時點燈料ノ例ニ依リ之ニ對スル料金ヲ徵收ス同一電量計ヲ以テ電燈、電扇ヲ混交使用スルトキハ總テ點燈料トシテ其ノ料金ヲ徵收ス

第三十九條　臨時電扇ハ三十日內ノ期間ヲ定メ使用スルモノニシテ其ノ電扇料及貸付料ハ第三十七條及第四十條ノ月額料金二倍額ノ日割計算トス

第三十九條ノ二　電扇ノ附加取付口ヲ使用スルトキハ其ノ期間一箇所ニ付毎一月金五十錢ノ附加使用料ヲ徵收ス

第四十條　電扇ノ貸付料月額左ノ如シ

種別	一基ノ料金
十二吋	一圓
同 自働	一圓五十錢
十六吋	一圓五十錢
同 自動	二圓
六十吋	三圓

第四十一條 電扇ノ使用ヲ休止スルトキハ其ノ期間貸付料ヲ徵收セスシテ一基ニ付每一月金二十錢ノ休止料ヲ徵收ス

休止中ノ電扇ニシテ七月一日ニ至ルモ再使用セサルトキハ前日限廢止シタルモノト看做ス

第三節 電動機及其ノ料金

第四十二條 最初ノ電力使用申込期間ハ三箇月以上トシ最初ノ三箇月間ハ使用ト否トニ拘ラス規定ノ料金ヲ徵收ス

一箇月前ニ使用ノ休止又ハ廢止ノ申込ヲ爲ササルトキハ繼續使用ト看做ス

電力ノ使用ヲ休止スルトキハ其ノ期間休止料トシテ月額晝間使用料ノ百分ノ五ヲ徵收ス但シ貸付設備ニ係ル場合ハ貸付料ヲ併セ徵收ス

第四十三條 電力使用方法ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 定時電力 晝間(自午前六時三十分至午後四時三十分)又ハ晝夜間使用スルモノ

二 不定時電力 晝夜ニ拘ラス電量ヲ計リ使用スルモノ

三 臨時電力 三十日以內ニ於テ臨時期間ヲ定メ使用スルモノ

第四十四條 定時電力料月額左ノ如シ但シ一馬力未滿ノ電力料ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ定ム

限定使用馬力數	晝間使用一馬力ニ付	晝夜間使用一馬力ニ付
一馬力以上五馬力迄	七圓	十七圓
十馬力迄	六圓	十五圓
三十馬力迄	五圓	十三圓
五十馬力迄	四圓五十錢	十一圓
百馬力迄	四圓	九圓
百馬力以上	三圓	七圓

前表ノ限定使用馬力數ニ依リ計算シタル使用料カ其レヨリ小ナルモノニ對スル使用料ヨリ低額ナルトキハ其ノ小ナルモノニ對スル使用料ノ最高額ヲ徵收ス

夜間ノミ使用ノ場合ハ晝夜間使用料ヲ徵收
ニ

第四十五條 前條ノ限定使用馬力數ハ電動機ノ記名馬力トス但シ電動機ノ馬力カ記名馬力ヨリ大ナルモノト認ムルトキハ臺灣總督府作業所長試驗ノ上之ヲ查定ス

第四十六條 六馬力以上ノ電力使用者ニシテ電動機ノ記名馬力ヨリ小ナル馬力ヲ使用セムトスルトキハ其ノ受動裝置ニシテ申込ノ馬力ヨリ大ナル電力ヲ使用シ能ハサルモノト認ムル場合ニ限リ試驗ノ上最大使用馬力數ヲ查定シ之ヲ限定使用馬力數トシ申込ニ應スルコトアルヘシ

前項ノ場合ハ使用馬力ト電動機ノ馬力トノ差カ電動機ノ馬力ノ二割以上ノ場合ニ限ル

第四十七條 同一構內ニ於テ二箇以上ノ電動機ヲ使用スルトキハ其ノ合計馬力數ヲ第四十四條ノ限定使用馬力數トシテ算定シタル料金ヲ徵收ス

第四十八條 不定時電力料ハ一千「ワット」時ニ付金十錢トス但シ二萬「ワット」時ヲ一馬力ニ對スル一箇月ノ最低額トシ使用ト否トニ拘ラス之ニ對スル月額料金ヲ徵收ス

第四十九條 臨時電力料及貸付料ハ第四十四條及第五十條ノ月額料金二倍額ノ日割計算トス

晝間使用ノモノ臨時ニ晝夜間使用ニ變更スルトキハ既定使用料及貸付料ノ外其ノ期間更ニ晝夜間使用料ヲ徵收ス

第五十條 電動機ノ貸付ハ五馬力迄トシ貸付料月額左ノ如シ

種別	一基ノ料金
一馬力迄	五圓
二馬力迄	六圓
三馬力迄	七圓
五馬力迄	八圓

第五十一條 電力用電量計ノ貸付料月額左ノ如シ

電量計計量能力	料金
一馬力迄	一圓
一馬力以上ハ一馬力迄每ニ	十錢ヲ加フ

第四節 特種料金

第五十二條 本令ニ示サヽル器具、機械ニ依リテ電氣ヲ使用セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ料金ヲ徵收シテ之ニ應スルコトアルヘシ

第五十三條 電氣使用ノ目的ニ依リ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ必要アリト認ムルトキハ規定ノ料金ニ對シ特ニ割引減額ヲ爲スコトアルヘシ

第三章 工事及工事費

第一節 通則

第五十四條 電氣使用ニ關スル工事ハ其ノ所要費用拂下代金ノ全部若ハ一部納付濟ノ上施設ス但シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ前納ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 電氣使用上必要ナル器具、機械、材料ハ【臺灣總督府作業所】ニ於テ設備ノ上貸付ス但シ電燈球及不定著電扇其ノ他【臺灣總督府作業所長】ニ於テ特ニ定メタルモノヲ除クノ外全部若ハ一部ヲ拂下又ハ使用者ヲシテ調達セシメテ其ノ施設ヲ爲シ若ハ爲サシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ使用者ニ於テ施設スル場合ハ其ノ電氣方式制限等ニ付豫メ【臺灣總督府作業所長】ノ承認ヲ受ケ其ノ指揮監督ノ下ニ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ監督費又ハ試驗料トシテ相當費用ヲ徵收ス

第五十六條 使用者ノ所有ニ係ル電氣ノ器具、機械、材料ノ修理又ハ設備ノ撤去ヲ要スル場合ハ相當費用ヲ徵收ス

使用者ニ於テ前項ノ修理ヲ爲サムトスルトキハ【臺灣總督府作業所長】ノ承認ヲ受ケ其ノ監督ノ下ニ施行スヘシ

第五十七條 電線路ノ設備ナキ箇所ニ於テ電氣ヲ使用セムトスルトキハ工事費ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第五十八條 電氣的設備ノ必要上又ハ使用者ノ希望或ハ家屋ノ構造ニ依リ特種ノ施設ヲ爲シ又ハ特ニ材料ノ增加ヲ要スルトキハ規定工事費ノ外更ニ相當費用ヲ徵收ス

第五十九條 燭力及定時、不定時ノ變更竝附屬器具ノ交換、變更其ノ他內線引込線ノ模樣換又ハ修理等ノ場合ハ相當費用ヲ徵收ス

但シ「コード」ヲ除ク外貸付設備ノ自然毀損ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二節 電燈工事費

第六十條 電燈ノ取付費左ノ如シ

一 百燭光迄 一燈ニ付金一圓

二 二百燭光以上及臨時燈ノ取付費ハ工事ノ模樣ニ依リ相當費用ヲ徵收ス

第六十一條 電燈ノ架設換、位置變更及家屋修繕ノ爲取除、取付ヲ要スル場合ハ一燈ニ付金五十錢ヲ徵收ス但シ二百燭光以上ノ場合ハ工事ノ模樣ニ依リ相當費用ヲ徵收ス

第六十二條 電燈球ノ斷心、減光、破損若ハ「シエード」破損ノ爲交換ヲ要スルトキハ交換料ヲ徵收ス

前項ノ交換料ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ公示ス

點燈後十日內ニ使用者ノ故意又ハ過失ニ因ラサル斷心、減光、破損若ハ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ特ニ定ムル場合ハ前項ノ交換料ヲ徵收セス

第六十三條 室內電燈用「コード」ハ木綿卷ニシテ床面ヲ距ル三尺ニ達スル迄ノ長サヲ普通架設トシ此ノ以上ノ延長ヲ望ムトキハ十尺ヲ限度トシ之ニ應スルコトアルヘシ

第三節 電扇工事費

第六十四條 電扇取付費及附加取付口

一 十六吋迄ノ電扇及附加取付口 一基又ハ一箇所ニ付金一圓

二 六十吋電扇及臨時電扇ノ取付費ハ工事ノ模樣ニ依リ相當費用ヲ徵收ス

第六十五條 電扇又ハ附加取付口ノ架設換、位置變更及家屋修繕ノ爲取除、取付ヲ要スル場合ハ一基又ハ一箇所ニ付金五十錢ヲ徵收ス但シ六十吋電扇ハ工事ノ模樣ニ依リ相當費用ヲ徵收ス

第六十六條 電扇用「コード」ハ木綿卷ニシテ最長二十尺トス

第四節 電動機工事費

第六十七條 電動機ノ据付費、据換費ハ一基ニ付一馬力未滿金五圓五馬力迄金十圓トス

但シ取除費及同一使用場內ニ於ケル据換竝馬力變更ノ費用ハ半額トス

前項ノ場合ニ於テ六馬力以上ノ電動機ニ對シテハ相當費用ヲ徵收ス

第六十八條 使用者ノ調達ニ係ル電動機ニシテ變壓器其ノ他器具、材料等ヲ調達セサル場合ハ工事費トシテ相當費用ヲ徵收シ之ヲ貸付スルコトアルヘシ

第六十九條 臨時電力使用ノ場合ニ於ケル据付費、取除費ハ相當費用ヲ徵收ス

附則

本令ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ電氣使用者ニシテ本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ使用廢止ノ申込ヲ爲ササルモノハ本令ニ依リ使用申込ヲ爲シタルモノト看做ス

附則(大正五年府令第六十六號附則)

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ電氣使用者ニシテ本令施行ノ前日迄ニ使用廢止ノ申込ヲ爲ササル者ハ本令ニ依リ更ニ使用申込ヲ爲シタル者ト看做ス

從前使用ニ係ル炭素線電球八燭光及二十五燭光ニ對シ本令施行ノ前日迄ニ燭力變更ノ申込ヲ爲ササルトキハ八燭光ハ本令十燭光ニ二十五燭光ハ本令三十二燭光ニ變更ノ申込ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ他ノ炭素線電球ニ對シテハ本令ニ依リ更ニ申込ヲ爲ス迄五燭光及一千二百燭光弧光燈ノ料金ノ外從前ノ規定ヲ適用ス

●臺灣總督府電氣使用規則取扱規程

明治四十二年十一月
臺灣總督府訓令第百八十二號【作業所】

臺灣總督府電氣使用規則取扱規程左ノ通相定ム但シ別記樣式ハ別ニ之ヲ頒ツ

臺灣總督府電氣使用規則取扱規程

第一條 新ニ電氣ヲ使用セムトシ又ハ使用ノ中止、廢止、名義變更及器具、機械、材料ノ交換、變更、修理等ヲ爲サムトスル者アルトキハ別記第一號及第二號樣式ニ依リ申込書ヲ差出サシムヘシ

第二條 臺灣總督府電氣使用規則第四條ニ依リ申込ヲ拒絕セムトスルトキハ前條ノ申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ申込書ヲ返戾スヘシ

第三條 送電ヲ爲シ又ハ送電ヲ停止シタルトキハ別記第三號樣式ニ依リ其ノ證明書ヲ徵スヘシ

第四條 電燈、電扇、電力ニ關スル工事ヲ爲サントスルトキハ別記第四號樣式ニ依リ工事設計材料明細書ヲ調製シ之ニ依リ施行スヘシ

內線又ハ外線工事竣功シタルトキハ內線ニ在リテハ工事竣功及材料精算書ヲ外線ニ在リテハ工事竣功明細書、工事設計及材料精算書及取除工事返納材料明細書ヲ各第五號樣式ニ依リ調製スヘシ

第五條 臺灣總督府電氣使用規則第十九條ノ臨檢其ノ他電燈、電扇、電力ニ關スル用務ノ爲電氣使用者ノ住所又ハ其ノ他ノ電氣使用場所ニ出張シタル キハ別記第六號樣式ニ依ル出張記錄ニ必要ト認ムル事項ヲ記入シ電氣使用者ノ認印ヲ受クヘシ但シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

(別記樣式略之)

●電氣ニ關スル注意

明治三十五年七月十九日
臺灣總督府告示第九十九號

凡電氣事業ノ世ヲ利スルコト大ナルハ論ヲ俟タスト雖モ若其ノ取扱ヲ誤マルトキハ危險ノ虞ナシトセス決シテ注意ヲ怠ルヘカラス取扱上一人ノ不注意ヨリ甚シキニ至テハ人命財產ニ危害ヲ及ホシ其ノ結果終ニ電氣事業ノ發達ヲ妨クルニ至ルコトアリ電氣事業ノ當事者ニ於テハ電氣ノ危險ヲ察シ之ニ應スルノ裝置方法ヲ設ケアルモ一般人民ニ於テ其ノ趣旨ヲ了解セサル爲知ラスシテ危險ニ陷ルコトナシトセス電氣事業者ニ於テハ成ルヘク平易ノ通俗文ヲ以テ懇ニ取扱ノ注意ヲ示シ需用者ニ於テモ當事者ノ注意ヲ服膺シ其ノ取扱上注意ヲ怠ラサルヲ要ス今一般注意スヘキ要項ヲ列擧シテ左ニ告示ス

電氣ニ關スル注意心得

電柱及電線ニ關スル注意

一 電柱及電線ハ成ルヘク接觸セサルヲ良シトス殊ニ暴風雨雪雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ

低壓電燈、電力線及電信、電話線ハ通常危險ナシ 雖暴風雨雪竝事變ノ際ニハ高壓電燈、電力、電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱電線類ニ身體ヲ觸レサルヲ可トス

電線ヲ支持スル腕木又ハ電柱ノ一部分ノ赤色ニ塗リタルモノハ危險ナル電氣ノ流通シツツアルヲ示スモノナレハ之ニ接觸スヘカラス殊ニ左ノ表示アルモノハ最モ危險ナルモノナレハ注意スヘシ

危(あぶ)險(なし)

一尺　五寸

二 電柱電線ノ近傍ニ出火アリト雖其道ノ心得アル者ノ外妄リニ頭部赤色ニ塗リタル電柱又ハ赤色ニ塗リタル腕木ヲ以テ支持スル電線ヲ切斷スル等ノコトヲ試ムヘカラス

近傍ニ出火アリ電柱類燒ノ虞アリトモ妄リニ刄物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ

倒ス等ノコトアルヘカラス此ノ道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陷ルコトアリ注意スヘシ

三 電線電柱腕木等ニ破損アルカ之ニ接觸セル物ニ火花ヲ發スルカ又ハ其ノ他ノ異狀アルトキハ直ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ

電力電燈用ノモノ又ハ之ニ接續セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣會社ノ役人等ニ報知スヘシ

但シ電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ此等ハ別段トス

四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ該事業者ニアラサレハ妄リニ之ニ觸ルヘカラス之ヲ移スノ必要アルトキハ相當ノ手續ヲ爲シ取扱フヘシ殊ニ跣足又ハ草鞋ノ儘素手ヲ以テ之ヲ觸ルル如キコトアルヘカラス

萬一已ムヲ得スシテ切斷垂下線ヲ動カストキハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其ノ間乾キタル靴若クハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若跣足又ハ草鞋ノ儘ニテ又物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルルトキハ電氣ニ打タルルコトアルカ爲ナリ

室内用電力、電燈線ニ關スル注意

五 室内用電線ハ決シテ損傷セサル樣注意シ若シ損傷ノ箇所アルトキハ速ニ修補ノ手續ヲ爲スヘシ

室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミタルモノナレハ若缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ世人往往電線ヲ戸障子ノ間ノ如キ開閉ノ爲摩擦セラルル處ニ挾ミ又ハ電燈球ヲ疏漏ニ上下運移シ之カ爲線ノ外包ヲ破損シ其ノ儘ニ放棄シ置ク如キモノナシトセス此ノ如キハ不時ニ發火スル如キ危險ノ虞アレハ速ニ電氣事業者ニ報知シ改修スルヲ要ス

六 室内電線ハ決シテ之ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ノコトヲ爲スヘカラス

電線ヲ金屬ニ接セシメ又ハ釘ニ懸ル如キノ類ハ其外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏泄ヲ釀生スルノ虞アルモノナレハ務メテ之ヲ避クヘシ

七 室内用電線電燈球其ノ他電氣器具ハ成ルヘク濕ラサル樣注意シ濕手ニテ扱フヘカラス

電燈ノ點滅若ハ電流ノ途停ヲナス爲備ヘタル開閉器ヲ使用スルノ外成ルヘク電線電氣器具等ニ觸ルヘカラス

電線其他電氣器具ヲ濕ストキハ電氣ノ漏泄ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ注意スヘシ

電氣器具又室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ厚ク婢僕等ニ敎ヘ常ニ注意セシムヘシ

觸電者ニ對スル應急取扱法

八 若電氣ノ爲ニ氣絶シタル者アラハ直ニ被害者ヲ其ノ電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ラサル樣適宜ノ方法ヲ施スヘシ

九 電氣ノ傳ラサル樣ナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ其ノ時間ナキ場合ニ於テハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刄物ニテ電線ヲ斷チ切ルカ危險ノ標示アル(電線ヲ除ク)又ハ被害者ヲ電線ヨリ引卸スヘシ此ノ場合ニハ素手ニテ爲ササル樣注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布切類ノ如キ電氣ノ傳リ難キ物ヲ用ヒテ之ヲ行フヘシ

十 電氣ニ觸レ氣絶シタル者アラハ直ニ醫師ヲ招キテ相當ノ手當ヲ爲スヘキハ勿論ナルカ尙醫師ノ來ル迄トテ決シテ等閑ニ捨置クヘカラス假令蘇生ノ見込ナキ樣見ユルモ少ナクモ一時半以上人工呼吸法ヲ用ユルカ或ハ他ノ適宜ノ方法ニテ蘇生ノ手段ヲ施スヘシ

●臺灣ニ於テ電氣事業ヲ營ム會社ニ政府ノ出資トシテ其ノ財産ヲ提供スルコトヲ得ルノ件

大正八年五月三十一日
勅令第二百六十四號

朕臺灣ニ於テ電氣事業ヲ營ム會社ニ政府ノ出資トシテ其ノ財産ヲ提供スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督ノ管理ニ屬スル財産ニシテ電氣、瓦斯及木材防腐ノ作業ノ用ニ供スルモノハ臺灣電力株式會社令ニ依リ設立スル會社ニ政府ノ出資トシテ之ヲ提供スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣電力株式會社令

大正八年四月二十五日
律令第一號

臺灣電力株式會社令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣電力株式會社令

第一條 臺灣電力株式會社ハ電氣ヲ供給スル事業ヲ營ムヲ以テ目的トシ其ノ本店ヲ臺北ニ置ク

會社ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第二條 會社ノ資本ハ三千萬圓トシ内千二百萬圓ハ政府ノ出資トス

會社ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第三條 前條政府ノ出資ハ臺灣總督府ニ於テ電氣、瓦斯及木材防腐ノ作業ノ用ニ供スル財産ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ百年トス但シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第五條 會社ノ株券ハ記名式トス

第六條 帝國臣民又ハ帝國ノ法令ニ依リ設立シタル法人ニ非サレハ會社ノ株主ト爲ルコトヲ得ス

政府、公共團體又ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ハ會社ノ株主ト爲ルコトヲ得

第七條 會社ニ社長、副社長各一人理事二人以上監事二人以上ヲ置ク

第八條 社長ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

社長事故アルトキハ副社長其ノ職務ヲ代理シ社長闕員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補佐シ會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

第九條 社長及副社長ハ臺灣總督之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ百株以上ヲ有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選擧シタル二倍ノ候補者ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ三十株以上ヲ有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十條 社長、副社長及理事ハ何等ノ名稱ヲ以テスルニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 會社カ社債ヲ募集セムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

社債ノ拂込ハ數回ニ分チテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 社債ノ募集及定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十三條 定款ノ變更ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十四條 會社ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ利益カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込資本金額ニ對シ年八分ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第十六條 會社ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ利益カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込資本金額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ總株式ニ對スル利益配當カ拂込資本金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込資本金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込資本金額ニ對シ一ト二トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スヘシ

第十七條 會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ

得ヘキ利益カ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込資本金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達セサルトキハ設立登記ノ日ヨリ六年ヲ限リ政府以外ノ者ニ對シ其ノ所有スル株式ノ拂込資本金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スル迄利息ヲ配當スルコトヲ得

第十八條 電氣供給ニ關スル料金ニ付テハ會社ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 臺灣總督ハ會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、法令ニ基キテ爲ス命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ臺灣總督ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得

第二十一條 臺灣總督ハ臺灣電力株式會社監理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十二條 監理官ハ何時ニテモ會社ノ金庫、帳簿、文書其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シ營業上ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

監理官ハ株主總會其ノ他ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス副社長及理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副社長及理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 認可ヲ受クヘキ事項ニ關シ認可ヲ受ケサルトキ

二 本令ニ違反シテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第十九條ノ命令ニ違反シタルトキ

第二十四條 社長、副社長及理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十五條 前二條ノ過料ニ關シテハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附 則

第二十六條 臺灣電力株式會社ハ當分ノ内第一條ノ事業ノ外瓦斯ヲ供給スル事業及之ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第十八條ノ規定ハ瓦斯供給ニ關スル料金ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 臺灣總督ハ設立委員ヲ命シ臺灣電力株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 設立委員ハ定款ヲ作リ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 設立委員ハ前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ會社ノ株式總數ヨリ政府ニ割當ツヘキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スヘシ

商法第百二十六條乃至第百三十條ノ規定ハ前項ノ募集ニ付之ヲ準用ス

株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款認可ノ年月日

二 商法第百二十條第一號乃至第四號及第七號ニ揭クル事項

三 本店ノ所在地

四 存立期間

五 第一回ノ拂込ノ金額

六 政府カ出資ニ充テタル財産、其ノ價格及之ニ對シテ割當ツル株式ノ數

七 設立費用

第三十條 前條ノ規定ニ依リ募集シタル各株式ニ付第一回ノ拂込アリタルトキハ政府所有ノ株式ニ付テハ全額ノ拂込アリタルモノト看做ス

第三十一條 第二十九條ノ規定ニ依リ募集シタル各株式ニ付第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第十二條、商法第百三十二條、第百五十六條第一項第二項、第百六十二條乃至第百六十三條ノ四ノ規定ハ前項ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十二條 創立總會ニ於テハ創立ニ關スル事項ヲ調査報告セシムル爲檢査役ヲ選任スヘシ

第三十三條 創立總會ニ於テハ第九條第二項第三項ノ規定ニ準シ設立初度ノ理事候補者ノ選擧及監事ノ選任ヲ行フヘシ

第三十四條 會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

設立委員ハ會社成立シタルトキハ直ニ其ノ事務ヲ臺灣電力株式會社長ニ引渡スヘシ

●臺灣總督府瓦斯使用規則

大正七年七月十六日
臺灣總督府令第五十九號

臺灣總督府瓦斯使用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府瓦斯使用規則

第一條 臺灣總督府經營ノ瓦斯事業ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ管理ス

第二條 瓦斯供給區域ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ公示ス

第三條 臺灣總督府經營ノ瓦斯ヲ使用スル者ハ本令ニ定ムルモノノ外別ニ定ムル細則ノ規定ニ從フヘシ

前項ノ細則ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ定ム

第四條 瓦斯使用ニ關スル申込ハ【臺灣總督府作業所長】ノ定ムル書式ニ依リ【臺灣總督府作業所】ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル土地、家屋其ノ他ノ建造物内ニ於テ瓦斯ヲ使用セムトスル者ハ所有者ノ承諾ヲ證スル爲前項ノ申込書ニ其ノ所有者ノ連署ヲ要ス

瓦斯使用者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ雙方連署シ【臺灣總督府作業所】ニ申込ムヘシ但シ讓受人ハ讓渡人ノ總テノ權利義務ヲ繼承スルモノトス

第五條 瓦斯使用者ハ其ノ瓦斯設備ニ異狀ヲ生シタル場合ハ直ニ其ノ旨ヲ【臺灣總督府作業所】ニ申報スヘシ

第六條 瓦斯使用者ハ瓦斯ニ關スル設備ヲ濫ニ變更シ、修理シ、貸渡シ若ハ之ニ新ナル施設ヲ爲シ又ハ【臺灣總督府作業所】ノ封印ヲ破棄スヘカラス

第七條 前條ノ規定ニ違背シタルトキハ其ノ施設シタル部分ハ之ヲ取除キ又ハ改作シ之ニ要シタル工事費其ノ他一切ノ費用ヲ辨償セシム

第八條 第六條ノ規定ニ違背シ爲ニ【臺灣總督府作業所】ノ事業其ノ他ニ損害ヲ及ホシタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ

第九條 瓦斯使用者ハ【臺灣總督府作業所】ノ貸付ニ係ル瓦斯ノ器具、機械及材料ノ管守ノ責ニ任シ之ヲ亡失シ、毀損シ又ハ盜難ニ罹リタルトキハ相當費用ヲ辨償スヘシ但シ天災事變其ノ他ニ起因シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ使用者ニ責任ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 【臺灣總督府作業所長】ハ瓦斯ニ關スル設備保安ノ爲時々所員ヲシテ之カ檢査ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テ使用者ハ其ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ瓦斯ノ供給ヲ中止スルコトアルヘシ

第十二條 左ニ揭クル場合ニ於テハ瓦斯ノ供給ヲ停止シ又ハ使用ヲ拒絶スルコトアルヘシ

一 瓦斯ニ關スル納付金ヲ指定ノ期日迄ニ納付セサルトキ

二 第六條ノ規定ニ背キタルトキ

三 第十條ノ檢査ヲ拒ミタルトキ

四 瓦斯設備保安ニ關シ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ必要ト認メタル指示ニ應セサルトキ

五 瓦斯設備ニ危害ヲ及ホスモノト認ムヘキ作爲ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ

第十三條 瓦斯使用者本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十四條 瓦斯料金ハ燈用、熱用及動力用共百立方呎ニ付金二十四錢トス但シ四百立方呎ヲ一口ニ對スル一箇月ノ最低量トシテ(以上一口ヲ增ス每ニ二百立方呎ヲ加ヘ)消費ノ有無ニ拘ラス之ヲ徵收ス

第十五條 燈具、熱具ノ貸付料月額左ノ如シ

燈具	一箇	金五錢
熱具	七輪一箇	金五錢
同	竈一箇	金貳拾錢

第十六條　瓦斯發動機ノ貸付ハ五馬力迄トシ貸付料月額左ノ如シ

一馬力	金五圓
一箇	金六圓
二馬力	金七圓
一箇	金八圓
三馬力	
一箇	
五馬力	

第十七條　本令ニ於テ定額ヲ示ササル料金其ノ他ノ費用及賠償金額ハ【臺灣總督府作業所長】之ヲ定ム

第十八條　本令ニ示ササル器具、機械ニ依リ瓦斯ヲ使用セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ料金ヲ徵シ之ニ應スルコトアルヘシ

第十九條　瓦斯使用ノ目的ニ依リ【臺灣總督府作業所長】ニ於テ必要ト認ムルトキハ規定料金ニ對シ特ニ割引減額ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條　瓦斯ニ關スル納付金ハ【臺灣總督府作業所長】又ハ其ノ分掌官ノ指定ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

第二十一條　月額料金ハ前月末日限納付スヘシ但シ最終ノ日祭日、休日ニ當ルトキハ繰上ケトス

前項以外ノ納付金ハ【臺灣總督府作業所長】又ハ其ノ分掌官ノ指定スル期日迄ニ納付スヘシ

月額料金ハ使用者ノ希望ニ依リ二箇月分以上一時ニ前納スルコトヲ得

第二十二條　官公署ニシテ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノハ翌月十日限納付スルコトヲ得

第二十三條　瓦斯料金ハ毎月計量器ノ指示スル使用量ニ依リ之ヲ算出ス但シ計量器ノ故障等ニ因リ使用量ヲ知リ難キトキハ【臺灣總督府作業所長】ハ其ノ前後ノ使用量ヲ比較參酌ノ上其ノ料金ヲ算定ス

第二十四條　月ノ中途ニ於テ瓦斯ノ使用又ハ廢止ヲ爲シタルトキハ其ノ使用日數十五日迄ハ既定料金ノ半額十六日以上ニ亙ルトキハ全額ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ規定料金ニ異動ヲ生シタルトキハ翌月以後ノ分ニ於テ差引增減ス但シ翌月以後ニ於テ差引增減ヲ爲スヘキモノナキトキハ增加額ハ追徵シ減少額ハ還付セス

第二十五條　月ノ中途ニ於テ瓦斯用具又ハ發動機ノ變更ヲ爲シタル爲其ノ月ノ月額貸付料金ニ異動ヲ生スルコトアルモ之ヲ差引增減セス

第二十六條　瓦斯使用ニ必要ナル設備ハ【臺灣總督府作業所】ニ於テ施行ノ上貸付ス但シ瓦斯器具中ホヤ、マントル、護謨管及其ノ他特種品ハ【臺灣總督府作業所長】ノ定ムル價格ヲ以テ拂下クルモノトス

第二十七條　瓦斯ノ取付工事費左ノ如シ

一　普通工事費　一口ニ付金一圓

二　導管延長七十呎以上ニ渉ルモノ又ハ機替其ノ他特種ノ工事ヲ要スルモノハ相當費用ヲ徵收ス

三　發動機ハ工事ノ模樣ニ依リ相當費用ヲ徵收ス

第二十八條　燈具、炊具、計量器ノ變更又ハ家屋修繕ノ爲設備ノ取除若ハ取付ヲ要スルトキハ一口毎ニ金五十錢ヲ徵收ス

第二十九條　臨時ニ瓦斯ヲ使用セムトスルトキハ相當費用ヲ徵シ之ニ應スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正七年七月六日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣瓦斯株式會社ノ瓦斯使用者ニシテ引續瓦斯ヲ使用スル者ハ本令施行ノ際ニ限リ特ニ使用申込ヲ要セス

年別索引

年別索引

明治三年

太政官

布 正二十九日 忌濟ノ節除服出仕宣下ヲ止メ忌濟ノ日ヨリ出仕セシムルノ件……(一) 二七

明治四年

太政官

達 五十四月日 奏任官以上天機伺並任敍御禮申上方……(一) 三三
達 十八四月日 奏任官以上天機伺並任敍御禮申上方……(二) 三三

明治五年

太政官

布 五六 産穢憚ルニ及ハス……(一) 二六

明治六年

太政官

布 四二 除服出仕者御祭典奉仕參拜憚ルニ及ハス……(一) 二三
布 五二 各省奏任官除服出仕達方……(一) 二七
布 六一 自今混穢ノ制廢サル……(一) 二六
布三四七 遠地出張在勤官吏忌服中出仕方……(一) 二七

明治七年

太政官

布一〇八 服忌令京家ノ制及産穢混穢廢止……(一) 二六

明治八年

太政官

布 五四 勳章從軍記章制定……(三) 一
達 一〇 地方官員除服出仕方……(一) 二七
達 一七 諸布達ニ八平易ノ文字ヲ用ヰシム……(四) 五

達 九七 大勳位菊花大綬章以下各種略綬圖式……(三) 四

明治十一年

太政官

布 三六 帶勳有位者新年紀元節天長節參賀方……(一) 二二

明治十二年

太政官

達 四 各廳技術工藝者就業上死傷手當內規……(三) 二〇

明治十四年

太政官

布 六三 褒章條例……(一) 八

明治十五年

太政官

布 三六 戒嚴令……(一) 六
布 四三 徵發令……(一) 六
布達二六 徵發事務條例……(一) 七
達 六七 巡査同樣ノ働ヲ爲シ死傷シタル者ニ弔祭扶助療治料支給方……(一) 八

明治十七年

宮內省

達乙 三 非役從六位以上同勳六等以上ノ報賢所皇靈神殿祭典ノ節參拜差許……(一) 二三

明治十八年

太政省

布 一三 預金規則……(一〇) 二九
達 一六 文官傷痍疾病等差例……(一〇) 二九

明治十九年

內閣

令 二三 傳染病豫防等ニ從事シタル官吏感染又ハ死亡ノトキ手當給與方……(三) 三

明治二十年

勅令

勅 一〇 敍位條例……(三) 一
勅 一六 黃綬褒章臨時制定ノ件……(三) 一九
勅 三九 官吏服務紀律……(一) 一九
勅 四二 逃亡犯罪人引渡條例……(五) 四

明治二十一年

詔勅

詔 勳章增設ノ詔……(三) 六

勅令

勅 一 勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式……(三) 六

內閣

令 二一 勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣……(三) 六

明治二十二年

法律

法 一 徵兵令……(一一) 一七
法 二五 海軍軍人軍屬逢警罪處分例……(一三) 二三

勅令

勅 八四 物品會計規則……(一〇) 一〇一

內閣

令 一二 歲入歲出豫算概定順序……(一〇) 二九
令 一九 豫定經費算出概則……(一〇) 二九

內務省

訓 二五 豫定經費算出方ノ件……(一〇) 二九

大藏省

訓 二二 歲入歲出豫算概定順序……(一〇) 二九

明治二十三年

詔勅

詔 金鵄勳章創設ノ詔……(三) 三

法律

法一　保管金規則……(一〇)　三三九
法二　軍港要港ニ關スル件……(一一)　四
法二九　民事訴訟法……(一三)　七〇
法四三　官吏恩給法……(三)　七三
法四四　官吏遺族扶助法……(三)　七三
法六四　民事訴訟費用法……(一三)　一〇五
法六五　民事訴訟用印紙法……(一三)　一〇五
法六六　商事非訟事件印紙法……(一三)　一〇六
法六八　判事懲戒法……(一)　一九七
法七二　銀行條例……(一五)　五六
法八三　軍港要港規則違犯者處分ノ件……(一一)　六
法九〇　市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法……(三)　八八
法九一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法……(三)　八五
法一〇五　訴願法……(一一)　一〇

勅令

勅一一　金鵄勳章等級製式及佩用式……(三)　三
勅六二　試補及判任官見習竝非職休職官吏ノ一年志願兵服役ノ件……(一一)　八四
勅九八　文官判任以上ノ者退官賜金ノ件……(三)　九四
勅一二五　官吏遺族扶助法納金收入規則……(一〇)　三二
勅二一八　稅關監吏賞罰規則……(一)　一九一
勅二六〇　判事檢事及裁判所書記制服……(三)　一四

內閣

令三　官吏恩給法施行規則……(三)　七四
令四　官吏遺族扶助法施行規則……(三)　七六
訓八　官吏恩給法及遺族扶助法在官年數及恩給扶助料ノ年額計算書書式……(三)　八二

明治二十四年

勅令

勅二七　宿直等ノ者ニ食料給與竝特別用文具備付ニ關スル件……(一)　一三〇
勅二四八　府縣郡市町村制不施行地方ニ於テ學校職員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律施行ニ關スル件……(三)　九〇

內閣

令二　行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續……(三)　八二

明治二十五年

法律

法五　海上衝突豫防法……(一六)　一五〇

勅令

勅五　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則……(一〇)　三三
勅一八　市町村立小學校教員退隱料等ノ支給ニ關スル在職年數算定ノ件……(三)　八九
勅三二　府縣立師範學校及公立中學校市町村立小學校職員退隱料遺族扶助料ニ關スル行政訴訟方……(三)　九〇
勅八〇　官吏療治料給與ノ件……(三)　二〇

大藏省

令二一　文官俸給支給細則……(一)　二四

明治二十六年

法律

法七　辯護士法……(一一)　五

勅令

勅七　傭員等俸給及諸手當支給方……(一)　二六
勅一九八　官吏ノ勤續ニ關スル件……(一)　一九〇
勅二六一　政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規定……(一三)　一五五

宮內省

達乙七　新年紀元節天長節ニ參賀、賀表差出方ノ件……(一)　三二

明治二十七年

勅令

勅二二　府社縣社以下ノ神職ニ關スル件……(一)　五〇
勅一九三　金鵄勳章叙賜條例……(三)　一六

內閣

令一　褒章條例取扱手續……(三)　一九

明治二十八年

法律

法一四　質屋取締法……(八)　六六

勅令

勅七一　傳染病豫防救治從事ノ官吏准官吏及傭員手當金支給ノ件……(一)　一三
勅一一一　憲兵上等兵待遇ノ件……(一)　八八
勅一六七　標準時ニ關スル件……(四)　六九

大藏省

訓二〇　出納官吏保管現金(金庫)ヘ寄託セシトキ登記方……(一〇)　二〇九

臺灣總督府

訓一〇　警察官吏服務心得……(八)　三五

明治二十九年

法律

法一三　公立學校職員退隱料等ニ關スル法律……(三)　八八
法二七　登錄稅法……(一〇)　三二
法三六　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則……(三)　七六
法七八　臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ件……(三)　八四
法八九　民法第一編第二編第三編……(一三)　二

勅令

勅八六　臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件……(一)　二
勅一〇二　囑託員及雇員使用竝技師技手俸給支出ノ件……(一)　九七
勅一六七　會計法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇)　一六四
勅一八〇　臺灣總督府雇員傭員死歿傷痍疾病手當規則……(三)　一三
勅一八一　臺灣總督府雇員傭員食料補給ノ件……(一)　一二九
勅二七八　臺灣總督府所屬稅關監吏、巡査及看守等銃器携帶ノ件……(八)　九三

勅二九二　法律命令ノ臺灣ニ於ケル施行期限ニ關スル件……(四)　三
勅三〇六　陸軍通譯生ニ關スル件……(一)　八九
勅三一一　臺灣官有森林原野及產物特別處分令……(九)　三
勅三六六　典獄典獄補看守長服制竝提燈徽章……(三)　一八

外務省

告一　條約諸外國人臺灣ニ通商航海方……(五)　二

拓殖務省

訓一六　會計規則取扱ニ關スル件……(一〇)　一九三
訓一七　收入官吏月計對照表歲入金突合表證明方分任收入官吏歲入金突合表調理方出納官吏交替ノトキ金庫ニ通知方等ノ件……(一〇)　一六〇

臺灣總督府

律三　臺灣總督府非常通信規則……(一六)　六八
令九　製茶稅則……(一〇)　六〇
令一〇　臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則……(八)　八
令二三　納租ニ關スル庫平兩換算方……(一〇)　二九
令二六　臺灣總督府非常通信規則施行細則……(一六)　六九
令四四　臺灣官有森林原野產物賣渡規則……(九)　三六
令四七　臺灣官有森林原野貸渡規則……(九)　三五
令五〇　臺灣紳章條規……(三)　八
令五一　軍人警察官等制服著用ノトキ橋梁渡津及道路ノ賃錢ヲ要セサル件……(一六)　九二
訓一九　囑託員雇員傭員給與規則……(一)　一三五
訓四七　沿海開港外ニ起リタル事件稅關ニ急報事項……(八)　一三四
訓九二　臺灣總督府競爭契約施行規則……(一〇)　二二一
訓一二九　臺灣總督府飛信規則……(一六)　六九
訓一五九　臺灣總督府管內旅行里程計算方……(一)　一三三
訓一六〇　臺灣駐在陸軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得……(一)　二三五
告一〇　臺灣總督府郵便電信徽章……(三)　四五
日二〇　臺灣上陸內地人乘載船舶ノ船長屆出方……(八)　五一

明治三十年

法律

法二　臺灣總督府特別會計法……(一〇)　一九三
法一五　保稅倉庫法……(一〇)　三一
法一六　貨幣法……(一〇)　三二一
法三八　臺灣銀行法……(一五)　七四

勅令

勅九　臺灣ニ於ケル貨幣及銀行其他ニ關スル事務主管ノ件……(一)　二
勅二七　臺灣總督府特別會計規則……(一〇)　一九三
勅八六　巡査同樣ノ働ヲ爲シ死傷シタル者ニ關スル太政官達ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　二五
勅一〇一　戒嚴令ヲ臺灣ニ施行ノ件……(一一)　六
勅一一八　特別會計第一豫備金支出ニ關スル件……(一〇)　二四二
勅一四三　朝鮮臺灣滿洲樺太竝在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則……(三)　二五
勅一四四　貨幣法ニ依ル貨幣ノ形式……(一〇)　三二
勅一七四　臺灣鐵道會社保護ニ關スル件……(一〇)　三九
勅三六二　臺灣總督府官制……(一)　一
勅三八九　臺灣ノ鐵道起業者ニ土石竹類無償下付ノ件……(一〇)　三九

陸軍省

令二　臺灣朝鮮、樺太竝在外陸軍雇員傭人死傷手當金給與細則……(三)　二五

海軍省

令五　臺灣朝鮮、樺太竝在外海軍雇員傭人死傷手當金給與細則……(三)　二六

拓殖務省

訓五　臺灣經費取扱順序……(一〇)　二四二
訓六　臺灣總督府特別會計ニ屬スル返納告知書記載方……(一〇)　一九三
告六　新高山命名……(九)　一

臺灣總督府

律二　臺灣阿片令……(一〇)　一三
令八　臺灣中央衞生會規則……(一)　二
訓一三　支出命令委任ヲ受ケタル官吏死亡轉免ノ場合後任者心得……(一〇)　二四二
訓一五　教育ニ關スル勅語漢譯文……(四)　一
訓三九　監獄內傳染病豫防心得……(一三)　二五
訓七六　森林主產物賣渡處分簿ニ關スル件……(九)　二七
訓八二　傳染病流行ノトキ通報方……(八)　二
訓九七　租稅下戾其他收入拂戾ニ關スル件……(一〇)　二四二
訓一二〇　特別文具備付規則……(一〇)　二〇八
訓一四五　官民有區分査定未濟ニ係ル土地建物所屬決定ノ件……(一〇)　三九
告六二　警報信號標建設……(四)　七〇
告七四　警報信號標建設……(四)　七〇

明治三十一年

法律

法九　民法第四編第五編……(一三)　二六
法一〇　法例……(四)　一
法一一　民法施行法……(一三)　一〇六
法一三　人事訴訟手續法……(一三)　一〇九
法一四　非訟事件手續法……(一三)　一一三
法一五　競賣法……(一三)　一三
法二一　外國人養子、入夫ニ關スル法律……(一三)　一四五

勅令

勅一一　臺灣總督府巡査ノ防水布製外套ニ關スル件……(三)　一三
勅六八　臺灣總督府判任文官通譯兼掌者手當支給ノ件……(三)　一三
勅九〇　閏年ニ關スル件……(四)　六九
勅一一一　臺灣總督府醫院官制……(一)　三九
勅一一二　臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制……(一)　三八
勅一一八　臺灣總督府警察官及司獄官練習生ニ手當金及旅費支給ノ件……(一)　一三五
勅一六一　法例ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(四)　一
勅一八一　臺灣總督府各官廳ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件……(一三)　一五五
勅二〇五　銀行條例ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一五)　五六
勅二一三　關稅定率法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇)　八〇
勅三三二　看守給與品及貸與品規則……(一)　一三八
勅三三七　憲兵條例……(一)　八七

內閣

令三　各官廳執務時間ニ關スル件……(一)　二〇二
令四　地方官員除服出仕方……(一)　三七

內務省

訓一六　歲入歲出年度科目所管廳誤記訂正手續……(一〇)　一九四

臺灣總督府

律　二　刑事判決ノ正本謄本又ハ抄本手數料……(三)　二一五
律　四　臺灣船籍規則……(六)　一二四
律　七　臺灣總督府法院執達規則……(三)　二
律　一六　臺灣總督府法院條例……(一)　二
律　一八　臺灣總督府法院判官懲戒令……(一)　一九七
律　二一　保甲條例……(七)　三七
律　二四　匪徒刑罰令……(三)　二二二
律　二六　保稅倉庫ニ關スル律令……(一〇)　一三一
令　一〇　臺灣阿片令施行規則……(一〇)　一三三
令　二〇　船乘業者傭入【清國】人ノ上陸ニ關スル件……(五)　三
令　二六　臺灣航路標識規則……(六)　一四九
令　三五　臺灣船籍規則施行細則……(六)　一二四
令　三七　臺灣總督府法院執達規則施行細則……(三)　二
令　四九　臺灣總督府警察官及司獄官練習所規則……(一)　三八
令　五一　火藥類鐵道運送條規……(六)　一〇三
令　六五　臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則……(一)　一四〇
令　七二　人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於ケル住所地指定……(三)　一五五
令　七三　人事訴訟手續法第三章ニ依ル公告手續……(三)　一五五
令　七五　私書證書ニ確定日附請求手數料……(三)　一三三
令　八二　諸學校、郵便局等名稱位置管轄區域告示ノ件……(四)　四
令　八七　保甲條例施行規則……(七)　三七
令　九三　訴訟書類郵便送達手數料……(三)　一五五
令　九九　內地ノ船籍ニ屬スル西洋形船居出ノ件……(六)　一五六
令　一〇一　官署ニ差出ス文書及公事ニ關スル書類ニ稱號禁止ノ件……(四)　五
令　一一二　船舶用國旗……(一六)　一二八
訓　二〇　阿片特許營業者禁停報告方……(一〇)　一三四
訓　三六　臺灣總督府所屬官吏遺族扶助法納金收入取扱手續……(一〇)　二二一
訓　三七　官廳ニ於テ森林原野及產物使用方……(九)　三七
訓　四一　軍艦商船危難救護ノ件……(三)　六一
訓　五二　密輸入貨物報告方……(八)　一三四
訓　八七　船乘業者傭入【清國】人上陸許可取扱方……(五)　三
訓　八八　銃砲販賣者氏名報告方……(八)　九三
訓　一一〇　阿片特許料臺帳整理手續……(一〇)　一三四
訓　一三四　郵便遞送車竝郵便鐵道郵便車ノ郵便旗……(二)　四五
訓　一三七　外國人臺灣內旅行券下付手續……(五)　一
訓　一四一　郵便物保護短銃規則……(一六)　二四
訓　一七一　臺灣總督府警察官及司獄官練習所長職務章程……(一)　二〇五
訓　一七八　法院、醫院歲入調定事務及收納監督分掌ノ件……(一〇)　二三三
訓　一八八　鐵道各驛間使用電線不通ノ際至急局報ニ準シ取扱方……(一六)　三七
訓　二三四　醫院歲入調定額計算書提出方……(一〇)　二二三
訓　二四三　郵便函保護者手當支給ノ件……(三)　二〇
訓　二六九　調査掛規程……(一)　五
訓　三三二　清國郵便切手貼用郵便物處理方……(一六)　三三
告　七　警報信號標建設……(四)　七〇
告　三八　臺灣總督府醫院名稱位置……(一)　二九
告　九九　本島支那形船福州入港手續……(一六)　一五六

明治三十二年

法律

法　一五　供託法……(三)　二〇四
法　一九　海港檢疫法……(八)　二四
法　二四　不動產登記法……(三)　一七六
法　三九　著作權法……(四)　九
法　四〇　失火ノ責任ニ關スル法律……(三)　一四四
法　四八　商法……(三)　四〇
法　四九　商法施行法……(三)　二三三
法　五〇　外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律……(三)　二三六
法　五三　銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ノ法律……(三)　一四四
法　五四　印紙稅法……(一〇)　五八
法　六一　關稅法……(一〇)　七四
法　六六　國籍法……(三)　一四四
法　六七　外國人ノ抵當權ニ關スル增加競賣ノ件……(三)　二三六
法　六八　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法……(三)　一四五
法　八七　遺失物法……(八)　五五
法　八八　噸稅法……(一〇)　七二
法　九三　行旅病人及行旅死亡人取扱法……(三)　六一
法　九四　國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律……(三)　一四五
法　九五　水難救護法……(三)　五八
法　一〇四　軍機保護法……(三)　二三三
法　一〇五　要塞地帶法……(一一)　一

勅令

勅　三九　臺灣總督府文官服制……(二)　一
勅　四〇　臺灣總督府囑託員及公醫疾病死傷手當支給ニ關スル件……(三)　二五
勅　六二　文官分限令……(一)　一八九
勅　六三　文官懲戒令……(一)　一九六
勅　一九六　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定ノ件……(三)　八六
勅　二〇一　公立學校職員退隱料等ニ關スル法律施行ニ關スル件……(三)　九〇
勅　二〇五　登錄稅法施行規則……(一〇)　一三六
勅　二七七　行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件……(三)　六二
勅　二八九　失火ノ責任ニ關スル法律、銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律、國籍法、外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法及國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三)　一四三
勅　二九〇　特許法意匠法及商標法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一五)　二四
勅　三〇〇　臺灣總督府法院檢察官任用ノ件……(一)　一六九
勅　三〇一　著作權法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(四)　八
勅　三〇二　遺失物法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(八)　五五
勅　三一九　關稅法施行規則……(一〇)　七七
勅　三二二　登錄稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇)　一三二
勅　三二四　臺灣總督府法院判官檢察官及書記服制……(三)　一四
勅　三三五　海軍監獄官制……(一)　九〇
勅　三五二　居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル件……(五)　二
勅　三六五　行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　六一
勅　四〇〇　臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニ巡查及看守ヲ置クヲ得ルノ件……(一)　三九
勅　四〇一　臺灣總督府警察官及司獄官練習生俸給ニ關スル件……(一)　一二〇
勅　四〇二　警察賞與規則……(三)　一九
勅　四二六　臺灣總督府鐵道部官制……(一)　三一
勅　四三四　傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ關スル件……(八)　二二

內務省

令　四二　居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル件施行細則……(五)　二
令　五四　「ペスト」豫防ノ爲輸入禁止ノ物件……(八)　二

司法省

令　七　確定日附簿及日附アル印章調製方……(三)　一三三
令　一一　不動產登記法施行細則……(三)　一八五
令　一三　商業登記取扱手續……(三)　一九五
令　一五　法人及夫婦財產契約登記取扱手續……(三)　一九九
令　三五　船舶登記取扱手續……(三)　一九三

遞信省

令　一九　商法第五百六十二條中ニ揭クル書類ノ件……(三)　一五三
令　三五　水難救護法施行細則……(三)　六〇

臺灣總督府

律　一　民事上ノ訴ニ關スル件……(一三)　一五五
律　四　臺灣獸疫豫防規則……(一五)　一五
律　六　臺灣下水規則……(九)　五八
律　七　臺灣食鹽專賣規則……(一〇)　一四三
律　一〇　臺灣汽船檢查規則……(一三)　一二九
律　一四　臺灣鹽田規則……(一五)　二四
律　二一　律令ノ規定ニ依リ適用スル法律ノ改正效力ノ件……(四)　三
律　二二　臺灣噸稅規則……(一〇)　七二
律　二五　海面ノ埋立及海埔浮洲ノ埋立開墾ニ關スル件……(九)　五
律　三〇　市區計畫上公用又ハ官用ノ目的ニ供スル爲豫定告示シタル地域內ニ於ケル土地建物ニ關スル件……(九)　七
律　三一　臺灣羅災救助基金規則……(三)　五六
令　一二　收入印紙貼用方……(一〇)　二三六
令　一七　臺灣總督府文官服制施行規則……(二)　五
令　一九　總督府ニ差出ス願屆書等ハ管轄廳經由ノ件……(四)　五
令　三二　臺灣食鹽專賣規則施行細則……(一〇)　一四三
令　三六　臺灣獸疫豫防規則施行細則……(一五)　一五
令　三七　獸疫豫防費用負擔區分……(一五)　一八
令　四四　臺灣汽船檢查規則施行細則……(一六)　二三九
令　四七　社寺教務所說教所建立廢合規則……(六)　二
令　四八　臺灣下水規則施行細則……(九)　五八
令　五九　舊慣ニ依ル社寺廟宇等建立廢合手續……(六)　三
令　七一　外國人取扱規則……(五)　一
令　八三　土地登記簿建物登記簿及商業登記簿ノ閱覽、謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三)　一九八
令　八五　法人及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三)　一九九
令　八六　外國人ノ遺產保存處分ニ關スル手續……(一三)　一四五
令　九〇　臺灣噸稅規則施行細則……(一〇)　七二
令　九五　臺灣窮民救助規則施行細則……(三)　五五
令　九六　遺失物法施行細則……(八)　五六
令　九九　行旅病人死亡人取扱法中ノ職務執行及費途ニ關スル件……(三)　六二
令　一〇〇　行旅病人死亡人及同伴者取扱方……(三)　六二
令　一〇一　外國人タル行旅病人死亡人及同伴者取扱ニ關スル特例……(三)　六四
令　一二〇　關稅規則ニ基ク稅關官吏證票……(一〇)　七二
訓　一六　公文書類中月日時刻記載方……(四)　五
訓　三九　臺灣總督府統計材料調製竝提出期限……(四)　二〇
訓　一二五　臺灣總督府文官及臺灣駐在陸海軍軍人交禮心得……(一)　二二三
訓　一二八　醫學校歲入調定事務及收納監督分掌ノ件……(一〇)　二二三
訓　一三八　小包整理手續……(一六)　一六
訓　一三九　看守夏服日覆等供用期限……(一)　一二九
訓　一四五　臺灣總督府法院及檢察局事務章程……(一)　一三
訓　一四八　押丁給與品及貸與品規程……(一)　一二九
訓　一五四　臺灣駐在海軍軍人及臺灣總督府警察官吏交禮心得……(一)　二二五
訓　一六六　臺灣總督府郵便局船員及艀子服務規則……(一)　二〇一
訓　一九八　食鹽賣下手續……(一〇)　一四四
訓　二二〇　社寺、教務所、說教所及本島ノ舊慣ニ依ル寺廟、齊堂等又ハ神明會、祖公會等ノ建立、設立又ハ廢合等ニ關スル事項取扱方……(六)　三
訓　二三八　外國人登錄簿調製手續……(五)　一
訓　二四四　臺灣總督府巡查防水布製外套製方……(三)　一三
訓　二四六　食鹽取締規程……(一〇)　一四六
訓　二四七　登錄稅ヲ現金ニテ納付方……(一〇)　二七
訓　二八二　支廳設置認可稟申方……(一)　七二
訓　三〇五　差押食鹽整理手續……(一〇)　一四七
訓　三二一　憲兵巡察區域ニ關スル件……(一)　八八
訓　三五〇　在監人死者解剖ノ件……(一三)　二三八
告　五三　撲殺獸ニ對シ手當金下附標準額……(一五)　一八
告　一〇〇　獸疫豫防ニ關スル心得……(一五)　一八

明治三十三年

法律

法　一三　軍人軍屬ノ遺言確認請求ニ關スル件……(一三)　一三七
法　一五　飲食物其他物品取締ニ關スル法律……(八)　二七
法　一七　商法中署名スヘキ場合ニ關スル件……(一三)　一三七
法　三〇　傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル法律……(三)　二四
法　三四　產業組合法……(一五)　一二五
法　三五　重要物產同業組合法……(一五)　一一六
法　三六　治安警察法……(八)　四八
法　三七　感化法……(八)　一〇二
法　五二　法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタルトキ處罰法……(一〇)　一三一
法　五四　郵便法……(一六)　一
法　五五　郵便爲替法……(一六)　二
法　五六　鐵道船舶郵便法……(一六)　三
法　五九　電信法……(一六)　四
法　六五　鐵道營業法……(一六)　九三
法　六七　間接國稅犯則者處分法……(一〇)　一三六
法　六九　保險業法……(一五)　八三
法　七五　臺灣又ハ樺太在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件……(三)　八三
法　七六　朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於テ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律……(三)　八四
法　七七　臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料ニ關スル件……(三)　八四
法　八四　行政執行法……(八)　四五

勅令

勅　一二　臺灣總督府稅關監吏ノ賞罰ニ關スル件……(一)　一九一
勅　二一　海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一六)　一五〇
勅　五二　間接國稅犯則者處分法施行規則……(一〇)　一二七
勅　一三二　陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任用ノトキノ俸給支給方……(一)　一三
勅　一四一　傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料ニ關スル件……(三)　二五
勅　一七三　風土病及流行病ノ種類指定……(三)　八四
勅　二七三　准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任用ノ場合ニ於ケル諸給與及納金計算方……(一)　一二四
勅　二九二　傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　二四
勅　三二九　救恤寄附金保管出納ニ關スル件……(一〇)　三四二
勅　三三九　郵便法、郵便爲替法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一六)　一
勅　三五一　臺灣總督府文官特別徽章ニ關スル件……(三)　四四
勅　三五六　官廳用ノ電信電話ニ關スル件……(一六)　六七
勅　三五九　臺灣總督府監獄官制……(一)　四五
勅　三八〇　外國保險會社ニ關スル件……(一五)　一〇三
勅　四〇三　臺灣總督府臨時海港檢疫所官制……(一)　四五
勅　四〇四　公立學校職員退隱料等ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　八八

内務省

告八一　臺灣神社祭神……(六)　一

海軍省

令七　軍港要港規則……(一一)　四

司法省

令一八　相互保險會社登記取扱手續……(一三)　一九八

臺灣總督府

律一　外國人ノ土地取得ニ關スル律令……(一三)　一四七
律四　外國領事廳ノ登記簿謄本ノ效力等ニ關スル件……(一三)　一四六
律五　臺灣辯護士規則……(一三)　五
律七　蕃地ニ關スル件……(一三)　一四八
律一四　臺灣家屋建築規則……(九)　七
律一五　臺灣汚物掃除規則……(八)　二八
律一七　臺灣藥品取締規則……(八)　九
律二一　臺灣保安規則……(八)　四九
令三　外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ノ效力等ニ關スル律令施行細則……(一三)　一四六
令四　外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ノ效力ニ關スル律令ニ依ル登記簿ノ謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三)　一四七
令五　辯護士名簿登錄規則……(一三)　六
令六　辯護士職服規程……(一三)　七
令八　臺灣獸醫免許規則……(八)　八
令一七　臺灣船燈信號器及救命具取締規則……(一六)　一三三
令一九　臺灣出版規則……(八)　三三
令二〇　臺灣警報信號標規則……(一四)　七〇
令二六　食鹽請賣規則……(一〇)　一四〇
令六七　臺灣藥品巡視規則……(八)　一五
令八〇　郵便法、郵便爲替法、鐵道船舶郵便法、電信法及無線電信法施行ニ關スル件……(一六)　七
令八三　電信爲替別配達料……(一六)　七一
令一〇四　公稱馬力算定方法……(一三)　一三七
令一〇七　臺灣總督府鐵道部國代表ノ件……(一三)　一五五
令一〇九　臺灣汚物掃除規則施行細則……(八)　二八
令一一七　相互保險會社及相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三)　一九九
訓四　船舶搭載郵便物監査規程……(一一)　九五
訓二二　輸出入銀貨竝銀地金報告方……(一〇)　一三三
訓二七　食鹽收納賠償金交付手續……(一〇)　一四四
訓三五　看守押丁給與品中代料渡方……(一一)　一三九
訓四九　食鹽請賣鑑札下渡手續……(一〇)　一四五
訓五五　臺灣船燈信號器竝救命具試驗檢定及監査手續……(一六)　一五四
訓五七　學事報告方……(四)　二三
訓七〇　城壁管理方……(七)　三九
訓八八　稅關監吏補使用ノ件……(一一)　二四
訓八九　稅關監吏補給料支給規則……(一一)　一二七
訓九〇　稅關監吏補服制……(三)　二三
訓一四〇　臺灣總督府鐵道部歲入取扱規程……(一〇)　二三〇
訓一七〇　鐵道財產調査樣式……(一六)　一〇四
訓一八五　稅關監吏補賞罰方……(一一)　一九二
訓二二四　臺灣總督府稅關船長及機關士ノ職務取扱者服制……(三)　二三
訓二三五　司法警察官執務心得……(八)　三五
訓二七四　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及無線電信事務ニ關スル件……(一六)　七
訓二八二　電報局渡證票……(一六)　四一
訓二九二　郵便局所間ノ里程ニ關スル件……(一六)　二二
訓三〇四　電信爲替ニ關スル郵便別配達取扱手續……(一六)　七〇
訓三二六　小包郵便物棄却ノ際報告方……(一六)　一七
訓三三〇　郵便電信吏員等執務上不都合ノ所爲申告方局所前ニ掲示ノ件……(一六)　八
訓三三二　臺灣總督府鐵道部監査規程……(一六)　一〇四
訓三三七　臺灣官有林野事業豫定案編成規程……(九)　一九
訓三五三　物品出納計算ノ檢査成績報告ニ關スル件……(一〇)　二〇四
告五〇　警報信號標建設……(一四)　七〇
告一一二　海港檢疫ヲ受クル船舶汽笛吹鳴方……(八)　二六

明治三十四年

法律

法一三　砂糖消費稅法……(一〇)　三七
法三八　巡査看守退隱料及遺族扶助料法……(三)　九〇

勅令

勅一　防務條例……(一一)　一
勅七　遞信省部内ノ官吏ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シ又ハ陸海軍特設ノ事務ニ從事スル者ノ補闕ニ關スル件……(一一)　九七
勅四九　臺灣總督府稅關官制……(一一)　三三
勅一一六　臺灣總督府專賣局官制……(一一)　三一
勅一三二　軍機保護法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三)　二三二
勅一四〇　馬公要港境域……(一一)　五
勅一四八　巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令……(三)　九二
勅一四九　巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令……(三)　二三
勅一五〇　巡査看守退隱料及遺族扶助料法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　九〇
勅一五一　巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　二三
勅一五五　砂糖消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇)　二七
勅一九二　軍港要港ニ關スル法律及軍港要港規則違犯者處分法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一一)　四
勅二二六　寄附ニ關スル件……(一〇)　三三〇

臺灣總督府

律一　電信電話ノ犯罪ニ關スル律令……(一三)　二二
律三　臺灣土地收用規則……(九)　五
律六　臺灣公共埤圳規則……(九)　五三
律一一　臺灣汽船職員規則……(一六)　一三九
律一三　臺灣關稅規則ニ依ル訴願ニ關スル件……(一〇)　七三
令二　傳染病患者鐵道乘車規程……(一六)　一〇三
令五　臺灣囚人及刑事被告人押送規則……(一三)　二三〇
令一三　臺灣川石山間新聞電報送受ノ件……(一六)　二九
令一四　臺灣警察賞與規程……(三)　二〇
令一九　官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用ノ件……(一)　四九
令三八　軍役志願者規則……(一一)　一〇九
令四三　臺灣土地收用規則施行規則……(九)　五
令四六　臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則……(三)　八六
令四七　臺灣醫生免許規則……(八)　三
令五〇　臺灣總督府一、二等郵便局國代表ノ件……(一三)　一五五
令五七　臺灣土地收用規則施行地域……(九)　六
令五八　臺灣汽船職員試驗規程……(一六)　一四一
令六一　巡査看守退隱料及遺族扶助料取扱規程……(三)　九三
令六三　臺灣神社ニ守衛ヲ置クノ件……(一)　四九
令一〇三　臺灣總督ノ發スル命令公布式……(四)　四

令一〇九　學租財產管理及徵收竝支途ノ件……(七)　三九一
令一一一　臺灣沿海通航船取締規則……(一六)　一五五
訓四四　樟林仕立方標準……(九)　二七
訓九五　官幣大社臺灣神社處務規程……(一)　四九
訓一一〇　臺灣神社出仕以下命免方……(一)　一七六
訓一四七　臺灣神社神職以下俸給支給方……(一)　三一
訓一七一　臺灣總督府物品出納規程……(一〇)　二〇二
訓一七二　臺灣總督府物品出納規程施行細則……(一〇)　二〇三
訓一八二　樟腦製造用木竹等賣渡及使用ニ關スル件……(九)　三七
訓二〇四　臺灣總督府判任文官通譯兼掌者銓衡規程……(一)　一八一
訓二〇六　臺灣神社職員宿直料支給方……(一)　一三三
訓二〇八　樟樹及木竹賣渡處分ニ關スル登記方……(一〇)　一四一
訓二一一　臺灣神社宮司以下願屆書等進達方……(四)　五
訓二一七　官廳家屋モ家屋建築規則ニ準據スル件……(九)　八
訓二二二　臺灣土地收用規則施行ニ關スル取扱心得……(九)　六
訓二六三　臺灣公共埤圳規則施行規則取扱手續……(九)　五三
訓二八一　受退隱料扶助料巡査看守ヲ處罰ノトキ通知方……(一三)　二八
訓三〇九　女監取締給與品及貸與品規程……(一)　一四〇
訓三二九　亞米利加合衆國領土内渡航勞働者ニ外國旅行券下付取扱方……(五)　八
訓三五三　巡査看守在職年數及退隱料年額一時金若ハ扶助料年額計算書式……(三)　九三
訓三五五　臺灣總督府處務規程……(四)　五
訓三九六　臺灣總督府統計事務規程……(四)　二〇
訓四二三　臺灣總督府警察旗章及警察官提燈徽章……(三)　四四
訓四三一　【廳又ハ支廳】員派出所設置方……(一)　七一
訓四三五　食鹽監視員及監視員補使用ノ件……(一)　三三
訓四三六　臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補給料支給規則……(一)　一二六
訓四三八　臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補給與品貸與品支給規則……(一)　一三三
訓四四一　國稅統計臺帳及國稅統計内譯簿調製規程……(四)　二〇
訓四四八　臺灣總督府巡査考試規程……(一)　一九
告二　警報信號標建設……(四)　七〇
告一七　警報信號標建設……(四)　七〇
告三一　英國政府及米國政府ニ於ケル日本船舶登簿免狀等ニ關スル件……(一六)　一三七
告四五　警報信號標建設……(一四)　七〇
告一〇三　臺灣神社大祭日……(六)　一
告一〇六　警報信號標建設……(一四)　七〇
告一一〇　官幣大社臺灣神社徽章……(三)　四四

明治三十五年

法律

法一三　臺灣官設鐵道用品資金會計法……(一〇)　一九五
法二九　臺灣在勤巡査、看守、陸軍監獄看守、陸軍警手、女監取締退隱料及遺族扶助料ニ關スル件……(三)　九三
法四四　骨牌稅法……(一〇)　一五五
法四九　國勢調査ニ關スル件……(四)　一〇
法五〇　年齡計算ニ關スル法律……(一三)　一四八

勅令

勅五　政府所管不動產登記囑託ニ關スル件……(一三)　一八九
勅二七　官國幣社職制……(一)　四九
勅二八　官國幣社及神宮神部署神職任用令……(一)　一七一
勅三九　臺灣官有財產管理規則……(一〇)　三一七
勅一四〇　臺灣官設鐵道用品資金會計規則……(一〇)　一九五
勅一四八　海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三)　二三
勅一五七　風土病及流行病ノ種類指定……(三)　九三
勅一六一　骨牌稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇)　一五五
勅二一八　臺灣總督府稅關職員服制……(一)　一九

内閣

告二　大勳位菊花章頸飾略章圖式及佩用方……(三)　一三

臺灣總督府

律五　臺灣糖業獎勵規則……(一五)　一九
律八　臺灣汽船職員懲戒規則……(一六)　一四四
令二〇　官有森林原野產物賣渡及官有森林原野貸渡極印規則……(九)　三七
令二二　臨時海港檢疫所ニ於テ消毒ヲ要スル船舶ニ關スル件……(八)　二七
令二三　帝國政府ト瑞典及諾威兩國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規……(一六)　一三七
令二九　臺灣汽船職員試驗規程中官吏公吏證明書ノ件……(一六)　一四
令四三　臺灣糖業獎勵規則施行細則……(一五)　二〇
令四七　骨牌稅法施行細則……(一〇)　一五六
令六六　登記施行手續ニ關シ府令ノ規定ニ依リ適用スル司法省令ノ改正ニ關スル件……(四)　三
令七一　電氣事業取締方……(一六)　一六二
令七三　臺灣總督府直轄學校留學生規則……(一四)　六三
令七五　臺灣土地收用規則施行地域……(九)　六
令八〇　本島人亞米利加合衆國及其領土内渡航證明規則……(五)　八
令八二　臺灣汽船職員懲戒取扱規則……(一六)　一四五
訓一二　稅務監査規程……(一)　九五
訓二六　郵便出張所印……(四)　五
訓三七　市内所屬ノ河津港灣ヲ市内ト看做ス件……(一六)　一五
訓五九　女監取締服制……(一)　四一
訓六七　郵便區畫ノ變更、郵便線路ノ開廢及郵便物遞送方法等ニ關スル件……(四)　四
訓七六　極印使用手續……(九)　三八
訓八八　制服ヲ著用セサル遞送人集配人鑑札携帶ノ件……(三)　四四
訓一〇一　臨時海港船舶檢疫手續……(八)　二七
訓一一八　通信事業及事務用物品交付規程……(一〇)　二〇六
訓一三九　遞信省公達遞送人服務規則中準用セサル件……(一六)　一一
訓一六一　臺灣官設鐵道用品資金歲入取扱規程……(一〇)　一九五
訓一八〇　臺灣神社神職其職務上ノ書類ニ職印押捺ノ件……(四)　五
訓一八二　骨牌稅法取扱心得……(一〇)　五八
訓二〇〇　變死傷者檢視手續……(八)　三四
訓二一七　郵便行囊主管局名及主管區域……(一六)　二四
訓二二一　臺灣神社神職出張方……(一)　五〇
訓二四一　郵便舟車ニ郵便旗掲揚ノ件……(三)　四五
訓二四二　受退隱料者ヲ巡査看守ニ採用ノトキ通報方……(三)　九三
訓二四五　行旅病人死亡人及其同伴者取扱手續……(三)　六三
訓二七三　現員現給額調提出方……(四)　二一
訓二七四　特別局報ノ外書面ヲ用フルノ件……(一六)　三七
訓二八二　汽船職員處罰ノトキ判決謄本送付方……(一三)　二八
訓二八九　臨時衛生事務講習規程……(一)　一八五
訓二九六　通信事業用物品共通保管規程……(一〇)　二〇七
訓二九九　受退隱料者採用ノトキ通報方……(三)　九〇
訓三一七　郵便電信現業雇員傭員制服帶具規則……(一)　一六一
訓三一八　郵便集配及遞送受負規則ニ依リ供出ス

ル集配人遞送人制服貸與規則……(一) 一四二
告三六 帝國船舶瑞典又ハ諾威ニ於テ取扱方……(一六) 一三七
告八二 警報信號標建設……(四) 七〇
告九九 電氣ニ關スル注意……(一六) 一六五
告一二二 巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依ル請求書式……(三) 九三
告一四九 米國領事館ニ於ケル渡航證明書査證手數料額……(五) 九
告一五四 臺灣總督府郵便出張所取扱事務……(一) 四三
告一五八 測候所名稱位置……(一) 八
告一五九 燈臺名稱位置……(一) 九
告一六三 一月一日ヨリ同十五日マテ郵便物中到著日附印ヲ押捺セサル件……(一六) 三

明治三十六年

法律

法五 粗製樟腦、樟腦油專賣法……(一〇) 一二四

勅令

勅一四 年齢計算ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三) 一四八
勅一四一 粗製樟腦、樟腦油專賣法ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏又ハ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏……(一〇) 一二五
勅一四二 樟腦、樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ爲スコトヲ得ヘキ港灣指定……(一〇) 一二五
勅一四七 臺灣總督府防疫事務官特別任用令……(八) 一六九
勅一五四 飲食物其他物品取締ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(八) 一七七
勅二〇二 外國人養子、入夫ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三) 一四五
勅二八五 初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件……(一) 一三

臺灣總督府

律一 銀行營業取締ニ關スル規則……(五) 七三
律四 歹錢輸入禁止ノ件……(一〇) 一三三
律一二 公證規則……(三) 六
律一四 通貨及證券模造取締規則……(八) 一〇一
令二 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令一三 郵便物特別交付方……(一六) 三
令一四 營利ヲ目的トセサル法人ノ設立及監督ニ關スル規程……(三) 一三三
令三八 拒絕證書作成ニ關スル手數料……(三) 一三三
令四七 銃獵取締規則……(五) 二四
令五九 銀行取締規則施行細則……(五) 七三
令六四 臺灣總督府專賣局國代表ノ件……(三) 一五五
令六六 粗製樟腦、樟腦油原料樟樹取締方……(一〇) 一四一
令六九 飲食物其他物品取締ニ關スル法律施行規程……(八) 一七七
令七八 船舶普通信號……(一六) 一二九
令八二 官有財產ニ關シ知事又ハ廳長取扱事項……(一〇) 三一九
令八四 公證官吏ノ職務執行ニ關スル抗告手續……(三) 八
訓一八 臺灣神社神職以下旅費支給方……(一) 一六二
訓二九 臺灣總督府警察警邏船員制服貸與規則……(一) 一四〇
訓三〇 海岸海面ニ土木工事施行ノトキ具申方……(九) 五
訓三六 在監人行狀勘査及賞譽規程……(三) 二一八
訓五一 臺灣窮民救助規則取扱手續……(三) 二五五
訓五三 臺灣總督府監獄作業規程……(三) 二二六
訓九七 保甲條例施行細則標準……(七) 三八
訓一一六 恩給誤拂返納金徵收ヲ要スル場合等取扱方……(一〇) 二六〇
訓一一九 地方稅仕拂計算書ノ證明方……(七) 九七
訓一三一 職員懲戒例……(一) 一七九
訓一四七 勅任官及有爵位勳功者竝奏任官及帝國議會議員犯罪ノトキ起訴方……(三) 二二六
訓一七〇 本島人職員現在數調提出方……(四) 二二
訓一七三 臺灣總督府統計講習規程……(一) 一八四
訓一八〇 官廳電氣事業取締方……(一六) 一六二
訓一八三 監獄押丁ヲ看守練習生ニ採用ノ件……(一) 一七四
訓一八五 郵便物臨時遞送ノ方法ニ關スル件……(一六) 二二
訓一八七 官有神社地及神社所有地取扱方……(一〇) 二〇〇
訓一八八 臨時防疫課設置……(一) 三
訓二四五 公證官吏ノ取扱フヘキ見出帳……(三) 八
告一二二 臺灣總督府殖產局度量衡所分室設置……(一) 七

明治三十七年

法律

法一七 記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル件……(三) 一四八

勅令

勅一九 軍事郵便物ニ關スル件……(一六) 六九
勅三三 戰時又ハ事變ニ際シ召集ノ巡査看守休職ノ件……(一) 一九〇
勅一一八 臺灣小學校教員及臺灣公學校教員免許令……(四) 五八
勅一一九 臺灣小學校又ハ臺灣公學校教諭任用ノ件……(一) 一七二
勅一二〇 臺灣小學校又ハ臺灣公學校教諭失職及退官ノ件……(一) 一九〇
勅一三五 鐵道部官吏戰時事變ノ際所屬部局以外ニ於テ臨時遞信事務又ハ陸海軍特設事務ニ從フ者補闕ノ件……(一) 九七
勅一四七 記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行ノ件……(三) 一四八
勅一六五 郵便ニ依ル輸入物品ノ內國稅ニ關スル件……(一〇) 七
勅一九七 海軍軍人軍屬違警罪處分例ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三) 二三一
勅二〇六 文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件……(一) 一一三
勅二三三 國民兵役中召集セラレタル者及國民軍編入志願者ニ關スル件……(一一) 九九

大藏省

令四六 事業公債證書額面種類……(一〇) 三三一

臺灣總督府

律二 利息制限規則……(三) 一四八
律三 【廳長】ヲシテ民事爭訟調停等ヲ取扱ハシムル件……(三) 二〇三
律四 犯罪卽決例……(三) 二二九
律一〇 出典地業主權ニ關スル件……(三) 一四八
律一二 臺灣地租規則……(一〇) 九
令六 公證規則施行細則……(三) 七
令七 製腦用物件中使用未濟ノ分處分方……(一〇) 一四一
令一二 縣社以下神社神職任用規則……(一) 一七三
令一三 臺灣公共埤圳規則施行規則……(九) 五三
令一五 臺灣官有森林原野及產物特別處分令ニ依ル知事又ハ廳長取扱事項……(九) 三一
令一六 軍事郵便取扱方ニ關スル件……(一六) 七〇
令三四 【廳長】ヲシテ民事訴訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則……(三) 二〇三

令四〇 臺灣鹽田規則施行細則……(一五) 二四
令四七 地方法院【出張所】ノ豫審ヲ經タル刑事事件審判ニ關スル件……(一三) 一
令五五 體刑囚人處遇規則……(一三) 二三六
令五七 臺灣慈惠院規則……(三) 二五五
令六八 支那勞働者取締規則……(五) 二
令七〇 【廳令】公布式……(四) 四
令七二 收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手數料種目……(一〇) 二三五
令七三 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
訓一 臺灣總督府巡査點檢規程……(八) 四一
訓三 臺灣總督府警察操典……(八) 四一
訓八 官有地地盤丈量尺度及地積ノ名稱命位……(一〇) 三一九
訓一四 臺灣總督府稅關分課規程……(一) 二四
訓一八 埤圳工事ニ關シ吏員派遣ヲ請フ者アルトキ取扱方……(九) 五六
訓二七 郵便局所視察規程……(一) 九二
訓五六 工事ニ關シ知事又ハ廳長ニ於テ許可ヲ爲ス場合認可ヲ受クヘキ件……(一〇) 二二三
訓六四 政府保管ノ物品出納ニ關スル件……(一〇) 二〇三
訓六七 軍事郵便物ノ取扱方ニ關シ遞信省公達準用ノ件……(一六) 七〇
訓八八 會計檢査規程……(一〇) 二〇一
訓九五 郵便ニ關スル料金ノ未納不足處理手續……(一六) 一三
訓一〇三 集配遞送受負規程……(一六) 一九
訓一〇六 臺灣土地測量標取扱規程……(九) 一四
訓一一六 郵便區劃……(一六) 一五
訓一二〇 特別採用巡査學術試驗手續……(一) 一九
訓一二一 民事爭訟調停等ニ要スル帳簿樣式……(三) 二〇四
訓一二二 犯罪卽決例施行手續……(三) 二三〇
訓一四三 臺灣總督府警察官吏非常召集規程……(八) 四三
訓一四五 臺灣總督府管內陸路里程……(一六) 九二
訓一七二 退隱料ヲ受クル巡査看守ヲ卽決シタルトキ通知方……(三) 二三〇
訓一八九 無料取扱通常爲替……(一六) 七〇
訓二一四 卽決官署拘置ノ被告人正式裁判ノ申立ヲ爲シタルトキ取扱方……(三) 二二三
訓二二四 臺灣公醫服制……(二) 四四
訓二二九 物品會計官吏ノ物品及帳簿檢査ノ件……(一〇) 二〇四
訓二四二 支那勞働者取締規則施行細則……(五) 三
訓二四六 紫色鉛筆取締方……(八) 一七
訓二五九 海技免狀ヲ有スル汽船職員ヲ卽決シタルトキ通知方……(三) 二三〇
訓二六〇 臺灣總督府法院及檢察局記錄保存規程……(四) 六
訓二六五 犯罪人名簿調製手續……(三) 二一七
訓二八九 集配人遞送人服務規則違背處分手續……(一) 一九八
訓二九七 遞信省公達中郵便引受帳登記省略ニ關スル規程ヲ準用セサル件……(一六) 二
告一四二 東京帝國大學農科大學演習林區域……(九) 四〇

明治三十八年

法律

法二三 郵便貯金法……(一六) 六
法五二 擔保附社債信託法……(五) 一〇七
法五四 工場抵當法……(三) 一四八
法六三 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法……(三) 一
法六六 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律……(三) 二二一

勅令

勅三一 服制ノ地質ニ關スル件……(二) 四
勅四三 戰時、事變ニ際シ臨時特設部局又ハ陸海軍部隊ニ屬スル文官補缺ノ件……(一) 九七
勅五七 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行ノ件……(三) 二二一
勅一五三 國民兵役者服役及召集ニ關スル件……(一一) 九九
勅一六五 郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一六) 六
勅一六六 郵便貯金利子割合……(一六) 七七
勅一七八 保管金規則ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇) 三三九
勅一七九 受恩給者召集中手當支給ノ件……(一) 一一三
勅一九〇 實用新案法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一五) 二三六

大藏省

令三五 擔保附社債信託法施行細則……(一五) 二二

臺灣總督府

律一 臺灣煙草專賣規則……(一〇) 一四七
律一〇 刑事訴訟特別手續……(三) 二二四
律一一 法廷取締等ニ關スル件……(三) 一
令二 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令二〇 臺灣煙草專賣規則施行規則……(一〇) 一四八
令二七 懸賞又ハ富籤類似其他射倖的方法取締ノ件……(八) 五三
令三八 製糖場取締規則……(一五) 二四
令四〇 郵便貯金法施行ニ關スル件……(一六) 七
令四一 電線移轉方出願ノ件……(一六) 四三
令四六 建物船舶登記照合用印鑑屆出方……(三) 一九〇
令五七 臺灣總督府監獄國代表ノ件……(三) 一五五
令五九 粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則……(一〇) 一三五
令六三 官廳用軍用及私設電線ノ保守竝電池掃除依託規則……(一六) 六七
令六七 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令七二 蕃地取締規則……(八) 五一
令七七 給葉書發行方……(一六) 二八
令七八 臺灣汽船職員規則施行細則……(一六) 一四〇
令八一 保正甲長徽章……(二) 四六
令八四 神社、寺院、寺廟等ノ所屬財產處分方ニ關スル件……(六) 三
令九三 戶口規則……(三) 一五五
訓四 印鑑取扱手續……(四) 五
訓八 沒收ニ係ル物品中練習所ニ引渡ノ件……(三) 二八
訓一一 土木及營繕事業視察規程……(一) 九三
訓二四 殖產局直轄事業ニ關スル人夫規程……(一) 九
訓三四 命令航路業務監査規程……(一六) 一五六
訓四〇 人事事項委任規程……(一) 二〇四
訓九二 約束郵便物ニ關スル件……(一六) 一五
訓一四〇 土地調査局調製各種地形圖訂正補足ニ關スル件……(九) 二
訓一四六 地籍ニ關スル土地測量及面積算定方……(九) 一
訓一四八 電報配達地名表調製規程……(一六) 四一
訓一五七 收入印紙貼用書類取扱方……(一〇) 二三六
訓一七四 專賣規則違犯ニ依リ沒收シタル物件取扱方……(三) 二八
訓一九〇 輕便鐵道郵便取扱規程……(一六) 一七
訓一九二 地租異動其他報告方……(一〇) 二九
訓一九九 粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則取扱心得……(一〇) 一三九
訓二〇二 人口動態報告規程……(四) 二〇
訓二三三 臺灣總督府專賣局分課規程……(一) 三二
訓二三四 大清潔法施行規程……(八) 二八
訓二三八 國庫經濟ニ關スル用途指定ノ勞力及工事材料ノ寄附整理ニ關スル件……(一〇) 三二一
訓二四〇 蕃地勤務者ノ食料品官費輸送ノ件……(一) 一三三
訓二四二 監獄所用ノ帳簿諸表及其樣式ニ關スル規程……(三) 二三九
訓二四五 臺灣居住ノ豫備役後備役將校其他ノ差出シタル勤務演習應召ニ關スル屆書取扱方……(一一) 九三

訓二四九 樟腦及樟腦油製造特許取扱手續……(一〇) 一四〇
訓二五五 戸口調査規程……(一三) 一六八
訓二五七 臺灣地方稅物品會計規程……(七) 七九
訓二五九 燈臺郵便局所間ノ電信電話同線障碍通報方……(一六) 四三
訓二六五 ペスト豫防ノ為亞砒酸使用ノ件……(八) 二
告三三 官鹽賣捌所名稱位置……(一〇) 一四五
告八四 總督府所管土地登記囑託ノ件……(一三) 一八九
告九五 布袋嘴警報信號標柱ノ件……(四) 七〇
告一〇一 保護鳥種類……(一五) 五五

明治三十九年

法律

法二五 鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル件……(一〇) 二四二
法三四 國債ニ關スル法律……(一〇) 三三六
法四七 醫師法……(八) 一
法四八 齒科醫師法……(八) 四
法五一 紙幣類似證券取締法……(八) 一〇一

勅令

勅二一一 明治三十七八年戰役ニ關スル一時賜金預託ノ件……(一〇) 三三九
勅二一二 行賞賜金ニ對シ特別郵便貯金通帳及特別證券保管帳交付ノ件……(一六) 九一
勅二二四 臺灣總督府鐵道部工場ニ於テ機械其ノ他ノ製作及修理ヲ引受クルヲ得ルノ件……(一) 三一
勅二三六 帝國關東州間通航船舶ニ關スル件……(一六) 一五五
勅二五九 巡査給與令……(一) 一二五
勅二六一 加工ノ為輸入スル物品ニ關スル件……(一〇) 一一三
勅二六二 關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅率ニ關スル件……(一〇) 一三〇
勅二七六 奏任及判任待遇監獄職員給與令……(一) 一一七
勅二九四 官設鐵道職員ニ宿舍料支給ノ件……(一) 一二九
勅三〇四 【清國】ノ生産ニ係ル物品ノ他輸入稅率ニ關スル件……(一〇) 一三〇
勅三一八 朝鮮、臺灣、樺太、支那等ニアル者ノ徴兵身體檢査ニ關スル件……(一一) 六三

大藏省

令二八 臺灣事業公債ノ變換アリタル場合一期分未滿ノ利子交付方……(一〇) 三二一
令三七 明治三十七八年戰役ニ關スル一時賜金預託竝取扱方……(一〇) 三三九

臺灣總督府

律一 臺灣種痘規則……(八) 二三
律二 臺灣浮浪者取締規則……(八) 五〇
律三 臺灣度量衡規則……(一五) 一四一
律九 支那人ヲ土地臺帳ニ業主トシテ登錄シタル場合ニ關スル件……(一三) 一四八
律一〇 臺灣鑛業規則……(一五) 二五
令二 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令四 臺灣種痘規則施行規則……(八) 三
令九 臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導退職、失職ニ關スル規則……(一) 一九〇
令一〇 臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則……(一) 一三〇
令三七 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令四二 印鑑規則……(四) 五
令四九 臺灣鑛業規則施行細則……(一五) 二七
令五〇 鑛業ニ關スル出願及申請手數料……(一五) 三六
令五二 郵便切手賣捌所ニ於テ差出人信託事務取扱方……(一六) 三
令五六 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 六
令六〇 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 七
訓三 政府保管印紙類及郵便切手類ノ國庫ニ歸屬シタル場合取扱方……(一〇) 三四二
訓一五 臺灣總督府監獄女監取締採用規程……(一) 一七四
訓一八 監獄授業手制帽給與規程……(一) 一四〇
訓二二 臺灣總督府監獄看守定員規程……(一) 四六
訓二三 臺灣總督府監獄女監取締定員規程……(一) 四七
訓二七 本島人ノ設立シタル會社社長カ登記申請ノ為管理人タル權限證明ニ關スル件……(一三) 二〇二
訓三二 物品會計官吏ノ保管物品水火盜難ニ罹リタルトキノ整理手續……(一〇) 二〇四
訓三五 神社寺院所屬財産處分許可願書取扱方……(六) 三
訓三八 監獄授業手及押丁設置規程……(一) 四七
訓四八 通信日附印規程……(一六) 八
訓九三 臺灣總督府直轄學校留學生資金竝旅費支給規則……(一) 一八
訓一〇〇 度量衡器及檢定用具檢查規程……(一五) 一五四
訓一〇二 學租財團所屬財産取扱規程……(七) 三九
訓一〇八 郵便行囊主管局名及主管區域ノ變更ニ關スル件……(四) 四
訓一一六 殖産局職工及職工見習規程……(一) 九
訓一二四 屋號ヲ以テ業主權ノ登記ヲ為シタル者其名義變更申請ノ為證明願出取扱方……(一三) 一九〇
訓一四一 野生護謨試驗規程……(一五) 二九
訓一四三 警察職員ニ對シ年金證書又ハ一時金ヲ交付シタル場合報告方……(四) 三三
訓一四六 沒收又ハ遺失物法ニ依リ國庫ニ歸屬シタル銃砲火藥類取扱方……(八) 九三
訓一五八 災害費豫算取扱手續……(一〇) 二一〇
訓一六一 郵便取次所郵便物受渡規程……(一六) 二
訓一八一 臺灣總督府監獄押丁採用規則……(一) 一七四
訓一八二 臺灣總督府監獄看守教習規程……(一) 一八二
訓一八三 監獄文書保存規程……(四) 七
訓一八八 銃砲火藥類ノ輸入又ハ移入通報方……(八) 九三
訓一八九 異動地測量圖簿整理竝地圖更正手續……(九) 一
訓二〇一 臺灣總督府警察官及司獄官練習生手當金竝旅費返納取扱規程……(一) 一三五
訓二一一 三等局交付物品取扱心得……(一〇) 二〇八
訓二一六 一、二等郵便及電信局營繕事務規程……(一〇) 二一〇
告一五 大板埒鷲巒鼻間ニ於テ暗礁發見ニ付航海者注意ノ件……(一六) 一五〇
告二八 外國郵便為替金ノ換算ニ適用スヘキ香港洋銀ノ換算割合……(一六) 七一
告三〇 臺灣總督府殖産局度量衡所分室設置……(一) 七
告一〇五 郵便物遞送ノ際配達ニ關スル件……(一六) 二

明治四十年

法律

法五 官廳ニ於テ印刷局製造ノ物件買入ニ關スル件……(一〇) 三三
法三四 租稅其他ノ收入徴收處分囑託ニ關スル件……(一〇) 一

勅令

勅六 公式令……(四) 三
勅一二七 鐵道部內現業員共濟組合ニ關スル件……(三) 二六
勅一七七 官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件……(一) 一九六
勅二四四 月俸七十五圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件……(一) 一四
勅二九一 鐵道株式會社ノ株券ヲ國債證券ニ代用スルノ件……(一〇) 一九四
勅三一七 法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタルトキ處罰法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇) 三三一

軍令

軍一 軍令ニ關スル件……(四) 四
軍陸二 臺灣守備隊司令部條例……(一) 八三

文部省

告二一〇 徴兵令第十三條ニ依ル認定學校……(一一) 六三

臺灣總督府

律二 臺灣樟樹造林獎勵規則……(九) 二四
令一 製茶稅則施行細則……(一〇) 六〇
令二 臺灣居住者徴兵身體檢查出願方……(一一) 六四
令一四 新聞電報規則中適用セサル件……(一六) 二九
令三七 臺灣總督府雇員傭員死歿傷痍疾病手當規則施行細則……(三) 二四
令六三 臺灣家屋建築規則施行細則……(九) 七
令六四 臺灣公共埤圳聯合會規則……(九) 五五
令七五 紀念碑又ハ形像建設ノ件……(八) 六三
令七七 郵便出張所ニ於テ至急電報時間外電報取扱ニ關スル件……(一六) 二九
令七八 臺灣浮浪者取締規則施行細則……(八) 五〇
令八四 臺灣樟樹造林獎勵規則施行規則……(九) 二五
令八六 外國旅券規則……(五) 六
令九七 國際返信切手券ノ賣捌及引換方……(一六) 二八
令九九 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 七
令一〇三 年賀郵便物引受期間……(一六) 一三
訓一一二 電信電話事務報告規程ニ關スル件……(四) 二四
訓一一四 臺灣居住者徴兵身體檢查願書取扱方……(一一) 六五
訓一一五 郵便配達檢印規程……(一六) 三
訓一一九 通信官署傭人貯金規程ハ一、二等局集配人其他ニ準用ノ件……(一六) 九一
訓二四 臺灣總督府通信事務練習規程……(一) 一八六
訓三六 郵便行囊規程……(一六) 三
訓三七 遞信省公達鐵道郵便取扱規程中準用セサル件……(一六) 二
訓三九 電信電話工事用物品整理規程……(一〇) 二〇七
訓六四 隘勇線又ハ副防禦線設置變更方……(八) 三四
訓一一九 電信事務ヲ兼掌セサル局所局報逸達方……(一六) 二七
訓一二八 臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用規則……(一) 一一三
訓一五二 臺灣總督府三等郵便局長協議會規程……(一六) 二
訓一五三 臺灣總督府警部、警部補特別任用考試規程……(一) 一七八
訓一五九 船舶檢疫許可證及證明書樣式……(八) 二六
訓一七〇 臺灣浮浪者取締規則施行心得……(八) 五〇
訓一七七 臺灣樟樹造林獎勵規則施行規則取扱規程……(九) 二六
訓一九六 外國旅券規則取扱手續……(五) 七
訓一二三 同一加入區域內電話業務兼掌局所ノ區域外通話地域ニ關スル件……(一六) 六四
告一二四 警報信號標建設……(四) 七〇
告一四九 臺灣浮浪者收容所名稱位置……(八) 五一
告一六六 獸疫豫防規則ヲ畜牛結核病ニ適用ノ件……(一五) 一八

明治四十一年

勅令

勅一一 暴風雨標條例……(四) 七〇
勅二六 陸軍經理部條例……(一) 八三
勅二七 陸軍軍醫部條例……(一) 八三
勅二八 陸軍獸醫部條例……(一) 八六
勅六一 陸海軍召集諸費支辨方ニ關スル件……(一一) 九九
勅二〇六 臺灣總督府警察官服制……(三) 五
勅二一七 刑法施行前公布ノ命令ニ關スル件……(一三) 二一〇
勅二一八 陸軍刑法施行前公布ノ命令ニ關スル件……(一三) 二三一
勅二一九 海軍刑法施行前公布ノ命令ニ關スル件……(一三) 二三一
勅二二〇 陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ヲ臺灣ニ施行ノ件……(一三) 二三一
勅二三七 陸軍監獄官制……(一) 九九
勅二八七 保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件……(一〇) 一九四
勅二九二 勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件……(三) 一六

軍令

軍陸二 要塞司令部條例……(一) 八三
軍陸一六 陸軍代理規則……(一) 八八

臺灣總督府

律二 臺灣ペスト病毒汚染物處分規則……(八) 三
律四 官設埤圳規則……(九) 五六
律九 臺灣刑事令……(一三) 二一〇
律一〇 臺灣監獄令……(一三) 二三一
律一二 船舶ノ登記ニ關スル件……(一三) 一九三
律一四 臺灣害蟲驅除豫防規則……(一五) 四
律一五 銀貨幣竝粗銀ノ移入及輸入禁止ニ關スル件……(一〇) 三三三
律一八 臺灣農會規則……(一五) 一
律二〇 臺灣私設鐵道規則……(一六) 一〇四
令一 臺灣捕鯨規則……(一五) 五六
令五 行政處分ヲ以テスル偽造變造又ハ模造ニ係ル貨幣紙幣等官沒手續……(一三) 二二一
令六 臺灣ペスト病毒汚染物處分規則施行規則……(八) 二
令二〇 內地移出石花菜檢查規則……(一五) 二三一
令三七 臺灣牛乳營業取締規則……(八) 五九
令三八 牛乳ノ比重及檢定方法……(八) 六一
令三九 臺灣清涼飲料水營業取締規則……(八) 六二
令四〇 砒素及錫ノ試驗方法……(八) 六三
令四三 共進會及品評會褒賞授與規則……(一五) 一三三
令四七 臺灣監獄令施行規則……(一三) 二三一
令五〇 船舶登記簿ノ閱覽、謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三) 一九五
令五二 臨時海港檢疫施行費用徴收ニ關スル件……(八) 二七
令五四 臺灣假出獄取締細則……(一三) 二三八
令五七 臺灣總督府種畜貸下規則……(一五) 一三
令六〇 臺灣害蟲驅除豫防規則施行規則……(一五) 四
令七〇 臺灣私設鐵道規則施行細則……(一六) 一〇五
令七三 臺灣私設鐵道營業規則……(一六) 一一
訓二五 臺灣總督府監獄看守點檢規程……(一三) 二三〇
訓四三 稅關監吏被服屬具支給規則……(一) 一三一
訓五五 現業傭人規程……(一) 一六
訓七五 郵便局所國庫債券償還及引換取扱規程……(一〇) 三三一
訓八〇 臺灣總督府醫院看護婦精勤證書竝賞狀授與規則……(一) 一九五
訓八三 臺灣總督府內務局附屬博物館設置……(一) 六
訓一四六 刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程……(一三) 二二九
訓一四七 刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程……(一三) 二二八
訓一四九 臨時海港檢疫ノ場合ニ於ケル船舶檢疫所許可證及證明書樣式……(八) 二七
訓一五四 臺灣浮浪者ニ關スル簿冊書類ノ樣式及

取扱例……（八）五一
訓一五八　受刑者假出獄證票書式……（三）三七
訓二〇四　糖業講習生養成規程……（一）一八五
訓二〇六　地方稅警察費所屬給與品及貸與品取扱規程……（七）七九
告二　口付紙卷兩切及刻煙草名稱定價……（一〇）一五五
告六　普通通常郵便物中到著日附印押捺セサル件……（六）二一
告五七　內地移出石花菜檢查手數料……（五）一三
告六四　內地移出石花菜檢查證印……（五）一三
告九六　臺灣總督府內務局附屬博物館規程……（一）六
告一一四　害蟲ノ種類及驅除豫防方法……（五）五
告一五二　臺灣農會規則施行規則ノ規定ヲ適用スヘキ農會其ノ他ノ農業團體……（五）二
告一六二　警報信號標建設……（四）七一
告一六三　報時球設置……（四）六九

明治四十二年

法律

法八　登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律……（一〇）三三〇
法九　政府ニ對シ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律……（一〇）三三〇
法一八　輸出菓子糖菓原料砂糖戾稅法……（一〇）四二
法三九　印紙犯罪處罰法……（三）二一
法四〇　建物保護ニ關スル件……（三）一二七

勅令

勅二一　港務部職員服制……（二）三
勅四九　臺灣總督府鐵道部現業員共濟組合ニ關スル件……（三）二六
勅五六　關稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……（一〇）七四
勅六四　輸出菓子糖菓原料砂糖戾稅法施行規則……（一〇）四三
勅一二〇　刑法施行後施行ノ命令ニ揭ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件……（三）二一〇
勅一二二　臺灣ニ於ケル稅關執務時間ニ關スル件……（一）二〇二
勅一二三　電信電話施設費用ノ寄附ニ關スル件……（一〇）三三〇
勅一三一　臺灣總督府視學官特別任用令……（一）一六九
勅一五一　通信官署現業員共濟組合ニ關スル件……（三）二九
勅一七〇　典獄典獄補看守長略服ニ關スル件……（二）二四
勅一七一　看守服制……（二）二六

大藏省

令一八　關稅法施行規則ニ依リ稅關ニ納付スヘキ手數料……（一〇）八〇

臺灣總督府

律一　臺灣關稅規則……（一〇）七三
律二　印紙犯罪處罰ニ關スル件……（三）二一
令一一　官設埤圳規則施行規則……（九）五六
令一二　官設埤圳補償審查委員會規則……（一）九一
令二〇　臺灣私設鐵道列車運轉規程……（六）一三三
令二一　臺灣私設鐵道事故屆出規程……（六）一三三
令二二　臺灣私設鐵道係員職制……（六）一〇九
令三〇　臺灣私設鐵道郵便物運送規則……（六）一三三
令四五　稅關ニ納付スヘキ手數料及使用料……（一〇）七三
令四七　行政處分ヲ以テスル印紙官沒ニ關スル手續……（三）二一
令五一　臺灣土地收用規則施行地域……（九）七
令五五　從來開港ノ外開港ト爲スヘキ場所……（一〇）八〇
令五八　公證費用規則……（三）八
令六三　臺灣土地收用規則施行地域……（九）七
令六四　臺灣刑事令施行規則……（三）二一〇
令七一　甘蔗計量用衡器取締規則……（五）一七二
令七六　廳管轄區域改正ノ場合支廳ノ設置廢止ニ關スル件……（一）七一
令九八　臺灣土地收用規則施行地域……（九）七
訓八　臺灣總督府稅關監吏及巡查看守其ノ他貸與ノ銃器及附屬品辨償價格……（一）一四二
訓三〇　官設埤圳監視規程……（一）九四
訓六一　遺失物取扱手續……（八）五六
訓六五　道路等設計ノ場合土地整理ニ關スル件……（九）五
訓七一　官設埤圳規則施行規則ニ依ル補償金臺帳樣式……（九）二七
訓七九　臺灣在鄉陸軍軍人戰時召集人員報告方……（一一）九九
訓八〇　郵便集配規程……（六）一七
訓八二　郵便取次所ノ廢置變更ニ關スル件……（六）一三
訓八四　供託受領證出納規程……（三）二一〇
訓八八　官沒印紙取扱方……（三）二二一
訓一〇三　臺灣總督府郵便出張所規程……（一）四三
訓一三四　鹽田ニシテ土地臺帳登錄事項中變更通知方……（九）一
訓一三八　遞信省公達郵便取扱規程中準用セサル件……（六）二一
訓一四六　甘蔗計量用衡器取締規則取扱手續……（五）一七二
訓一五九　廳分課規程……（一）六九
訓一六〇　廳管轄區域改正ノ場合支廳管轄區域分掌事務及配置人員ニ關スル件……（一）七一
訓一六八　廢廳ト爲リタル廳ニ對シ從來發シタル訓令ノ效力ニ關スル件……（四）四
訓一七一　臺灣總督府三等郵便局長手當給與規程……（一）一三三
訓一八二　臺灣總督府電氣使用規則取扱規程……（六）一六五
告一〇七　臺東廳管內ニ農會設置……（五）二
告一一五　暴風雨標位置……（四）七〇
告一二〇　臺灣總督府鐵道部出張所設置……（一）三一
告一二二　臺灣總督府殖產局附屬種畜場種付規程……（五）一四
告一五三　臺灣農會規則施行規則ニ依リ合併シタル農會……（五）二
告一六四　京都帝國大學基本財產林區域……（九）四〇
告一六五　外國郵便爲替交換局……（六）七一
告一八〇　郵便貯金局待拂取扱ニ關スル件……（六）七八
告一八八　一等郵便局專屬郵便電信電話事務分掌區域……（一）四三

明治四十三年

法律

法七　織物消費稅法……（一〇）五三
法三〇　警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル件……（三）九二
法五一　外國人ノ土地所有權ニ關スル法律……（三）一四七
法五三　銃砲火藥類取締法……（八）七三
法五四　關稅定率法……（一〇）八〇
法五八　漁業法……（一五）三九

勅令

勅二五　郵便官署ニ於テ年金恩給等ノ支給事務取扱ニ關スル件……（三）八〇
勅一三四　高等官官等俸給令……（一）九八
勅一三五　判任官俸給令……（一）一三三
勅一三七　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令……（一）一四
勅一八七　織物消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……（一〇）五三
勅二二八　日本赤十字社條例……（一一）一二一
勅二六七　文武判任官等級令……（一）一三一
勅二七四　內國旅費規則……（一）一四二
勅二七五　文官試補及見習ニ關スル件……（一）一六九

勅三三三　內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關スル件……（八）二七
勅三四〇　入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件……（一〇）一九四
勅四三八　警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件……（三）一七

大藏省

令三三　大藏省所管旅費支給規則……（一）一四三
令三五　大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則……（一）一四四

文部省

告一三二　徵兵令第十三條ニ依ル認定學校……（一一）六二

遞信省

令六　年金恩給支給規則……（三）八一

臺灣總督府

令一七　臺灣國防用防禦營造物區域ニ關スル地圖取締規程……（一一）三
令一八　郵便振替貯金規則……（一六）七八
令二四　織物消費稅法施行規則……（一〇）五三
令二五　官設埤圳水利組合規則……（九）四三
令三六　郵便法、鐵道船舶郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、電信法及無線電信法施行ニ關スル遞信省令及告示中遞信大臣及遞信【管理】局ニ屬スル事項掌理方……（一六）七
令三八　私設電信規則中適用セサル件……（一六）二九
令四六　臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則……（一）一八〇
令五六　囚人、刑事被告人食費ニ關スル件……（三）一三九
令五八　鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件……（一六）一〇三
令六四　打狗港內船舶出入及運航規程……（一六）一六一
令七〇　同報電信規則ヲ適用セサル件……（一六）二九
令七一　稅關支署ノ名稱位置及管轄區域……（一）一三
令八一　臺灣總督府稅關執務時間……（一）二〇二
訓一一　臺灣總督府船員其ノ他被服貸與及給與規則……（一）一三
訓四二　郵便振替貯金取扱規程……（一六）八四
訓六八　臺灣神社出仕及守衛ノ俸給ニ關スル件……（一）三一
訓九一　臺灣總督府市區計畫委員會規程……（一）九一
訓九六　臺灣總督府地方廳稅務吏採用規程……（一）一七五
訓一〇三　外國郵便取扱手續……（一六）一四
訓一一七　官租地取扱規程……（一〇）二九
訓一二四　臺灣地租規則取扱心得又ハ地方稅調查及監視規程中稅務吏ノ取扱事項ニ關スル件……（一〇）二六
訓一二七　鑛區稅ニ關スル取扱手續……（一〇）六二
訓一四三　臺灣總督府看守給與品及貸與品規則……（一）一二八
訓一四五　荷受人及荷送人不明ノ物件ヲ取得シタルトキ處分方……（一六）一〇三
訓一五〇　臺灣總督府職員休暇規程……（一）二〇三
訓一六七　蕃社臺帳樣式……（一三）一六九
訓一八四　區役場事務監督規程……（七）三七
訓一八五　收入印紙ヲ以テ納付スル罰金科料等取扱規程……（一〇）二三六
訓一八七　臺灣總督府殖產局附屬水產試驗船職務規程……（一）二一一
訓二一四　臺灣總督府特別會計歲入歲出科目設置及經費流用手續……（一〇）一九五
訓二一九　臺灣總督府巡閱規程……（一）九二
訓二四〇　阿片煙膏及粉末阿片取扱手續……（一〇）一二三
訓二五一　臺灣總督府囑託員ニシテ常時一定ノ手當ヲ給セサル者ニ支給スル旅費規程……（一）一五三
告二　外國製造煙草定價……（一〇）一五六
告七　國際返信切手券賣捌所……（一六）二八
告一五　警報信號標建設……（四）七一
告三五　郵便振替貯金事務ニ關スル郵便物差出方……（一六）八四
告三六　郵便振替貯金口座番號記載方……（一六）八四
告四八　官設埤圳蔴仔埤圳灌漑區域……（九）五七
告七六　臺灣製紙卷煙草ノ名稱及價格……（一〇）一五七
告七八　【澎湖廳】管內ニ農會設置……（五）二
告八二　臺灣官有森林原野豫約賣渡規則ニ依ル土地代價……（九）三五
告八六　停車場郵便出張所取扱時間……（一六）三三
告一六三　打狗港出入船舶ニ對シ信號標旗揭揚ノ件……（一六）一六二

明治四十四年

法律

法四五　砂糖、織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律……（一〇）一
法五二　司法事務共助法……（三）一
法五八　租稅外諸收入金整理ニ關スル法律……（一〇）二三三

勅令

勅六四　貨幣法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……（一〇）三三一
勅七七　明治四十三年臺灣蕃匪討伐ニ從事シ功勞アル者ニ關スル件……（三）一九
勅一二〇　臺灣及樺太ニ施行スル法律ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……（一〇）二三三
勅一二一　稅外諸收入金整理ニ關スル法律施行規則……（一〇）二三三
勅一三〇　官國幣社以下神社幣帛供進使服制……（三）四二
勅一五一　臺灣總督府港務所官制……（一）四四
勅一五三　臺灣總督府港務官特別任用令……（一）一七〇
勅一五四　臺灣總督府港務所職員服制……（二）三一
勅一六〇　臺灣ニ於ケル關稅法等違犯申告者賞與ニ關スル件……（三）二〇
勅一六七　特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ニ關スル件……（一五）一三八
勅一八六　砂糖、織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件……（一〇）一
勅一八九　砂糖、織物消費稅等ノ徵收ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……（一〇）一
勅一九六　輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……（一〇）四二
勅二六八　司法事務共助ニ關スル費用及護送ニ關スル件……（三）一
勅二八五　陸軍軍人服役令……（一一）七七

軍令

軍海一　海軍檢閱條例……（一一）八九

大藏省

令一七　貸付金取扱規程……（一〇）二三四

陸軍省

令一六　陸軍軍人服役令施行規則……（一一）八〇

臺灣總督府

律三　相續未定地整理規則……（三）一五〇
令三　臺灣屠畜取締規則……（八）六四
令二七　臺灣人工甘味質取締規則……（八）五八
令三一　臺灣有害性著色料取締規則……（八）五九
令三二　有害性著色料取締規則ニ依ル野菜、果

實類等ノ試驗方法……(八) 五九
令三三 奏任待遇監獄職員懲戒ニ關スル件……(一) 一九七
令三四 臺灣飲食物用器具取締規則……(八) 五八
令三八 度量衡器及計量器比較檢査規則……(一五) 一五四
令四一 臺灣帽子檢査規則……(一五) 一三三
令四二 臺灣飲食物防腐劑取締規則……(八) 五八
令四五 臺灣關稅規則ノ施行ニ關スル件……(一〇) 七三
令四七 收容貨物敷料……(一〇) 七三
令四九 關稅通路……(一〇) 七九
令五〇 砂糖、織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件……(一〇) 一
令五八 臺灣度量衡規則施行規則……(一五) 一四一
令六四 臺灣官有森林原野豫約賣渡規則……(九) 三一
令六七 臺灣總督府貸付金取扱規程……(一〇) 二三四
令七〇 基隆港內取締規則……(一六) 一五六
令八五 相續未定地整理規則施行前業主死亡シタル土地ニ關スル件……(三) 一五二
令八六 相續未定地整理規則施行規則……(三) 一五一
令九二 帝國政府ト露西亞國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規……(一六) 一三八
令一〇〇 郵便振替貯金小切手拂込規則……(一六) 八四
訓四 臺灣間稅檢査規程……(一〇) 六二
訓五 織物消費稅法取扱規程……(一〇) 五四
訓七 居場設置規程……(八) 六五
訓二二 種痘施術心得……(八) 二四
訓五三 公衆通信用電信電話線路取扱心得……(一六) 四三
訓六〇 從來使用ノ帳簿、用紙及印章竝現金遞送囊等當分ノ內襲用方……(一六) 九一
訓八七 臺灣總督府文官服裝規程……(三) 五
訓八九 現業傭人規程中三等局ニ適用ノ件……(一) 一八
訓九四 遞信省公達氣送電報取扱規程ヲ準用セサル件……(一六) 二九
訓一〇四 臺灣總督府港務所分課規程……(一) 四四
訓一〇八 電信取扱所交付物品ノ取扱ニ關スル件……(一〇) 二〇七
訓一一一 臺灣總督府文官禮式……(一) 二三
訓一一六 臺灣總督府三等郵便局以下局舍改修規程……(一六) 九
訓一一七 臺灣總督府三等郵便局長服務規程……(一) 一九九
訓一二二 臺灣總督府港務所船員服制職員消毒服及用船旗……(三) 一八
訓一二三 臺灣總督府港務所職員被服屬具貸與規程……(一) 一三三
訓一五一 奏任及判任待遇監獄職員職務規程……(一) 二〇八
訓一五二 監獄授業手及押丁職務規程……(一) 二一〇
訓一六三 臺灣官有森林原野豫約賣渡規則取扱規程……(九) 三五
訓一六四 租稅及稅外收入ノ擔保物價格ニ關スル取扱規程……(一〇) 八
訓一九七 元土木部長ノ達、訓令等準用ノ件……(四) 四
訓二一三 臺灣發外國電報線路ニ關スル件……(一六) 二九
訓二二〇 間稅檢査監督規程……(一) 九六
訓二二五 受刑者、刑事被告人護送ニ關スル件……(一三) 一
訓二三一 警察稱呼例……(一) 二二五
訓二三六 從來ノ訓令中郵便所、郵便受取所取扱人等削除ノ件……(一六) 一
訓二三九 臺灣總督府醫院施療規程……(三) 五六
訓二四四 電信事務ニ要スル簿册類調製手續……(一六) 二九
訓二五一 臺灣總督府農事試驗場講習規程……(一) 一八三
訓二五五 郵便振替貯金小切手拂込取扱規程……(一六) 八四
訓二五六 法院及檢察局ト在外帝國領事直接通信ノ件……(一三) 二
告七 打狗港ニ於ケル航路識別浮標設置ノ件……(一六) 一四九
告五二 官設埤圳獅仔頭圳灌漑區域……(九) 三七
告七九 電信爲替證書ノ配達區域……(一六) 二
告八三 臺灣總督府港務所名稱位置管轄區域……(一) 四四
告八四 臺灣總督府港務所出張所設置……(一) 四四
告一一二 郵便振替貯金加入者名簿賣下價格……(一六) 八四
告一八九 帝國船舶露西亞國ニ於テ取扱方……(一六) 一三八
告一九六 獸類及物品ノ檢疫ヲ行フヘキ港口……(一五) 一八

明治四十五年

法律

法二一 臘虎膃肭獸獵獲禁止ニ關スル法律……(一五) 一五六
法二四 假置場法……(一〇) 二三四

勅令

勅一三五 臘虎、膃肭獸獵獲禁止ニ關スル法律ヲ臺灣等ニ施行スルノ件……(一五) 五五
勅一四五 臺灣總督府ノ州又ハ廳ノ警察醫ノ給與ニ關スル件……(一) 一二六

內務省

令二 毒藥劇藥品目……(八) 九

臺灣總督府

律一 臺灣永代借地權令……(一三) 一五二
令九 臺灣私設軌道規程……(一六) 一三一
令一二 臺灣私設軌道事故屆出規則……(一六) 一三三
令一三 臺灣永代借地權令施行規則……(一三) 一五二
令一四 永代借地及其上ニ存スル建物登記規則……(一三) 一九〇
令一九 永代借地及其上ニ存スル建物登記簿ノ閲覽謄本又ハ抄本交付等ノ手數料……(一三) 一九三
令二二 郵便函專用規則……(一六) 一五
令二五 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 七
令四三 臺灣造林用種苗下付及賣拂規則……(九) 二四
令四八 臺灣私設鐵道運輸規程……(一六) 一〇九
令五〇 基隆港水先規則……(一六) 一五七
令五一 臺灣總督府電氣使用規則……(一六) 一六二
令五三 郵便切手類及收入印紙賣下賣捌規則……(一六) 二四
令六〇 電報料金豫納及後納規則……(一六) 四〇
令六二 臺灣米穀檢査規則……(一五) 一二〇
令六五 帝國政府ト和蘭國政府ト船舶積量互認ニ關スル條規……(一六) 一三八
令六九 臺灣總督府河川調査委員會規則……(一) 九二
令七〇 地方費區所屬市區改正地同附屬地ノ賣拂貸付隨意契約ノ件……(七) 八〇
訓三 三等郵便局ニ對スル物品交付局指定……(一〇) 二〇七
訓一二 公文上郵便局名記載方……(四) 四
訓二〇 三等郵便局使用ノ官有財產保管方……(一〇) 三九
訓二二 郵便物區分規程……(一六) 一七
訓四一 專用郵便函取扱及郵便物取集規程……(一六) 一六
訓五二 臺灣總督府電務工手、工夫規則……(一) 一四
訓五三 蕃地內ニ於テ討伐搜索測量又ハ調査ニ從事シ疾病ニ罹リタル官吏官費治療方……(三) 三
訓六八 會計吏職印……(七) 七八
訓一二一 電報料金豫納及後納規則取扱規程……(一六) 四〇
訓一二三 郵便切手類及收入印紙出納規程……(一〇) 二〇五
訓一二四 郵便切手類及收入印紙出納規程施行細則……(一〇) 二〇五
訓一三三 個人識別方取扱規程……(三) 三九
訓一三四 電信及市外電話回線試驗規程……(一六) 六六
訓一三五 電信及市外電話回線障碍處理規程……(一六) 六七
訓一三八 臺灣總督府通信工手規程……(一) 一〇
訓一四二 電線工事常傭夫夜間就業者增給ノ件……(一) 一二八
訓一五二 停車場揭示電報取扱局所……(一六) 三〇
訓一七〇 陸軍機密書類取扱規程……(四) 七

告一九 郵便振替貯金ノ局待拂取扱局……(一六) 八四
告二六 郵便函ノ專用ヲ許可スル地域……(一六) 一六
告二七 專用郵便函使用料……(一六) 一六
告四六 官設埤圳后里圳灌漑區域……(九) 三七
告九五 停車場郵便出張所ニ於テハ郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ヲ爲ササル件……(一六) 二六
告九六 帝國船舶和蘭國ニ於テ取扱方……(一六) 一三八
告九九 停車場揭示電報ヲ揭示スル鐵道停車場……(一六) 三〇

大正元年

勅令

勅一九 休日ニ關スル件……(一) 二〇二
勅二三 恩赦令……(一三) 二一三
勅三〇 懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件……(一) 一九八
勅三一 船舶職員法ヲ外國船舶ニ準用ノ件……(一六) 一四六
勅三二 蕃地ニ於ケル討伐搜索及警戒ニ從事スル職員又ハ其ノ遺族ニ一時金給與ノ件……(三) 二一
勅三四 行旅死亡人ヲ火葬スルノ件……(三) 六四
勅三六 國債ニ關スル法律、登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律、政府ニ對シ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行……(一〇) 二三六
勅五三 神官神職服制……(一) 四三

臺灣總督府

律一 臺灣漁業規則……(一五) 四三
令六 臺灣メチールアルコホル(木精)取締規則……(八) 六一
令九 臺灣氷營業取締規則……(八) 六三
令一六 臺灣賣藥營業取締規則……(八) 一一
令一七 臺灣賣藥類似品營業取締規則……(八) 一五
令三〇 基隆港內艀船營業取締規則……(一六) 一五八
令三六 蕃地ニ於ケル討伐搜索及警戒ニ從事スル職員又ハ其ノ遺族ニ一時金給與細則……(三) 二一
令三八 臺灣地方稅金出納上一時運用ニ關スル規則……(七) 七八
令四二 臺灣漁業規則施行規則……(一五) 四三
令四三 臺灣漁業取締規則……(一五) 四八
令四五 漁業ニ關スル手數料……(一五) 四八
訓四三 臺灣メチールアルコホル(木精)試驗方法……(八) 六一
訓二〇 賣藥及賣藥類似品許可申請ノ處分及屆出ノ處理ヲ【廳長】ニ委任ノ件……(八) 九
訓二九 船舶通報取扱手續……(一六) 一五五
訓三〇 船舶通報ニ關スル分送局……(一六) 一五五
訓三四 交通至難ノ場所ニ在勤シ無線電信業務ニ從事スル臺灣總督府郵便局職員手當給與細則……(一) 一二四
訓三六 臺灣間稅事務ニ關スル報告表樣式……(一〇) 六二
訓四四 州、廳警察會議規程……(八) 三四
訓四六 基隆港內艀船營業取締規則施行手續……(一六) 一六〇
訓五三 賣藥許可申請ニ對スル處分ニ付報告ノ件……(八) 九
訓五八 稅關報告例……(四) 三三
訓六五 臺灣賣藥類似品許可心得……(八) 一五
訓七五 公共ノ團體又ハ營造物其他ニ關スル財產取扱規程……(七) 二九
訓八二 臺灣總督府報告例中種族別表章方……(四) 三〇
訓一〇二 臺灣總督府氣象局報取扱規程……(一六) 三〇
告六 無集配三等郵便局ニ於テ外國通常爲替取扱ノ件……(一) 四三
告二七 鵞鑾鼻燈臺ニ於テ船舶通報事務ヲ取扱フ……(一六) 一五五
告四三 郵便振替貯金小切手受入局所……(一六) 八五

大正二年

勅令

勅五 產業組合法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一五) 二一五
勅一六 赤十字記章名稱等使用者處罰ノ件……(一三) 二一三
勅三〇 陸軍兵器廠令……(一) 八〇七
勅二六一 文官任用令……(一) 一六六
勅二六二 任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件……(一) 一六九
勅二七九 臺灣總督府【民政部通信局】及臺灣總督府郵便局現業員共濟組合ニ關スル件……(三) 二九
勅二九九 陸軍召集令……(一一) 八四
勅三一三 水路測量標條例ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……(九) 一五
勅三一五 水路測量標建設ノ爲官有地ヲ使用スルノ件……(九) 一五

軍令

軍海一四 海軍望樓條例……(一) 九〇

宮內省

告三一 新年紀元節天長節賀表書式……(一) 二一

內務省

訓四 神官神職服裝規則……(一) 四三

臺灣總督府

律一 臺灣銃砲火藥類取締規則……(八) 七三
律二 臺灣產業組合規則……(一五) 二一四
律三 臺灣國稅徵收規則……(一〇) 一
律五 マラリア防遏規則……(八) 三一
律七 臺灣賣藥印紙稅規則……(一〇) 五九
令五 臺灣總督府氣象通知電報規則……(一六) 三〇
令七 臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則……(八) 七四
令八 緩燃導火線及煙火爆竹取締規則……(八) 九一
令一一 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 七
令二〇 產業組合登記簿ノ謄本抄本交付ノ手數料……(一三) 二〇〇
令二二 本島人名義ノ郵便貯金通帳殘置制限額……(一六) 七八
令三二 臺灣國稅徵收規則施行規則……(一〇) 二
令三三 臺灣總督府【營林局】鐵道運輸營業ニ關スル件……(一六) 一〇四
令三九 マラリア防遏規則施行規則……(八) 三一
令四〇 硝石取締規則……(八) 九二
令四四 恩赦令施行規則……(一三) 二一三
令四六 臺灣火藥類船舶運送及貯藏規則……(八) 九〇
令六二 臺灣河川取締規則……(九) 四〇
令六六 臺灣總督府電報取次規則……(一六) 三七
令六七 臺灣賣藥印紙稅規則施行規則……(一〇) 五九
令七六 臺灣土地收用規則施行地域……(九) 七
令七九 州、廳地方費、市、街庄及學租財團所屬財產ノ納稅管理人ノ件……(七) 七八
令八六 臺灣總督府殖產局營林所林產物製品賣拂規則……(九) 二八
令九二 砂糖消費稅法施行規則……(一〇) 三八
令一〇四 臺灣憲兵隊配置及憲兵分隊管區……(一一) 八八
令一〇七 臺灣地租規則ヲ臺東廳及花蓮港廳ニ施行ノ件……(一〇) 一一
令一〇九 船內郵便係員設置ノ件……(一六) 七

訓六　本島人亞米利加合衆國及其領土內渡航證明規則取扱手續……（五）八
訓一三　臺灣總督府氣象通知電報取扱規程……（一六）三一
訓二二　臺灣銃砲火藥類取締規則取扱手續……（八）八九
訓三四　臺灣總督府正午時通報規程……（一四）六九
訓三七　臨時蕃語講習所規程……（一）一八五
訓五三　服制ヲ適用スヘキ官吏待遇者……（三）五
訓六四　粗製樟腦樟腦油製造取締規程……（一〇）一四一
訓九四　臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則取扱手續……（三）八八
訓一〇七　間稅ニ關スル鑑定事務取扱規程……（一〇）六二
訓一三五　臺灣總督府稅關船舶職員規程……（一）三四
訓一三八　臺灣總督府電報取次取扱規程……（一六）三八
訓一五〇　經費渡切三等郵便局ニ適用規程……（一〇）二四三
訓一五九　郵便局電機修理手續……（一六）四三
訓一七六　三等郵便局長職務ニ關シ隨時旅行ノ件……（一）二〇八
訓一七九　臺灣河川取締規則施行手續……（九）四一
訓一八三　臺灣歲入取扱規程……（一〇）二二六
訓一八七　局報宛名略名……（一六）三七
訓二〇五　臺灣總督府殖產局附屬蔗苗養成所設置……（一）七
訓二一一　臺灣總督府【民政部通信局】及臺灣總督府郵便局現業員共濟組合ノ甲種組合員ノ貯金ニ關スル件……（三）五三
訓二二二　臺灣總督府稅關職員服裝規程……（三）三三
訓二二三　臺灣總督府稅關職員禮式……（一）二二五
訓二三四　砂糖消費稅法取扱規程……（一〇）四一
訓二四二　臺灣總督府【營林局】林產物出納規程……（一〇）二〇八
訓二四四　年賀郵便特別取扱規程……（一六）一三
訓二六八　臺灣總督府殖產局附屬養蠶所設置……（一）七
訓二七四　臺灣陸軍戰時召集規程施行細則……（一一）九七
告六　臺灣總督府氣象通知電報ノ通知方式……（一六）三四
告二〇　火藥類取扱免狀樣式……（八）九〇
告一〇三　郵便振替貯金小切手拂込規則ニ依ル銀行指定……（一六）八五
告一一三　臺灣河川取締規則ヲ適用スヘキ河川……（九）四一
告一一五　電報ノ發信取次事務ヲ取扱フ郵便局……（一六）三九
告一三四　航海用時辰儀時刻比較ノ件……（一四）六九
告二〇四　九州帝國大學演習林區域……（九）四〇

大正三年

法律

法一一　輸出入植物取締法……（一五）七
法二六　戶籍法……（一三）一六九
法三四　船舶積量測度法……（一六）一三一

勅令

勅一　小學校敎諭及公學校敎諭奏任官待遇ヲ受ケシムルノ件……（一）一四
勅一〇　官國幣社以下神社祭祀令……（六）一
勅一八　行政廳ヲシテ恩賜財團濟生會ノ事務ヲ施行セシムルノ件……（一）九七
勅六二　臺灣總督府圖書館官制……（一）二六
勅一九五　官國幣社以下神社遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ關スル件……（六）一

遞信省

令一六　船舶積量測度規程……（一六）一三三
訓一　船舶積量測度心得……（一六）一三四

臺灣總督府

律一　假置場ニ關スル律令……（一〇）二三四
律五　臺灣土地測量標規則……（九）八
律七　蔗苗取締規則……（一五）六
律八　臺灣傳染病豫防令……（八）一七
令三　假置場ニ關スル律令施行規則……（一〇）二三五
令一一　小包郵便物料金徵收ニ關スル件……（一六）一七
令一五　郵便振替貯金ニ依ル債劵募集、元利金支拂竝貸付事務特別取扱規則中貸付事務ヲ當分取扱ハサル件……（一六）七〇
令一九　臺灣土地測量標規則施行規則……（九）九
令二一　保稅倉庫ニ關スル律令施行細則……（一〇）一三三
令二二　私設保稅倉庫營業、假置場私設等ノ特許手數料ニ關スル件……（一〇）二三四
令二五　蔗苗取締規則施行規則……（一五）六
令二九　印紙稅法第六條ニ依ル稅印押捺ノ件……（一〇）一九九
令五〇　臺灣總督府【營林局】林產物製品賣拂ニ關スル件……（一〇）二二三
令六〇　臺灣船舶積量改測規則……（一六）一三六
令六三　官幣大社臺灣神社及縣社以下神社祭式……（六）一
令六四　官幣大社臺灣神社及縣社以下神社神職齋戒ニ關スル件……（六）二
令六七　郵便電信電話ニ關スル滯納料金徵收規則……（一六）八
令六八　臺灣傳染病豫防令施行規則……（八）一八
令六九　檢疫委員設置規則……（八）一八
令七〇　船舶檢疫規則……（八）二六
令七三　汽車檢疫規則……（八）二七
令七四　清潔方法、消毒方法……（八）一九
令九三　內地銀行ノ代理店ニ關スル件……（一五）七五
訓一九　臺灣總督府宿直規程……（一）二〇三
訓二〇　臺灣總督府專賣局食鹽監視員及監視員補服制……（三）四一
訓四一　土地建物使用料及假置場使用料ニ關スル件……（一〇）一三六
訓五七　內地移出石花菜檢查所規程……（一五）一三三
訓六四　臺灣總督府通信工夫及通信職工規程……（一）二
訓六五　臺灣總督府殖產局附屬養蠶所職員夜勤食料支給規程……（一）一三〇
訓九七　通信工夫出張ノ場合旅費支給方……（一）一六六
訓一一七　河川ノ施設、除却竝復舊工事取扱ノ件……（九）四一
訓一一九　臺灣總督府巡查出勤簿整理規程……（一）二〇一
訓一二二　臺灣總督府【民政部通信局】及郵便局會計事務規程……（一〇）一九六
訓一二三　遞信局及郵便局所現金出納計算規程……（一六）七七
訓一三一　臺灣總督府警察官吏勳章記章佩用規程……（三）一六
訓一六〇　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ニ關スル犯罪事件處理手續……（一三）二二五
訓一七二　神職服裝ニ關スル件……（二）四三
訓一七三　臺灣神社及縣社以下神社遙拜及大祓次第……（六）二
訓一七四　臺灣神社及縣社以下神社恒例式ニ關スル件……（六）二
告四　假置場ノ位置……（一〇）二三五
告一四　電話交換事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ託送電報取扱ノ件……（一六）三〇
告五五　內地移出石花菜檢查所名稱位置……（一五）一三三
告五九　度量衡器ニ附記スヘキ年號數字印……（一五）一七三
告六〇　魚苗配付規程……（一五）五三
告一二二　臺灣土地測量標規則施行規則第七條ニ依ル標石、覘標、標杭、假杭、測旗ノ種類及樣式……（九）一一
告一二五　暴風雨標式……（一四）七〇
告一五五　郵便爲替金及振替貯金ノ居宅拂竝集金

〔臺〕

郵便ニ依ル現金取立事務取扱ノ件……（一六）七〇

大正四年

法律

法一八　法人ノ役員處罰ニ關スル件……（一三）二二
法二四　無盡業法……（一五）七五
法二六　無線電信法……（一六）五

勅令

勅六　郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件……（一〇）二三三
勅一三　神宮神部署職員及神宮衞士長衞士副長衞士竝官國幣社職員ノ休職ニ關スル件……（一）一九一
勅一八六　無線電信法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一六）五
勅二〇五　減刑ニ關スル件……（一三）二三
勅二〇六　懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件……（一）一九九
勅二〇七　出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件……（一）一九九
勅二三〇　法人ノ役員處罰ニ關スル件ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件……（一三）二二

軍令

軍陸三　陸軍軍人軍屬ノ轉職就職者出發規程……（一一）九四
軍陸一五　陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件……（一三）二三

大藏省

令一　郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程……（一〇）二三三
令三〇　無盡業法施行細則……（一五）七六

臺灣總督府

令一二　郵便貯金特別拂戾規則……（一六）七一
令二一　郵便貯金拂戾票ヲ銀行ニ讓渡ノ件……（一六）七七
令二二　郵便振替貯金郵便貯金拂戾票拂込規則……（一六）七七
令二三　郵便貯金拂戾票支拂保證取扱規則……（一六）七六
令四一　臺灣銀行預金證書賣買貸借ニ關スル件……（一五）七五
令四四　煙草耕作獎勵規則……（一〇）一五五
令六六　地方稅會計吏ノ辨償責任ニ基ク債務免除ニ關スル件……（一）一九九
令六八　臺灣地租規則ヲ【澎湖廳】ニ施行ノ件……（一〇）二
訓二　外國和文電報取扱ノ件……（一六）二九
訓六　臺灣賣藥許可心得……（八）三
訓二五　郵便貯金特別拂戾取扱規程……（一六）七二
訓四六　郵便振替貯金、貯金拂戾票拂込取扱規程……（一六）七七
訓四七　郵便貯金拂戾票支拂保證取扱規程……（一六）七六
訓七七　臺灣總督府圖書館長職務規程……（一）二〇七
訓九三　臺灣勸業共進會事務規程……（一五）一三三
訓九四　臺灣勸業共進會評議員會規程……（一五）一三三
訓一〇三　【營林局】林產物製品極印……（九）三九
訓一一九　銃器彈藥携帶規程……（八）九三
訓一二九　臺灣總督府稅關監吏賞罰例……（一）一九一
訓一四四　臺灣總督府蕃務監視規程……（一）九三
訓一四六　蕃地警察官吏服裝規程……（三）一四
告三〇　郵便貯金特別拂戾規則ニ依ル貯金特別拂戾局所……（一六）七二
告六三　外國旅劵ニ寫眞貼附ノ件……（五）九
告八八　臺灣總督府殖產局營林所出張所設置……（一）八
告九〇　臺灣總督府【營林局】林產物商標……（九）四〇
告一四三　安平澎湖間海底電線不通ノ場合取扱方……（一六）三七
告一四四　埃及渡航者ニ關スル件……（五）九

大正五年

法律

法二　國庫出納金端數計算法……（一〇）一九三
法一〇　證劵ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件……（一〇）一三〇
法二〇　海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正……（一三）二二

勅令

勅一四　朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ居住スル者ノ徵兵旅費ニ關スル件……（一一）一〇七
勅五六　國庫出納金端數計算法第五條ニ依ル命令ノ件……（一〇）一九四
勅五七　國庫出納金端數計算法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一〇）一九三
勅一三四　臺灣總督府圖書館長特別任用ニ關スル件……（一）一六九
勅二〇〇　郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徵收囑託ノ件……（一六）九
勅二〇九　公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件……（一〇）一九四
勅二五五　證劵ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一〇）一三〇
勅二五六　歲入納付ニ使用スル證劵ニ關スル件……（一〇）一三一

大藏省

令一〇　銀行條例施行細則……（一五）五七
令三〇　大正五年勅令第二百五十六號第六條第一項ニ依ル證劵ノ納付ニ關スル制限……（一〇）一三二
令三二　證劵ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則……（一〇）一三〇
訓一三　證劵ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方……（一〇）一三一

臺灣總督府

律一　臺灣醫師令……（八）一
律二　臺灣齒科醫師令……（八）四
令一二　【廳長】ヲシテ無盡業法第二十一條ノ規定ニ依リ事業報告又ハ業務及財產ノ狀況檢查ヲナサシムル件……（一五）八三
令二七　國庫金、州稅及廳地方費、稅、郵便振替貯金特別取扱規則……（一六）八九
令三〇　一圓未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅……（一〇）一九四
令三七　電報規則中間送電報ニ關スル件……（一六）六
令四二　擔保附社債信託規則ノ施行ニ關シ改正省令ニ依ルノ件……（一五）一一
令五二　臺灣公醫規則……（八）三
令五四　郵便法第五十五條ノ三ニ依ル官沒ニ關スル件……（一六）七
令六七　輸出菓子糖菓原料砂糖戾稅法施行ニ關スル件……（一〇）四二
令七一　大正五年勅令第二百五十六號第六條第二項ニ依ル制限及同第七條ニ依ル證劵ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目……（一〇）二三二
訓一〇　無盡業取扱方……（一五）八三
訓三六　木材及製品賣拂代金延納擔保ニ關スル供託受領證出納ノ件……（一三）二一〇
訓三八　國庫金州稅及廳地方費稅郵便振替貯金特別取扱規程……（一六）九〇
訓五八　道路臺帳規則……（一六）九二
訓七二　蕃地調查委員會規程……（一）九二

訓八五 派出所、駐在所、警戒所及分遣所ノ名稱及標札樣式……(八) 三四
訓八六 臺灣總督府殖產局營林所職工以下勞役者給料支給規程……(一) 一七
訓九四 地租、第三種所得稅、官租徵收實況報告方……(四) 二四
訓一三三 通信官署監視規程……(一) 九四
告一七 收納葉煙草賠償價格……(一〇) 一五五
告五六 安平澎湖間海底電線不通ノ場合取扱方ニ依ル電報ニ關スル件……(一六) 三七
告八二 東北帝國大學演習林區域……(九) 四〇
告九二 臺灣總督府殖產局營林所出張所設置……(一) 八
告一〇九 臨時海港檢疫所名稱位置……(一) 四五
告一四〇 臺灣總督府殖產局營林所出張所設置……(一) 八

大正六年

法律

法一 軍事救護法……(三) 五二
法一五 農業倉庫業法……(一五) 二
法二一 工業所有權戰時法……(一五) 一三九
法二九 造船奬勵金下付停止ニ關スル件……(一六) 一三〇

勅令

勅四八 外國ニ駐在スル帝國ノ大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ有スル帝國船舶及其ノ船員ニ關スル職權ノ件……(一六) 一二四
勅七一 造船奬勵金下付停止ニ關スル法律臺灣ニ施行ノ件……(一六) 一三〇
勅一四一 工業所有權戰時法施行令……(一五) 一四〇
勅一四二 工業所有權戰時法登錄令……(一五) 一四〇
勅一四三 工業所有權戰時法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行ノ件……(一五) 一三九
勅二〇〇 產業組合法中主務大臣ノ行フ職務ニ關スル件……(一五) 一二五
勅二〇一 產業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戾準備金ノ管理ニ關スル件……(一五) 一六
勅二〇二 小額紙幣發行ニ關スル件……(一〇) 三三
勅二〇三 小額紙幣ノ形式……(一〇) 三三
勅二〇五 軍事救護法施行ニ關スル件……(三) 五二
勅二〇六 軍事救護法施行令……(三) 五二
勅二三五 臺灣總督府巡査看守等ノ給與ニ關スル件……(一) 一二五

大藏省

令三〇 小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件……(一〇) 三六

司法省

令八 產業組合登記取扱手續……(三) 一九九

臺灣總督府

律二 臺灣新聞紙令……(八) 五四
令一 臺灣電話規則……(一六) 四三
令二 臺灣電話規則第八十五條ニ依ル維持料ノ金額及納付手續……(一六) 六四
令三 臺灣官廳用電信電話規則……(一六) 六七
令四 大正五年十二月遞信省令第七十號私設郵便函規則ヲ施行セサル件……(一六) 一六
令二五 犯罪卽決例ニ依ル刑ノ執行停止ニ關スル件……(三) 二三
令三三 稅關又ハ稅關支署出張所ノ名稱位置……(一) 三四
令三四 蕃人ニ物品供給者取締ノ件……(八) 五二
令三七 手形交換所指定……(三) 一三三
令三八 特別郵便切手臺紙貼附郵便切手貯金預入規則……(一六) 八五
令三九 特別郵便切手臺紙貼附郵便切手振替貯金拂込規則……(一六) 八五
令四〇 特別郵便切手臺紙賣捌規則……(一六) 八六
令四一 銀貨幣銀地金輸出取締ノ件……(一〇) 三三
令四四 金貨幣金地金輸出取締ノ件……(一〇) 三三
令六六 臺灣產業組合規則施行規則……(一五) 一二四
令七〇 臺灣新聞紙令施行規則……(八) 五五
令七三 臺灣總督府【營林局】殖林地域內ニ於ケル林產物ノ賣下ニ關スル件……(一〇) 三二
訓一 臺灣總督府郵便局雇員規程……(一) 一七四
訓五 資金及過超金ノ受授局及指定局竝其ノ區域……(一) 四三
訓九 體操敎授要目ヲ定ムル件……(四) 二五
訓一五 郵便電信電話滯納料金徵收事務取扱手續……(一六) 九
訓二七 關稅法等違犯申告者ニ關スル給與金取扱手續……(三) 一〇
訓三〇 電話事務規程……(一六) 五二
訓三三 歲入ノ納付ニ受領シタル證券取扱方……(一〇) 一二三
訓三五 現業傭人選奬規程……(一) 一九四
訓五六 電報書類整理規程……(一六) 三九
訓六八 臺灣總督府郵便局事務受渡規程……(一六) 九
訓七五 基隆、高雄收稅官吏出張所汽船ノ徽章……(三) 四六
訓八〇 臺灣總督府殖產局附屬商品陳列館設置……(一) 七
訓八一 臺灣總督府警察官吏服裝規程……(三) 一三
訓八八 臺灣總督府商業學校ニ於ケル體操科ノ敎授ニ關スル件……(四) 三〇
訓九五 臺灣總督府警察禮式……(一) 二三
訓一〇二 臺灣總督府學事視察規程……(一) 九三
訓一一一 臺灣總督府鐵道部現業員敎習所規程……(一) 一八三
訓一一六 特別郵便切手臺紙貼附郵便切手貯金預入取扱規程……(一六) 八五
訓一一七 特別郵便切手臺紙貼附郵便切手振替貯金拂込取扱規程……(一六) 八六
訓一一九 特別郵便切手臺紙出納規程……(一六) 八六
訓一三三 臺灣總督府鐵道部分課規程……(一) 一三
訓一五五 農會【及畜牛保健組合】財務規程準則……(一五) 一八
訓一六七 保管物取扱手續……(一〇) 三四二
訓一七七 臺灣總督府殖產局附屬旗山殖林所設置ノ件……(一) 八
訓一七八 臺灣總督府【營林局】殖林地域內ニ於ケル土地又ハ產物使用方ノ件……(九) 四〇
告二五 電話施設場所ニ出入スル者ノ證票……(一六) 六六
告三〇 臺灣電話規則ニ依ル電話官署……(一六) 六四
告三一 臺灣電話規則ニ依ル電話料金……(一六) 六四
告八一 臺灣總督府殖產局附屬商品陳列館觀覽規程……(一) 七
告八九 郵便振替貯金郵便貯金拂戾票拂込規則ニ依リ指定スル郵便局所……(一六) 七
告一四七 臺灣製造煙草定價……(一〇) 一五七
告一五七 【營林局】殖林地域……(九) 四〇

大正七年

法律

法一五 軍用自動車補助法……(一) 一二〇
法三八 軍需工業動員法……(一) 三
法三九 共通法……(四) 二

勅令

勅七 高等試驗令……(一) 一七六
勅八 普通試驗令……(一) 一七八
勅九 高等試驗委員及普通試驗委員官制……(一) 九〇
勅七八 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在ル陸軍軍人ノ服役事務ニ關スル件……(二) 八四
勅一七六 陸軍兵器部令……(一) 八七
勅三四七 保健技師、保健技手、敎誨師、敎師及作業技手ノ官等等級配當ノ件……(一) 二九
勅三五八 國勢調查施行令……(四) 一〇
勅三六六 保健技師、保健技手、敎誨師、敎師及作業技手ノ休職ニ關スル件……(一) 一九〇
勅三六八 軍需工業動員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件……(二) 一三
勅三八二 傭人扶助令……(三) 九三
勅三九一 臺灣總督府監獄醫敎誨師及敎師ノ官等等級配當ノ件……(一) 二九
勅三九二 臺灣總督府監獄醫敎誨師及敎師ノ休職ニ關スル件……(一) 一九〇

內閣

令一 高等試驗令施行細則……(一) 一七七
令五 軍需工業動員法第十六條ノ規定ニ依ル職務執行ノ證票ニ關スル件……(二) 一三
告四 勳章記章又ハ褒章ヲ有スル者大禮服及正裝ヲ除ク外制服著用ノ節略綬佩用方……(三) 一六

陸軍省

令六 臺灣演習召集簡閱點呼施行規則……(二) 八六
令八 軍用自動車補助法施行細則……(二) 二

文部省

令三 高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件……(一) 一七七

臺灣總督府

令二 臺灣陸軍召集諸費支出規程……(二) 九九
令六 軍事救護法施行細則……(三) 五三
令七 外國人入國ニ關スル件……(五) 二
令九 臺灣地方稅所屬輕便軌條取扱規則……(七) 七八
令一四 街路取締規則……(一六) 九二
令一六 臺灣總督府【營林局】ノ民事訴訟ニ關シ國代表ノ件……(一三) 一五五
令二〇 臺灣內地間出入船舶貨物ニ關シ稅關ノ臨時開廳等ニ付手數料納付ノ件……(一〇) 七四
令二四 臺灣總督府研究所附屬檢糖所分析檢證試驗出願規則……(一五) 三八
令二七 郵便局監視員竝船內郵便係員及鐵道郵便係員徽章……(三) 四五
令三六 流行性腦脊髓膜炎ヲ臺灣傳染病豫防令第一條第二項ニ依ル傳染病ト指定……(八) 一八
令四三 臺灣達警例……(八) 四三
令四七 市街地信用組合ノ拂戾準備金管理規程……(七) 三九
令五一 臺灣醫師令施行規則……(八) 二
令五二 臺灣醫師令ノ規定ニ依リ醫師免許ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格……(八) 三
令五四 臺灣齒科醫師令施行規則……(八) 五
令五五 臺灣齒科醫師令ニ依リ齒科醫師免許ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格……(八) 六
令五六 醫師ノ齒科專門標榜其他ニ關スル件……(八) 六
令五七 臺灣私立醫院規則……(八) 七
令五八 醫院其他診察所、治療所ノ廣告ニ關スル件……(八) 八
令五九 臺灣總督府瓦斯使用規則……(一六) 一六七
令六九 金若ハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者許可ヲ受クヘキ件……(一五) 一三三
令九一 傭人扶助令施行規則……(三) 九四
訓六 臺灣總督府奏任及判任待遇監獄職員給與規程……(一) 二八
訓一五 一般歲入豫算竝決算ノ資料トシテ六月一日現在額表、歲入實績表及歲入增減表提出方……(一〇) 一三三
訓一六 臺灣慈惠院報告事項……(三) 三五六
訓二六 臺灣總督府監獄物品、領置金品竝作業賞與金取扱手續……(一〇) 二〇三
訓三七 罰金科料沒收金歲入編入手續……(三) 二九
訓五六 郵便官署標札、標燈、揭示規程……(一六) 二六
訓六七 官有財產取扱手續……(一〇) 三八
訓九五 臨時國勢調查部規程……(一) 五
訓一一一 一、二等郵便局長ハ爲替貯金過誤拂徵收金ノ延納又ハ分納ヲ許否スヘキ件……(一〇) 二四九
訓一二五 粗製樟腦樟腦油製造監督規程……(一〇) 一四二
訓一二九 臺灣總督府監察官職務規程……(八) 四一
訓一四一 電報繼送規程……(一六) 三九
訓一四二 電信回線表、同時通信回線表、局報順送表……(一六) 三九
訓一五九 臺灣總督府工業學校ニ於ケル體操科ノ敎授ニ關スル件……(四) 三二
訓一六四 【廳】學事視察規程……(一) 九三
訓一九四 日支郵便取扱規程ニ依ル小包郵便取扱特定局……(一六) 一七
訓一九五 外國郵便取扱規程、日支郵便取扱規程ニ依ル輸入又ハ移入小包郵便物ノ通關手續ニ關スル交換局又ハ特定局ノ主管區域……(一六) 一七
訓二〇七 臺灣總督府殖產局附屬養殖試驗場設置……(一) 七
訓二一〇 監獄醫、敎誨師及敎師定員……(一) 一四六
訓二二〇 火藥類作業主任者免狀樣式……(八) 九〇
告三六 官設埤圳莿仔埤圳水利組合及官設埤圳后里圳水利組合管理ノ件……(九) 一五七
告三七 官設埤圳獅仔頭圳水利組合管理ノ件……(九) 一五七
告八〇 英領印度諸港ニ赴ク船員上陸心得方……(五) 九
告八二 臺灣製造煙草定價……(一〇) 一五七
告一〇五 阿片烟膏定價……(一〇) 一二四
告一一三 金銀貨幣、金銀地金、金若ハ銀ヲ主タル材料トシタル製品又ハ金若ハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者許可申請書提出ノ件……(五) 一二三
告一二三 煙草定價……(一〇) 一五七
告一二八 襤褸類移出ニ關スル取扱方……(八) 二
告一三三 煙草定價……(一〇) 一五七
告一三九 基隆港出入航洋船舶特別信號……(一六) 一六〇
告一四七 衡器一部修覆料……(五) 一七三
告一四八 煙草定價……(一〇) 一五七
告一四九 煙草定價……(一〇) 一五七
告一五三 煙草定價……(一〇) 一五七
彙報 臺灣總督府普通試驗令施行細則……(一) 一七八

大正八年

法律

法一五 事業公債金特別會計法……(一〇) 一九五
法二八 大麥、小麥及小麥粉ノ輸入稅減免ニ關スル件……(一〇) 一八
法四八 司法代書人法……(三) 九

勅令

勅二一　勤務演習召集演習召集及簡閲點呼ノ免除ニ付餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ニ關スル件……(一一)　九三
勅二三二　婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フノ件……(三)　四
勅二六四　臺灣ニ於テ電氣事業ヲ營ム會社ニ政府ノ出資トシテ其ノ財産ヲ提供スルコトヲ得ルノ件……(一六)　一六六
勅三三〇　臺灣總督府監獄職員服制提燈徽章ニ關スル件……(三)　一八
勅三五四　警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件……(一三)　三九
勅四〇二　陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ分限ニ關スル件……(一)　一九〇
勅四〇五　要塞地帶法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一一)　一
勅四二五　徴兵事務條例……(一一)　二九
勅四七五　一年志願兵條例……(一一)　六五
勅四七六　一年現役兵條例……(一一)　七三
勅四八五　臺灣總督府地方廳ニ於テ質舗ヲ設クルコトヲ得ルノ件……(一)　七一
勅四九二　戰役又ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時賜金又ハ金銀木杯若ハ錦地ヲ賜與スルコトヲ得ルノ件……(三)　一九
勅四九五　軍需調査令……(一一)　三

軍令

軍陸二一　臺灣軍司令部條例……(一)　八二

内閣

告一四　大正八年五月二十二日前ニ寶冠章ヲ敍賜セラレタル者ニ對シ今般制定ノ同章略綬ヲ付與セラルヘキニ付手續方……(三)　四
告一七　軍需調査令第十一條第一項及第二項、第十二條第二項並第十九條ノ規定ニ依ル指定……(一一)　一七

陸軍省

令三八　徴兵事務條例施行細則……(一一)　三
令四九　一年志願兵條例施行細則……(一一)　六六
令五〇　一年現役兵條例施行細則……(一一)　七三
令五一　明治三十九年勅令第三百十八號ニ依ル朝鮮、臺灣、樺太及支那等ニ在ル者ノ徴兵身體檢査ニ關スル件……(一一)　六三

陸軍省　海軍省

告二三　基隆ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件……(一一)　二
告　澎湖島ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件……(一一)　三

文部省

告二四一　徴兵令第十三條ニ依ル認定學校……(一一)　六三

臺灣總督府

律一　臺灣電力株式會社令……(一六)　一六六
律一〇　臺灣森林令……(九)　一五
律一一　臺灣總督府地方廳ノ設クル質舗ニ關スル件……(八)　六八
令七　米穀輸移出許可ニ關スル件……(一五)　一三一
令一七　通常郵便物原簿配達特別取扱規則……(一六)　二
令一八　郵便私書函一期間ノ使用料……(一六)　三
令四三　臺灣官立學校寄宿舍費徴收規則……(一四)　五六
令五八　熱帶醫學專攻科及研究科規則……(一四)　四三
令六二　臺灣總督府高等商業學校規則……(一四)　三七
令七一　臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則……(一)　一八一
令七九　臺灣土地收用規則施行地域……(九)　七
令八四　臺灣總督府商業專門學校規則……(一四)　三五
令九五　手形交換所指定……(一三)　一三三
令一〇七　【廳】財務課員ニ收入吏所屬ノ出納員ヲ命スル件……(一〇)　二四
令一〇八　集金郵便振替貯金特別取扱規則……(一六)　八七
令一〇九　集金郵便振替貯金特別取扱規則ニ依ル集金ニ對シ小切手ヲ以テ支拂ヲ爲シ得ルノ件……(一六)　八八
令一一五　法院條例中改正附則第六項ノ規定適用ノ件……(一)　三
令一一七　登記及公證事務ハ法院書記ヲシテ取扱ハシムル件……(一)　二七
令一二五　國勢調査施行規則……(四)　二一
令一三一　臺灣森林令施行規則……(九)　一六
令一三五　郵便、電信、電話官署代書人規則ハ臺灣ニ適用セサル件……(一六)　二
令一四二　土地收用規則施行地域……(九)　七
令一四四　臺灣小學校教員及臺灣公學校教員免許令施行規則……(一四)　五八
令一四六　臺灣公學校訓導ノ任用ニ關スル件……(一一)　一七一
訓一　臺灣内ニ發著スル局報取扱方……(一六)　三七
訓一三　臺灣總督府林業講習規程……(一一)　一四四
訓一九　通常郵便物原簿配達特別取扱規程……(一六)　三
訓二二　郵便取扱規程第三十九條及第二百七十八條ノ普通通常郵便物物數調査期間……(一六)　二
訓二六　臺灣總督府殖産局附屬獸疫血清製造所位置……(一一)　八
訓二八　臺灣總督府醫院收納規程……(一〇)　二三
訓三七　臺灣總督府師範學校附屬小學校及公立學校ニ於ケル地方税所屬ノ經費支出其ノ他物品會計ニ屬スル事項取扱ノ件……(七)　七九
訓四八　臺灣官立學校歳入取扱規程……(一四)　五六
訓四九　臺灣地方税支辨ノ俸給ヲ受クル學校敎員國庫納金收入取扱手續……(七)　三三
訓五八　臺灣地方税支出豫算中流用ヲ許ササル費目……(七)　七八
訓六六　臺灣總督府地方廳森林主事採用規程……(一一)　一七五
訓一〇〇　臺灣總督府官房並各局部事務分掌規程……(一一)　三
訓一〇五　臺灣總督府【廳】警察隊編成規程……(八)　四三
訓一〇八　女監取締部長ノ職ヲ置クノ件……(一一)　四七
訓一一二　臺灣總督府殖産局附屬樹苗養成所設置……(一一)　八
訓一一四　臺灣總督府監獄事務分掌及會議規程……(一一)　四五
訓一一五　看守長及通譯定員……(一一)　四六
訓一一六　臺灣總督府司獄官禮式及稱呼例……(一一)　二五
訓一三六　集金郵便振替貯金特別取扱規程……(一六)　八八
訓一四一　臺灣總督府職員ニシテ外國ニ留學中ノ者又ハ外國内ヲ旅行スル者ニ對シ學資又ハ旅費增給ノ件……(一一)　一二九
訓一四八　各法院各檢察局書記並判任通譯定員……(一一)　二七
訓一五〇　建物及船舶所有者ノ印鑑簿備付方ニ關スル件……(一三)　一九〇
訓一五九　臺灣總督府監獄職員服裝規程……(三)　四〇
訓一六四　マラリア防遏事務講習規程……(一一)　一八四
訓一八五　臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程……(一一)　一九九
訓一九三　臺灣森林令施行手續……(九)　二三
訓一九九　臺灣總督府看守長任用考試規程……(一一)　一八〇
訓二〇〇　臺灣總督府看守及女監取締考査表ニ關スル規程……(一三)　二三九

告四　臺灣總督府鐵道部出張所設置……(一)　三
告四四　臺北市老松公學校指定臺灣總督府臺北師範學校附屬公學校ニ代用ノ件……(一)　七六
告五七　粉末阿片定價……(一〇)　一三四
告六七　煙草定價……(一〇)　一五七
告七三　臺灣總督府高等商業學校位置……(一)　三五
告七五　臺灣總督府商業專門學校位置……(一)　三六
告七六　臺灣總督府土木局出張所設置……(一)　八
告七七　臺灣總督府土木局出張所設置……(一)　八
告八〇　煙草定價……(一〇)　一五八
告九六　國有林野ニ於ケル立木及木材ノ材積ノ單位……(九)　一三八
告一〇七　煙草定價……(一〇)　一五八
告一〇八　煙草定價……(一〇)　一五八
告一一二　煙草定價……(一〇)　一五九
告一二七　煙草定價……(一〇)　一五九
告一三七　煙草定價……(一〇)　一五九
告一七四　煙草定價……(一〇)　一五九
告一七五　基隆港内公ノ航路區域……(一六)　一五七
告一八六　基隆及打狗築港岸壁其ノ他港灣營造物使用料……(一六)　一六一
告一九〇　海上ニ於テ水雷ヲ發見シタルトキノ船員心得……(一六)　一四六

大正九年

法律

法一〇　恩給扶助料等ノ增額ニ關スル件……(三)　七六
法一二　所得税法ノ施行ニ關スル件……(一〇)　六二
法五一　内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國税免除ニ關スル件……(一〇)　一二九
法五二　朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル件……(一〇)　一二九
法五七　戰時海上再保險法廢止ノ件……(一五)　一〇七

勅令

勅九　工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件……(一五)　一四〇
勅四八　獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件……(一〇)　三九
勅五二　大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ノ低減又ハ免除ニ關スル件……(一〇)　一二八
勅五三　生牛肉及鳥卵ノ輸入税免除ノ件……(一〇)　一二八
勅八〇　現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件……(三)　三六
勅一〇七　混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ關スル件……(一三)　三
勅一三二　臺灣總督府部内臨時職員設置制……(一)　二
勅一五八　辯護士タル者ヲ判事檢事ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件……(一一)　一二五
勅一六〇　奏任文官特別任用令……(一一)　一〇七
勅一七一　同盟及聯合國ト獨逸國等トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件……(一〇)　三〇
勅一九〇　印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件……(一〇)　二三五
勅二一八　臺灣總督府地方官官制……(一一)　五〇
勅二一九　臺灣總督府警視特別任用ノ件……(一一)　一六九
勅二六二　教官及技術官ノ俸給ニ關スル件……(一一)　二四
勅二七八　大正九年法律第十號ニ依ル恩給扶助料等ノ增額ニ關スル件……(三)　七
勅二八三　戰時海上再保險法施行ニ關スル件……(一五)　一〇七
勅三一一　大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件……(一〇)　一二九
勅三一二　大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件……(一〇)　一二九
勅三五七　判任文官特別任用令……(一一)　一六八
勅三五八　三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件……(一一)　一七〇
勅三六一　臺灣總督府廳管内ニ區ヲ置クノ件……(一一)　七一
勅三六二　朝鮮總督府臺灣總督府關東廳及南洋廳部内ノ巡査及判任待遇監獄職員ノ懲戒ニ關スル件……(一)　一九八
勅三六七　聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件……(一)　九七
勅四〇五　交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件……(一一)　一三三
勅四八三　三等郵便局長等ノ給與ニ關スル件……(一一)　一三三
勅五三二　朝鮮又ハ臺灣ニ於テ徴發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ關スル件……(一一)　一三
勅五四五　勤勉手當給與令……(一)　一三一
勅五四九　關税定率法第五條ノ二施行ニ關スル件……(一〇)　一三三
勅五五〇　輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件……(一〇)　一三三
勅五五三　臺灣總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件……(八)　六八
勅五六八　臺灣總督府法院職員定員令……(一一)　二五

軍令

軍海三　防備隊令……(一)　八四

内閣

令八　大正九年法律第十號施行手續……(三)　七七

内務省

令二六　大正九年法律第十號施行規程……(三)　七八
令三八　徴兵旅費規則……(一一)　一〇八

大藏省

令一六　内國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃、船賃……(一)　一四三
告一八七　輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ産業ニ關スル法人等ノ件……(一〇)　一一三

陸軍省

令一　臺灣陸軍戰時召集規程……(一一)　九四
令五　徴兵檢査規則……(一一)　六三

文部省

令六　徴兵事務條例附則第三項ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程……(一一)　六二

臺灣總督府

律三　臺灣州制……(七)　一
律四　臺灣廳地方費令……(七)　四九
律五　臺灣市制……(七)　四
律六　臺灣街庄制……(七)　七
律九　廳、廳長等ニ關スル件……(一)　七〇
律一〇　街庄、街庄社、街庄社長及區、區長等ニ關スル件……(一)　七〇
律一三　臺灣徴發令……(一一)　六
令二　臺灣總督府鐵道職員現業從事者略服……(三)　一七
令七　軍需調査令第十一條ニ依ル私設鐵道ニ關スル報告書提出ノ件……(一一)　一九
令九　基隆上家使用規則……(一六)　一六一
令一一　米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非レハ之ヲ設立スルヲ得サルノ件……(一五)　一一九
令一三　徴兵事務條例附則第三項ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル件……(一一)　六二
令二〇　氣象通知電報規則中臺灣ニ適用ノ件……(一六)　三七

令三四　臺灣總督府醫學專門學校規則……(四)　四〇
令三七　公設質舖業務規則……(八)　六八
令四一　臺灣國勢調査ニ關スル職員徽章……(三)　四四
令四四　臺灣總督府職員旅費規則……(一)　一三二
令四七　州、廳ノ位置、管轄區域及郡市ノ名稱、位置、管轄區域……(一)　五三
令四八　街庄ノ名稱及管轄區域……(一)　三六
令五〇　農會ノ合併竝存續ニ關スル件……(五)　二
令五一　警察署ノ名稱、位置及管轄區域……(一)　六六
令五二　從前ノ府令及告示中廳ニ關スル規定ハ州又ハ廳エ、廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス……(一)　七〇
令五三　從前ノ府令、訓令又ハ告示中廳堡里鄉澳街庄社村等ノ名稱ハ各之ニ該當スル州廳郡市街庄等ノ名稱ニ改定……(一)　七一
令五五　臺灣總督府地方法院及支部名稱位置管轄區域……(一)　二五
令五六　臺灣總督府地方法院管內出張所名稱位置管轄區域……(一)　二五
令六三　從前ノ府令及告示中營林局又ハ營林局長ニ關スル規定ハ殖産局又ハ殖産局長ニ關スル規定トス……(一)　八
令六九　卽決言渡ニ係ル刑ノ執行囑託ニ關スル件……(三)　二三〇
令八八　臺灣ト內地、樺太及朝鮮間通航船舶取締規則……(六)　一五五
令九二　區ノ名稱、管轄區域及區役場ノ位置……(一)　七一
令九六　土地收用規則施行地域……(九)　七
令一〇〇　煙草耕作區域……(一〇)　一五五
令一〇四　稅關監視署ノ名稱及位置……(一)　二四
令一一〇　臺灣州制施行令……(七)　二
令一一一　臺灣市制施行令……(七)　五
令一一二　臺灣街庄制施行令……(七)　八
令一一三　街庄長及助役俸給支給規則……(七)　一四
令一一四　州市街庄吏員俸給支給規則……(七)　一三
令一一五　廳地方費手數料規則……(七)　三八
令一一六　從前ノ府令、告示中臺灣總督府ノ街庄、街庄社又ハ區ニ關スル規定ハ市、街庄又ハ區ニ、街庄長又ハ區長ニ關スル規定ハ市尹、街庄長又ハ區長ニ關スル規定トス……(一)　七一
令一三八　區長及區書記任用規則……(一)　一七六
令一三九　臺灣州稅規則……(七)　四二
令一四〇　地租附加稅及所得稅附加稅制限……(七)　四六
令一四一　州、市街庄手數料規則……(七)　四八
令一四二　州市街庄名譽職員費用辨償支給規程……(七)　一五
令一四三　州市街庄有給職員旅費支給規程……(七)　一四
令一四五　從前ノ府令、告示中臺灣總督府ノ地方費區ニ關スル規定ハ州又ハ廳地方費ニ關スル規定トス……(七)　四九
令一四六　臺灣廳地方費稅規則……(七)　四九
令一四七　臺灣羅災救助基金規則施行規則……(三)　三六
令一四八　臺灣廳地方費會計規則……(七)　三九
令一四九　臺灣廳地方費夫役現品規則……(七)　三六
令一五〇　臺灣廳地方費稅外收入規則……(七)　三七
令一五一　市街庄吏員賠償責任竝身元保證ニ關スル規程……(七)　一五
令一五二　臺灣市街庄稅規則……(七)　四七
令一五三　廳地方費ニ對スル用途指定ノ寄附受納ニ關スル件……(七)　三九
令一五八　州又ハ廳地方費ノ收入トナルヘキ手數料……(七)　四八
令一六一　臺灣州制ニ依ル家稅及州稅規則等ニ依ル地方稅ノ賦課徵收ニ關スル件……(七)　四八
令一六六　大正九年法律第十號施行手續……(三)　七八
令一六七　臺灣州戶稅規則……(七)　四七
令一六八　地方法院支部ニ於テ單獨判官ノ權限ニ屬セシメタル事項取扱ノ件……(一)　二七
令一七二　州有給吏員規則……(七)　一三
令一七三　臺灣茶業取締規則……(一五)　七
令一七四　臺灣總督府稅關監吏任用規則……(一)　一七一
令一七六　臺灣總督府鐵道部職員旅費規則……(一)　一五八
令一七七　臺灣廳地方費戶稅規則……(七)　五五
令一八〇　直接稅及間接稅ノ種類……(七)　四七
令一八四　臺灣モルヒネ、コカイン及其ノ鹽類取締規則……(八)　一六
令一八五　臺灣總督府警察官吏旅費規則……(一)　一六一
令一八七　行旅病人、行旅死亡人等ノ費用支辨及引取者ノ件……(三)　六二
令一八八　臺灣ト內地、樺太及朝鮮間通航船舶取締規則……(六)　一五五
令一九一　州市街庄吏員服務紀律……(七)　一五
訓八　軍需調査令施行ニ關スル手續……(一一)　二〇
訓一〇　地理ニ關スル事務監査規程……(一)　九五
訓二三　臺灣總督府醫院醫務助手、看護婦長及守衞長規程……(一)　四〇
訓二四　拘留及勞役場留置者假出場證票書式……(三)　三九
訓四三　全國氣象實況報及上海氣象實況報取扱ニ關スル件……(六)　二七
訓五二　宿舍料支給規程……(一)　一三〇
訓五五　宿直食料支給規程……(一)　一三〇
訓六一　臺灣國勢調査事務取扱規程……(四)　一
訓六二　臺灣國勢調査監督委員及監督補助委員心得……(四)　三
訓六三　臺灣國勢調査調査委員心得……(四)　三
訓六四　臺灣國勢調査世帶調査書樣式……(四)　三
訓六五　臺灣國勢調査世帶調査書記入心得……(四)　三
訓六六　臺灣國勢調査委員要計表樣式及記入心得……(四)　一七
訓六七　臺灣國勢調査監督委員要計表樣式及記入心得……(四)　一八
訓七〇　監獄看守、女監取締及押丁給與品中代料渡價格……(一)　一三九
訓七三　臺灣總督府監獄醫看守女監取締及押丁ニ宿直又ハ夜間勤務食料支給ノ件……(一)　一三一
訓七八　臺灣總督府鐵道部職員夜勤食料支給規程……(一)　一三一
訓七九　臺灣總督府專賣局職員徹夜食料支給規程……(一)　一三一
訓八三　臺灣總督府遞信局、郵便局、燈臺、測候所夜勤食料支給規程……(一)　一三一
訓八五　【廳】國勢調査委員部規程……(一)　六八
訓八七　公設質舖業務規則施行細則……(八)　六九
訓九五　郵便爲替金及其ノ他各種現金受拂等臨時多數ノ場合取扱時間延伸ノ件……(六)　七〇
訓九八　臺灣國勢調査世帶調査書及要計表檢査手續……(四)　二〇
訓一一三　臺灣國勢調査ニ關スル旅費支給規程……(一)　一六六
訓一一八　地方制實施準備委員會規程……(一)　九一
訓一二二　臺灣總督府土木局職員旅費規程……(一)　一五六
訓一二四　遞信局、通信官署及燈臺職員特別旅費規程……(一)　一五五
訓一二五　臺灣總督府稅關職員旅費規程……(一)　一六〇
訓一三〇　州、廳ニ於ケル判任官ノ定員……(一)　一六二
訓一三一　郡市ニ於ケル視學、屬及技手ノ定員竝郡及市警察署ニ配置スヘキ警視、警部、

警部補ノ員數……(一)　六五
訓一三二　從前ノ訓令、內訓、指令、通達及通牒中廳ニ關スル規定ハ州又ハ廳ニ、廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス……(一)　七〇
訓一三三　州、廳ニ於ケル警察醫定員……(一)　六五
訓一四四　臺灣總督府州事務分掌規程……(一)　六八
訓一四五　臺灣總督府郡事務分掌規程準則……(一)　六九
訓一四六　臺灣總督府市事務分掌規程準則……(一)　七〇
訓一四七　臺灣所得稅令取扱規程……(一〇)　七〇
訓一四九　臺灣總督府殖産局職員特別旅費規程……(一)　一四四
訓一五〇　臺灣總督府營林所旅費規程……(一)　一三三
訓一五五　從前ノ訓令、內訓、通達、通牒、府議決定中營林局又ハ營林局長ニ關スル規定ハ殖産局又ハ殖産局長ニ關スル規定トス……(一)　八
訓一五六　巡査部長配置及任免規程……(八)　一三〇
訓一五七　臺灣總督府殖産局營林所事務分掌規程……(一)　八
訓一六三　臺灣總督府所屬官吏遺族扶助法納金收入取扱方等ニ關スル件……(一〇)　一三二
訓一七七　臺灣總督府地方警察配置及勤務規程……(八)　一九
訓一八七　州、廳巡査採用規程……(一)　一七五
訓二〇二　警手ニ關スル規程……(八)　一三一
訓二〇九　臺灣總督府醫院長職務規程……(一)　二〇五
訓二一〇　臺灣總督府醫院入院料、藥價及諸料金規程……(八)　六
訓二一三　臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生手當金及旅費支給規則……(一)　一二五
訓二一四　州、廳巡査教習規程……(一)　一八二
訓二一七　勤務演習召集、演習召集及簡閲點呼免除手續……(一一)　九二
訓二二三　遞信局及郵便局所現金出納計算規程第二條ニ依ル資金及過超金ノ受授局及指定局竝其ノ區域……(六)　七七
訓二二五　區役場事務分掌規程……(一)　七二
訓二二八　市外電話回線……(六)　六四
訓二二九　從前ノ訓令、內訓、指令、通達、通牒、府議決定中街庄、街庄社又ハ區ニ關スル規定ハ市、街庄又ハ區ニ、街庄長又ハ區長ニ關スル規定ハ市尹、街庄長又ハ區長ニ關スル規定トス……(一)　七一
訓二三〇　區書記ノ定員……(一)　七二
訓二三三　從前ノ訓令、內訓、指令、通達、通牒、府議決定中臺灣總督府ノ地方費區ニ關スル規定ハ州又ハ廳地方費ニ關スル規定トス……(七)　四九
訓二三四　州財務規程……(七)　一六
訓二三五　街庄役場所務規程準則……(七)　一〇
訓二三六　市、街庄財務規程……(七)　一八
訓二三七　區長及區書記手當竝區役場事務費支給規程……(七)　三六
訓二三八　區長及區書記旅費支給規程……(一)　一六六
訓二四二　電信電話技術官駐在地及其線路機械擔當區域……(一)　四三
訓二四四　教科書調査會規程……(一)　九一
訓二四五　臺灣廳地方費會計取扱規程……(七)　五九
訓二五〇　官立公立學校講師教務囑託及助手規程……(四)　六〇
訓二五五　臺灣總督府殖産局營林所職員夜勤食料支給規程……(一)　一三一
訓二五六　州稅及廳地方費稅免除物件報告方ノ件……(七)　四九
訓二五九　州豫算式竝繼續費年期支出方法樣式……(七)　一九
訓二六〇　州廳巡査精勤證書授與規程……(一)　一九二
訓二六六　臺灣土地測量標標石保管數調報告書式……(九)　一五
訓二七三　臺灣總督府巡査給與細則……(一)　一二六
訓二七五　臺灣漁業規則委任事項規程……(一五)　四七
訓二七七　市街庄ニ於ケル豫算竝繼續費年期支出方法樣式……(七)　八
訓二八六　地押調査規程……(九)　二
訓二九〇　臺灣廳地方費稅規則取扱規程……(七)　五四
訓二九一　臺灣廳地方費手數料徵收規程……(七)　三八
訓二九二　廳地方費稅外收入規則取扱規程……(七)　三七
訓二九三　廳地方費所屬小學校及公學校授業料徵收規程……(四)　五四
訓二九六　巡査給與品及貸與品規則……(一)　一三四
訓三〇一　州及廳警察職員旅費規程……(一)　一六一
訓三〇三　臺灣總督府鐵道部職員旅費規則施行規程……(一)　一五九
訓三〇四　林野其ノ他ノ土地整理事務ニ從事スル州、廳臨時職員定員……(一)　六七
訓三〇七　國庫及廳地方費交付金交付規程……(一〇)　九
訓三〇八　警察官吏其ノ他警察事務ニ從事スル文官飛行徽章ニ關スル件……(三)　四四
訓三一五　臺灣總督府報告例……(四)　二〇
告四〇　停車場入場券ノ發賣驛及料金ニ關スル件……(一六)　一〇三
告四三　公學校同分校名稱及位置變更……(一)　八一
告四七　臺灣小學校名稱位置……(一)　七五
告四九　公學校名稱位置變更……(一)　八一
告五二　公學校名稱變更……(一)　八一
告五七　食鹽百斤當賣捌定價……(一〇)　一四五
告五九　公學校分校ヲ本校ニ變更……(一)　八一
告六〇　公學校及分校設立……(一)　八〇
告六一　公學校分校名稱變更……(一)　八一
告六三　公學校分校ヲ本校ニ變更竝名稱變更……(一)　八二
告六四　公學校分校設立……(一)　八〇
告七〇　公學校分校設立……(一)　八一
告七五　公學校分校ヲ本校ニ變更……(一)　八二
告七八　臺灣總督府所屬郵便局所ニ於ケル郵便爲替郵便貯金其ノ他各種ノ現金受拂事務取扱日時……(一六)　七〇
告一三六　阿片烟膏及粉末阿片下付官廳……(一〇)　一三二
告一三九　銃砲火藥類販賣業者定員……(八)　九〇
告一五九　煙草定價……(一〇)　一五九
告一六一　公學校分校名稱變更……(一)　八一
告一六六　煙草定價……(一〇)　一五九
告一七一　廳地方費金ヲ取扱フヘキ銀行、位置、名稱竝其出納區域……(七)　七八
告一七七　煙草定價……(一〇)　一五九
告一八三　臺灣廳地方費稅規則等ニ依リ納付スル小切手ニ關スル件……(七)　五九
告一八四　臺灣總督府土木局基隆出張所移轉……(一)　八
告一九六　海外旅券ノ査證手數料及渡航證明書手數料額……(五)　九
告一九八　退隱料、遺族扶助料又ハ給助料ヲ受クル者更正證書ノ交付ヲ受ケムトスルトキ手續方……(三)　八〇
告二〇一　臺灣ニ於テ勤務演習ヲ爲シ若ハ簡閲點呼ヲ受ケムトスル者ノ願書及其ノ許可ヲ受ケタル者ノ願届樣式……(一一)　九一
告二二四　臺灣總督府官制第十七條第四項ニ因ル國有林野地域指定……(一)　五
論告三　州制市制街庄制等新ニ制定自治制實施ニ付官民其趣旨ヲ體得シ福祉增進方……(七)　三

大正十年

法律

法三　臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律……（四）二
法二五　南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル件……（三）二
法四二　會計法……（一〇）一六四
法六〇　水產會法……（一五）五三
法六二　無線電信法中改正……（一六）六
法六八　刑事訴訟費用法……（三）二二五
法七四　貯蓄銀行法……（一五）六四
法八七　臺灣軍軍法會議ニ關スル件……（一）八九
法九六　特許法……（一五）一二四
法九七　實用新案法……（一五）一二六
法九八　意匠法……（一五）一三一
法九九　商標法……（一五）一三三
法一〇〇　辨理士法……（一五）一三八

勅令

勅二六　臺灣總督府州理事官等ノ特別任用ニ關スル件……（一）一七〇
勅八九　臺灣ニ於ケル官立公立學校教官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件……（一）一三〇
勅二〇六　臺灣消防組規則……（八）一〇一
勅二一四　臺灣總督府稅關ニ於テ臨時出務スル稅關ノ判任官、雇員及傭人ニ手當支給ノ件……（一）二二四
勅二二三　奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件……（一）二二三
勅二三八　關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件……（一〇）二一四
勅二三九　關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件……（一〇）二一六
勅二四一　臺灣總督府評議會官制……（一）二一〇
勅三六二　臺灣總督府中央研究所官制……（一）四七
勅三七四　政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件……（一〇）二一三
勅三九二　臺灣總督府通信官署官制……（一）四一
勅四〇一　外國旅費規則……（一）一四九
勅四〇二　南洋群島關東洲南滿洲旅費規則……（一）一四六
勅四〇六　臺灣地方待遇職員令……（一）六七
勅四一五　陸軍ニ於ケル豫備馬ノ無償貸渡及無償付與ノ件……（一〇）二一三
勅四三七　臺灣ニ於ケル官立公立學校教員ノ休職ニ關スル件……（一）一九〇
勅四五四　明治三十三年法律第七十七號ニ依ル退隱料及遺族扶助料ノ審查ニ關スル件……（三）八五
勅四五五　貯蓄銀行法ヲ臺灣及樺太ニ施行スルノ件……（一五）六四

內閣

告六　勤務演習召集、演習召集及簡閱點呼ノ免除ニ付餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者指定……（一）九三

大藏省

令二九　貯蓄銀行法施行細則……（一五）六五
令三一　外國旅費規則施行細則……（一）一五一
令三二　南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則……（一）一四九

陸軍省

令二三　陸軍豫備馬貸付規則……（一〇）二一三

陸軍省　文部省

告一九　徵兵令第十三條ニ依ル認定學校……（一）六二

文部省

令二六　朝鮮、臺灣、樺太、關東州ニ於ケル專門學校入學者檢定試驗ノ效力ニ關スル件……（四）四四
告四二三　專門學校入學者檢定規程ニ依ル指定……（四）四四
告四二五　專門學校入學者檢定規程ニ依ル指定……（四）四四

臺灣總督府

律四　臺灣所得稅令……（一〇）六二
律一〇　臺灣水利組合令……（九）四一
令六　元地方費區ニ屬シタル財產ノ分屬ニ關スル件……（七）七八
令一一　臺灣土地收用規則施行地域……（九）七
令一四　官設保稅倉庫敷料定率表……（一〇）一一三
令二八　州市街庄吏員懲戒規程……（七）一六
令三〇　市街庄吏員事務引繼ニ關スル件……（七）一六
令三五　學校生徒兒童身體檢查規則……（四）五一
令四六　廳地方費所屬營造物ノ使用料及其ノ徵收手續ニ關スル件……（七）二九
令四七　臺灣總督府委託生規則……（四）六二
令五二　國庫所屬手數料徵收規則……（一〇）二二六
令六四　臺灣總督府出版學校用圖書拂下規則……（四）六四
令六六　學校傳染病豫防規則……（四）六九
令七六　臺灣總督府巡查、判任待遇監獄職員、判任待遇街庄長、區長及區書記懲戒規程……（一）一九八
令七七　奏任待遇街長ノ懲戒ニ關スル件……（一）一九八
令八五　臺灣所得稅令施行規則……（一〇）六五
令九五　專門學校入學者檢定ニ關スル規程……（四）四三
令九七　交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府燈臺職員手當金給與細則……（一）一三
令九八　擔保ニ徵スル有價證券ニ關スル件……（一〇）二三三
令一〇〇　臺灣消防組規則施行規則……（八）一〇二
令一〇一　巡查及警手請願配置規則……（八）三三
令一〇二　巡查、警手請願警護ニ關スル件……（八）三三
令一〇四　臺灣島內相互間ニ發著スル小包郵便物ノ料金……（一六）一六
令一〇八　州市有給吏員宿舍料支給規則……（七）一五
令一〇九　臺灣公立幼稚園規則……（四）一七
令一一二　市、街庄又ハ區長ニ於テ徵收スル國庫金ノ種目竝ニ交付金ニ關スル件……（一〇）九
令一一四　當分ノ內襤褸其ノ他輸入禁止ニ關スル件……（八）二
令一一七　臺灣航洋船舶健全證書發給規則……（一六）一三一
令一一八　船舶電話使用規則……（一六）六八
令一一九　臺灣總督府鐵道職員共濟組合規則……（三）二六
令一二〇　關稅定率法第九條施行ニ關スル件……（一〇）二一六
令一二一　關稅定率法第十條施行ニ關スル件……（一〇）二一七
令一二二　輸入稅免除品使用ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏常時派出ノ手數料ニ關スル件……（一〇）二一八
令一二四　臺灣總督府殖產局度量衡所ノ名稱及位置……（一）七
令一二五　中央研究所支所ノ名稱及位置……（一）四八
令一二六　從前ノ府令及告示中研究所又ハ研究所長等ニ關スル規定ハ中央研究所又ハ中央研究所長ニ關スル規定トス……（一）四九
令一二九　通信官署官制制定ニ伴フ移管方規定ノ件……（一）四四
令一三五　臺灣總督府通信書記補特別任用規則……（一）一七〇
令一四〇　手形交換所指定……（三）一三三
令一四一　毒藥劇藥品目……（八）九
令一四八　關稅定率法中免稅貨物ノ指定ニ關スル大藏省令臺灣ニ適用ノ件……（一〇）二一八
令一五二　臺灣飲食物取締規則……（八）五七
令一五四　原動機取締規則……（八）九七
令一五五　物件賣拂代金延納ニ關スル件……（一〇）二一三
令一六一　臺灣總督府遞信局及通信官署職員共濟組合規則……（三）二九
令一六九　臺灣正米市場規則……（一五）一一九
令一七二　臺灣徵發令施行規則……（一）七
令一七三　貯蓄銀行法施行ニ關スル件……（一五）六五
訓三　臺灣總督府三等郵便局長擔保金取扱規程……（一）二〇〇
訓一一　廳地方費臺灣罹災救助基金規則取扱手續……（三）五七
訓一九　臺灣總督府監獄看守及女監取締休暇規程……（一）二〇三
訓二〇　臺灣總督府州、廳巡查休暇規程……（一）二〇四
訓二一　臺灣總督府殖產局附屬養殖試驗場設置……（一）七
訓三二　學校生徒兒童身體檢查規則ニ依ル發育概評決定標準……（四）五三
訓三三　囑託員雇員俸給額制限規程……（一）一三六
訓四五　臺灣總督府土木局現業員規程……（一）一八
訓四六　臺灣總督府土木局船員規程……（六）一四六
訓四八　通信現業員勤勉手當給與規程……（一）一二七
訓五〇　巡查、警手給與品及貸與品取扱規程……（一）一三五
訓五二　臺灣總督府職員加俸支給細則……（一）二一四
訓五四　臺灣總督府專賣局職員旅費規程……（一）一五九
訓五五　臺灣總督府專賣局樟木調查職員旅費規程……（一）一六〇
訓五七　臺灣總督府出版學校用圖書拂下規則取扱手續……（四）六四
訓五九　州、廳、郡、市職員管內旅費規程……（一）一六四
訓七三　臺灣公立小學校又ハ臺灣公立公學校ノ教員心得ノ俸給ニ關スル件……（一）二一〇
訓八四　請願巡查、警手取扱規程……（八）二三三
訓八五　巡查、警手請願警護取扱規程……（八）二三四
訓一〇〇　臺灣總督府評議會會議規程……（一）二一〇
訓一〇一　臺灣總督府評議會職員手當及旅費支給規程……（一）二一四
訓一〇五　臺灣總督府鐵道部職員表彰規程……（一）一九二
訓一〇六　臺灣官立學校長職務規程……（一）二〇六
訓一〇九　巡查給與品中代料渡ニ係ルモノノ價格……（一）一三七
訓一一二　市街庄行政事務監查規程準則……（一）九六
訓一一五　臺灣小學校及臺灣公學校ノ寄宿生費給與ニ關スル準則……（一）一二九
訓一一六　廳地方費ニ屬スル臺灣小學校及臺灣公學校寄宿生費給與規程……（一）一二九
訓一一七　臺灣總督府師範學校附屬小學校寄宿生費給與ニ關スル件……（一）一二九
訓一一八　遞信報告規程……（四）二四
訓一一九　看守部長設置及命免規程……（一）四六
訓一二一　臺灣總督府防疫獸醫ノ勤務ニ關スル規程……（一）二一〇
訓一二二　州廳駐在ノ臺灣總督府防疫獸醫旅費支給ニ關スル件……（一）一六四
訓一二五　臺灣廳地方費夫役現品規則取扱規程……（七）五六
訓一二七　師範學校演習科等ノ卒業者ノ退職若ハ休職ニ關スル件……（四）四九
訓一二九　市街庄ニ於ケル追加更正豫算樣式……（七）三六
訓一三三　臺灣總督府鐵道職員共濟組合規則第四條ニ依ル現業員……（三）一九
訓一三七　臺灣總督府殖產局度量衡所事務分掌規程……（一）七
訓一三九　臺灣總督府中央研究所事務分掌規程……（一）四七
訓一四〇　從前ノ訓令、內訓、指定、通達及通牒中研究所又ハ研究所長等ニ關スル規定ハ中央研究所又ハ中央研究所長ニ關スル規定トス……（一）四九
訓一四四　通信官署官制制定ニ伴フ移管方規定ノ件……（一）四四
訓一四六　臺灣總督府一、二等郵便局事務分掌規程……（一）四一
訓一五六　臺灣總督府中央研究所支所事務分掌規程……（一）四八
訓一五八　臺灣總督府植物檢查所規程……（一）七
訓一五九　臺灣地方待遇職員令第四條ニ依ル物產檢查員州定員……（一）六八
訓一六四　法令取調委員會規程……（一）九〇
訓一六七　原動機取締規則施行心得……（八）九九
訓一七〇　臨時出務員手當支給額ニ關スル件……（一）一二四
訓一七四　警察電話及鐵條網管理規程……（八）四三
訓一七五　臺灣總督府遞信局及通信官署職員共濟組合事務取扱規程……（三）二四
訓一七六　臺灣總督府遞信局及通信官署雇員以下ノ現業員指定……（三）五三
訓一九三　犯罪人名簿及犯罪通知規則……（三）二二六
訓二〇六　臺灣產業組合取扱規程……（一五）二二五
訓二一四　官廳ニ於テ原動機ヲ設置スル場合等ニ關スル件……（八）一〇一
告八　臺灣總督府殖產局附屬林業試驗用地改稱ノ件……（一）八
告一四　製造煙草定價……（一〇）一六〇
告一八　外國旅券規則ニ依リ同一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地……（五）七
告一九　水產動植物ノ採捕禁止區域……（一五）五一
告三八　花蓮港神社縣社ニ加列ノ件……（六）二
告四三　保險會社供託金代用ニ關スル件……（一五）一〇三
告四五　再製鹽竝煎熬鹽標準ニ關スル件……（一〇）一四四
告四七　食鹽百斤當賠償價格……（一〇）一四三
告五一　臺北外四州米穀移出檢查組合設置……（一五）一三一
告五三　臺灣電話規則第二條ニ依ル電話加入區域……（一六）六三
告六二　公學校ニ於テ使用スヘキ教科用圖書……（四）六三
告六六　臺灣總督府出版學校用拂下圖書及定價……（四）六五
告七六　巡查及警手請願配置規則第四條ニ依ル費用……（八）三三
告七七　巡查、警手請願警護ニ關スル件第二條ニ依ル費用……（八）三三
告八四　臺南第一公學校指定臺灣總督府臺南師範學校附屬公學校ニ代用ノ件……（一）一七六
告八八　臺灣總督府師範學校及其ノ附屬學校ノ名稱、位置……（一）三五
告九五　從來ノ山川名ニテ街庄土名ト類似ノモノ改稱……（九）一
告一〇四　粗製樟腦、樟腦油專賣法第三條ニ依ル補償金……（一〇）一四〇
告一一九　測候所設置……（一）八
告一二〇　臺灣總督府一等郵便局名稱位置……（一）四二
告一二一　臺灣總督府二等郵便局名稱位置……（一）四三
告一二二　基隆無線電信局設置……（一）四三
告一三八　植物檢查員徽章……（一五）一三
告一五六　水底線變更ノ件……（一六）四三
告一六八　政府ニ收納スル再製包裝鹽竝煎熬包裝鹽ノ包裝……（一〇）一四四
告一六九　中等程度以上ノ學校中二箇以上ノ學科若ハ學校ニ入學出願者ノ入學スヘキ學科若ハ學校……（四）二五
告一八九　製造煙草定價……（一〇）一六〇
告一九〇　度量衡器及衡器一部修覆材料賣下價格……（一五）一六二

大正十一年

法律

法一三　臺灣事業公債法……（一〇）三一
法一八　增加恩給等ノ增額ニ關スル件……（三）七九
法二二　銅、眞鍮及青銅ノ輸入稅ニ關スル件……（一〇）一一九

法 二四 臺灣私設鐵道補助法……(一六) 二四
法 五〇 內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……(一〇) 一三〇
法 七一 破產法……(一三) 一三七
法 七二 和議法……(一三) 一四一

勅令

勅 一 會計規則……(一〇) 一六五
勅 六 在外研究員規程……(四) 六二
勅 九 辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件……(一五) 一三八
勅 二〇 臺灣教育令……(四) 一
勅 二四 臺灣ニ於ケル公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件……(四) 六八
勅 五一 訴願法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一二) 一〇
勅 五八 衞戍病院令……(一) 八六
勅 七〇 供託法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三) 二〇四
勅 七一 臺灣總督府供託局官制……(一) 二七
勅 七五 供託物ノ還付又ハ取戾ヲ請求スル場合ニ關スル件……(一三) 二一〇
勅 八三 陸軍法務部令……(一) 八六
勅 一〇三 陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件……(一三) 二三一
勅 一〇四 海軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件……(一三) 二三一
勅 一五七 臺灣總督府諸學校官制……(一) 二四
勅 一五八 臺灣公立學校官制……(一) 七二
勅 二二四 臺灣公立盲啞學校官制……(一) 八二
勅 二三三 感化法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(八) 一〇二
勅 二三四 臺灣總督府感化院官制……(一) 一二七
勅 二三七 臺灣總督府師範學校生徒學資給與ノ件……(一) 一二八
勅 二八四 大正十一年法律第十八號ニ依ル增加恩給等ノ增額ニ關スル件……(三) 一七九
勅 二九六 南洋群島出港稅令……(一〇) 一三〇
勅 三〇四 大正十一年法律第二十二號ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件……(一〇) 一一八
勅 三〇五 臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件……(一〇) 三五二
勅 三一五 巡查等ノ待遇相當等級ニ關スル件……(一) 一二五
勅 三七九 臺灣ニ於ケル官立若ハ公立學校ノ教員ニシテ舍監事務ニ從事スル者ノ手當給與ニ關スル件……(一) 一二五
勅 四〇二 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三) 九〇
勅 四〇六 民事ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三) 一
勅 四〇七 臺灣ニ施行スル法律ノ特例ニ關スル件……(一三) 一
勅 四三一 陸軍准士官下士ヲ判任文官ニ任用ノ件……(一) 一七三
勅 四七六 拓殖事務局官制……(一) 二
勅 五二一 質屋取締法外十六件施行ニ關スル件……(八)(一〇) 六五 三三
勅 五二四 刑事訴訟費用法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一三) 二二五
勅 五二五 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ヲ臺灣ニ施行スル件……(一三) 一
勅 五二六 間接國稅犯則者處分法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(一〇) 一三六

內閣

令 一 官報、法令全書及職員錄ノ發行ニ關スル件……(四) 四
令 五 大正十一年法律第十八號施行手續……(三) 一七九
令 六 官廳執務時間及休暇……(一) 二〇二
告 二 軍需調査令ニ依ル自動車報告規程……(一一) 一九

大藏省

令 一 支出官事務規程……(一〇) 二三六
令 二 出納官吏事務規程……(一〇) 二四三
令 五 保管金取扱規程……(一〇) 三三九
令 六 預金部預金取扱規程……(一〇) 三三三
令 七 政府所有有價證券取扱規程……(一〇) 三〇八
令 八 政府保管有價證券取扱規程……(一〇) 三一四
令 九 供託有價證券取扱規程……(一〇) 三一七
令 一〇 日本銀行國庫金取扱規程……(一〇) 二九七
令 一一 日本銀行政府有價證券取扱規程……(一〇) 三〇九
令 二〇 會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式……(一〇) 一七二
令 三一 國債規則……(一〇) 三七
令 三三 會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般競爭加入者ニ必要ナル資格ニ關スル件……(一〇) 二二一
令 三八 歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續……(一〇) 二一〇
令 四二 寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程……(一〇) 三三〇
令 四三 會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件……(一〇) 二〇一

陸軍省

令 二〇 陸軍現役兵ノ入營期日竝退營期日等ニ關スル件……(一一) 六二

司法省

令 二 供託物取扱規則……(一三) 二〇四

會計檢查院

達 一 計算證明規程……(一〇) 二六〇

臺灣總督府

律 三 臺灣酒類專賣令……(一〇) 一六〇
律 四 臺灣酒精令……(一〇) 四三
律 六 民事ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルニ付改廢ヲ要スル律令ニ關スル件……(一三) 一四三
令 八 臺灣總督府醫院助產婦講習所規則……(一) 四〇
令 一二 臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則……(一六) 一三八
令 一四 臺灣公立學校醫ノ囑託及執務ニ關スル規則……(四) 六八
令 一五 臺灣總督府鐵道部運輸規程……(一六) 一〇〇
令 二四 州、廳ノ位置、管轄區域及郡市名稱、位置、管轄區域……(一) 二六
令 二六 徵兵旅費支給規則……(一一) 一〇七
令 三二 輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件……(一〇) 一一三
令 四九 團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル規則……(七) 四一
令 五六 臺灣墓地火葬場及埋火葬取締規則……(八) 五三
令 六四 臺灣公立小學校規則……(四) 二
令 六五 臺灣公立公學校規則……(四) 九
令 六六 臺灣公立中學校規則……(四) 三一
令 六七 臺灣公立高等女學校規則……(四) 一七
令 六八 金錢及有價證券ノ供託ニ關スル手續……(一三) 二〇四
令 六九 供託金利息割合……(一三) 二〇四
令 七〇 臺灣總督府供託局及其ノ出張所名稱位置……(一) 三〇
令 七六 臺灣公立農業學校規則……(四) 三三

令 七七 臺灣公立工業學校規則……(四) 三〇
令 七八 臺灣公立商業學校規則……(四) 二九
令 七九 臺灣公立實業補習學校規則……(四) 三四
令 八〇 臺灣公立高等女學校演習科及講習科規則……(四) 三三
令 八四 臺灣總督府高等學校規則……(四) 二六
令 八六 臺灣總督府高等農林學校規則……(四) 三六
令 八八 臺灣總督府師範學校規則……(四) 四四
令 八九 臺灣總督府師範學校附屬小學校及附屬公學校規則……(四) 四九
令 九〇 師範學校ノ普通科、演習科、研究科及講習科生徒學資給與規則……(一) 一二八
令 九一 師範學校ノ演習科卒業者、研究科及講習科修了者服務規則……(四) 四九
令 九三 地租ヲ賦課セサル土地ノ件……(一〇) 一〇
令 九四 臺灣總督府專賣局支局、出張所及工場ノ名稱及位置……(一) 三一
令 九六 監獄及支監ノ名稱位置……(一) 四六
令 九九 會計規則及大正十一年大藏省令第三十三號ノ規定ニ依リ一般競爭加入者ニ必要ナル資格ニ關スル件……(一〇) 二二一
令 一〇四 臺灣總督府感化院規則……(一) 一一七
令 一〇五 供託局又ハ供託局出張所ノ預金取扱店……(一三) 二〇九
令 一〇七 臺灣公立盲啞學校規則……(四) 五〇
令 一〇八 官立、公立學校外國人入學ニ關スル規則……(四) 五四
令 一〇九 臺灣酒類專賣令施行規則……(一一) 一六一
令 一一〇 臺灣酒類專賣令ニ依ル徵收又ハ使用物件ノ調査及鑑定人ニ關スル件……(一〇) 一六三
令 一一一 臺灣海岸砂防造林用種苗無償下付規則……(九) 一八
令 一一三 臺灣總督府州、廳警部補ニ被服支給ノ件……(一) 一二八
令 一一四 臺灣海岸砂防造林事業費補助規則……(九) 二七
令 一一五 臺灣酒精令施行規則……(一〇) 四四
令 一一七 臺灣私設鐵道補助法施行規則……(一六) 二四
令 一二一 番地登錄ニ關スル件……(一〇) 二九
令 一二三 臺灣水利組合令施行規則……(九) 四三
令 一二四 臺灣水利組合吏員服務規律……(九) 五二
令 一二五 臺灣水利組合吏員賠償責任竝身元保證規程……(九) 五二
令 一二六 臺灣水利組合吏員懲戒規程……(九) 五二
令 一二七 臺灣水利組合吏員事務引繼規程……(九) 五三
令 一三〇 臺灣總督府經費渡切規則……(一〇) 二四二
令 一三三 官幣大社臺灣神社神職俸給規則……(一) 一三〇
令 一三八 私立學校規則……(四) 五七
令 一三九 臺灣總督府圖書館規則……(一) 三六
令 一四二 臺灣總督府遞信局及遞信官署現金受拂規則……(一〇) 二四九
令 一四四 臺灣總督府部內各官廳執務時間……(一) 二〇二
令 一四六 臺灣總督府遞信官吏練習所依託生規則……(一) 一八六
令 一四七 市場規則……(一五) 一一九
令 一四九 州有給吏員ノ定員……(七) 一三
令 一五一 臺灣官設鐵道建設規程……(一六) 九五
令 一五七 帝國政府ト丁抹國政府トノ船舶積量互認ノ件取極メタルニ付其條規……(一六) 一三七
令 一五八 分析、試驗、檢查、鑑定及藥品小分封緘規則……(一五) 三六
令 一六〇 大正十一年法律第十八號施行手續……(三) 八〇
令 一六一 臺灣帽子原料取締規則……(一五) 一三
令 一六三 据置貯金郵便切手預入特別取扱規則……(一六) 八六
令 一六九 從前ノ府令中業主權等土地ニ關スル權利ノ規定ニ關スル件……(一三) 一五二
令 一七〇 不動產登記法施行規則……(一三) 一八五
令 一七一 商業登記ニ關スル取扱手續……(一三) 一九五
令 一七二 法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續……(一三) 一九九
令 一七三 船舶ノ登記ニ關スル取扱手續……(一三) 一九三
令 一七四 產業組合ノ登記ニ關スル件……(一三) 一九九
令 一七五 確定日附簿及日附アル印章調製方……(一三) 一五三
令 一七九 金錢及有價證券ニ非サル供託物ヲ保管スヘキ倉庫營業者、銀行竝其ノ供託書式等ニ關スル件……(一三) 二〇九
訓 五 臺灣總督府港務所職員ノ提燈及臺灣港務所船舶徽章……(一) 四五
訓 一三 臺灣地方待遇職員ノ旅費支給ニ關スル件……(一) 一六六
訓 一四 臺灣畜犬取締規則標準及臺灣畜犬取締規則施行心得標準……(一) 五二
訓 三一 臺灣總督府州、廳巡查定員……(一) 六五
訓 三四 營繕及土木工事施行規程……(一〇) 三一〇
訓 五一 市制、街庄制ニ關スル事務中知事又ハ廳長取扱事項……(七) 一三
訓 五四 小切手用紙保管規程……(一〇) 二〇四
訓 五五 各供託局書記專任定員……(一) 三〇
訓 六八 契約ニ關スル委任事項ノ件……(一〇) 二二一
訓 七二 出納官吏ノ印鑑……(一〇) 二四九
訓 七四 臺灣公立公學校訓導在職者ノ任用ニ關スル件……(一) 一七一
訓 七六 兵器彈藥取扱規程……(八) 九三
訓 七八 臺灣總督府監獄看守採用規程……(一) 一七三
訓 八一 臺灣總督府監獄看守及女監取締精勤證書授與規程……(一) 一九三
訓 八九 公立ノ中學校、高等女學校及實業學校專任職員定員……(一) 七三
訓 九五 臺灣總督府州、廳警部補被服給與規程……(一) 一三八
訓 一〇一 臺灣總督府史料編纂委員會規程……(一) 九一
訓 一〇四 官幣大社臺灣神社及縣社以下神社神職奉務規則……(六) 一
訓 一〇五 團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル規則第十四條取扱規程……(七) 四三
訓 一〇六 蕃地登錄ニ關スル件……(一〇) 二九
訓 一〇九 臺灣海岸砂防造林用種苗無償下付規則取扱手續……(九) 二九
訓 一一五 一般交通運輸ノ用ニ供セサル軌道ニ付取扱方……(一六) 一三三
訓 一一八 臺灣總督府監獄職員賞與及表彰規程……(一) 一九四
訓 一一九 臺灣地方待遇職員令第一條乃至第三條ニ依ル職員定員……(一) 六七
訓 一二一 在外研究員規程施行細則……(四) 六一
訓 一二二 林務監查規程……(一) 九五
訓 一二三 外國通常爲替ノ受拂業務取扱ノ件……(一六) 七一
訓 一二七 臺灣監獄令施行規則ニ依ル在監者ノ作業時間……(一三) 二三七
訓 一二九 通常道路郵便線路遞送荷量……(一六) 二
訓 一三〇 電信電話線路及機械試驗執行地竝其ノ擔當區域……(一六) 四二
訓 一三三 歲入徵收額計算證明方取扱順序……(一〇) 二三四
訓 一三七 臺灣酒精令取扱規程……(一〇) 四五
訓 一三九 臺灣總督府訴願審查會規程……(一) 二
訓 一四〇 臺灣總督府中央研究所評議會規程……(一) 四九
訓 一四一 臺灣公醫手當支給規程……(一) 三六
訓 一四八 臺南州立臺南盲啞學校專任職員定員……(一) 八二
訓 一五〇 修正村田銃ヲ蕃人ニ貸與シ得ルノ件……(八) 九七
訓 一五三 出納官吏命免及監督ニ關スル件……(一〇) 二四九
訓 一七六 臺灣總督府鐵道部特殊傭人給料支給規程……(一) 一二七
訓 一七七 會計檢查院審理書處理規程……(四) 六
訓 一八四 臺灣私設軌道報告樣式ノ件……(四) 二四

訓一八七　市場規則施行細則準則……(一五)　一九

訓一九六　基隆無線電線局ニ於テ放送スル暴風警報ヲ氣象局報トシテ取扱フヘキ件……(一六)　七三

訓一九九　水利組合規約準則……(九)　五一

訓二〇二　据置貯金郵便切手預入特別取扱規程……(一六)　八六

訓二〇五　臺灣總督府警察及監獄職員語學試驗規程……(一)　一八一

訓二〇七　臺灣總督府部内判任文官通譯兼掌者手當支給規程……(一)　一三

訓二一八　從前ノ訓令中業主權等土地ニ關スル權利ノ規定ニ關スル件……(三)　一三三

訓二二一　短刀ヲ佩用スル警察官吏指定……(二)　一三

訓二二四　理蕃事務報告手續……(四)　一二

訓二二七　臺灣總督府供託局事務章程……(一)　二七

告一六　臺灣小學校規則ニ依リ小學校ニ於テ使用スヘキ教科用圖書……(四)　六三

告一九　臺灣總督府、醫院官制第一條第二項ニ依リ助産婦講習所設置……(一)　四〇

告二〇　船舶電話使用規則ニ依ル電話接續函ノ名稱、設置場所及所屬電話官署……(一六)　六八

告二四　臺灣總督府中央研究所血清其ノ他細菌學的豫防治療品賣捌規定……(八)　一五

告三四　專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依ル指定……(四)　四三

告四八　船内郵便係員ノ乘務スル船舶指定……(一六)　七

告五一　臺灣公立中學校ノ名稱、位置及設立團體名……(一)　七三

告五二　臺灣公立高等女學校ノ名稱、位置、修業年限及設立團體名……(一)　七四

告五三　臺灣公立實業學校ノ名稱、位置、修業年限及設立團體名……(一)　七四

告五六　臺灣總督府醫學專門學校位置……(一)　三五

告五七　臺灣總督府高等學校位置……(一)　三五

告五八　臺灣總督府高等農林學校位置……(一)　三五

告五九　專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依ル指定……(四)　四四

告六〇　專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依ル指定……(四)　四四

告七〇　製造煙草定價……(一〇)　一六〇

告七一　臺灣總督府圖書館位置……(一)　二七

告七二　臺灣總督府感化院名稱……(一)　三八

告八一　臺灣總督府官制第十七條第四項ニ依ル國有林野地域指定……(一)　五

告九二　州立、廳地方費立公學校ノ名稱、位置、修業年限、設立者……(一)　七六

告九五　製造煙草定價……(一〇)　一六〇

告一〇五　酒類及酒精ノ定價……(一〇)　一六四

告一一三　州立、廳地方費立小學校名稱位置設立者……(一)　七四

告一一四　臺灣總督府官制第十七條第四項ニ依ル國有林野地域指定……(一)　五

告一一六　臺灣公立盲啞學校ノ名稱、位置及設立團體名……(一)　八三

告一四五　帝國政府ト丁抹國政府ト船舶積量互認ノ件……(一六)　一三七

告一五〇　製造煙草定價……(一〇)　一六〇

告一六四　製造煙草定價……(一)　一六〇

告一八九　製造煙草定價……(一〇)　一六〇

諭告一　教育令改正ニ關スル件……(四)　一

大正十二年

法律

法四八　恩給法……(三)　六四

勅令

勅三八　臺灣總督府部内ノ職員ニシテ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル者ニ航空手當ヲ給スルノ件……(一)　一三

勅四一　司法代書人法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……(三)　九

勅五六　海軍區令……(二)　一

勅四九　臺灣公立幼稚園官制……(一)　八二

勅八一　陸軍運輸部令……(一)　八六

軍令

軍海一　要港部令……(一)　八三

大藏省

令一　大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則……(一)　一四六

令二　大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則……(一)　一四五

文部省

令一二　臺灣教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程……(四)　五〇

農商務省

告七二　軍需調査令ニ依ル汽船運航見込表……(一一)　一九

臺灣總督府

令一　重要物産同業組合法施行規則……(一五)　一七

令二　農業倉庫業法施行規則……(一五)　三

令三　商法施行法ニ依ル湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍……(三)　一五四

令四　質屋取締法施行細則……(八)　六六

令五　船舶積量測度ニ關スル件……(一六)　一三

令六　商法第五百六十二條ニ掲クル船中備附書類ニ關スル件……(三)　一五三

令七　水難救護法ノ施行ニ關スル件……(三)　六〇

令八　無盡業法施行ニ關スル件……(一五)　七六

令九　擔保附社債信託法ノ施行ニ關スル件……(一五)　一二

令一〇　相互保險會社登記取扱手續……(三)　一九八

令一三　間接國稅犯則者處分法施行ニ關スル件……(一〇)　一二七

令一四　海港檢疫法施行規則……(八)　三五

令一五　行政執行法施行規則……(八)　四六

令一七　輸出入植物取締法施行規則……(一五)　八

令一八　輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ行フ場所……(一五)　一三

令一九　工場抵當法登記取扱手續……(三)　二〇〇

令二〇　臺灣地租規則施行規則……(一〇)　一一

令二一　保險業法施行規則……(一五)　八八

令二二　犯罪捜査ニ關シ檢察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニ旅費等給與方……(三)　二一五

令二三　外國保險會社ニ關スル件……(一五)　一〇五

令二八　外國ノ政事ニ關スル結社加入ニ關スル件……(八)　四九

令三二　官有森林原野産物ノ公賣處分ニ付州知事又ハ廳長取扱事項……(九)　三一

令三三　司法代書人法ノ施行ニ關スル件……(三)　八

令三七　臺灣公立幼稚園保姆ノ俸給ニ關スル件……(一)　一二〇

令三八　臺灣公立幼稚園保姆ノ退職、失職ニ關スル件……(一)　一九〇

令四〇　州廳農事試驗場規則……(一五)　四

令四三　公立、私立圖書館規則……(一)　八二

訓一　農業倉庫業取扱規程……(一五)　三

訓二　船舶積量測度心得ニ關スル件……(一六)　一三四

訓三　水難救護法取扱規程……(三)　六〇

訓六　間接國稅犯則者處分法取扱規程……(一〇)　一二七

訓七　行政執行法施行規則取扱手續……(八)　四六

訓一〇　臺灣地租規則取扱心得……(一〇)　一一

訓一一　臺灣地租規則測量事務取扱心得……(一〇)　二六

訓一二　救助料分配案ニ關スル取扱規程……(三)　一五四

訓一四　收入官吏事務細則……(一〇)　二三三

訓二四　官有林野産物處分豫定案編成規程……(九)　二九

訓二五　官幣大社臺灣神社會計規程……(一〇)　一九八

訓三四　司法代書人法施行手續……(三)　九

訓四八　電報取扱時間外ノ取扱ヲ爲サヽル電信局所……(一六)　三〇

訓五三　大正十二年度監獄看守定員……(一)　四六

訓五九　官立公立學校教員舍監事務從事者手當支給細則……(一)　一三五

訓六一　臺灣總督府職員航空手當給與細則……(一)　一三

訓六二　字名稱ノ設定變更、廢置分合等ノ場合處理方……(七)　三七

告一　輸出入植物取締法施行規則ニ依ル郵便局指定……(一五)　一三

告二　輸出入植物取締法施行規則ニ依ル檢査手數料……(一五)　一三

告三　臺灣總督府植物檢査所位置竝分所ノ名稱、位置……(一)　七

告二一　産業組合法ニ依ル市街地指定……(一五)　二五

告二九　通信官署ニ於ケル郵便受付時間……(一六)　一三

告三〇　電信局所ノ電報取扱時間……(一六)　二九

告三三　專門學校入學者檢定ニ關スル規程指定……(四)　四四

告三九　非常事變ニ關スル通話ノ特別取扱……(一六)　六九

告八二　次高山命名……(九)　一

諭告一　民法及商法施行ニ關スル件……(一三)　一四三

官制沿革略記

官制沿革略記

●臺灣總督府

○明治二十八年八月陸達第七十號ヲ以テ臺灣總督府條例ヲ定ム之ヨリ先キ臺灣總督ニ於テ臺灣總督府假條例ヲ定メタルモ右條例ノ制定アリタル爲實施ニ至ラス○二十九年三月勅令八十八號ニ依リ同條例消滅

○二十八年六月勅令第七十四號ヲ以テ臺灣事務局官制ヲ定メ臺灣ノ政務ヲ管理スルノ機關ト爲ス○明治二十九年四月勅令第百三十一號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○二十九年三月勅令第八十七號ヲ以テ拓殖務省官制ヲ定メ○三十年八月勅令第二百九十四號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○二十九年三月勅令第八十八號ヲ以テ臺灣總督府條例ヲ定ム○三十年八月勅令第二百九十七號ヲ以テ臺灣總督府條例中拓殖務大臣ヲ內閣總理大臣ニ改ム○同年十月勅令第三百六十二號ヲ以テ同條例ヲ廢止ス

○二十九年三月勅令第九十號ヲ以テ臺灣總督府民政局官制ヲ定ム○三十年十月勅令第三百六十二號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○二十九年三月勅令第百十六號ヲ以テ臺灣總督府軍務局官制ヲ定ム○三十年十月勅令第三百六十二號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○二十九年五月勅令第百六十九號ヲ以テ臺灣總督府民政局臨時土木部官制ヲ定メ且左記ノ諸官制ヲ制定シ民政局長ノ監督ニ屬セシム

臺灣總督府稅關官制
臺灣總督府撫墾署官制
臺灣總督府直轄諸學校官制
臺灣總督府郵便電信局官制
臺灣總督府燈臺所官制
臺灣總督府測候所官制
臺灣總督府製藥所官制
臺灣總督府巡查看守教習所官制

○二十九年三月勅令第三百六十二號ヲ以テ民政局臨時土木部官制ヲ廢止ス

○三十年八月勅令第二百九十五號ヲ以テ臺灣事務局官制ヲ定メ之ヲ內閣ニ置ク○三十一年二月勅令第二十四號ヲ以テ臺灣事務局ヲ內務省ニ移ス○同年十月勅令第二百五十九號ヲ以テ內務省官制ヲ改正シ臺灣ニ關スル事務ハ大臣官房ニ於テ掌理シ臺灣事務局官制ヲ廢止ス

○三十年十月勅令第三百六十二號ヲ以テ臺灣總督府官制ヲ定メ總督官房ノ外ニ陸軍幕僚、海軍幕僚、民政局、財務局ヲ置ク

○三十年十月勅令第三百六十三號ヲ以テ臺灣總督府陸軍幕僚條例ヲ、勅令第三百六十四號ヲ以テ臺灣總督府海軍幕僚條例ヲ定ム○明治四十一年軍令陸第四號ヲ以テ臺灣總督府陸軍幕僚條例ヲ臺灣總督府陸軍部條例ニ改定○大正八年八月勅令第三百九十五號ヲ以テ臺灣總督府海軍幕僚條例ヲ廢止ス○同年同月軍令陸第二十一號ヲ以テ臺灣軍司令部條例ヲ定メ臺灣總督府陸軍幕僚條例ヲ廢止ス

○三十一年六月勅令第百六號ヲ以テ臺灣總督府官制中改正總督官房ノ外ニ民政部、陸軍幕僚、海軍幕僚ヲ置キ民政長官、參事官長ヲ置キ○三十八年十一月勅令第二百三十三號ヲ以テ參事官長ヲ廢シ局長ノ定員ヲ改メ○四十一年三月勅令第四十四號ヲ以テ陸軍幕僚ヲ陸軍部ニ改ム

○三十三年二月勅令第三十六號ヲ以テ翻譯官ヲ置ク

○三十四年五月勅令第八十三號ヲ以テ臺灣總督府圖書編修職員官制ヲ定ム○四十二年五月勅令第百二十七號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○三十四年十一月勅令第二百一號ヲ以テ民政部ニ警察本署及五局ヲ設ケ警視總長、局長、警視及警部ヲ置ク

○三十五年十一月勅令第二百五十七號ヲ以テ通信局ニ測候所及燈臺ヲ附屬セシメ測候所技師、技手、燈臺看守及海事官ヲ置ク

○三十六年九月勅令第百四十五號ヲ以テ臨時防疫事務官及防疫醫ヲ置キ○三十九年五月勅令第百十二號ヲ以テ防疫醫官ヲ置キ○四十二年十月勅令第二百九十號ヲ以テ內務局所屬トス○四十五年五月勅令第百十三號ヲ以テ定員ヲ改ム○大正十年八月勅令第三百六十一號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○三十七年四月勅令第百二十三號ヲ以テ稅務官ヲ置ク

○三十八年五月勅令第百七十五號ヲ以テ臺灣總督府ニ臨時戶口調查ニ關スル職員ヲ置キ○四十一年三月勅令第五十三號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○三十九年九月勅令第二百四十二號ヲ以テ臺灣總督府ニ顧問ヲ置キ○四十三年六月勅令第二百八十六號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○四十年五月勅令第百六十七號ヲ以テ技師ノ定員ヲ改ム

○四十二年四月勅令第九十七號ヲ以テ臺灣ノ移民事務ニ從事セシムル職員ヲ置キ○四十三年五月勅令第二百三十號ヲ以テ同上勅令ヲ改正シ○四十四年四月勅令第百十六號ヲ以テ技師ヲ置キ判任官ノ定員ヲ改メ○大正四年二月勅令第十七號ヲ以テ同上判任定員ヲ改ム○大正八年三月勅令第四十二號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○四十二年五月勅令第百二十七號ヲ以テ視學官、編修官、視學及編修書記ヲ置キ府令罰則ノ規定ヲ改ム

○四十二年十月勅令第二百七十號ヲ以テ蕃務本署ヲ置キ總務局ヲ內務局ニ改メ警察本署及土木局ヲ廢シ局長以下ノ定員ヲ改メ參事官ノ內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得ルノ規定ヲ設ク

○四十三年五月勅令第二百三十一號ヲ以テ林野整理事務ニ從事スル職員ヲ置キ○四十四年五月勅令第百七十一號ヲ以テ同上勅令ヲ改正ス○大正七年六月勅令第二百四十六號ヲ以テ屬、技手ノ定員ヲ改ム○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○四十三年六月勅令第二百七十九號ヲ以テ拓殖局官制ヲ定メ內務大臣ノ監督ヲ廢ス○大正二年六月勅令第百十二號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○四十三年六月勅令第二百八十一號ヲ以テ內務大臣ノ監督ニ屬スル事項ヲ內閣總理大臣ニ移シ局長及蕃務總長ヲ勅任ニ改ム

○四十四年四月勅令第百十五號ヲ以テ林業試驗事務ニ從事スル職員ヲ置ク○大正八年六月勅令第三百十五號ヲ以テ林務ニ從事スル臨時職員ヲ營林局ニ設置シ同上勅令ヲ廢止ス

○四十四年十月勅令第二百六十號ヲ以テ民政部ニ四局二署三部ヲ設ケ警視總長ヲ置キ事務官、警視、技師及屬以下ノ定員ヲ改メ○四十五年七月勅令第百四十三號ヲ以テ警視、技師及屬以下ノ定員ヲ改ム

○四十五年五月勅令第百十二號ヲ以テ蠶業獎勵ニ關スル事務ニ從事スル職員ヲ置ク○大正六年十一月勅令第二百十二號ヲ以テ屬、技手ノ定員ヲ改ム○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正二年六月勅令第百十五號ヲ以テ內閣總理大臣ノ監督ニ屬スル事項ヲ內務大臣ニ移シ參事官、技師竝屬以下ノ定員ヲ改ム

○大正二年十一月勅令第三百號ヲ以テ蔗苗養成ニ關スル臨時職員ヲ置キ○大正四年七月勅令第百十八號ヲ以テ屬、技手ノ定員ヲ改ム○大正七年五月勅令第百二十七號ヲ以テ技師ヲ置キ技手ノ定員ヲ改ム○大正八年四月勅令第百四十三號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改ム○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正三年四月勅令第五十八號ヲ以テ宅地租調查事務ニ從事セシムル臨時職員ヲ置ク○大正四年三月勅令第四十六號ヲ以テ同上勅令中宅地租ヲ地租ニ、屬ヲ屬、技手ニ改ム○大正七年八月勅令第三百十四號ヲ以テ技師專任一人ヲ置ク○大正八年六月勅令第三百十二號ヲ以テ稅務官ノ定員ヲ改メ○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正三年四月勅令第五十九號ヲ以テ戶口調查事務ニ從事セシムル臨時職員ヲ置ク○大正四年七月勅令第百二十號ヲ以テ同上職員

中屬定員ヲ改メ○大正七年三月勅令第三十四號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正三年七月勅令第百四十八號ヲ以テ技師及判任官ノ定員ヲ改ム

○大正四年二月勅令第十六號ヲ以テ技師、翻譯官、判任ノ定員ヲ改ム

○大正四年七月勅令第百十九號ヲ以テ蔗苗檢査事務ニ從事スル職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正四年七月勅令第百二十九號ヲ以テ蕃務本署、蕃務總長ヲ削リ蕃務警視ヲ加ヘ警視、技師、判任官ノ定員ヲ改ム

○大正六年七月勅令第七十三號ヲ以テ拓殖局官制ヲ改ム○大正十一年十一月勅令第四百七十六號拓殖事務局官制ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○大正六年七月勅令第八十一號ヲ以テ內務大臣ノ監督ニ屬スル事項ヲ內閣總理大臣ニ移ス

○大正六年十一月勅令第二百九號ヲ以テ技師、屬以下定員ヲ改ム

○大正六年十月勅令第二百十號ヲ以テ河川事業ニ關スル事務ニ從事スル職員ヲ置ク○大正八年五月勅令第二百十三號ヲ以テ屬ノ定員ヲ改メ○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年三月勅令第三十五號ヲ以テ國勢調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正八年四月勅令第百十九號ヲ以テ屬ノ定員ヲ改メ○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年五月勅令第百二十八號ヲ以テ海洋調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年五月勅令第百六十五號ヲ以テ鑛業ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年五月勅令第百六十六號ヲ以テ區ノ制度調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年六月勅令第二百三十三號ヲ以テ土地改良ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年六月勅令第二百三十五號ヲ以テ茶業奬勵ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正七年八月勅令第三百四號ヲ以テ警務官專任三人ヲ置キ奏任官トシ警視、技師及ヒ屬以下ノ判任職員及ヒ測候所看守ノ定員ヲ改メ警察本署ニ監察官二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ警察事務ノ實況ヲ監察セシム

○大正八年三月勅令第四十三號ヲ以テ林野取締ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○同年六月勅令第三百十五號ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年四月勅令第百二十五號ヲ以テ包蓆草養成ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年五月勅令第二百十四號ヲ以テ鑛物及地質ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年五月勅令第二百四十四號ヲ以テ水利及港灣ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年六月勅令第三百十一號ヲ以テ四局一署三部ヲ六局一部トシ局長等ノ定員ヲ改メ警視總長及警察本署ヲ廢シ警務總長ヲ置キ警務局長ヲ以テ之ニ充ツ

○大正八年六月勅令第三百十三號ヲ以テ緬羊飼育試驗ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年八月勅令第三百七十號ヲ以テ臺灣ニ於ケル重要物產檢査ノ事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク○大正十年九月勅令第四百六號臺灣地方待遇職員令ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス

○大正八年八月勅令第三百九十三號ヲ以テ總督ハ陸海軍大中將タルコトノ資格ヲ解除シ陸海軍統率權兵力使用權竝ニ防備ニ關スル事務ヲ軍司令官ニ移シ總督陸軍武官ナルトキハ軍司令官ヲ兼ネシムルコトヲ得ルモノトシ民政部陸軍部海軍幕僚ヲ廢シ民政長官ヲ總務長官ニ改ム

○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ總督府ニ國勢調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員其他多數ノ臨時職員ヲ增置ス○同年九月勅令第三百四十九號ヲ以テ同上勅令中改正シ林業試驗ニ關スル事務、保安林ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス○同年十二月勅令第五百六十號ヲ以テ同上勅令中改正シ定員ヲ改メ獸疫豫防ニ關スル事務ニ從事スル者其他ノ臨時職員ヲ增置ス

○大正九年九月勅令第三百四十八號ヲ以テ殖產局ニ營林所ヲ置キ營林局ヲ廢止シ事務官以下ノ定員ヲ改メ警務總長警務官ヲ廢シ總督ノ特ニ命スル場合ニ限リ警務局長ヲシテ警察事務ノ執行ニ關シ廳長警務部長警察官吏ヲ指揮監督セシム

○大正十年一月勅令第六號ヲ以テ所得稅調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置キ○同年六月勅令第二百七十八號ヲ以テ鐵道部ニ鐵道ノ建設、改良及線路調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置シ○同年八月勅令第三百六十一號ヲ以テ國勢調査ニ關スル事務ニ從事スル者及其ノ他ノ臨時職員ノ定員ヲ改メ中央研究所ニ緬羊飼育試驗ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス

○大正十年一月勅令第十八號ヲ以テ總督府ノ職員中事務官以下ノ定員ヲ改メ○同年八月勅令第三百六十號ヲ以テ殖產局ニ度量衡所ヲ置キ蕃務警視ヲ警視トシ事務官以下ノ定員ヲ改ム

○大正十一年四月勅令第百五十四號ヲ以テ鹽田擴張ニ關スル臨時職員ヲ廢シ酒類專賣ニ關スル工場其ノ他ノ建築及設備ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス

○大正十一年十一月勅令第四百七十六號ヲ以テ拓殖事務局官制ヲ定ム

●法院

○明治二十九年五月律令第一號ヲ以テ臺灣總督府法院條例ヲ定ム

○三十一年七月律令第十六號ヲ以テ條例ヲ改正シ三審制ヲ二審制ニ改メ檢察局ヲ附置シテ檢察官長ヲ置キ判官在職中ノ行爲ニ制限ヲ附シ且其ノ地位ノ保障竝退職休職ノ制ヲ設ク

○二十九年七月律令第二號ヲ以テ臺灣總督府臨時法院條例ヲ定メ○三十一年十一月律令第二十三號ヲ以テ匪徒刑罰令違反事件ヲ所管事項ニ加ヘ三人ノ判官ノ合議制ニ改ム○大正八年八月律令第四號ヲ以テ臺灣總督府法院條例中改正シ前記官制ヲ廢止ス

○四十一年四月律令第五號ヲ以テ覆審法院ニ書記長ヲ置キ奏任トス

○大正三年五月律令第九號ヲ以テ臨時法院ノ廢廳後ハ覆審法院ニ於テ其ノ事件ニ關スル事務ヲ取扱フ

○大正八年八月律令第四號ヲ以テ法院ヲ地方法院高等法院トシ高等法院ニ覆審部及上告部ヲ置キ二審制ヲ三審制ニ改メ地方法院ノ管轄內ニ支部ヲ地方法院及支部ノ管轄內ニ出張所ヲ置キ高等法院檢察官長ノ職務承繼權及職務遷移權ニ關シ規定ス

●鐵道部

○明治三十二年三月勅令第八十一號ヲ以テ臨時臺灣鐵道敷設部官制ヲ定ム○同年十一月勅令第四百二十六號ヲ以テ臺灣總督府鐵道部官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

○三十七年一月勅令第五號ヲ以テ書記ノ定員ヲ○三十八年五月勅令第百七十二號ヲ以テ事務官ノ定員ヲ○三十九年七月勅令第百八十五號及四十年四月勅令第百十七號ヲ以テ書記ノ定員ヲ改ム

○四十二年五月勅令第百二十八號ヲ以テ技師長ヲ廢シ技師、書記及技手ノ定員ヲ改メ技師ノ內一人ヲ勅任ニ技手ヲ判任トス○同年十月勅令第二百七十二號ヲ以テ通譯ヲ廢シ事務官以下ノ定員ヲ改ム

○四十四年四月勅令第百十號ヲ以テ事務官、技師、書記及技手ノ定員ヲ改ム

○四十五年五月勅令第百十四號ヲ以テ技師、技手ノ定員ヲ改ム

○大正二年六月勅令第百十七號ヲ以テ技師、技手ノ定員ヲ改ム

○大正三年九月勅令第百九十一號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正四年二月勅令第十八號ヲ以テ技師書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正七年二月勅令第二十一號ヲ以テ事務官、書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正七年五月勅令第百三十號ヲ以テ技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正八年七月勅令第三百二十五號ヲ以テ事務官補ヲ置キ其ノ定員ヲ定メ事務官、技師、書記及技手ノ定員ヲ改ム

○大正九年九月勅令第四百三十號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正十年六月勅令第二百七十九號ヲ以テ職員ノ定員ヲ改メ部長ハ臺灣總督府部內ノ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

●專賣局

○明治二十九年三月勅令第九十八號ヲ以テ臺灣總督府製藥所官制ヲ定メ○三十年五月勅令第百六十二號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ專任ノ所長及事務官ヲ置キ○同年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移シ○三十一年六月勅令第百十號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ事務官ヲ廢シ技師ノ定員ヲ減シ○三十四年五月勅令第百十六號ヲ以テ製藥所官制ヲ廢止ス

○三十二年三月勅令第五十一號ヲ以テ臺灣鹽務局官制ヲ定メ○三十四年五月勅令第百十六號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○三十二年六月勅令第二百四十六號ヲ以テ臺灣樟腦局官制ヲ定メ○三十三年七月勅令第三百二號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ局長ハ總督府勅任官ヲ以テ之ニ充テ技師、技手ヲ置ク○三十四年五月勅令第百十六號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス

○三十四年五月勅令第百十六號ヲ以テ臺灣總督府專賣局官制ヲ定メ○三十五年十一月勅令第二百五十八號ヲ以テ專任局長ヲ置キ次長ヲ廢シ技師、書記、技手ノ定員ヲ改メ○三十八年三月勅令第八十九號ヲ以テ掌理事項中ニ煙草專賣ヲ加ヘ書記、技手及通譯ノ定員ヲ改ム○三十九年八月勅令第二百七號ヲ以テ事務官ノ定員ヲ改ム

○四十二年三月勅令第四十四號ヲ以テ掌理事務中衞生及殖產上試驗事項ヲ削リ技師、翻譯官、書記及技手ノ定員ヲ改メ○同年十月勅令第二百七十三號ヲ以テ事務官以下ノ定員ヲ改ム

○大正元年九月勅令第二十二號ヲ以テ掌理事務ニ樟樹ノ造林ニ關スル事項ヲ加ヘ書記及技手ノ定員ヲ改ム

○大正二年六月勅令第百十九號ヲ以テ事務官、技師、書記、技手及通譯ノ定員ヲ改ム

○大正四年二月勅令第二十號ヲ以テ書記、技手、通譯ノ定員ヲ改ム

○大正四年七月勅令第百三十號ヲ以テ局長ノ勅任又ハ奏任ヲ勅任ニ改メ書記ノ定員ヲ改ム

○大正七年六月勅令第二百三十四號ヲ以テ樟樹調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ置ク

○大正七年六月勅令第二百四十八號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ定ム

○大正八年六月勅令第二百九十九號ヲ以テ腦務監督官ヲ置キ樟樹ノ生產ニ關スル監督事務ヲ掌ラシメ其ノ定員ヲ定メ書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部內臨時職員設置制ヲ以テ樟樹調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置シ○同年十二月勅令第五百六十號ヲ以テ鹽田擴張ニ關スル事務、鹽田適地調査ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ增置ス

○大正九年十一月勅令第五百四十二號ヲ以テ事務官、技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正十年五月勅令第二百三十七號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改ム

○大正十一年四月勅令第百五十五號ヲ以テ事務ノ範圍、職員ノ定員ヲ改メ必要ト認ムル地ニ專賣局ノ出張所又ハ工場ヲ置クコトヲ得ル規定ヲ設ク

●研究所

○明治四十二年三月勅令第四十三號ヲ以テ臺灣總督府研究所官制ヲ定ム

○四十三年四月勅令第二百號ヲ以テ技師ノ定員ヲ改メ○四十四年四月勅令第百十三號ヲ以テ技師及技手ノ定員ヲ改ム

○大正三年七月勅令第百五十號ヲ以テ技師ノ定員ヲ改ム

○大正五年九月勅令第二百十二號ヲ以テ第一條管掌事項中改正

○大正六年十月勅令第百八十號ヲ以テ技師、技手ノ定員ヲ改ム

○大正七年八月勅令第三百五號ヲ以テ技師、技手ノ定員ヲ改ム

○大正七年十二月勅令第三百八十五號ヲ以テ第一條管掌事項ヲ改ム

○大正八年四月勅令第百二十六號ヲ以テ技師、書記及技手ノ定員ヲ改ム

○大正九年十月勅令第四百七十六號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改ム

○大正十年八月勅令第三百六十二號ヲ以テ臺灣總督府中央研究所官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●稅關

○明治二十九年三月勅令第九十二號ヲ以テ臺灣總督府稅關官制ヲ定ム○同年十二月勅令第三百八十六號ヲ以テ臺南稅關ヲ廢ス

○三十年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス

○三十二年三月勅令第七十六號ヲ以テ鑑定吏ヲ鑑定官補ニ改ム○同年八月勅令第三百七十一號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ掌理事務ヲ改メ監視ヲ置キ監吏補ヲ廢シ又稅關ニ監視部ヲ必要ノ場所ニ出張所及監視所設置ヲ規定ス

○三十四年四月勅令第四十九號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ稅關ヲ淡水及安平ニ置キ稅關長一人ヲシテ之ヲ兼ネシメ事務官ヲ置キ必要ノ場所ニ支署及監視署設置ヲ規定ス

○三十五年九月勅令第二百十四號ヲ以テ監視官及技手ヲ置ク

○三十七年六月勅令第百七十三號ヲ以テ砂糖、石油、毛織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ヲ掌理事務ヲ加ヘ○三十八年二月勅令第三十三號ヲ以テ石油、毛織物ヲ織物ニ改メ○三十九年五月勅令第百十號ヲ以テ製茶稅ヲ掌理事務ニ加フ

○三十八年四月勅令第百二十七號ヲ以テ監吏ノ定員ヲ改メ○四十年五月勅令第百六十九號ヲ以テ事務官、監視官、鑑定官及屬ノ定員ヲ改メ○四十二年十月勅令第二百七十四號ヲ以テ事務官以下ノ定員ヲ改ム

○四十二年五月勅令第百三十六號ヲ以テ稅關ヲ淡水ニ置キ稅關長一人奏任トス

○四十三年十二月勅令第四百四十號ヲ以テ司掌事務中改正

○四十四年六月勅令第百九十號ヲ以テ司掌事務中改正シ出張所設置ヲ規定ス

○大正二年六月勅令第百二十號ヲ以テ事務官、屬、監視、鑑定官補及監吏ノ定員ヲ改ム

○大正三年二月勅令第十四號ヲ以テ第一條中第二號ニ假置場ヲ加ヘ第八號ヲ削リ第九號ヲ第八號トス

○大正四年二月勅令第二十一號ヲ以テ屬、監

視、鑑定官補及監吏ノ定員ヲ改ム
○大正四年七月勅令第百二十六號ヲ以テ屬定員ヲ改ム
○大正七年一月勅令第四號ヲ以テ定員外稅關官吏ヲ設置ス
○大正八年七月勅令第三百六十號ヲ以テ事務官、屬ノ定員ヲ改ム
○大正十年七月勅令第三百五十一號ヲ以テ稅關ヲ臺北州基隆港ニ置キ稅關長ヲ勅任又ハ奏任ニ改ム

◉醫院

○明治二十九年三月勅令第九十一號臺灣總督府地方官官制ヲ以テ縣ニ病院ヲ設ケ廳及支廳ニ醫員、調劑生ヲ置ク○同年十月勅令第三百二十二號ヲ以テ病院ニ副院長、藥局長、書記ヲ置キ廳及支廳ニ調劑師、書記ヲ置キ共ニ調劑生ヲ廢ス○三十年五月勅令第百五十二號ヲ以テ地方官官制改正ノ結果從來ノ病院等ハ廢止ニ歸ス
○三十年五月勅令第百五十五號ヲ以テ臺灣總督府醫院官制ヲ定ム
○三十一年六月勅令第百十一號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム
○三十九年五月勅令第百十一號ヲ以テ臺北醫院ニ事務官一人ヲ置クコトヲ得ルノ規定ヲ設ク
○四十年六月勅令第二百二十三號ヲ以テ臺北醫院醫長一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得ルノ規定ヲ設ク
○四十三年四月勅令第百九十九號ヲ以テ醫師ヲ置キ事務官ヲ奏任トシ院長ノ職權ヲ定ム
○大正元年十月勅令第二十九號ヲ以テ醫師ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十一號ヲ以テ書記ノ定員ヲ改ム
○大正三年四月勅令第六十一號ヲ以テ職員定員ヲ改メ醫員ヲ醫官補ニ、院長ヲ醫官ヲ以テ之ニ充ツルノ規定ヲ設ク
○大正四年七月勅令第百二十七號ヲ以テ調劑師ノ定員ヲ改ム
○大正五年九月勅令第百十九號ヲ以テ醫師ノ補ノ定員ヲ改ム
○大正六年十月勅令第百七十九號ヲ以テ醫官補、調劑師ノ定員ヲ改ム
○大正八年六月勅令第二百九十三號ヲ以テ醫長又ハ醫官、醫官補、調劑師ノ定員ヲ改ム
○大正九年十月勅令第五百十六號ヲ以テ醫長又ハ醫官、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年三月勅令第二十八號ヲ以テ院長タル醫長ハ一人ヲ限リ勅任トス得ル規定ヲ設ケ○同年五月勅令第百八十五號ヲ以テ醫長又ハ醫官ノ定員ヲ改メ○同年八月勅令第三百六十三號ヲ以テ臺灣總督府ハ特ニ醫院ヲ指定シ助産婦養成ヲ爲サシメ得ル規定ヲ設ク

◉警察官及司獄官練習所

○明治三十年四月勅令第九十三號ヲ以テ臺灣總督府巡査看守教習所官制ヲ定メ○同年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス
○三十一年六月勅令第百十二號ヲ以テ臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス
○三十三年二月勅令第二十二號ヲ以テ教官及書記ノ定員ヲ改メ倉廩ヲ專任トス
○四十年四月勅令第百十九號ヲ以テ專任判任教官及書記ノ定員ヲ改ム
○四十二年十月勅令第二百七十八號ヲ以テ書記ノ定員ヲ改ム
○四十三年三月勅令第十號ヲ以テ所長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ充ツルコトニ改ム
○大正十一年四月勅令第二百二十號ヲ以テ專任教官、書記ノ定員ヲ改ム

◉幼稚園

○大正十二年三月勅令第四十九號ヲ以テ臺灣公立幼稚園官制ヲ定ム

◉公立學校

○大正十一年三月勅令第百五十八號ヲ以テ臺灣公立學校官制ヲ廢止ス
臺灣公立高等普通學校官制
臺灣公立女子高等普通學校官制
臺灣公立實業學校官制
臺灣公立簡易實業學校官制
臺灣公立小學校官制
臺灣公立公學校官制
臺灣公立高等女學校官制
臺灣公立中學校官制
臺灣實業學校官制

◉諸學校官制

○大正十一年三月勅令第百五十七號ヲ以テ臺灣總督府諸學校官制ヲ定メ左ノ官制ヲ廢止ス
臺灣總督府高等商業學校官制
臺灣總督府醫學專門學校官制
臺灣總督府農林專門學校官制
臺灣總督府師範學校官制
臺灣總督府醫學專門學校官制
○大正十二年四月勅令第百四十八號ヲ以テ臺中師範學校ヲ追加シ定員ヲ定ム

◉商業專門學校

○大正八年四月勅令第六十三號ヲ以テ臺灣總督府商業專門學校官制ヲ定ム
○大正九年四月勅令第九十八號ヲ以テ教授、助教授ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百二十七號ヲ以テ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十一年五月勅令第二百五十號ヲ以テ助教授ノ定員ヲ改ム

◉盲啞學校

○大正十一年四月勅令第二百二十四號ヲ以テ臺灣公立盲啞學校官制ヲ定ム

◉圖書館

○大正三年四月勅令第六十二號ヲ以テ臺灣總督府圖書館官制ヲ定ム
○大正五年五月勅令第百三十一號ヲ以テ職員ノ定員ヲ改正シ館長、司書官ノ任命及司書官ノ職務ヲ創ル

キ看守長ヲ以テ監獄署長ニ充ツ
○三十年五月勅令第百五十二號臺灣總督府地方官官制ヲ以テ典獄ヲ置キ監獄署長ニ充ツ
○三十三年九月勅令第三百五十九號ヲ以テ臺灣總督府監獄官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム
○三十四年五月勅令第七十六號ヲ以テ專任醫員ヲ置ク
○三十八年十二月勅令第二百五十一號ヲ以テ教誨師及女監取締ヲ置キ判任待遇トス
○四十二年十月勅令第二百八十號ヲ以テ監吏、通譯及醫員ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第百十一號ヲ以テ教師及藥劑師ヲ置キ判任官ノ待遇トシ醫員ヲ監獄醫ニ改メ教誨師ト共ニ奏任官待遇又ハ判任官待遇トシ監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員職務及懲戒ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定メ判任官待遇職員ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○四十五年五月勅令第百三十二號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十三號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十三號ヲ以テ監獄ニ置キタル職員中藥劑師ヲ廢ス
○大正八年七月勅令第三百二十六號ヲ以テ典獄補ヲ置キ監吏ヲ看守長ト改メ看守長通譯ノ定員ヲ定メ支監長ハ典獄補又ハ看守長ヲ以テ之ニ充テ判任官及判任待遇職員ノ進退ハ典獄之ヲ總督ニ具狀シ看守及女監取締ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○大正十年十月勅令第四百二十五號ヲ以テ看守長、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正十一年十月勅令第四百四十三號ヲ以テ典獄補、看守長ノ定員ヲ改ム

◉官國幣社職制

○明治三十五年二月勅令第二十七號ヲ以テ官國幣社職制ヲ定ム
○四十四年五月勅令第百七十四號ヲ以テ內務大臣竝ニ地方長官ノ職權ヲ臺灣ニ於テハ臺灣總督ヲシテ之ヲ行ハシム
○大正九年一月勅令第一號ヲ以テ宮司ニシテ十五年以上奏任又ハ奏任待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ四人ヲ限リ特ニ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル規定ヲ置キ○同年十月勅令第四百七十一號ヲ以テ權宮司ヲ置ク神社ノ宮司ハ通シテ七人ヲ限リ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル規定ヲ設ク

◉府社縣社以下神社ノ神職制

○明治二十七年二月勅令第二十二號ヲ以テ府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル制ヲ定ム
○三十五年二月勅令第三十二號ヲ以テ臺灣總督ノ職權ヲ定ム
○大正二年二月勅令第七號ヲ以テ第一條、第二條及第六條ヲ改メ倘神社事務ノ指揮監督ニ關シ規定ス

◉地方官官制

○明治二十九年三月勅令第九十一號ヲ以テ臺灣總督府地方官官制ヲ定ム○同年十月勅令第三百二十三號ヲ以テ縣病院ニ副院長、藥局長、書記ヲ置キ廳及支廳ニ調劑師、書記ヲ置キ共ニ調劑生ヲ廢ス
○三十年五月勅令第百五十二號ヲ以テ典獄ヲ置キ監獄署長ニ充ツ
○三十三年九月勅令第三百五十九號ヲ以テ臺灣總督府監獄官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム
○三十四年五月勅令第七十六號ヲ以テ專任醫員ヲ置ク
○三十八年十二月勅令第二百五十一號ヲ以テ教誨師及女監取締ヲ置キ判任待遇トス
○四十二年十月勅令第二百八十號ヲ以テ監吏、通譯及醫員ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第百十一號ヲ以テ教師及藥劑師ヲ置キ判任官ノ待遇トシ醫員ヲ監獄醫ニ改メ教誨師ト共ニ奏任官待遇又ハ判任官待遇トシ監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員職務及懲戒ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定メ判任官待遇職員ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○四十五年五月勅令第百三十二號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十三號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十三號ヲ以テ監獄ニ置キタル職員中藥劑師ヲ廢ス
○大正八年七月勅令第三百二十六號ヲ以テ典獄補ヲ置キ監吏ヲ看守長ト改メ看守長通譯ノ定員ヲ定メ支監長ハ典獄補又ハ看守長ヲ以テ之ニ充テ判任官及判任待遇職員ノ進退ハ典獄之ヲ總督ニ具狀シ看守及女監取締ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○大正十年十月勅令第四百二十五號ヲ以テ看守長、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正十一年十月勅令第四百四十三號ヲ以テ典獄補、看守長ノ定員ヲ改ム

◉官國幣社職制

○明治三十五年二月勅令第二十七號ヲ以テ官國幣社職制ヲ定ム
○四十四年五月勅令第百七十四號ヲ以テ內務大臣竝ニ地方長官ノ職權ヲ臺灣ニ於テハ臺灣總督ヲシテ之ヲ行ハシム
○大正九年一月勅令第一號ヲ以テ宮司ニシテ十五年以上奏任又ハ奏任待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ四人ヲ限リ特ニ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル規定ヲ置キ○同年十月勅令第四百七十一號ヲ以テ權宮司ヲ置ク神社ノ宮司ハ通シテ七人ヲ限リ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル規定ヲ設ク

◉府社縣社以下神社ノ神職制

○明治二十七年二月勅令第二十二號ヲ以テ府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル制ヲ定ム
○三十五年二月勅令第三十二號ヲ以テ臺灣總督ノ職權ヲ定ム
○大正二年二月勅令第七號ヲ以テ第一條、第二條及第六條ヲ改メ倘神社事務ノ指揮監督ニ關シ規定ス

◉地方官官制

○明治二十九年三月勅令第九十一號ヲ以テ臺灣總督府地方官官制ヲ定ム○同年十月勅令第三百二十三號ヲ以テ縣病院ニ副院長、藥局長、書記ヲ置キ廳及支廳ニ調劑師、書記ヲ置キ共ニ調劑生ヲ廢ス
○三十年五月勅令第百五十二號ヲ以テ典獄ヲ置キ監獄署長ニ充ツ
○三十三年九月勅令第三百五十九號ヲ以テ臺灣總督府監獄官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム
○三十四年五月勅令第七十六號ヲ以テ專任醫員ヲ置ク
○三十八年十二月勅令第二百五十一號ヲ以テ教誨師及女監取締ヲ置キ判任待遇トス
○四十二年十月勅令第二百八十號ヲ以テ監吏、通譯及醫員ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第百十一號ヲ以テ教師及藥劑師ヲ置キ判任官ノ待遇トシ醫員ヲ監獄醫ニ改メ教誨師ト共ニ奏任官待遇又ハ判任官待遇トシ監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員職務及懲戒ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定メ判任官待遇職員ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○四十五年五月勅令第百三十二號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十三號ヲ以テ監吏、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十三號ヲ以テ監獄ニ置キタル職員中藥劑師ヲ廢ス
○大正八年七月勅令第三百二十六號ヲ以テ典獄補ヲ置キ監吏ヲ看守長ト改メ看守長通譯ノ定員ヲ定メ支監長ハ典獄補又ハ看守長ヲ以テ之ニ充テ判任官及判任待遇職員ノ進退ハ典獄之ヲ總督ニ具狀シ看守及女監取締ノ進退ハ典獄ノ專行ニ屬セシム
○大正十年十月勅令第四百二十五號ヲ以テ看守長、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正十一年十月勅令第四百四十三號ヲ以テ典獄補、看守長ノ定員ヲ改ム

◉官國幣社職制

○明治三十五年二月勅令第二十七號ヲ以テ官國幣社職制ヲ定ム
○四十四年五月勅令第百七十四號ヲ以テ內務

○大正十年四月勅令第百四十號ヲ以テ司書ノ定員ヲ改ム

◉感化院

○大正十一年四月勅令第二百三十四號ヲ以テ臺灣總督府感化院官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム

◉通信官署

○大正十年八月勅令第三百九十二號ヲ以テ臺灣總督府通信官署官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム

◉評議會

○大正十年六月勅令第二百四十一號ヲ以テ臺灣總督府評議會官制ヲ定メ會長ハ臺灣總督、副會長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ

◉供託局

○大正十一年三月勅令第七十一號ヲ以テ臺灣總督府供託局官制ヲ定メ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム

◉港務所

○明治四十四年五月勅令第百五十一號ヲ以テ臺灣總督府港務所官制ヲ定メ臺灣總督府海港檢疫所官制ヲ廢止ス
○大正九年九月勅令第三百五十號ヲ以テ所長ハ港務所所在地ノ州ノ警務部長ヲ以テ之ニ充ツルコトニ改ム

◉臨時海港檢疫所

○明治三十三年十一月勅令第四百三號ヲ以テ臺灣總督府臨時海港檢疫所官制ヲ定ム
○大正九年九月勅令第三百五十一號ヲ以テ所長ハ檢疫所所在地ノ州ノ警務部長又ハ廳長ヲ以テ之ニ充ツルコトニ改ム

◉監獄

○明治二十九年三月勅令第九十一號臺灣總督府地方官官制ヲ以テ監獄書記、看守長ヲ置

技手ノ定員ヲ改ム

高等試驗委員及普通試驗委員官制

○大正七年一月勅令第九號高等試驗委員及普通試驗委員官制ヲ定ム

文官試驗委員官制　（廢止）

○明治二十七年五月勅令第五十四號ヲ以テ文官試驗委員官制ヲ定ム
○大正七年一月勅令第九號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

基隆築港局　（廢止）

○明治三十三年八月勅令第三百三十一號ヲ以テ臨時臺灣基隆築港局官制ヲ定ム
○三十五年十一月勅令第二百六十號ヲ以テ技師ノ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得ルノ規定ヲ設ク
○四十年四月勅令第百二十號ヲ以テ事務官ノ定員ヲ改ム
○四十一年七月勅令第百八十七號ヲ以テ臨時臺灣工事部官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

電氣作業所　（廢止）

○明治三十六年十一月訓令第二百二號ヲ以テ臺北電氣作業所規程ヲ定メ專ラ地方費ヲ以テ電氣事業ヲ經營セシム
○四十年五月勅令第二百四號ヲ以テ臺灣總督府電氣作業所官制ヲ定ム
○四十一年七月勅令第百八十七號ヲ以テ臨時臺灣工事部官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

工事部　（廢止）

○明治四十一年七月勅令第百八十七號ヲ以テ臨時臺灣工事部官制ヲ定ム
○四十二年四月勅令第九十八號ヲ以テ技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム○同年十月勅令第二百七十一號ヲ以テ臺灣總督府土木部官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

阿里山作業所　（廢止）

○明治四十三年四月勅令第二百六號ヲ以テ臺灣總督府阿里山作業所官制ヲ定ム
○四十四年四月勅令第百十四號ヲ以テ事務官、技師、書記及技手ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十五號ヲ以テ技師、技手ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十五號ヲ以テ技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム
○大正四年七月勅令第百三十一號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

土木部　（廢止）

○明治四十二年十月勅令第二百七十一號ヲ以テ臺灣總督府土木部官制ヲ定ム
○四十四年十月勅令第二百六十二號ヲ以テ臨時臺灣總督府工事部官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

糖務局　（廢止）

○明治三十五年六月勅令第百六十三號ヲ以テ臨時臺灣糖務局官制ヲ定ム
○四十年四月勅令第百二十一號ヲ以テ技師ノ定員ヲ改メ○四十三年三月勅令第百三號ヲ以テ事務官、屬、技手及通譯ノ定員ヲ改ム
○四十四年十月勅令第二百六十號ヲ以テ臺灣總督府官制中改正シ前記官制ヲ廢止ス

撫墾署　（廢止）

○明治二十九年三月勅令第九十三號ヲ以テ臺灣總督府撫墾署官制ヲ定ム
○三十年五月勅令第百六十三號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ知事、廳長ノ監督ニ屬セシム
○三十一年六月勅令第百八號ヲ以テ前記官制廢止其ノ事務ハ縣又ハ廳ニ移レリ

土地調査局　（廢止）

○明治三十一年九月勅令第二百一號ヲ以テ臨時臺灣土地調査局官制ヲ定ム
○三十二年三月勅令第六十四號ヲ以テ事務官、屬及技手ノ定員ヲ改ム
○三十三年八月勅令第三百四十號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ圖根測量ヲ加ヘ次長及監督官ヲ置ク
○三十六年九月勅令第百四十三號ヲ以テ專任局長ヲ置キ次長ヲ廢シ判任官ノ定員ニ關シテハ之ヲ臺灣總督ニ委任ス
○三十八年三月勅令第七十二號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

海港檢疫所　（廢止）

○明治三十三年三月勅令第百十九號ヲ以テ臺灣總督府海港檢疫所官制ヲ定メ○三十四年五月勅令第七十五號ヲ以テ支所長ハ海港檢疫官又ハ海港檢疫官補ノ内ヨリ補スルコトニ改ム
○四十年四月勅令第百十八號ヲ以テ海港檢疫醫官補ノ定員ヲ改ム
○四十四年五月勅令第百五十一號ヲ以テ臺灣總督府港務所官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

度量衡司檢所　（廢止）

○明治三十四年四月勅令第六十二號ヲ以テ臺灣總督府度量衡司檢所官制ヲ定ム○同年十一月勅令第二百一號ヲ以テ前記官制廢止其ノ事務ハ殖産局ニ移レリ

臺灣海事局　（廢止）

○明治三十四年五月勅令第七十九號ヲ以テ臺灣海事局官制ヲ定ム
○三十五年十一月勅令第二百五十七號ヲ以テ臺灣總督府官制ヲ改正シ海事官ヲ置キテ海事局ノ事務ヲ移シ前記官制ヲ廢止ス

郵便局　（廢止）

○明治二十九年三月勅令第九十五號ヲ以テ臺灣總督府郵便及電信局官制ヲ定ム
○三十年五月勅令第百六十六號ヲ以テ郵便及電信局ノ種類ヲ定メ一等局ヲ二箇所ニ増設シ必要ノ地ニ支局ヲ置クコトヲ得ルノ規定ヲ設ケ通譯生ヲ通譯ニ改メ定員ヲ改正ス○同年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス
○三十一年四月勅令第七十七號ヲ以テ一等局ニ於テ電信建築ノ事務ヲ兼掌スルコトヲ定メ技師、技手ヲ置ク○同年六月勅令第百九號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ三等局ヲ設ケ各郵便電信局ノ設置ヲ臺灣總督ニ委任ス
○三十四年五月勅令第九十二號ヲ以テ通信書記及技師、技手ノ定員ヲ改ム
○三十五年一月勅令第六號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ一等局長ヲシテ二等局以下ヲ監督セシメ一、二等局ヲシテ電話業務ヲ兼掌セシメ通信事務官ヲ置キ一等局長ニ充テ通信事務官補ヲ置キ二等局長ハ通信事務官補又ハ通信書記ヲ以テ充ツルコトヲ規定ス
○三十七年一月勅令第十三號ヲ以テ一、二等局ニ於テ電話業務、電信電話建築事務ヲ兼掌セシメ二等局以下ノ監督權ヲ臺灣總督ニ移シ定員ヲ改メ通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信書記、通信技手、通信書記補ハ臨時命ヲ承ケ通信局ノ事務ヲ助クルノ規定ヲ設ク
○四十年四月勅令第百六十一號ヲ以テ臺灣總督府郵便局官制ヲ定メ郵便及電信局官制ヲ廢止ス
○四十一年五月勅令第百二十三號ヲ以テ通信屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改ム
○四十二年四月勅令第百號ヲ以テ通信事務官補ノ定員ヲ改メ○同年十月勅令第二百七十九號ヲ以テ通信事務官補及通信屬以下ノ定員ヲ改メ
○四十四年三月勅令第五十二號ヲ以テ通信事務官補及通信屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改ム
○四十五年五月勅令第百十五號ヲ以テ通信屬通信技手及通信手ノ定員ヲ改ム
○大正二年六月勅令第百二十二號通信屬、通信技手及通信手ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十二號ヲ以テ通信屬、通信技手及通信手ノ定員ヲ改ム
○大正四年七月勅令第百二十八號ヲ以テ通信屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改ム
○大正七年六月勅令第二百四十七號ヲ以テ通信屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改ム
○大正八年五月勅令第二百六十號ヲ以テ通信

屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改ム
○大正九年九月勅令第四百十號ヲ以テ通信事務官及通信屬、通信技手、通信手ノ定員ヲ改メ通信事務官補ヲ廢ス
○大正十年八月勅令第三百九十二號臺灣總督府通信官署官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

電話交換局　（廢止）

○明治三十三年三月勅令第九十二號ヲ以テ臺灣總督府電話交換局官制ヲ定ム
○三十四年四月勅令第七十七號ヲ以テ技師、書記及技手ヲ專任トシ其ノ定員ヲ定ム
○三十五年一月勅令第六號ヲ以テ前記官制ヲ廢止シ其ノ事務ヲ郵便電信局ニ移ス

燈臺　（廢止）

○明治二十九年三月勅令第九十六號ヲ以テ臺灣總督府燈臺所官制ヲ定ム
○三十年五月勅令第百六十四號、三十二年三月勅令第七十七號、三十三年四月勅令第百五十四號及三十五年五月勅令第百四十九號ヲ以テ所長及看守ノ定員ヲ改メ○三十年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス
○三十五年十一月勅令第二百五十七號ヲ以テ臺灣總督府官制ヲ改正シ燈臺ヲ通信局ノ附屬トシ前記官制ヲ廢止ス

測候所　（廢止）

○明治二十九年三月勅令第九十七號ヲ以テ臺灣總督府測候所官制ヲ定ム
○三十年五月勅令第百六十五號及三十三年八月勅令第三百二十四號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改メ○三十年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス
○三十四年四月勅令第八十一號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ技師ヲ置ク
○三十五年十一月勅令第二百五十七號ヲ以テ臺灣總督府官制ヲ改正シ測候所ヲ通信局ノ附屬トシ前記官制ヲ廢止ス

臨時臺灣舊慣調査會　（廢止）

○明治三十四年十月勅令第百九十六號ヲ以テ臺灣ニ於ケル法制及農工商經濟ニ關スル舊慣ヲ調査セシムル爲臨時臺灣舊慣調査會規則ヲ定ム
○四十二年四月勅令第百五號ヲ以テ臺灣總督ノ指定シタル法案ノ起草審議事項ヲ加ヘ委員及部長ノ定員ヲ改ム
○四十三年六月勅令第二百八十四號ヲ以テ委員ノ奏請ヲ内閣總理大臣ニ移ス
○大正八年五月勅令第百七十五號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

工事部　（廢止）

○明治四十四年十月勅令第二百六十二號ヲ以テ臨時臺灣總督府工事部官制ヲ定ム
○大正二年六月勅令第百十八號ヲ以テ事務官、技師及技手ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第十九號ヲ以テ書記、技手、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正七年八月勅令第三百十五號ヲ以テ書記、技手、通譯ノ定員ヲ改ム
○大正八年五月勅令第二百四十四號ヲ以テ總督府ニ水利及港灣ニ關スル事務ニ從事スル臨時職員ヲ増置シ前記官制ヲ廢止ス

作業所　（廢止）

○明治四十四年十月勅令第二百六十三號ヲ以テ臺灣總督府作業所官制ヲ定ム
○大正二年六月勅令第百二十四號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改ム
○大正四年二月勅令第二十四號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改ム
○大正七年七月勅令第二百七十五號ヲ以テ瓦斯ニ關スル作業ヲ兼掌セシメ技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム
○大正八年七月勅令第三百六十三號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

營林局　（廢止）

○大正四年七月勅令第百三十一號ヲ以テ臺灣總督府營林局官制ヲ定ム
○大正七年一月勅令第十二號ヲ以テ技師、書記、技手ノ定員ヲ改ム
○大正八年六月勅令第三百十四號ヲ以テ第一條管掌事項ヲ改メ書記、技手ノ定員ヲ改ム
○同年同月勅令第三百十五號ヲ以テ林務ニ從事スル臨時職員ヲ設置ス○九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部内臨時職員設置制ヲ以テ同上勅令ヲ廢止ス
○大正九年五月勅令第百三十二號臺灣總督府部内臨時職員設置制ヲ以テ林業試驗、保安林、林野取締ニ關スル各臨時職員ヲ増置ス○同年九月勅令第三百四十九號ヲ以テ同上勅令中改正シ同上臨時職員ヲ廢ス
○大正九年九月勅令第三百四十八號ヲ以テ臺灣總督府官制中改正シ殖産局ニ營林所ヲ置キ前記官制ヲ廢止ス

農事試驗場　（廢止）

○明治四十一年六月勅令第百五十九號ヲ以テ臺灣總督府農事試驗場官制ヲ定ム
○四十二年十月勅令第二百八十一號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第百十二號ヲ以テ技師、書記及技手ノ定員ヲ改ム
○大正八年七月勅令第三百四十五號ヲ以テ書記、技手ノ定員ヲ改メ場長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ
○大正十年八月勅令第三百六十二號臺灣總督府中央研究所官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

國語學校及國語傳習所　（廢止）

○明治二十九年三月勅令第九十四號ヲ以テ臺灣總督府直轄諸學校官制ヲ定ム○三十年七月勅令第二百四十四號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス
○三十年七月勅令第二百四十二號ヲ以テ臺灣總督府國語學校官制ヲ定ム○同年十月勅令第三百六十五號ヲ以テ指揮權ヲ臺灣總督ニ移ス
○三十年七月第二百四十三號ヲ以テ臺灣總督府國語傳習所官制ヲ定ム
○三十四年五月勅令第八十六號及三十五年七月勅令第百九十六號ヲ以テ國語傳習所官制中定員ヲ改メ三十八年二月勅令第二十六號ヲ以テ同上官制ヲ廢止ス
○三十二年一月勅令第十一號ヲ以テ國語學校官制中助教諭ヲ廢シ助教授、教諭及書記ノ定員ヲ改ム
○三十三年七月勅令第三百七號ヲ以テ教授ノ定員ヲ改メ舍監ヲ置ク○同年十一月勅令第三百九十七號ヲ以テ各官ノ定員ヲ專任ニ改ム
○三十四年五月勅令第八十「五號」ヲ以テ教授、助教授及教諭ノ定員ヲ改ム
○三十五年七月勅令第百九十五號ヲ以テ公學模範學校ヲ廢シ舍監ヲ教授若ハ助教授ノ兼務トス
○三十七年七月勅令第百八十六號ヲ以テ職員定員ヲ改ム
○四十年五月勅令第二百五號ヲ以テ訓導ヲ置キ職員定員ヲ改ム
○四十一年五月勅令第百二十四號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○四十二年四月勅令第九十九號ヲ以テ教授、助教授ノ定員ヲ改メ○同年十月勅令第二百七十五號ヲ以テ書記ノ定員ヲ改ム
○四十三年三月勅令第百號ヲ以テ助教授ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第八十三號ヲ以テ助教授及訓導ノ定員ヲ改メ教諭ヲシテ附屬學校及國語學校ノ教務ヲ掌ラシム
○四十五年五月勅令第百六號ヲ以テ教授教諭及書記定員ヲ改ム
○大正二年五月勅令第八十八號ヲ以テ教授教諭ノ定員ヲ改ム
○大正三年四月勅令第六十號ヲ以テ舍監ヲ生徒監ニ教授ヲ教育ニ助教授及教諭ノ定員ヲ改メ同上第六條改正ス
○大正四年七月勅令第百二十一號ヲ以テ助教授、教諭ノ定員ヲ改ム
○大正五年五月勅令第百二十八號ヲ以テ助教授、訓導ノ定員ヲ改メ教諭ノ定員外任用ノ制ヲ設ク

○大正七年七月勅令第二百八十四號ヲ以テ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正八年四月勅令第六十五號ヲ以テ臺灣總督府師範學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●小學校　（廢止）

○明治三十一年七月勅令第百八十號ヲ以テ臺灣總督府小學校官制ヲ定ム
○三十四年十一月勅令第二百四號ヲ以テ指揮權ヲ廳長又ハ支廳長ニ移ス
○三十五年五月勅令第百五十二號ヲ以テ臺灣小學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス
○四十三年八月勅令第三百十六號ヲ以テ國語學校職員ノ代用小學校ニ關シ規定ス
○大正八年四月勅令第七十一號ヲ以テ官制全部ヲ改正ス
○大正十年四月勅令第百三十二號ヲ以テ臺灣公立小學校官制ト改メ學校長ハ教諭ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ命シ郡守若ハ市尹又ハ廳長ノ命ヲ承ケテ校務ヲ掌理セシメ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ州又ハ廳地方費ノ負擔トス
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●公學校　（廢止）

○明治三十一年七月勅令第百七十九號ヲ以テ臺灣公學校官制ヲ定ム
○三十四年十一月勅令第二百六號ヲ以テ指揮權ヲ廳長又ハ支廳長ニ移ス
○三十七年四月勅令第百二十六號ヲ以テ支廳長ノ指揮權ヲ廢ス
○四十年四月勅令第百三十號ヲ以テ國語學校職員ノ代用公學校ニ關シ規定ス
○大正八年四月勅令第七十二號ヲ以テ官制全部ヲ改正ス
○大正十年四月勅令第百三十三號ヲ以テ臺灣公立公學校官制ヲ改ム
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●中學校　（廢止）

○明治四十年五月勅令第二百六號ヲ以テ臺灣總督府中學校官制ヲ定ム
○四十一年五月勅令第百二十五號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム○同年十月勅令第二百七十六號ヲ以テ書記ノ定員ヲ改ム
○四十二年三月勅令第四十六號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改メ高等女學校ニ關スル規程ヲ削ル
○四十三年三月勅令第百一號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第八十四號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○四十五年五月勅令第百七號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正二年五月勅令第八十二號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正三年五月勅令第八十三號ヲ以テ學校長、教諭、生徒監、書記ノ定員ヲ改メ教授ヲ教育ニ同上第四條ヲ改正ス
○大正四年七月勅令第百二十二號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正五年十月勅令第二百二十八號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正七年五月勅令第百二十九號ヲ以テ教諭及書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百三十一號臺灣公立中學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●公立中學校　（廢止）

○大正四年二月勅令第七號ヲ以テ臺灣公立中學校官制ヲ定ム
○大正六年五月勅令第五十號ヲ以テ教諭ノ內一人ハ奏任ト爲スコトヲ得ルノ規定ヲ設ク
○大正七年四月勅令第六十九號ヲ以テ奏任トナスコトヲ得ル教諭ノ定員ヲ改ム
○大正八年四月勅令第六十六號ヲ以テ臺灣公立高等普通學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス
○大正十年四月勅令第百三十一號ヲ以テ臺灣公立中學校官制ヲ定ム
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●高等普通學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十六號ヲ以テ臺灣公立高等普通學校官制ヲ定ム
○大正十年四月勅令第百三十四號ヲ以テ學校長ハ州知事ノ命ヲ承ケテ校務ヲ掌理セシメ職員ノ俸給ヲ國庫ノ負擔ト爲ス
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●高等女學校　（廢止）

○明治四十二年三月勅令第四十七號ヲ以テ臺灣總督府高等女學校官制ヲ定ム
○四十三年三月勅令第百二號ヲ以テ校長ヲ奏任トシ教諭ノ定員ヲ改ム
○四十四年四月勅令第八十五號ヲ以テ教諭及書記ノ定員ヲ改ム
○四十五年五月勅令第百八號ヲ以テ教諭定員ヲ改ム
○大正二年五月勅令第八十三號ヲ以テ教諭定員ヲ改ム
○大正三年五月勅令第八十四號ヲ以テ校長ヲ學校長ニ舍監ヲ生徒監ニ教授ヲ教育ニ改メ同上第四條改正
○大正四年七月勅令第百二十三號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正六年九月勅令第百七十號ヲ以テ職員ノ定員ヲ改ム
○大正七年四月勅令第七十號ヲ以テ專任教諭ノ定員ヲ變更ス
○大正八年四月勅令第百四十四號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正九年四月勅令第百一號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百二十九號ヲ以テ臺灣公立高等女學校官制ヲ全部改正シ前記官制ヲ廢止ス

●公立高等女學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十八號ヲ以テ臺灣公立高等女學校官制ヲ定ム
○大正十年四月勅令第百二十九號ヲ以テ官制全部ヲ改正シ學校長ヲ奏任トシ州知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理セシメ職員ノ俸給ハ國庫ノ負擔ト爲ス
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●女子高等普通學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十七號ヲ以テ臺灣公立女子高等普通學校官制ヲ定ム
○大正十年四月勅令第百三十五號ヲ以テ學校長ハ州知事ノ命ヲ承ケテ校務ヲ掌理セシメ職員ノ俸給ヲ國庫ノ負擔ト爲ス
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●師範學校　（廢止）

○明治三十二年三月勅令第九十七號ヲ以テ臺灣總督府師範學校官制ヲ定ム○同年十一月勅令第四百三十一號ヲ以テ各官ノ定員ヲ專任ニ改ム
○三十四年十一月勅令第二百三號ヲ以テ臺灣總督ノ管理ニ移ス
○三十七年七月勅令第百八十七號ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス
○大正八年四月勅令第六十五號ヲ以テ臺灣總督府師範學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第百五十九號ヲ以テ教授、助教授、教諭ノ定員ヲ改ム
○大正九年四月勅令第九十五號ヲ以テ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百三十號ヲ以テ教授以下ノ定員ヲ改メ從前ノモノ以外ニ定員外ノ教諭ヲ置カス職員中ヨリ訓導ヲ除ク
○大正十一年三月勅令第百五十七號臺灣總督府諸學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●商業學校　（廢止）

○大正六年五月勅令第五十三號ヲ以テ臺灣總督府商業學校官制ヲ定ム
○大正七年四月勅令第七十一號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改正ス
○大正八年四月勅令第六十四號ヲ以テ教諭、

書記ノ定員ヲ改ム
○大正九年四月勅令第九十九號ヲ以テ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百三十七號ヲ以テ臺灣實業學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●高等商業學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十一號ヲ以テ臺灣總督府高等商業學校官制ヲ定ム
○大正九年四月勅令第九十七號ヲ以テ本校ハ專門學校令ニ依ル旨ヲ定メ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百二十六號ヲ以テ教授、助教授ノ定員ヲ改ム
○大正十一年三月勅令第百五十七號臺灣總督府諸學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●工業學校　（廢止）

○大正七年七月勅令第二百八十七號ヲ以テ臺灣總督府工業學校官制ヲ定メ○同年七月勅令第二百八十九號ヲ以テ學校長特別任用ノ制ヲ設ク
○大正八年四月勅令第百三十二號ヲ以テ書記ヲ置キ教諭ノ定員ヲ改ム
○大正九年四月勅令第百號ヲ以テ教諭、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百三十七號ヲ以テ臺灣實業學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●簡易實業學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第七十號ヲ以テ臺灣公立簡易實業學校官制ヲ定ム
○大正十年四月勅令第百三十八號ヲ以テ職員中ヨリ訓導ヲ除キ學校長ハ州知事又ハ廳長之ヲ命シ郡守若ハ市尹又ハ廳長ノ命ヲ承ケテ校務ヲ掌理セシム
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●公立實業學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十九號ヲ以テ臺灣公立實業學校官制ヲ定ム
○大正十年四月勅令第百三十六號ヲ以テ臺灣公立實業學校ヲ臺灣教育令ニ依ル實業學校トシ職員ノ俸給ヲ國庫ノ負擔ト爲ス
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●實業學校　（廢止）

○大正十年四月勅令第百三十七號ヲ以テ臺灣實業學校官制ヲ定ム
○大正十一年三月勅令第百五十八號臺灣公立學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●農林專門學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第百二十七號ヲ以テ臺灣總督府農林專門學校官制ヲ定ム
○大正九年四月勅令第百二號ヲ以テ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十年四月勅令第百二十八號ヲ以テ教授、助教授、書記ノ定員ヲ改ム
○大正十一年三月勅令第百五十七號臺灣總督府諸學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●醫學專門學校　（廢止）

○大正八年四月勅令第六十二號ヲ以テ臺灣總督府醫學專門學校官制ヲ定ム○同年六月勅令第二百八十四號ヲ以テ醫學專門部ハ專門學校令ニ依ル旨ヲ定メ教授、助教授ノ定員ヲ改ム
○大正九年四月勅令第九十六號ヲ以テ教授、助教授ノ定員ヲ改ム
○大正十年九月勅令第四百三號ヲ以テ教授、助教授ノ定員ヲ改ム
○大正十一年三月勅令第百五十七號臺灣總督府諸學校官制ヲ以テ前記官制ヲ廢止ス

●工業講習所　（廢止）

○大正三年六月勅令第百二十六號ヲ以テ臺灣總督府工業講習所官制ヲ定ム
○大正五年五月勅令第百二十六號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改ム
○大正六年十月勅令第百九十六號ヲ以テ技手ノ定員ヲ改ム
○大正七年五月勅令第百四十六號ヲ以テ技手定員ヲ改ム
○大正八年四月勅令第六十九號ヲ以テ臺灣公立實業學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●醫學校　（廢止）

○明治三十二年三月勅令第九十五號ヲ以テ臺灣總督府醫學校官制ヲ定ム
○四十年六月勅令第二百二十二號ヲ以テ校務ノ範圍ヲ擴メ校長ヲ勅任又ハ奏任ニ改ム
○四十二年三月勅令第四十五號及同年十月勅令第二百七十七號ヲ以テ助教授及書記ノ定員ヲ改ム
○大正七年六月勅令第二百五十七號ヲ以テ公醫候補生ノ教習ヲ廢シ生徒監ヲ置キテ舍監ヲ廢シ各職員ノ定員ヲ改ム
○大正八年四月勅令第六十二號ヲ以テ臺灣總督府醫學專門學校官制ヲ定メ前記官制ヲ廢止ス

●守備軍司令官設置制　（廢止）

○明治三十六年十二月勅令第二百九十六號ヲ以テ臺灣ニ守備軍司令官ヲ置ク
○大正八年八月勅令第三百九十四號ヲ以テ前記勅令ヲ廢止ス

●評議會　（消滅）

○明治二十九年三月勅令第八十九號ヲ以テ臺灣總督府評議會章程ヲ定ム
○三十年五月勅令第百六十一號ヲ以テ評議會ノ權限ヲ律令案ノ外ハ總督ノ必要ト認ムル事項ニ制限ス○同年十一月勅令第四百十一號ヲ以テ會員ヲ改メ開議ニ必要ナル出席員數ヲ總員ノ半數以上トス
○三十一年六月勅令第百七號ヲ以テ會員ヲ改メ陸海軍參謀長ハ軍事ニ關渉スル事件ニ限リ參與スルモノトシ且權限ヲ律令案ノ議決ニ限定ス
○三十二年七月勅令第三百四十三號ヲ以テ事務官ノ定員ヲ六人ニ改メ兼任參事官二人ヲ加フ
○三十四年十一月勅令第二百七號ヲ以テ會員ヲ改ム
○三十八年十一月勅令第二百三十五號ヲ以テ參事官長ヲ削ル
○三十九年限ヲ以テ二十九年法律第六十三號消滅ノ結果評議會章程モ自然消滅ニ歸ス

●關稅及出港稅訴願審查委員會　（消滅）

○明治三十二年九月勅令第三百八十七號ヲ以テ臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則ヲ定ム
○四十二年三月勅令第五十六號ヲ以テ船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ主管ニ屬シ前記規則消滅

大正十二年十月二十三日印刷
大正十二年十月二十五日發行

臺灣總督府

定價金貳拾圓

發行者 大谷仁兵衛
東京市京橋區加賀町九、十、十一番地

印刷者 井田耕治
東京市京橋區加賀町九、十、十一番地

印刷所 行政學會印刷所第一工場
東京府荏原郡平塚村戸越五百五番地

發行所 帝國地方行政學會
東京市京橋區加賀町九、十、十一番地

カ47